2026 年度

# 教　育　要　項

## （シラバス）

## 第２学年

岩手医科大学歯学部

# 目　　次

教育要項の利用の仕方 …… 4
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） …… 5
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） …… 7
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） …… 8
評価方針（アセスメント・ポリシー） …… 9
岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー …… 11
2026 年度歯学部カリキュラム×コンピテンス･コンピテンシーマトリックス表 …… 14
2026 年度履修系統図 …… 16
2026 年度第 2 学年カリキュラム …… 17
2026 年度第 2 学年授業時間割 …… 18
歯学部歯学科教育課程ナンバリング表 …… 20
2026 年度第 2 学年カリキュラム履修科目一覧 …… 22
矢巾キャンパス教場平面図 …… 23
歯学部教場平面図 …… 29

**授業科目**

解剖学Ⅱ …… 35
組織学・発生学 …… 78
生理学Ⅱ …… 102
生化学Ⅱ …… 120
微生物学・免疫学Ⅰ …… 136
歯科理工学Ⅰ …… 150
薬理学Ⅰ …… 164
病理学総論 …… 173
衛生学・公衆衛生学 …… 181
歯科専門体験実習 …… 188
専門英語（2年） …… 192
医学統計学 …… 197

**自由科目**

海外英語演習 …… 202
地域医療課題解決演習 …… 204

**学則・試験規程・その他**

岩手医科大学学則 …… 208
岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程 …… 226
岩手医科大学歯学部における人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程 …… 228

学生心得 …… 230
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程 …… 237
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領 …… 238
岩手医科大学歯学部試験規程 …… 239
岩手医科大学歯学部試験規程の取扱内規 …… 242
進級・卒業に関する申し合わせ事項 …… 244
成績評価に対する異議申し立てに関する内規 …… 245
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程 …… 249
歯学部歯学科カリキュラムマップ …… 253
GPA・CAP 制度 …… 254
大学における単位の考え方と授業外学修について …… 255
岩手医科大学生命倫理規範 …… 256
岩手医科大学における人体標本取扱指針 …… 257
教育成果物の利用に関して …… 257
学生健康診断規程 …… 258
2026 年度学生健康診断等実施要領 …… 260
オフィスアワー …… 262

# 教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学歯学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における歯学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

**授業計画、授業内容について**

科目ごとに 学修方針、教育成果*1、到達目標*2 を掲げています。

＊1 教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識･技能･態度が将来どのように利用されるかが分かります。

＊2 到達目標 —— 行動目標ともいわれ、学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

また、授業ごとに 内容、到達目標 を記載してありますので、各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを予め確認し、日々の予習復習に役立ててください。

**教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について**

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自購入してください。

**成績評価方法について**

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「歯学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

**オフィスアワーについて**

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

( 方　式 )

1．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

2．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

**スモールグループチュートリアル（SG）について**

スモールグループチュートリアル（SG）は、チューター1 人が 5～10 名の学生を担当し、随時、学生と接することにより学生の学業・生活面などについて把握し、その長所を伸ばすとともに問題点を改善する方策などをアドバイスするものです。

歯学部教務委員会

# 岩手医科大学　歯学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、充分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。歯学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

歯学部では、次のような人材を求めています。

1. 全人的な立場で周囲と交流できる協調性のある人
2. 明確な目的意識を持って、積極的に社会貢献のできる人
3. 科学的な思考のもとに周囲の現象を捉えることができる人
4. 医学や歯学を生涯学習の対象として捉え、意欲的に勉学のできる人
5. 国際社会における医療や研究活動に、積極的に参加する意欲のある人

多様な人材を募るために、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、医学部入学試験利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学者選抜により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価し、入学者を選抜します。

一般選抜、医学部入学試験利用選抜では、高等学校で履修する３教科（理科、数学、英語）についての筆記試験と面接試験により、入学後の修学に必要な学力を有しているかを確認します。筆記試験では、歯科医学を修得するために必要とされる生命現象を理論的に捉える力を評価するため、理科の試験を課します。また、歯科医療の現場で必要とされる医療統計の理解に必要な基礎学力や、国際的コミュニケーション能力の修得に資する基礎学力を確認するために、「数学」、「英語」の試験を課します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確かめるとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの結果をもとに、「外国語（英語）」、「国語、数学のいずれか１科目」、「理科、地歴公民、情報のいずれか１科目」について、基本的な学力を有するかを判定します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確認するとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

これらの試験を通して、歯科医師にふさわしい資質とバランスの取れた人格とを備えているかの総合的な判断をおこないます。

学校推薦型選抜では、志望理由書や調査書に基づいて学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、歯科医療の実践に必要とされる問題発見力とその問題解決に必要な思考力を有しているかを小論文にて評価します。面接試験では、歯科医療の現場で必要とされる自己の考えを人にわかりやすく説明する力や人の意見を聞きそれについて議論する力を評価するとともに、高校在籍時における学修態度、課外活動などを調査書により評価します。

総合型選抜では、志望理由書や調査書に基づき、学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、模擬授業で得た知識をもとに思考・表現する力を、理解度確認テストによって評価します。また、自己推薦書では、本学の建学の精神や教育理念に対する理解、地域医療への貢献意欲、多職種との協働姿勢などを確認し、面接と併せて、歯科医師としての適性・意欲・学力を多面的に評価します。

編入学者選抜は、高い目的意識をもつ他分野の履修者や社会経験者を受け入れ、それまでの経験を生かしながら歯科医師としての知識・態度・技能を修得することを目的に実施しています。選抜は小論文と面接とでおこない、歯科医師を志す熱意に加え、基礎知識や一般常識を確認し、学修に必要な資質を備えているかを総合的に判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

# 岩手医科大学　歯学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる歯科医師として以下の各資質を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学士（歯学）の学位を授与します。

1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。（プロフェッショナリズム）
2. 患者･家族や他職種と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。加えて ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルを身につけていること。（コミュニケーション能力）
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。（チーム医療の実践能力）
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。（包括的歯科医療の実践能力）
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取組む態度・技能が備わっていること。（地域保健・医療の実践能力）
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。（高水準の診療能力）
7. 国際的な保健・医療活動に貢献するための態度と基本的な語学能力を有すること。（国際貢献への資質）
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。（研究マインドの保持）
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。生涯学習のための ICT スキルを含む情報リテラシーを有していること。（生涯学習の実践）

以上の教育成果を達成することができるように六年一貫でカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第２条に定める期間を在学し、かつ第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得しなければなりません。その上で、各学年および卒業時に定められた成果評価試験（筆記式の試験、客観的臨床技能試験、態度評価）に合格したものを卒業とし、学士（歯学）の学位を授与します。

# 岩手医科大学歯学部教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

学士（歯学）の学位授与の方針を実現するために、汎用的な共通教育科目と、幅広い分野にわたる基礎専門科目、より専門的な臨床専門科目による教育課程を整備し、体系的な歯学の履修を可能にします。

1. 歯科医師の社会的責任を自覚し、初年時から継続的なプロフェッショナリズム教育を行います。（プロフェッショナリズムの育成）
2. 患者やその家族および他職種とのコミュニケーション能力を高めるため、医療面接を理解し体験する科目、チーム医療に関する科目を設置します。それらの科目のなかで、ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルについても学修します。（コミュニケーション能力の向上）
3. 地域の医療施設ならびに居宅、福祉施設等で多職種と協働して適切な保健・医療を提供するためには地域保健・医療の問題点の疫学的把握方法、職種間の相互理解と円滑なコミュニケーションが必要です。そのために社会歯科学系科目に加え、演習によるシミュレーション、現場実習等を行う科目を初年次から 6 年次までに設置します。（地域保健・医療、チーム医療の実践能力の育成）
4. 科学的根拠に基づいた診断と歯科診療の計画立案ならびに実践のために、基礎、臨床科目を統合した、包括的臨床科目教育を実施します。（包括的臨床歯科医学教育）
5. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で獲得するために、スチューデントクリニシャンシステムを導入し、自験を充実させた診療参加型実習を行います。（高水準の基本的診療能力の獲得）
6. 国際的な歯科医療活動に参加するための基本的な英語能力を身につけるために、歯科医療に関連する英単語から英会話を学修する歯科専門英語の科目を設置します。さらに培った語学力を実践する国際的体験コースを設置します（選択制）。（国際貢献の資質の育成）
7. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究マインドを涵養するために実際に課題に対する研究を行う科目を設置します。（研究マインドの涵養）
8. 生涯にわたる自己研鑽を継続するために必要な問題発見・解決能力を身につけるため、プレゼンテーション、PBL などの能動的学修機会を各科目に設けます。これらの中で生涯学習に必要な ICT スキルを含む情報リテラシーを学修する機会を設けます。（能動的学修の習慣化）

# 歯学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

【大学】
本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医療人として必要な資質を備えているかを、多面的な評価方法で判定します。

【歯学部】
本学歯学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定め、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得するためのカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

１．講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケ-ション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
２．知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的技能・行動表と業務現場評価法、および自己進達度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
３．筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
４．評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
５．歯学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの統括評価（進級判定あるいは卒業判定）を行います。
６．科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定に用いる統括評価に加え、形成的評価を随時行うことで到達目標に至る道程を明らかにします。
７．卒業に拘わる試験を除く各学年での統括試験では、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行います。また、何らかの事情で試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります（獲得した点数の 9 割に減じられたのが、最終評価になります)。
８．第 5 学年次で臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と統括試験で判定します。
９．科目履修は出席することが前提です。各学年次の講義・演習・実習を 1/3 以上欠席した場合、第 5 学年次の臨床実習を 1/5 以上欠席または学外連携プログラムを欠席した場合は、原則として評価対象から外れます。統括評価に出席状況は加えられません。
10．各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。

11. 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
12. 被評価者からの照会に応じる体制を整備します(統括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等)。

注

- 大学入学者選抜時のアセスメント・ポリシーは、アドミッション・ポリシーに含めます。
- 本学学生としての資質に欠けると思われる行動をとった場合は、他に定める処罰規定によって、処分します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

用語説明

- 判定;合否で表すものとして用いる、査定;連続変数で表すものに用いる、評価;判定・査定を包括した用語
- 段階的技能・行動表;ルーブリック、業務現場評価法;ワーク・プレイス・アセスメント WBAと言われるもので、代表的なものはMini-CEX (mini-clinical evaluation exercise)

# 岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー

## Ⅰ　プロフェッショナリズム

関連コンピテンシー

1．医療倫理

医療は個人の尊厳・福利のためのものであることを理解し、歯科医療を行う上で、常に個人の尊厳が冒されるようなことのない方法を選択できる。

2．研究倫理

基礎医学研究、疫学研究、人を対象とした研究の計画において、倫理的かつ道義的な問題点を指摘することができる。

3．法と制度に則った歯科医療の提供

歯科医療に係わる法ならびに社会保障制度を理解し、法と制度に則った適正な歯科保健・医療サービスについて概説することができる。

4. 情報リテラシー

医学情報の適切な収集と理解および利用に関し高度な情報リテラシーを有し、患者情報の保護を実践できる。

## Ⅱ　コミュニケーション能力

関連コンピテンシー

1．医療面接

歯科保健医療の提供のため、医学的に必要な情報を患者・家族から得ることができる。

2．インフォームドコンセント

検査を含む全ての診療行為の前に患者からの同意を得る態度が身についており、必要に応じて書面でのインフォームドコンセントを取得するための説明を行うことができる。

3．コミュニケーションスキル

基本的なコミュニケーションスキルを医療面接において適用できる。

4．プレゼンテーション能力

患者・家族や他職種に歯科専門職からの情報提供を行うための適切な説明またはプレゼンテーションを行うことができる。

5. ICT スキル

ICT を用いた遠隔コミュニケーションを円滑に行うことが出来る。

## Ⅲ　チーム医療

関連コンピテンシー

1．他職種への理解

歯科保健医療に係わる職種を列挙し、チーム医療におけるそれらの役割を説明することができる。

2．コンサルテーション能力

他職種または専門医、上級医の専門性を理解し、コンサルテーションが必要な時機とコンサルテーション相手を判断することができる。

3．人間関係の構築

チーム医療を行うための良好な人間関係を構築するのに適切な態度をとることができる。

4．地域包括ケアシステムへの理解

地域包括ケアシステムの制度、構造と実践でのチーム医療の重要性を理解し、歯科医師としてシステム内で機能するための方法を列挙できる。

Ⅳ　包括的・継続的歯科医療

関連コンピテンシー

1．歯科医学的知識

疾患の病因、病態、治療法などを基礎歯科医学的知識に基づいて説明することができる。

2．歯科医学的診断能力

診察結果や検査値または画像検査結果から疾病の診断ならびにリスクの把握をすることができる。

3．EBM の実践能力

診療ガイドライン等による最新の根拠を参照し、適切かつ効率的な診療・予防計画策定を立案しようと努め、患者等の価値観を考慮した計画を策定することができる。

4．包括的・継続的歯科保健医療計画

歯科保健医療の包括性と継続性の重要性を説明でき、患者等の QOL の維持・向上のための予防、リハビリテーションを含めた長期的視点に立った歯科保健医療計画を策定することができる。

5．ライフステージに応じた歯科保健医療の提供

周術期ケア、終末期の食支援等を含めた様々なライフステージに応じた歯科保健医療を提案することができる。

6．健康教育

保健・医療への患者等の積極的参加の重要性を理解し、適切な行動変容を生じさせるための基本的行動科学理論を概説できる。

7．患者等への配慮

全ての局面で患者・家族等の苦痛や不安に配慮した診療を行うことができる。

Ⅴ　地域保健・医療

関連コンピテンシー

1．健康課題の疫学的把握

集団、地域の健康課題を把握するための統計指標を列挙し、与えられた資料から、集団、地域の健康課題を統計学的に分析することができる。

2．健康課題への公衆衛生的介入

集団、地域に認められる健康課題に対して公衆衛生的介入方法を提案することができる。

3．健康課題の変化への対応

地域、時代によって変化する健康課題を把握することができる。

4．医療連携

医療施設の種類を列挙し、それぞれの役割と連携方法を概説できる。

5．訪問歯科診療

訪問歯科診療の特殊性を理解し、生活の場における歯科医療の現場に参加できる。

Ⅵ　高水準の基本的診療能力の獲得

関連コンピテンシー

1．基本的治療の習得

高頻度に接する代表的歯科疾患（う蝕、歯周病など)、外傷（打撲、裂傷など）に対する検査、診断、基本的治療ができる。

2．高度技能習得への準備

高度な知識、技能を要する検査、治療の原理と手順を理解してそれらに対する介助ができる。

3．医療安全

歯科診療に必要な医療安全管理、感染対策を講じることができる。

Ⅶ　歯科医師としての可能性の追究

関連コンピテンシー

1．国際貢献

国際的な歯科保健・医療・研究活動に参加するための基本的な英会話ができる。また、国際社会の一員として文化、社会的背景の差違を考慮した国際交流を行うことができる。

2．研究（リサーチ）マインド

歯科医学に関わる疑問点に対する最新の情報を収集し、その内容を説明することができる。また、自ら研究計画を立案し、その研究を行うために必要な研究環境について説明できる。

3．生涯学習

生涯にわたる自己研鑽を継続するために自己の問題を発見することができ、問題解決のための方略を策定することができる。

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

第2学年 教養科目
↓

**レベルの概要**

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが単位認定の要件である

レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

| 全体選択数 | | | | | 第1学年 教養科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 第1学年 専門科目 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| レベルE | レベルD | レベルC | レベルB | レベルA | 多職種連携のためのアカデミックリテラシー | 医療倫理学 | 法学 | 心理学 | 医療における社会・行動科学 | 医療面接の基礎 | データサイエンス | 情報リテラシー | 物理学 | 物理学実習 | 専門課程への化学 | 化学実習 | エッセンシャル生物 | 専門課程への生物学 | 生物学実習 | ERW Ⅰ | ERW Ⅱ | ESL Ⅰ | ESL Ⅱ | 健康運動科学 | ベーシック生物 | スタンダード生物 | アドバンスト生物 | 自然・文化人類学 | ベーシック化学 | ベーシック物理 | 解析学入門 | 医療とスポーツ | 医療とコミュニケーション | 道徳のしくみ | ベーシック数学 | アドバンスト数学 | アドバンスト化学 | 文学の世界 | 実践英語 | 医療と福祉 | 科学英語 | 医療と物語 | 人間関係論 | パーソナリティ心理学 | 哲学の世界 | 医療と法律 | 歯科医学概論 | 解剖学Ⅰ | 組織学基礎 | 生理学Ⅰ | 生化学Ⅰ | 臨床歯科学入門 | 医学統計学 |

| 卒業時コンピテンス | | 関連コンピテンシー |
|---|---|---|
| Ⅰ | プロフェッショナリズム | 医療倫理 |
| | | 研究倫理 |
| | | 法と制度に則った歯科医療の提供 |
| | | 情報リテラシー |
| Ⅱ | コミュニケーション能力 | 医療面接 |
| | | インフォームドコンセント |
| | | コミュニケーションスキル |
| | | プレゼンテーション能力 |
| | | ICTスキル |
| Ⅲ | チーム医療 | 他職種への理解 |
| | | コンサルテーション能力 |
| | | 人間関係の構築 |
| | | 地域包括ケアシステムへの理解 |
| Ⅳ | 包括的・継続的歯科医療 | 歯科医学的知識 |
| | | 歯科医学的診断能力 |
| | | EBMの実践能力 |
| | | 包括的・継続的歯科保健医療計画 |
| | | ライフステージに応じた歯科保健医療の提供 |
| | | 健康教育 |
| | | 患者等への配慮 |
| Ⅴ | 地域保健・医療 | 健康課題の疫学的把握 |
| | | 健康課題への公衆衛生的介入 |
| | | 健康課題の変化への対応 |
| | | 医療連携 |
| | | 訪問歯科診療 |
| Ⅵ | 高水準の基本的診療能力の獲得 | 基本的治療の習得 |
| | | 高度技能習得への準備 |
| | | 医療安全 |
| Ⅶ | 歯科医師としての可能性の追究 | 国際貢献 |
| | | 研究（リサーチ）マインド |
| | | 生涯学習 |

公開準備中

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

**レベルの概要**

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない
（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが
単位認定の要件である

レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが
単位認定の要件である

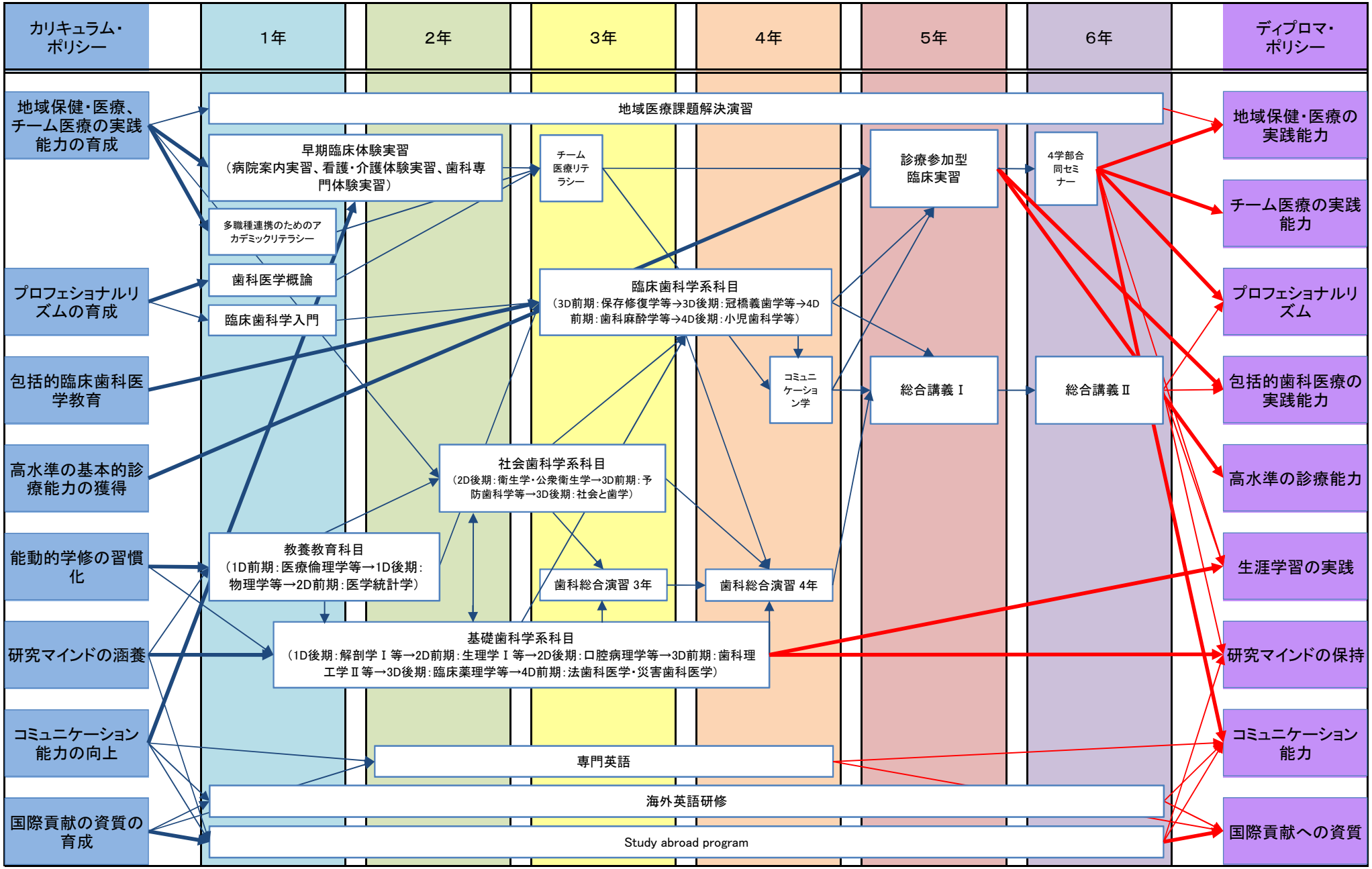
レベルA：修得していることが単位認定の要件である
（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

| 区分 | 列 |
|---|---|
| 全体選択数 | レベルE, レベルD, レベルC, レベルB, レベルA |
| 第2学年　専門科目 | 解剖学Ⅱ, 組織学・発生学, 生理学Ⅱ, 生化学Ⅱ, 微生物学・免疫学Ⅰ, 歯科理工学Ⅰ, 薬理学Ⅰ, 病理学総論, 衛生学・公衆衛生学, 歯科専門体験実習, 専門英語（2年） |
| 第3学年　専門科目 | 微生物学・免疫学Ⅱ, 歯科理工学Ⅱ, 薬理学Ⅱ, 口腔病理学, 予防歯科学, 保存修復学, 補綴学総論, 歯科放射線学, 医科学（3年）, 歯周病学, 臨床薬理学, 社会と歯学, 歯内療法学, 全部床義歯補綴学（Ⅰ）, 冠橋義歯学, 基礎科学演習, 医療リベラルアーツ, 歯科総合演習（3年）, チーム医療リテラシー |
| 第4学年　専門科目 | 全部床義歯補綴学（Ⅱ）, 部分床義歯補綴学, 口腔インプラント学, 歯科麻酔学, 法歯科医学・災害歯科医学, 医科学（4年）, 口腔外科学, 歯科矯正学, 小児歯科学, 障害者歯科学, 高齢者歯科医学, 歯科総合演習（4年）, 専門英語（4年）, コミュニケーション学 |
| 5D 専門 | 総合講義（Ⅰ）, 臨床実習（Ⅰ・Ⅱ） |
| 6D 専門 | 総合講義（Ⅱ）, 4学部合同セミナー |
| 自由科目 | 海外英語演習, 地域医療課題解決演習 |

| 卒業時コンピテンス | | 関連コンピテンシー |
|---|---|---|
| Ⅰ | プロフェッショナリズム | 医療倫理 |
| | | 研究倫理 |
| | | 法と制度に則った歯科医療の提供 |
| | | 情報リテラシー |
| Ⅱ | コミュニケーション能力 | 医療面接 |
| | | インフォームドコンセント |
| | | コミュニケーションスキル |
| | | プレゼンテーション能力 |
| | | ICTスキル |
| Ⅲ | チーム医療 | 他職種への理解 |
| | | コンサルテーション能力 |
| | | 人間関係の構築 |
| | | 地域包括ケアシステムへの理解 |
| Ⅳ | 包括的・継続的歯科医療 | 歯科医学的知識 |
| | | 歯科医学的診断能力 |
| | | EBMの実践能力 |
| | | 包括的・継続的歯科保健医療計画 |
| | | ライフステージに応じた歯科保健医療の提供 |
| | | 健康教育 |
| | | 患者等への配慮 |
| Ⅴ | 地域保健・医療 | 健康課題の疫学的把握 |
| | | 健康課題への公衆衛生的介入 |
| | | 健康課題の変化への対応 |
| | | 医療連携 |
| | | 訪問歯科診療 |
| Ⅵ | 高水準の基本的診療能力の獲得 | 基本的治療の習得 |
| | | 高度技能習得への準備 |
| | | 医療安全 |
| Ⅶ | 歯科医師としての可能性の追究 | 国際貢献 |
| | | 研究（リサーチ）マインド |
| | | 生涯学習 |

公開準備中

# カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの関連（2026年度）



# 2026年度　第2学年　カリキュラム

| 学期区分 | 期　　間 | 週　数 |
|---|---|---|
| オリエンテーション | 2026年 4月 1日（水） | |
| 前　期　授　業　① | 4月 2日（木）～ 7月24日（金） | 16週 |
| 歯科専門体験実習① | 7月17日（金）、7月24日（金）、8月25日（火） | |
| 夏　期　休　業 | 7月25日（土）～ 8月17日（月） | 4週 |
| 前　期　授　業　② | 8月18日（火）～ 8月25日（火） | 1週 |
| 前　期　試　験 | 8月26日（水）～ 9月 4日（金）<br>解剖学Ⅱ、組織学・発生学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、<br>微生物学・免疫学Ⅰ、歯科理工学Ⅰ、専門英語（2年）、<br>医学統計学　（全8科目） | 2週 |
| 後　期　授　業　① | 9月 9日（水）～ 12月24日（木） | 16週 |
| 歯科専門体験実習② | 9月 9日（水）～　9月18日（金） | 2週 |
| 冬　期　休　業 | 12月25日（金）～ 2027年 1月 4日（月） | 2週 |
| 後　期　授　業　② | 1月 5日（火）～ 1月15日（金） | 2週 |
| 後　期　試　験 | 1月18日（月）～ 1月27日（水）<br>解剖学Ⅱ、組織学・発生学、生理学Ⅱ、生化学Ⅱ、<br>微生物学・免疫学Ⅰ、歯科理工学Ⅰ、薬理学Ⅰ、病理学総論、<br>衛生学・公衆衛生学　（全9科目） | 2週 |
| 一　次　判　定 | 2月 3日（水） | |
| 再　試　験 | 2月16日（火）～ 2月25日（木） | 2週 |
| 進　級　判　定 | 3月 3日（水） | |
| 春　期　休　業 | 2月27日（土）～ 3月31日（水）　予定 | 5週 |
| 備　考 | | 授業35週<br>試験6週<br>休み11週 |

# 2026年度　第2学年　前期　授業時間割

| 月 | | | | | 火 | | | | | 水 | | | | | 木 | | | | | 金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 |
| 3/30 | | | | | 3/31 | | | | | 4/1 | | | | | 4/2 | | | | | 4/3 | | | | |
| 春季休業 | | | | | 春季休業 | | | | | オリエンテーション | | | | | 生理 | 生理 | 編入生補講オリ | × | | ＊ | 統計1 | 解剖 | 解剖 | |
| 4/6 | | | | | 4/7 | | | | | 4/8 | | | | | 4/9 | | | | | 4/10 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | ＊ | 微生 | 英語 | | 生理 | 理工 | 生化 | 生化 | | 入学式 | | | | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 4/13 | | | | | 4/14 | | | | | 4/15 | | | | | 4/16 | | | | | 4/17 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計2 | 微生 | 英語 | | 生理 | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 4/20 | | | | | 4/21 | | | | | 4/22 | | | | | 4/23 | | | | | 4/24 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計3 | 微生 | 英語 | | 生理 | 理工 | 健康診断 | | | 生理 | 生理 | ＊ | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 4/27 | | | | | 4/28 | | | | | 4/29 | | | | | 4/30 | | | | | 5/1 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | | 昭和の日 | | | | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 5/4 | | | | | 5/5 | | | | | 5/6 | | | | | 5/7 | | | | | 5/8 | | | | |
| みどりの日 | | | | | こどもの日 | | | | | 振替休日 | | | | | GW休暇 | | | | | GW休暇 | | | | |
| 5/11 | | | | | 5/12 | | | | | 5/13 | | | | | 5/14 | | | | | 5/15 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計4 | 英語 | 解剖 | | 生理 | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 5/18 | | | | | 5/19 | | | | | 5/20 | | | | | 5/21 | | | | | 5/22 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計5 | 微生 | 英語 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 5/25 | | | | | 5/26 | | | | | 5/27 | | | | | 5/28 | | | | | 5/29 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計6 | 微生 | 解剖 | | ＊ | ＊ | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 6/1 | | | | | 6/2 | | | | | 6/3 | | | | | 6/4 | | | | | 6/5 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計7 | 微生 | ＊ | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 6/8 | | | | | 6/9 | | | | | 6/10 | | | | | 6/11 | | | | | 6/12 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計8 | 微生 | 英語 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 6/15 | | | | | 6/16 | | | | | 6/17 | | | | | 6/18 | | | | | 6/19 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計9 | 微生 | 英語 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 6/22 | | | | | 6/23 | | | | | 6/24 | | | | | 6/25 | | | | | 6/26 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計10 | 微生 | 英語 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | ＊ | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 6/29 | | | | | 6/30 | | | | | 7/1 | | | | | 7/2 | | | | | 7/3 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計11 | 微生 | 英語 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | ＊ | ＊ | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 7/6 | | | | | 7/7 | | | | | 7/8 | | | | | 7/9 | | | | | 7/10 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計12 | 微生 | 微生 | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | 生理 | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 解剖 | 解剖 | |
| 7/13 | | | | | 7/14 | | | | | 7/15 | | | | | 7/16 | | | | | 7/17 | | | | |
| ＊ | ＊ | 組織 | 組織 | | ＊ | 統計13 | 微生 | ＊ | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | ＊ | 生理 | 解剖 | ＊ | | ＊ | ＊ | 歯専 | 実習機材販売 | |
| 7/20 | | | | | 7/21 | | | | | 7/22 | | | | | 7/23 | | | | | 7/24 | | | | |
| 海の日 | | | | | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | |
| 7/27 | | | | | 7/28 | | | | | 7/29 | | | | | 7/30 | | | | | 7/31 | | | | |
| 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | |
| 8/3 | | | | | 8/4 | | | | | 8/5 | | | | | 8/6 | | | | | 8/7 | | | | |
| 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | |
| 8/10 | | | | | 8/11 | | | | | 8/12 | | | | | 8/13 | | | | | 8/14 | | | | |
| 夏季休業/山の日 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | | 夏季休業 | | | | |
| 8/17 | | | | | 8/18 | | | | | 8/19 | | | | | 8/20 | | | | | 8/21 | | | | |
| 夏季休業 | | | | | ＊ | ＊ | 微生 | ＊ | | ＊ | 理工 | 生化 | 生化 | | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | | ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | |
| 8/24 | | | | | 8/25 | | | | | 8/26 | | | | | 8/27 | | | | | 8/28 | | | | |
| ＊ | ＊ | ＊ | ＊ | | ＊ | 歯専 | ＊ | ＊ | | 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | |
| 8/31 | | | | | 9/1 | | | | | 9/2 | | | | | 9/3 | | | | | 9/4 | | | | |
| 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | | 前期試験(8日間) | | | | |
| 9/7 | | | | | 9/8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 前期試験等予備日 | | | | | 前期試験等予備日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

→ 歯科専門体験実習

黒文字 → 講義/演習　　赤文字 → 実習

# 2026年度　第2学年　後期　授業時間割

| 月 | | | | | 火 | | | | | 水 | | | | | 木 | | | | | 金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 | 8:50～10:20 | 10:30～12:00 | 13:00～14:30 | 14:40～16:10 | 16:20～17:50 |
| | | | | | | | | | | 9/9 | | | | | 9/10 | | | | | 9/11 | | | | |
| | | | | | | | | | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | |
| 9/14 | | | | | 9/15 | | | | | 9/16 | | | | | 9/17 | | | | | 9/18 | | | | |
| 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専 | 歯専 | 歯専 | 歯専 | | 歯専発表会 | | 解剖 | 解剖 | |
| 9/21 | | | | | 9/22 | | | | | 9/23 | | | | | 9/24 | | | | | 9/25 | | | | |
| 敬老の日 | | | | | 国民の休日 | | | | | 秋分の日 | | | | | * | * | * | * | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 9/28 | | | | | 9/29 | | | | | 9/30 | | | | | 10/1 | | | | | 10/2 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | * | 衛生 | 生理 | | * | 解剖講話会 | 生理 | 生理 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 10/5 | | | | | 10/6 | | | | | 10/7 | | | | | 10/8 | | | | | 10/9 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | 生理 | 衛生 | * | | 薬理 | 薬理 | 生理 | 生理 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 10/12 | | | | | 10/13 | | | | | 10/14 | | | | | 10/15 | | | | | 10/16 | | | | |
| スポーツの日 | | | | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | * | 生理 | 衛生 | * | | 補薬 | 薬理 | * | * | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 10/19 | | | | | 10/20 | | | | | 10/21 | | | | | 10/22 | | | | | 10/23（インフル予防接種） | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | 生理 | 衛生 | 衛生 | | 薬理 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 10/26 | | | | | 10/27 | | | | | 10/28 | | | | | 10/29 | | | | | 10/30 | | | | |
| * | * | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 組織 | 組織 | 微生 | 微生 | | 薬理 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 11/2 | | | | | 11/3 | | | | | 11/4 | | | | | 11/5 | | | | | 11/6 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 文化の日 | | | | | * | 生理 | 衛生 | 衛生 | | * | * | * | * | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 11/9 | | | | | 11/10 | | | | | 11/11 | | | | | 11/12 | | | | | 11/13 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | 生理 | 衛生 | 衛生 | | 補薬 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 11/16 | | | | | 11/17 | | | | | 11/18 | | | | | 11/19 | | | | | 11/20 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | * | 生理 | 衛生 | 衛生 | | 補薬 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 11/23 | | | | | 11/24 | | | | | 11/25 | | | | | 11/26 | | | | | 11/27 | | | | |
| 勤労感謝の日 | | | | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | 生理 | 衛生 | 衛生 | | * | * | * | * | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 11/30 | | | | | 12/1 | | | | | 12/2 | | | | | 12/3 | | | | | 12/4 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 微生 | 微生 | 組織 | 組織 | | 薬理 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 12/7 | | | | | 12/8 | | | | | 12/9 | | | | | 12/10 | | | | | 12/11 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | 生理 | 衛生 | 衛生 | | 薬理 | 薬理 | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 12/14 | | | | | 12/15 | | | | | 12/16 | | | | | 12/17 | | | | | 12/18 | | | | |
| 英語 | 微生 | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | * | 生理 | 衛生 | 衛生 | | 補薬 | 薬理 | * | * | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 12/21 | | | | | 12/22 | | | | | 12/23 | | | | | 12/24 | | | | | 12/25 | | | | |
| * | * | 組織 | 組織 | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | 理工 | * | 衛生 | 衛生 | | * | * | * | * | | 冬季休業 | | | | |
| 12/28 | | | | | 12/29 | | | | | 12/30 | | | | | 12/31 | | | | | 1/1 | | | | |
| 冬季休業 | | | | | 冬季休業 | | | | | 冬季休業 | | | | | 冬季休業 | | | | | 冬季休業 | | | | |
| 1/4 | | | | | 1/5 | | | | | 1/6 | | | | | 1/7 | | | | | 1/8 | | | | |
| 冬季休業 | | | | | 病理 | 病理 | 解剖 | 解剖 | | * | * | 衛生 | 衛生 | | * | * | 理工 | 理工 | | 生化 | 解剖 | 解剖 | 解剖 | |
| 1/11 | | | | | 1/12 | | | | | 1/13 | | | | | 1/14 | | | | | 1/15 | | | | |
| 成人の日 | | | | | 病理 | 病理 | * | * | | * | 微生 | 組織 | 組織 | | * | * | * | * | | * | * | * | * | |
| 1/18 | | | | | 1/19 | | | | | 1/20 | | | | | 1/21 | | | | | 1/22 | | | | |
| 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | |
| 1/25 | | | | | 1/26 | | | | | 1/27 | | | | | 1/28 | | | | | 1/29 | | | | |
| 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験(8日間) | | | | | 後期試験等予備日(2日間) | | | | | 後期試験等予備日(2日間) | | | | |
| 2/1 | | | | | 2/2 | | | | | 2/3 | | | | | 2/4 | | | | | 2/5 | | | | |
| | | | | | | | | | | 進級判定Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | |
| 2/8 | | | | | 2/9 | | | | | 2/10 | | | | | 2/11 | | | | | 2/12 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | 建国記念の日 | | | | | | | | | |
| 2/15 | | | | | 2/16 | | | | | 2/17 | | | | | 2/18 | | | | | 2/19 | | | | |
| | | | | | 再試験(7日間) | | | | | 再試験(7日間) | | | | | 再試験(7日間) | | | | | 再試験(7日間) | | | | |
| 2/22 | | | | | 2/23 | | | | | 2/24 | | | | | 2/25 | | | | | 2/26 | | | | |
| 再試験(7日間) | | | | | 天皇誕生日 | | | | | 再試験(7日間) | | | | | 再試験(7日間) | | | | | 再試験予備日 | | | | |
| 3/1 | | | | | 3/2 | | | | | 3/3 | | | | | 3/4 | | | | | 3/5 | | | | |
| | | | | | | | | | | 進級判定Ⅱ | | | | | | | | | | 卒業式 | | | | |
| 3/8 | | | | | 3/9 | | | | | 3/10 | | | | | 3/11 | | | | | 3/12 | | | | |
| 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | |
| 3/15 | | | | | 3/16 | | | | | 3/17 | | | | | 3/18 | | | | | 3/19 | | | | |
| 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | |
| 3/22 | | | | | 3/23 | | | | | 3/24 | | | | | 3/25 | | | | | 3/26 | | | | |
| 春季休業予定/振替休日 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | |
| 3/29 | | | | | 3/30 | | | | | 3/31 | | | | | | | | | | | | | | |
| 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | 春季休業予定 | | | | | | | | | | | | | | |

→ 歯科専門体験実習　　→ 補講枠

黒文字 → 講義/演習　　赤文字 → 実習

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

| 学部 | レベル | 科目種別 | 科目区分 | 中分類 | 小分類 | ナンバリング | 科目名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D:歯学部 | 1:1年次<br>（入門/導入レベル） | L:教養 | 1:必修 | A:IPE | 01 | D1-L1-A01 | 多職種連携のためのアカデミックリテラシー |
| | | | | Z:教養 | 01 | D1-L1-Z01 | 医療倫理学 |
| | | | | | 02 | D1-L1-Z02 | 法学 |
| | | | | | 03 | D1-L1-Z03 | 心理学 |
| | | | | | 04 | D1-L1-Z04 | 医療における社会・行動科学 |
| | | | | | 05 | D1-L1-Z05 | 医療面接の基礎 |
| | | | | | 06 | D1-L1-Z06 | データサイエンス |
| | | | | | 07 | D1-L1-Z07 | 情報リテラシー |
| | | | | | 08 | D1-L1-Z08 | 物理学 |
| | | | | | 09 | D1-L1-Z09 | 物理学実習 |
| | | | | | 10 | D1-L1-Z10 | 専門課程への化学 |
| | | | | | 11 | D1-L1-Z11 | 化学実習 |
| | | | | | 12 | D1-L1-Z12 | エッセンシャル生物 |
| | | | | | 13 | D1-L1-Z13 | 専門課程への生物学 |
| | | | | | 14 | D1-L1-Z14 | 生物学実習 |
| | | | | | 15 | D1-L1-Z15 | English Reading & WritingⅠ |
| | | | | | 16 | D1-L1-Z16 | English Reading & WritingⅡ |
| | | | | | 17 | D1-L1-Z17 | English Speaking & ListeningⅠ |
| | | | | | 18 | D1-L1-Z18 | English Speaking & ListeningⅡ |
| | | | | | 19 | D1-L1-Z19 | 健康運動科学 |
| | | | 2:選択必修 | Z:教養 | 20 | D1-L2-Z20 | ベーシック生物 |
| | | | | | 21 | D1-L2-Z21 | スタンダード生物 |
| | | | | | 22 | D1-L2-Z22 | アドバンスト生物 |
| | | | | | 23 | D1-L2-Z23 | 自然・文化人類学 |
| | | | | | 24 | D1-L2-Z24 | ベーシック化学 |
| | | | | | 25 | D1-L2-Z25 | ベーシック物理 |
| | | | | | 26 | D1-L2-Z26 | 解析学入門 |
| | | | | | 27 | D1-L2-Z27 | 医療とスポーツ |
| | | | | | 28 | D1-L2-Z28 | 医療とコミュニケーション |
| | | | | | 29 | D1-L2-Z29 | 道徳のしくみ |
| | | | | | 30 | D1-L2-Z30 | ベーシック数学 |
| | | | | | 31 | D1-L2-Z31 | アドバンスト数学 |
| | | | | | 32 | D1-L2-Z32 | アドバンスト化学 |
| | | | | | 33 | D1-L2-Z33 | 文学の世界 |
| | | | | | 34 | D1-L2-Z34 | 実践英語 |
| | | | | | 35 | D1-L2-Z35 | 医療と福祉 |
| | | | | | 36 | D1-L2-Z36 | 科学英語 |
| | | | | | 37 | D1-L2-Z37 | 医療と物語 |
| | | | | | 38 | D1-L2-Z38 | 人間関係論 |
| | | | | | 39 | D1-L2-Z39 | パーソナリティ心理学 |
| | | | | | 40 | D1-L2-Z40 | 哲学の世界 |
| | | | | | 41 | D1-L2-Z41 | 医療と法律 |
| | | S:専門 | 1:必修 | B:プロフェッショナリズム | 01 | D1-S1-B01 | 歯科医学概論 |
| | | | | C:基礎歯科医学 | 01 | D1-S1-C01 | 解剖学Ⅰ |
| | | | | | 02 | D1-S1-C02 | 組織学基礎 |
| | | | | | 03 | D1-S1-C03 | 生理学Ⅰ |
| | | | | | 04 | D1-S1-C04 | 生化学Ⅰ |
| | | | | B:プロフェッショナリズム | 02 | D1-S1-B02 | 臨床歯科学入門 |
| | 2:2年次<br>（基礎レベル） | L:教養 | 1:必修 | Z:教養 | 42 | D2-L1-Z42 | 医学統計学 |
| | | S:専門 | | C:基礎歯科医学 | 06 | D2-S1-C06 | 解剖学Ⅱ |
| | | | | | 07 | D2-S1-C07 | 組織学・発生学 |
| | | | | | 08 | D2-S1-C08 | 生理学Ⅱ |
| | | | | | 09 | D2-S1-C09 | 生化学Ⅱ |
| | | | | | 10 | D2-S1-C10 | 微生物学・免疫学Ⅰ |
| | | | | | 11 | D2-S1-C11 | 歯科理工学Ⅰ |
| | | | | | 12 | D2-S1-C12 | 薬理学Ⅰ |
| | | | | | 13 | D2-S1-C13 | 病理学総論 |
| | | | | D:社会歯科医学 | 01 | D2-S1-D01 | 衛生学・公衆衛生学 |
| | | | | B:プロフェッショナリズム | 03 | D2-S1-B03 | 歯科専門体験実習 |
| | | | | C:基礎歯科医学 | 14 | D2-S1-C14 | 専門英語（2年） |
| | 3:3年次<br>（応用/発展レベル） | S:専門 | 1:必修 | C:基礎歯科医学 | 15 | D3-S1-C15 | 微生物学・免疫学Ⅱ |
| | | | | | 16 | D3-S1-C16 | 歯科理工学Ⅱ |
| | | | | | 17 | D3-S1-C17 | 薬理学Ⅱ |
| | | | | | 18 | D3-S1-C18 | 口腔病理学 |
| | | | | E:臨床歯科医学 | 01 | D3-S1-E01 | 予防歯科学 |
| | | | | | 02 | D3-S1-E02 | 保存修復学 |
| | | | | | 03 | D3-S1-E03 | 補綴学総論 |
| | | | | | 04 | D3-S1-E04 | 歯科放射線学 |
| | | | | | 05 | D3-S1-E05 | 医科学（3年） |
| | | | | | 06 | D3-S1-E06 | 歯周病学 |
| | | | | C:基礎歯科医学 | 19 | D3-S1-C19 | 臨床薬理学 |
| | | | | D:社会歯科医学 | 02 | D3-S1-D02 | 社会と歯学 |
| | | | | E:臨床歯科医学 | 07 | D3-S1-E07 | 歯内療法学 |
| | | | | | 08 | D3-S1-E08 | 全部床義歯補綴学（Ⅰ） |
| | | | | | 09 | D3-S1-E09 | 冠橋義歯学 |
| | | | | C:基礎歯科医学 | 20 | D3-S1-C20 | 基礎科学演習 |
| | | | | D:社会歯科医学 | 03 | D3-S1-D03 | 医療リベラルアーツ |
| | | | | F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床） | 01 | D3-S1-F01 | 歯科総合演習（3年） |
| | | | | A:IPE | 02 | D3-S1-A02 | チーム医療リテラシー |

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

| 学部 | レベル | 科目種別 | 科目区分 | 中分類 | 小分類 | ナンバリング | 科目名 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D:歯学部 | 4:4年次<br>（高度レベル） | S:専門 | 1:必修 | | 11 | D4-S1-E11 | 全部床義歯補綴学（Ⅱ） |
| | | | | | 12 | D4-S1-E12 | 部分床義歯補綴学 |
| | | | | | 14 | D4-S1-E14 | 歯科麻酔学 |
| | | | | C:基礎歯科医学 | 21 | D4-S1-C21 | 法歯科医学・災害歯科医学 |
| | | | | E:臨床歯科医学 | 15 | D4-S1-E15 | 医科学（4年） |
| | | | | | 16 | D4-S1-E16 | 口腔外科学 |
| | | | | | 17 | D4-S1-E17 | 口腔インプラント学 |
| | | | | | 18 | D4-S1-E18 | 歯科矯正学 |
| | | | | | 19 | D4-S1-E19 | 小児歯科学 |
| | | | | | 20 | D4-S1-E20 | 障害者歯科学 |
| | | | | | 21 | D4-S1-E21 | 専門英語（4年） |
| | | | | | 22 | D4-S1-E22 | 高齢者歯科医学 |
| | | | | F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床） | 02 | D4-S1-F02 | 歯科総合演習（4年） |
| | | | | E:臨床歯科医学 | 23 | D4-S1-E23 | コミュニケーション学 |
| | 5:5年次配当レベル | S:専門 | 1:必修 | F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床） | 03 | D5-S1-F03 | 総合講義（Ⅰ） |
| | | | | G:臨床実習 | 01 | D5-S1-G01 | 臨床実習（Ⅰ・Ⅱ） |
| | 6:6年次配当レベル | S:専門 | 1:必修 | F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床） | 04 | D6-S1-F04 | 総合講義（Ⅱ） |
| | | | | A:IPE | 03 | D6-S1-A03 | 4学部合同セミナー |
| | 1:1年次<br>（入門/導入レベル） | L:教養 | 3:自由 | Z:教養 | 43 | D1-L3-Z43 | 海外英語演習 |
| | | S:専門 | | A:IPE | 04 | D1-S3-A04 | 地域医療課題解決演習 |

**D1ーS1ーA1**
**①②ー③④ー⑤⑥**

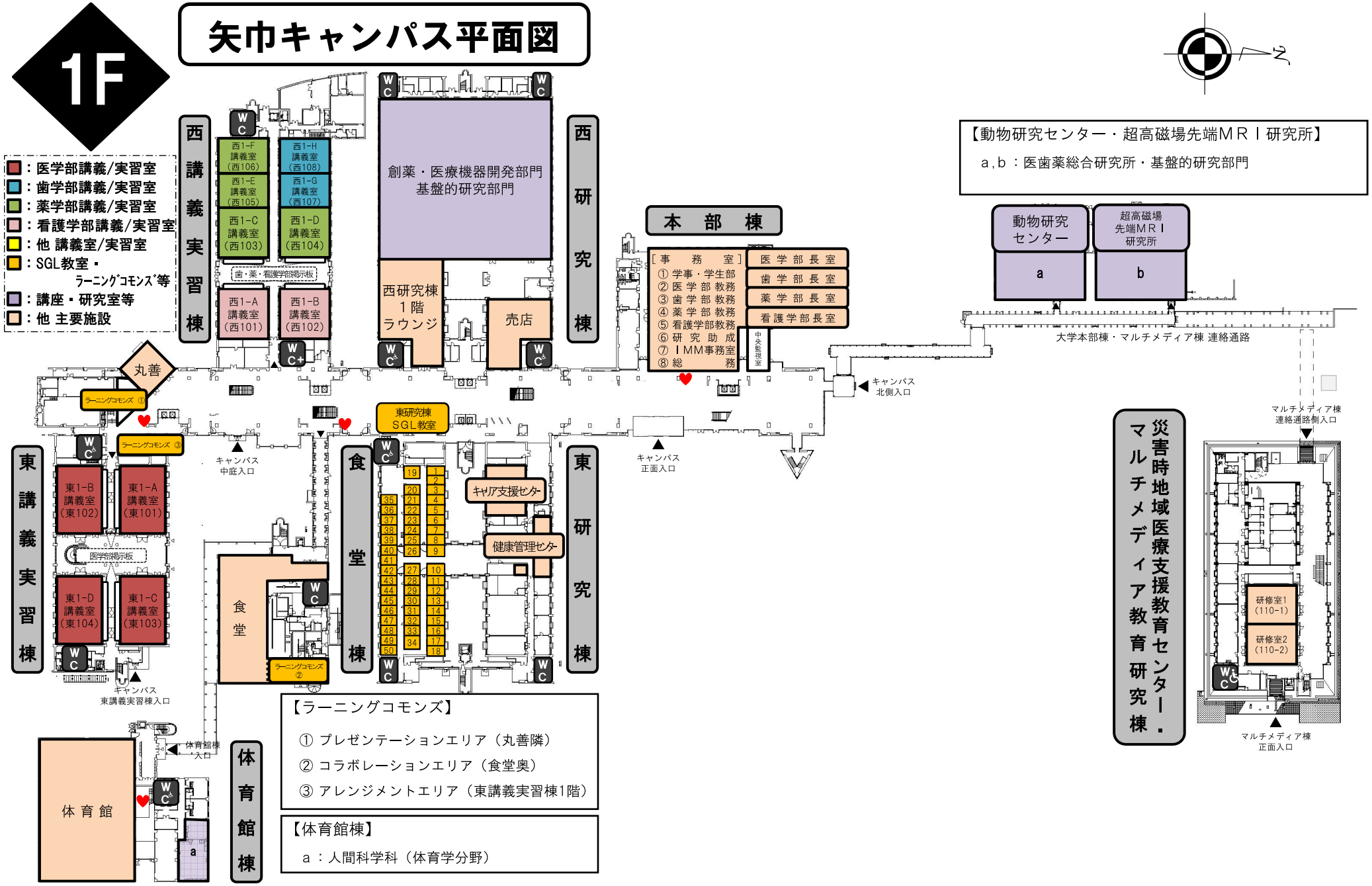
| ①学部 | ②レベル | ③科目種別 | ④科目区分 | ⑤中分類 | ⑥小分類 |
|---|---|---|---|---|---|
| M:医学部 | 1:1年次配当レベル（または入門／導入レベル） | L:教養 | 1:必修 | A:IPE | 通し番号（2桁） |
| D:歯学部 | 2:2年次配当レベル（または基礎レベル） | S:専門 | 2:選択必修 | B:プロフェッショナリズム | |
| P:薬学部 | 3:3年次配当レベル（または応用／発展レベル） | | 3:自由 | C:基礎歯科医学 | |
| N:看護学部 | 4:4年次配当レベル（または高度レベル） | | | D:社会歯科医学 | |
| | 5:5年次配当レベル | | | E:臨床歯科医学 | |
| | 6:6年次配当レベル | | | F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床） | |
| | ※学年跨ぎ、自由科目については、1～4のレベルで振り分ける。 | | | G:臨床実習 | |
| | | | | Z:教養 | |

2026年度　第2学年カリキュラム　履修科目一覧

| 区分 | 科目名 | | 前期 | | 後期 | | 総時間数 | | 単位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | コマ数 | 時間 | コマ数 | 時間 | コマ数 | 時間 | | |
| 専門科目 | 解剖学Ⅱ | 講義 | 28.0 | 56.0 | 14.0 | 28.0 | 42.0 | 84.0 | 8.0 | |
| | 解剖学Ⅱ実習 | 実習 | 14.0 | 28.0 | 56.0 | 112.0 | 70.0 | 140.0 | | |
| | 組織学・発生学 | 講義 | 14.0 | 28.0 | 14.0 | 28.0 | 28.0 | 56.0 | 4.0 | |
| | 組織学・発生学実習 | 実習 | 14.0 | 28.0 | 14.0 | 28.0 | 28.0 | 56.0 | | |
| | 生理学Ⅱ | 講義 | 28.0 | 56.0 | 10.0 | 20.0 | 38.0 | 76.0 | 3.0 | |
| | 生理学Ⅱ実習 | 実習 | | | 4.0 | 8.0 | 4.0 | 8.0 | | |
| | 生化学Ⅱ | 講義 | 14.0 | 28.0 | 14.0 | 28.0 | 28.0 | 56.0 | 3.0 | |
| | 生化学Ⅱ実習 | 実習 | 14.0 | 28.0 | | | 14.0 | 28.0 | | |
| | 微生物学・免疫学Ⅰ | 講義 | 14.0 | 28.0 | 14.0 | 28.0 | 28.0 | 56.0 | 2.0 | |
| | 歯科理工学Ⅰ | 講義 | 14.0 | 28.0 | 6.0 | 12.0 | 20.0 | 40.0 | 2.5 | |
| | 歯科理工学Ⅰ実習 | 実習 | | | 15.0 | 30.0 | 15.0 | 30.0 | | |
| | 薬理学Ⅰ | 講義 | | | 11.0 | 22.0 | 11.0 | 22.0 | 1.0 | |
| | 薬理学Ⅰ実習 | 実習 | | | 3.0 | 6.0 | 3.0 | 6.0 | | |
| | 病理学総論 | 講義 | | | 12.0 | 24.0 | 12.0 | 24.0 | 2.0 | |
| | 病理学総論実習 | 実習 | | | 16.0 | 32.0 | 16.0 | 32.0 | | |
| | 衛生学・公衆衛生学 | 講義 | | | 17.0 | 34.0 | 17.0 | 34.0 | 1.5 | |
| | 衛生学・公衆衛生学実習 | 実習 | | | 4.0 | 8.0 | 4.0 | 8.0 | | |
| | 歯科専門体験実習（講義） | 講義 | 2.0 | 4.0 | | | 2.0 | 4.0 | 1.0 | |
| | 歯科専門体験実習 | 実習 | 4.0 | 8.0 | 10.0 | 20.0 | 14.0 | 28.0 | | |
| | 専門英語（2年） | 講義 | 9.0 | 18.0 | 9.0 | 18.0 | 18.0 | 36.0 | 1.0 | |
| 合計 | | | 169.0 | 338.0 | 243.0 | 486.0 | 412.0 | 824.0 | 29.0 | |

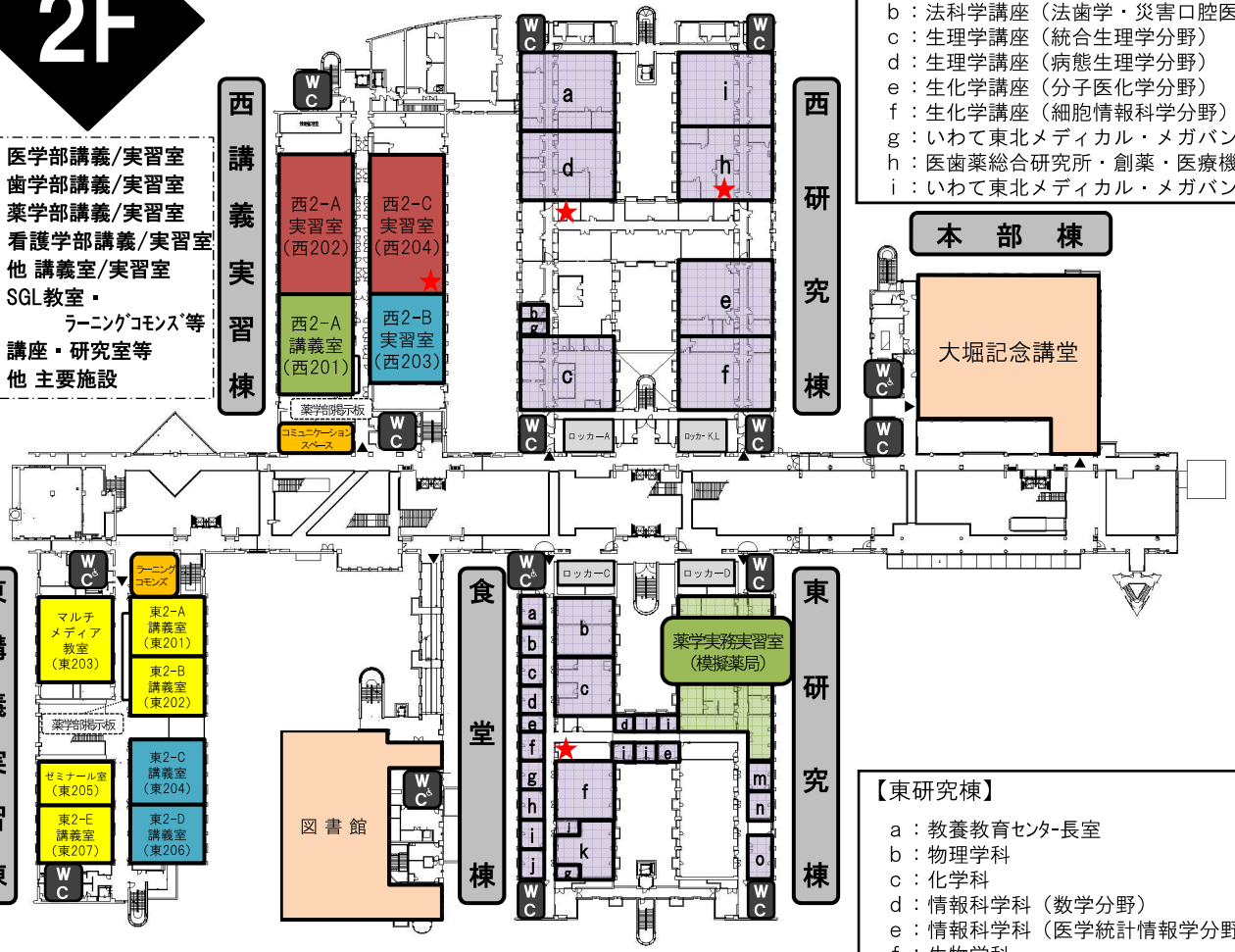
| 科目名 | | | コマ数 | 時間 | コマ数 | 時間 | コマ数 | 時間 | 単位 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養科目 | 医学統計学 | 講義 | 13.0 | 26.0 | | | 13.0 | 26.0 | 1.0 | |
| 合計 | | | 13.0 | 26.0 | 0.0 | 0.0 | 13.0 | 26.0 | 1.0 | |

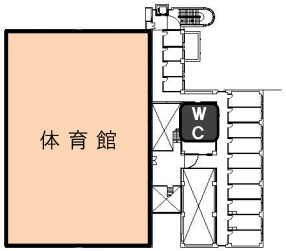
# 矢巾キャンパス平面図


1F
■：医学部講義/実習室
■：歯学部講義/実習室
■：薬学部講義/実習室
■：看護学部講義/実習室
■：他 講義室/実習室
■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
■：講座・研究室等
■：他 主要施設
西講義実習棟
西1-F講義室（西106）
西1-H講義室（西108）
西1-E講義室（西105）
西1-G講義室（西107）
西1-C講義室（西103）
西1-D講義室（西104）
歯・薬・看護学部掲示板
西1-A講義室（西101）
西1-B講義室（西102）
創薬・医療機器開発部門
基盤的研究部門
西研究棟1階ラウンジ
売店
西研究棟
本部棟
［事務室］
① 学事・学生部
② 医学部教務
③ 歯学部教務
④ 薬学部教務
⑤ 看護学部教務
⑥ 研究助成
⑦ IMM事務室
⑧ 総務
医学部長室
歯学部長室
薬学部長室
看護学部長室
中央監視室
動物研究センター
a
超高磁場先端MRI研究所
b
大学本部棟・マルチメディア棟 連絡通路
キャンパス北側入口
キャンパス正面入口
丸善
ラーニングコモンズ①
ラーニングコモンズ③
キャンパス中庭入口
東研究棟SGL教室
東講義実習棟
東1-B講義室（東102）
東1-A講義室（東101）
医学部掲示板
東1-D講義室（東104）
東1-C講義室（東103）
キャンパス東講義実習棟入口
食堂
ラーニングコモンズ②
食堂棟
キャリア支援センター
健康管理センター
東研究棟
体育館棟入口
体育館
a
体育館棟
【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】
a,b：医歯薬総合研究所・基盤的研究部門
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟
マルチメディア棟連絡通路側入口
研修室1（110-1）
研修室2（110-2）
マルチメディア棟正面入口
【ラーニングコモンズ】
① プレゼンテーションエリア（丸善隣）
② コラボレーションエリア（食堂奥）
③ アレンジメントエリア（東講義実習棟1階）
【体育館棟】
a：人間科学科（体育学分野）
：AED（自動体外式除細動器）
：トイレ（♿：多目的付，＋：オストメイト対応）

# 2F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設




★：緊急時用シャワー

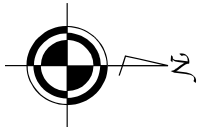
WC：トイレ（♿：多目的付）

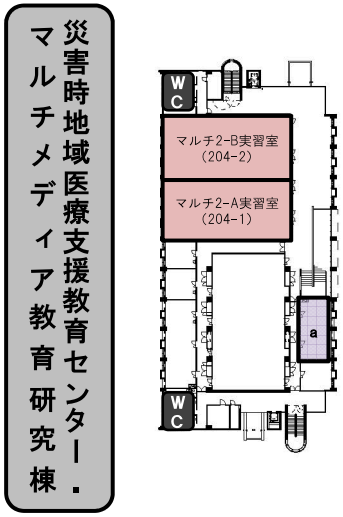
【西研究棟】

a：法科学講座（法医学分野）
b：法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）
c：生理学講座（統合生理学分野）
d：生理学講座（病態生理学分野）
e：生化学講座（分子医化学分野）
f：生化学講座（細胞情報科学分野）
g：いわて東北メディカル・メガバンク機構
h：医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
i：いわて東北メディカル・メガバンク機構

【東研究棟】

a：教養教育ｾﾝﾀｰ長室
b：物理学科
c：化学科
d：情報科学科（数学分野）
e：情報科学科（医学統計情報学分野）
f：生物学科
g：人間科学科（心理学・行動科学分野）
h：人間科学科（文学分野）
i：外国語学科（英語分野）
j：人間科学科（哲学分野）
k：人文社会語学系研究室
l：人間科学科（法学分野）
m：全学教育推進機構長室
n：口腔医学講座（歯科医学教育学分野）
o：看護専門基礎講座



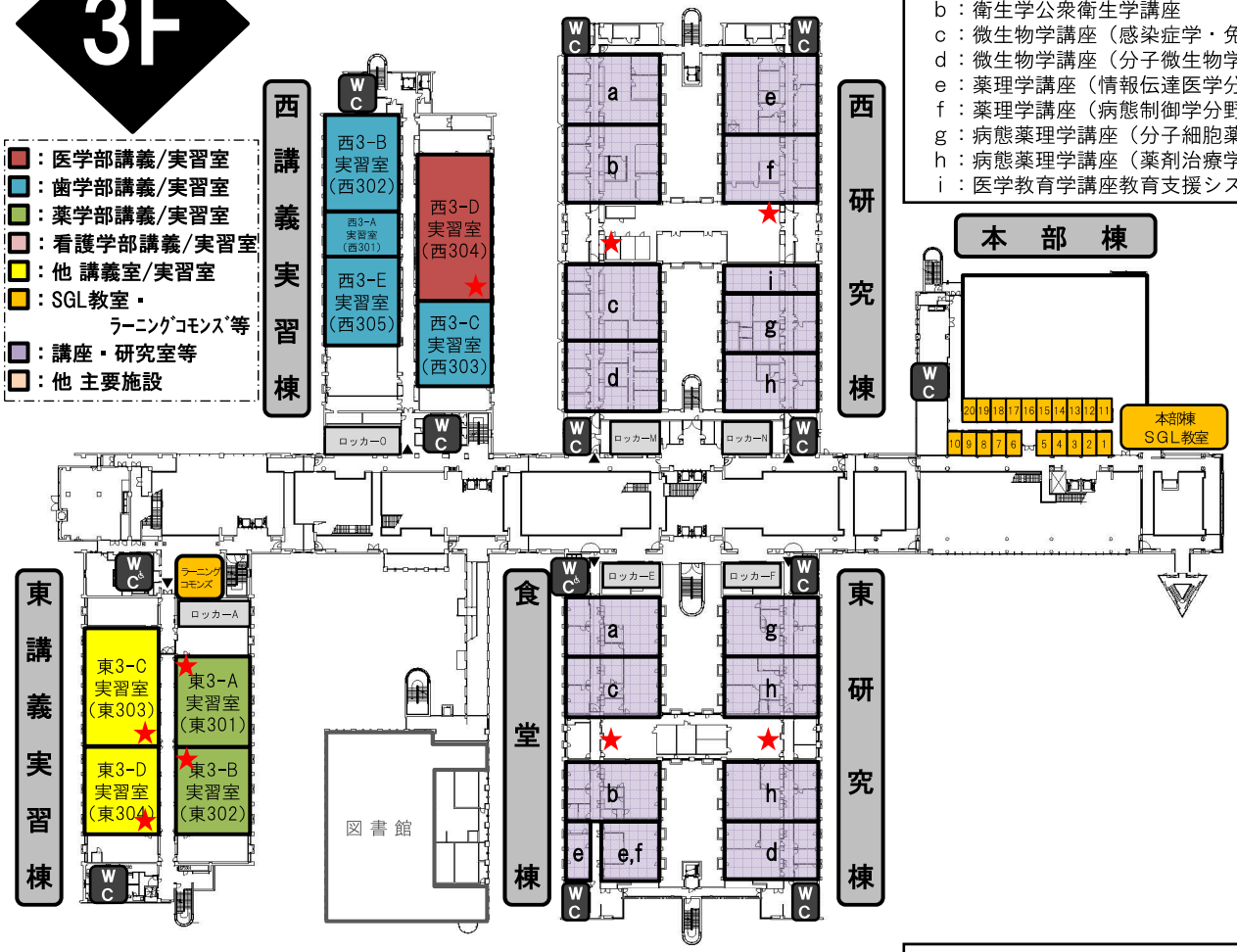



【災害時地域医療支援教育センター】

a：救急・災害医学講座

# 3F

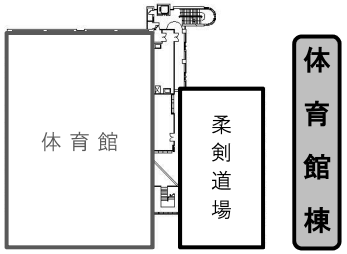
- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設




【西研究棟】

a：医療工学講座
b：衛生学公衆衛生学講座
c：微生物学講座（感染症学・免疫学分野）
d：微生物学講座（分子微生物学分野）
e：薬理学講座（情報伝達医学分野）
f：薬理学講座（病態制御学分野）
g：病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）
h：病態薬理学講座（薬剤治療学分野）
i：医学教育学講座教育支援システム開発分野

動物研究センター

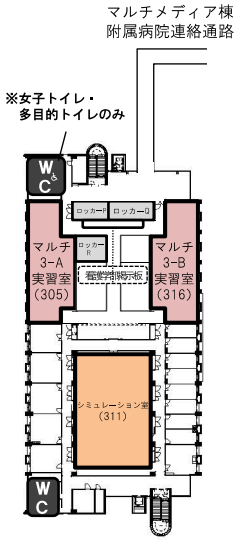



体育館棟

【東研究棟】

a：生物薬学講座（生体防御学分野）
b：生物薬学講座（機能生化学分野）
c：臨床薬学講座（情報薬科学分野）
d：臨床薬学講座（臨床薬剤学分野）
e：臨床薬学講座（地域医療薬学分野）
f：臨床薬学講座（薬学教育学分野）
g：病態薬理学講座（臨床医化学分野）
h：いわて東北メディカル・メガバンク機構

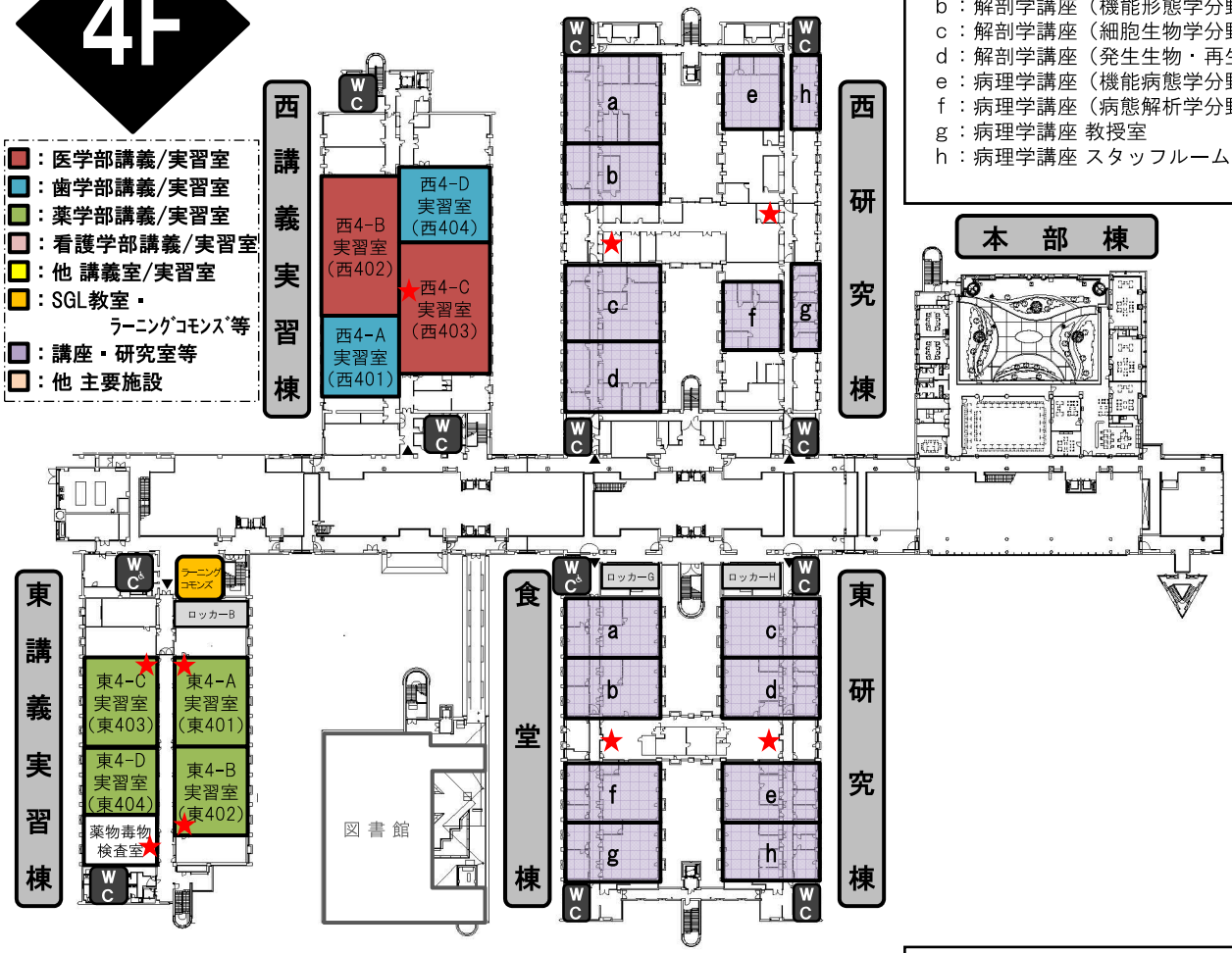
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟




★：緊急時用シャワー
WC：トイレ（♿：多目的付）

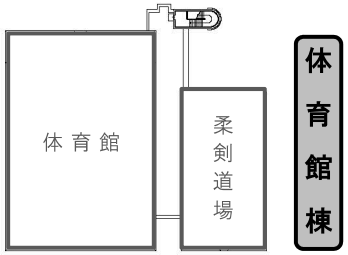
# 4F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設




【西研究棟】

- a：解剖学講座（人体発生学分野）
- b：解剖学講座（機能形態学分野）
- c：解剖学講座（細胞生物学分野）
- d：解剖学講座（発生生物・再生医学分野）
- e：病理学講座（機能病態学分野）
- f：病理学講座（病態解析学分野）
- g：病理学講座 教授室
- h：病理学講座 スタッフルーム




体育館棟

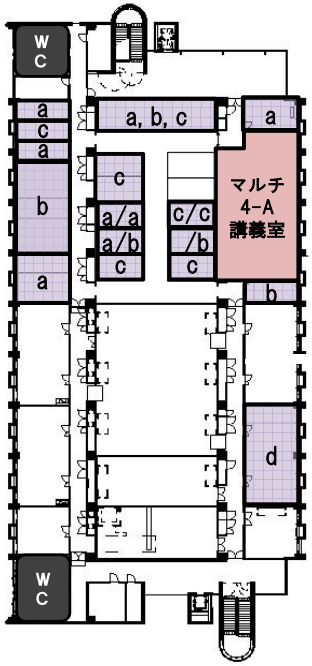
★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（神経科学分野）
- b：薬科学講座（分析化学分野）
- c：薬科学講座（天然物化学分野）
- d：薬科学講座（創薬有機化学分野）
- e：薬科学講座（構造生物薬学分野）
- f：医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野）
- g：医療薬科学講座（創剤学分野）
- h：医療薬科学講座（衛生化学分野）

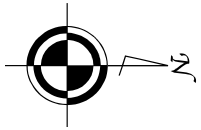
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



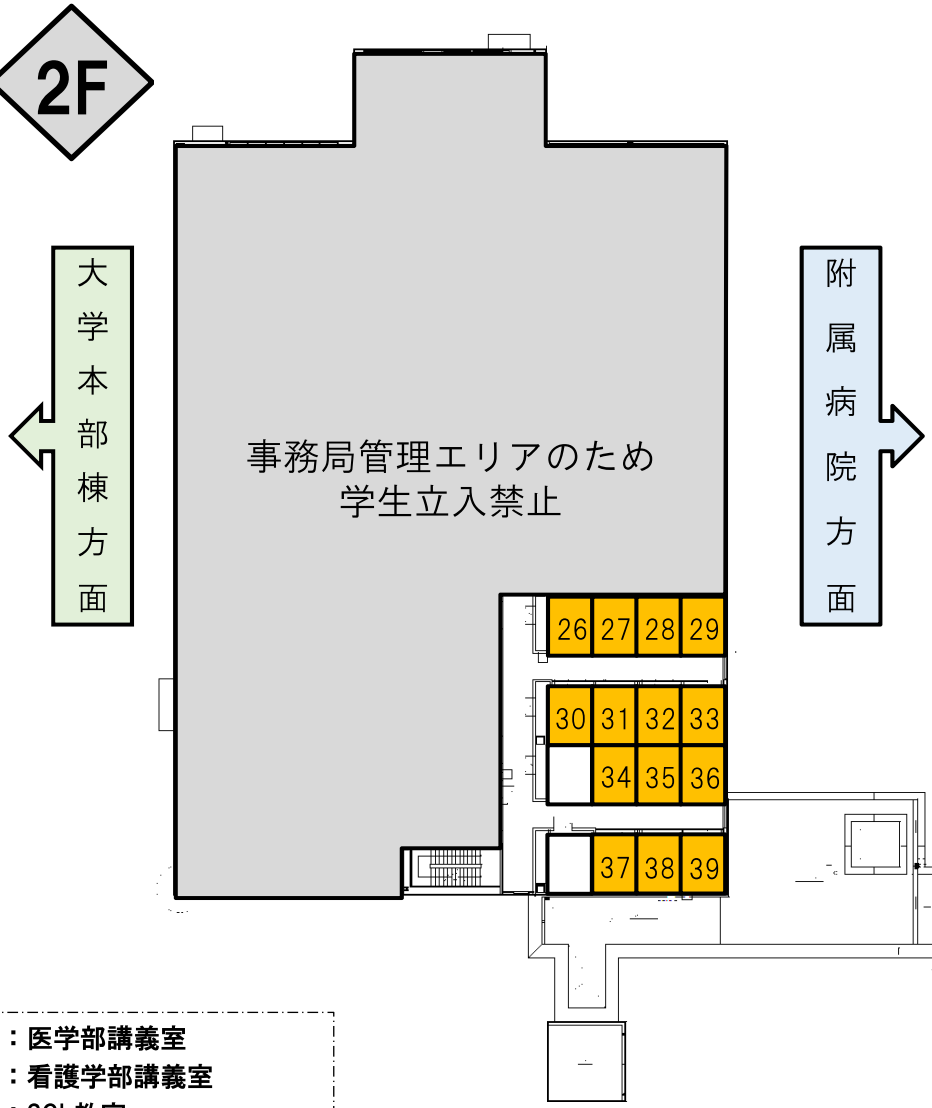

【マルチメディア教育研究棟】

- a：共通基盤看護学講座
- b：地域包括ケア講座
- c：成育看護学講座
- d：医学教育学講座

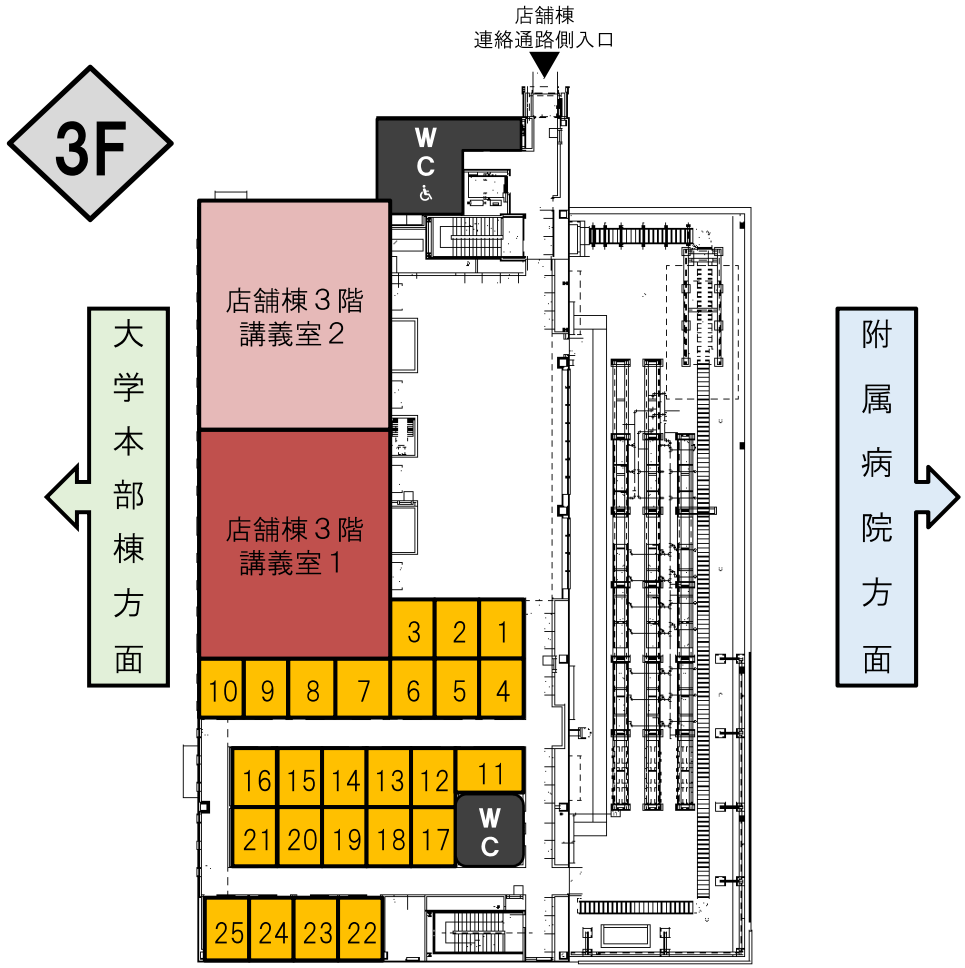
# トクタヴェール（店舗棟）




## 2F



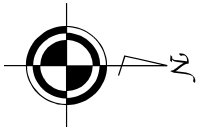

## 3F



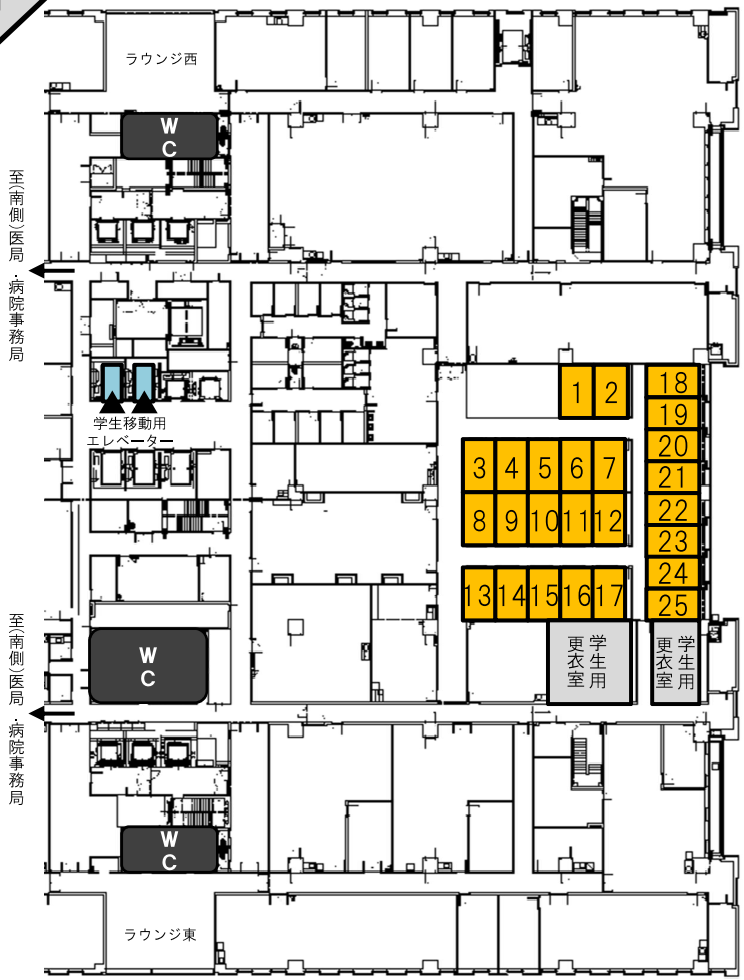

- ■：医学部講義室
- ■：看護学部講義室
- ■：SGL教室
- WC：トイレ（♿ ：多目的付）

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

# 附　属　病　院



## 5F




■：SGL教室
W C：トイレ（♿ ：多目的付）

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

# 歯学部教場平面図

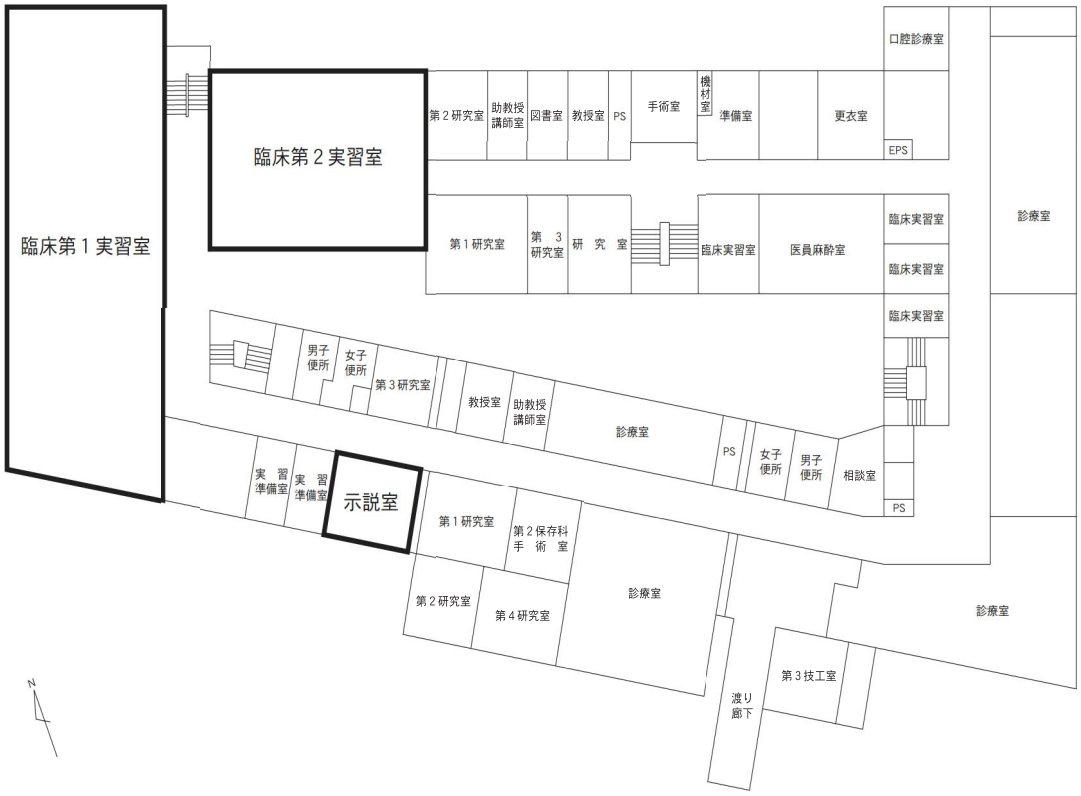
## 歯学部地下１階

## 歯学部１階

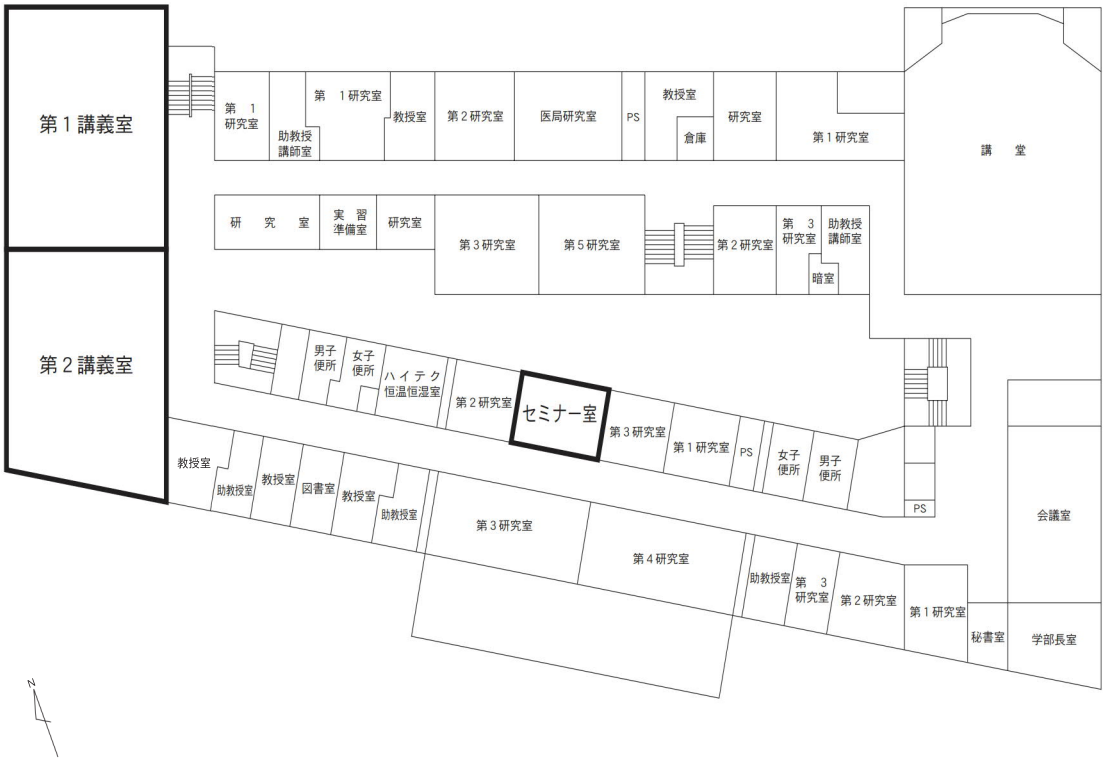
## 歯学部2階

基礎第２実習室
基礎第３実習室
第１研究室
第２研究室
第３研究室
助教授講師室
第１研究室
教授室
第２研究室
PS
学生技工室
第１技工室
EPS
診療室
第4研究室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
医員技工室
機械室
倉　庫
陶材室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第３研究室
診療室
PS
女子便所
男子便所
歯　科材料室
PS
実　習準備室
実　習準備室
助講室
研究室
教授室
第１研究室
第２研究室
診療室
診療室
診療室
N

## 歯学部3階


臨床第１実習室
臨床第２実習室
第２研究室
助教授講師室
図書室
教授室
PS
手術室
機材室
準備室
更衣室
口腔診療室
EPS
第１研究室
第３研究室
研　究　室
臨床実習室
医員麻酔室
臨床実習室
臨床実習室
臨床実習室
診療室
男子便所
女子便所
第３研究室
教授室
助教授講師室
診療室
PS
女子便所
男子便所
相談室
PS
実　習準備室
実　習準備室
示説室
第１研究室
第２保存科手　術　室
第２研究室
第４研究室
診療室
診療室
第３技工室
渡り廊下
N

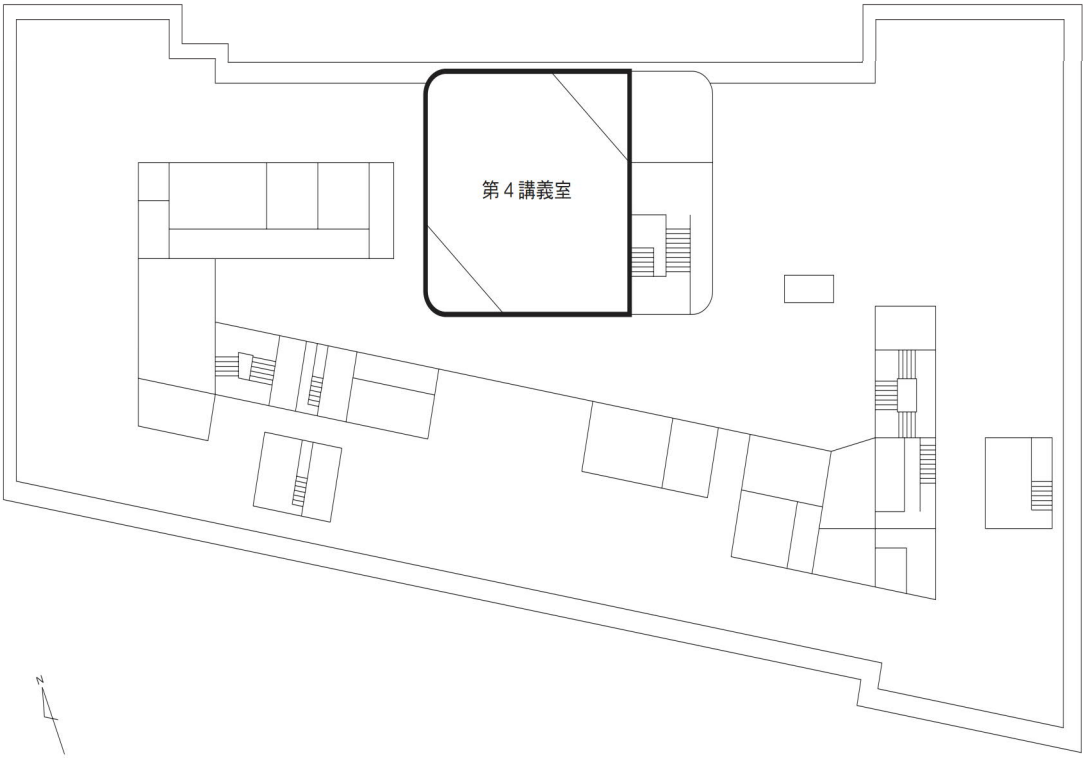
## 歯学部4階


第１講義室
第２講義室
第 1 研究室
助教授講師室
第 1研究室
教授室
第２研究室
医局研究室
PS
教授室
倉庫
研究室
第１研究室
講 堂
研 究 室
実 習 準備室
研究室
第３研究室
第５研究室
第２研究室
第 3 研究室
助教授講師室
暗室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第２研究室
セミナー室
第３研究室
第１研究室
PS
女子便所
男子便所
PS
教授室
助教授室
教授室
図書室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
助教授室
第 3 研究室
第２研究室
第１研究室
秘書室
会議室
学部長室
N

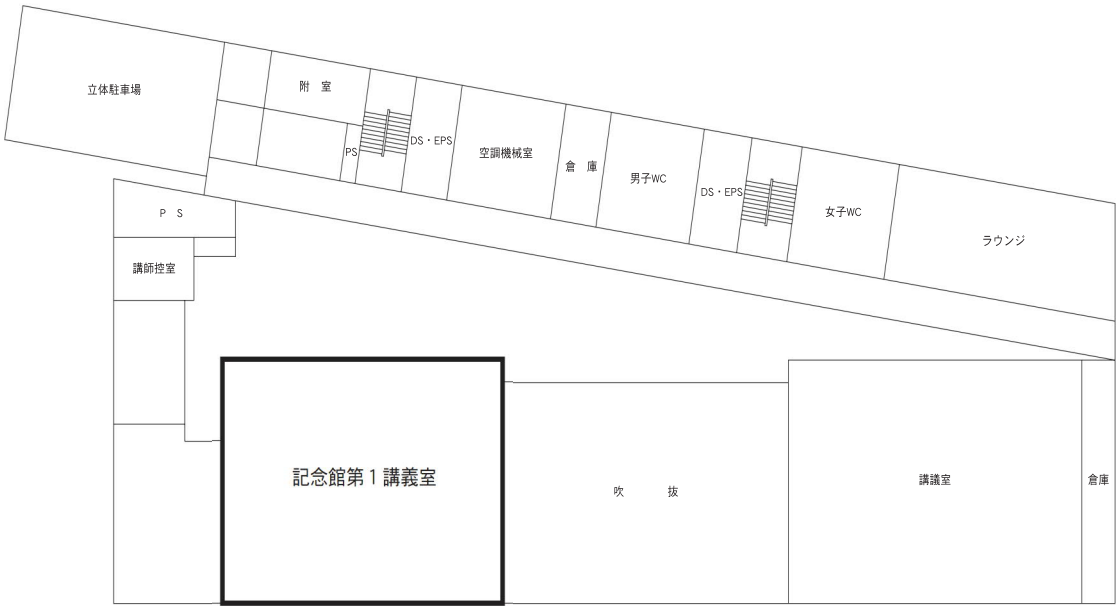
## 歯学部5階

助教授室
講師室
研究室
第１研究室
暗室
第３研究室
第 4 研究室
教授室
第４研究室
研究室
PS
第２研究室
第３研究室
暗室
講 堂
ハイテク機器分析室
第 7 研究室
暗 室
助教授講師室
教授室
コピー室
第 5 研究室
第３研究室
第 2 研究室
第１研究室
教授室
助教授講師室
第３講義室
男子便所
女子便所
第６研究室
第５研究室
第４研究室
第３研究室
PS
女子便所
男子便所
工作室
PS
教授室
図書室
助教授講師室
第 1 研究室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
第１研究室
第２研究室
助教授講師室
教授室
助教授講師室
教授室
第５研究室
コンファランスルーム
機械室
ハイテク組織像解析室
ハイテク生体イメージング解析室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
N

歯学部6階

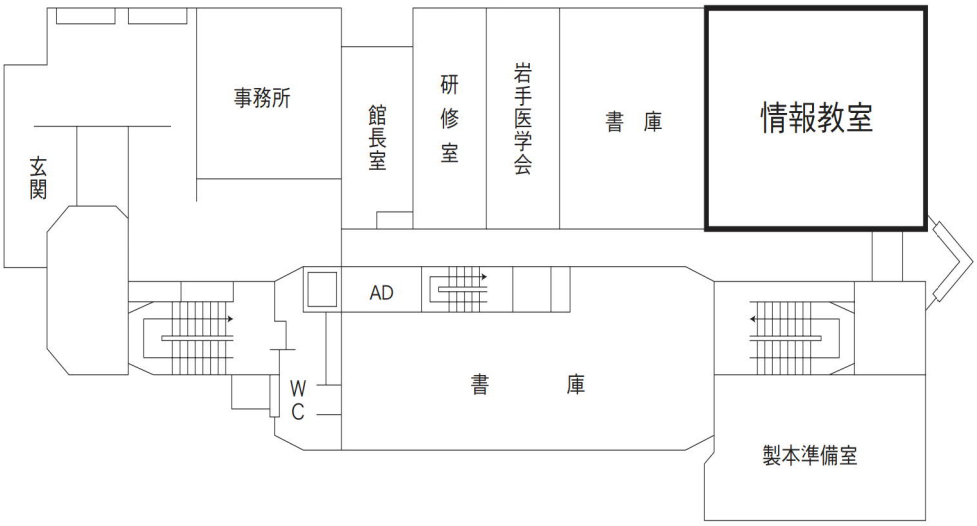

第４講義室
N

記念館9階

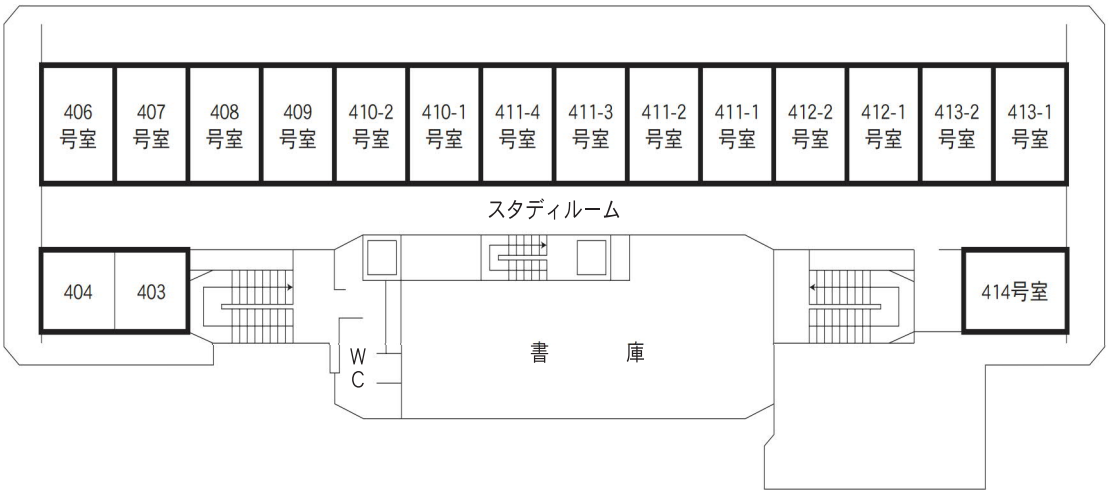

立体駐車場
附　室
PS
DS・EPS
空調機械室
倉　庫
男子WC
DS・EPS
女子WC
ラウンジ
P　S
講師控室
記念館第１講義室
吹　　抜
講議室
倉庫

内丸図書館

〔１階〕


玄関
事務所
館長室
研修室
岩手医学会
書庫
情報教室
AD
W
C
書庫
製本準備室

〔４階〕


406号室
407号室
408号室
409号室
410-2号室
410-1号室
411-4号室
411-3号室
411-2号室
411-1号室
412-2号室
412-1号室
413-2号室
413-1号室
スタディルーム
404
403
414号室
W
C
書庫

# 授　業　科　目

# 解剖学Ⅱ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 解剖学講座（機能形態学分野）　藤原　尚樹　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 解剖学講座（機能形態学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通期 | | 前期 | 56.0時間 | 28.0時間 |
| | | | 後期 | 28.0時間 | 112.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

歯ならびに口腔領域をはじめとする身体の健康を維持するために必要な人体の正常構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を営み、それを維持しているかを知ることだけでなく、病気の成り立ちや診断に対する、あるいは歯科医としての治療方針や治療計画を立案する際の基礎知識にもなる。全身の中の頭頸部領域の位置づけ、特に口腔領域の構造や消化管の入口としての他器官との連続性や気道との関係性を三次元的に理解することは、歯科医を目指す学生においては必須である。また解剖学的知識は全身疾患をもつ患者の全身的症状とそれらに対する適切な治療や口腔ケア、障害から頭頸部領域を再建する際にも必要な知識でもあるため、口腔機能と関連する器官の構造的特徴、共通性および関連性を理解する事が重要である。そのため解剖学では、身体各部の構造について組織・発生学的背景を含めて系統的に学修する中で、人体の成り立ちの基本原則と人体の構成要素である各器官の組織構築を統合的に学修する。また相互の組織・器官が連携する事で営まれる生理機能の礎としての解剖学の意義を説明できるよう学修する。さらに硬組織と周囲組織が密接な関係のもとで成り立っている歯を含めた口腔領域の正常形態と変異の幅について、将来歯科医として適切な治療や最新医療に対応するために必要な解剖学的知識を学修する。

## 教育成果（アウトカム）

【講義】
人体を構成する諸器官の形態的特徴と空間的結合・配置について、その機能との関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を理解できるようになる。また器官が持つ形態の意義とその構造が存在する理由を個体発生的・系統発生的に理解できるようになる。さらに歯科医師として歯科疾患ならびに口腔疾患に対する適切な検査や治療そして検査結果の必要十分な理解を可能とするために、臨床上必須な局所解剖学的知識に基づいて、頭頸部領域の構造を説明できるようになる。
【実習】
講義で学んだ諸器官の形態的特徴について、三次元的な空間的結合・配置、周囲組織との連続性や機能的関連性を考えながら学ぶことにより、各器官の機能的背景にある形態を三次元的に理解できるようになる。さらに歯科医師として歯科ならびに頭頸部領域の治療や再建を想定し、臨床上必須となる三次元的な形態学的知識と構造的イメージが具体的に整理され、正常な組織間の関連性を説明できるようになる。解剖実習を通じて医療従事者に必要な倫理観を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、3、4、8、9）

## 到達目標（SBOs）

1. 歯科医師の視点から人体の成り立ちについて包括的に捉え、解剖学の必要性を説明できる。
2. 基本的人権の尊重、歯科医師を目指す学生としての倫理観について理解し、遵守できる。
3. 歯科医師として必要な人体の構造と機能について説明できる。
4. 歯科医師として必要な頭頸部の構造について摂食・嚥下機能との関連性を元に説明できる。
5. 歯科治療において必要な歯の形態的特徴と機能との関係性、異常について説明できる。
6. 自己学修や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。
7. 臨床解剖実習を通じ、チーム医療の礎となるコミュニケーションならびに１つの目標に対峙する際の他者への思いやりと協調性の意義について説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストと各欄に示す教科書の該当領域を読み、要点をまとめておくこと。また「口腔顎顔面解剖ノート」の該当ページあるいは配付する資料による課題をWebClassで毎回指定するので、これらを実施し各授業の開始前に提出すること。その内容については授業の中で概説しフィードバックする。解剖学は積み重ね式に学習が構成されており、各授業の前にはそれまでに学修した内容について振り返りを行う必要があり、講義、実習中に質問あるいはディスカッションによって事前学習の確認を行うと共に適宜質問に対するフィードバックを行う。そのため各講義の事前学習として平均30分程度を要する。また演習・実習においてはそれまでの教育内容の理解を深め定着を図ることを目的とするため、演習・実習ごとに具体的な時間を表記するので参照すること。本内容は全授業に対して該当するものとする。
【事後学修】
次回の授業の効果的な理解のために、各講義の学修内容の理解と整理が必要となる。講義のまとめと課題は遅滞することなく、次回の講義前までに完成することで有効な学修効果を発揮する。そのため授業中にテキストに記入した内容の整理など各講義の振り返りとして平均45分程度の事後学修を行うことが必要である。本内容は実習を含め全授業に対して該当するものとする。
演習は単元全体を通して学修した内容の振り返りだけでなく単元の統合的な理解と定着のための資料や学修ポイントを提供するので、演習終了後はこれらの資料を元に他の単元との関係性も考慮して事後学修を行う必要がある。学修内容によって必要な事後学習の想定時間は変動するので、講義・演習・実習の内容ごとに具体的な時間を表記するので参照すること。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/3（金） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **骨学：内・外頭蓋底**<br><br>頭蓋骨を構成する骨と各骨の連結、配置を理解し、頭蓋底の構造、孔、裂、溝、管と脈管・神経の走行との関係性を理解する。 | 1. 頭蓋骨の基本的配列を説明できる。<br>2. 頭蓋底の解剖学的特徴を説明できる。<br>3. 内頭蓋底、外頭蓋底の孔、裂、溝、管と神経、血管の走行との関係を説明できる。<br>4. 内頭蓋底と外頭蓋底にみられる構造の解剖学的関連性を説明できる。<br>5. 頭蓋の成長と構造の関連性を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,5,6,8]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。 P113～P126 所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度 |
| 講義 | 4/3（金） | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **骨学：上顎骨・口蓋骨・頬骨**<br><br>上顎骨・口蓋骨・頬骨の形態と翼口蓋窩と上顎神経の走行の関係性を理解する。 | 1. 頭蓋骨における上顎骨の位置を説明できる。<br>2. 上顎骨、口蓋骨、頬骨の解剖学的構造と周囲骨との関連性を説明できる。<br>3. 口蓋・鼻腔の構成を説明できる。<br>4. 上顎の歯、口蓋に分布する神経の経路を説明できる。<br>5. 上顎洞の構造的特徴について説明ができる。<br>6. 翼口蓋窩と周囲腔の交通を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,5,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。 P126～P133,136～139,271～274,281～293 所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/10<br>(金) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **骨学：下顎骨・舌骨**<br><br>下顎骨の形態と筋肉の付着、舌骨の役割を理解する。 | 1. 咀嚼筋の付着部位を説明できる。<br>2. 顎関節の構成要素としての下顎骨を説明できる。<br>3. 舌骨上筋・舌骨下筋と下顎骨、舌骨の関係性を説明できる。<br>4. 下顎の歯に分布する神経の走行経路を説明できる。<br>5. 印象採得時に注意すべき構造について説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,5,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P133～136,272～280,281～293<br>所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 4/10<br>(金) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **骨学：側頭骨・蝶形骨・後頭骨**<br><br>頭蓋底の重要な構成要素である側頭骨、蝶形骨、後頭骨の解剖学的特徴を理解する。<br>これらの骨にある構造と脳神経の走行経路の関係を理解する。 | 1. 側頭骨の解剖学的特徴を説明できる。<br>2. 蝶形骨の解剖学的特徴を説明できる。<br>3. 後頭骨の解剖学的特徴を説明できる。<br>4. 側頭骨、蝶形骨、後頭骨と頭蓋腔から外頭蓋底へ出入りする脳神経や脈管の走行との関連を説明できる。<br>5. 側頭骨、蝶形骨、後頭骨における筋の付着部位、構造的特徴を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,5,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P120～P125　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 4/16<br>(木) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **筋学：表情筋**<br><br>表情筋の種類と作用を理解する。 | 1. 表情筋の種類（広頸筋含む）と機能を説明できる。<br>2. 眼裂、口裂周囲筋の構造と作用を説明できる。<br>3. 頬筋の解剖学的特徴を説明できる。<br>4. 表情筋の神経支配を説明できる。<br>5. 表情筋の栄養血管を説明できる。<br>6. 皮筋の解剖学的特徴を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,10]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P140～143, 146, 278～279　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 4/17<br>(金) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **筋学：咀嚼筋**<br><br>咀嚼筋の種類、起始停止と作用関係を理解する。 | 1. 各咀嚼筋の起始停止と作用との関係を説明できる。<br>2. 咀嚼筋の総合的な機能を説明できる。<br>3. 咀嚼筋の神経支配を説明できる。<br>4. 咀嚼筋の栄養血管を説明できる。<br>5. 翼突下顎隙の構成と意義について説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,10]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P143～146　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/17<br>（金） | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **筋学：頸部の筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群**<br><br>舌骨上筋と舌骨下筋の種類と作用を理解する。 | 1. 広頸筋・胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。<br>2. 舌骨上筋群の種類と起始停止、作用を説明できる。<br>3. 舌骨下筋の種類と起始停止、作用を説明できる。<br>4. 舌骨上筋、舌骨下筋の神経支配を説明できる。<br>5. 後頭部の筋、斜角筋群の種類と解剖学的特徴を説明できる。<br>[A-3-2-2,3,4,5,6,10]<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P145～149　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 4/24<br>（金） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **筋学：頸筋膜と筋膜隙**<br><br>頸筋膜の概念、筋膜隙と周囲の解剖学的構造についての関連性を理解する。 | 1. 頸筋膜の概念、その構造と作用を説明できる。<br>2. 頸動脈鞘を説明できる。<br>3. 各筋膜隙の構成とその隙に存在する解剖学的構造を説明できる。<br>4. 頸部の筋膜隙と縦隔の関連性について炎症波及の観点から説明できる。<br>[A-3-2-1,2,3,4,5,6]<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P106～109,148,256～262　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/24<br>(金) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **顎関節**<br><br>顎関節の構造的特徴を理解する。<br>顎関節と咀嚼筋との機能的関連性を理解する。 | 1. 顎関節の解剖学的特徴を説明できる。<br>2. 下顎運動と関連する顎関節の形状、下顎窩、関節円板の特徴を説明できる。<br>3. 咀嚼筋と関節の動きの関係性を説明できる。<br>4. 顎関節の靭帯の種類と解剖学的意義を説明できる。<br>5. 顎関節の手術の際に気をつけるべき脈管について説明できる。<br>[A-3-2-2,3,4,5,6,8,10]<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P143～145,150～153　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 4/30<br>(木) | 3 | 桑島幸紀准教授<br>（口腔保健育成学講座　歯科矯正学分野）<br><br>藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **画像解剖学：頭部エックス線規格写真（セファログラム）と計測基準点**<br><br>歯科矯正、歯科放射線に関連する画像解剖学を理解する。 | 1. 頭蓋骨の形態と頭部エックス線規格写真を対比し、矯正歯科的基準点を理解する。<br>2. 頭蓋骨の基準平面、計測点を説明できる。<br>3. エックス線セファログラムの計測点を説明できる。<br>4. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造とを関連づけて説明できる。<br>[A-3-2-2,3,D-2-5-7]<br>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P240～P255　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/1<br>(金) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **循環器系の概論**<br>**心臓**<br><br>肺循環と体循環、リンパの流れを理解する。<br>脈管の分類、特徴を理解する。<br>心臓の構造と出入りする血管、その中を流れる血液の性状を理解する。 | 1. 肺循環、体循環、リンパの流れの概念を説明できる。<br>2. 動脈、静脈、リンパ管の形態学的および機能的違いを説明できる。<br>3. 心臓の形態学的特徴から、各部位の機能を説明できる。<br>4. 心臓の構造および出入りする血管と流れる血液の性状について、心臓の機能を元に説明できる。<br>5. 心臓の拍動と心電図波形の関係を説明できる。<br>[A-3-1-4-1,2,3,A-3-2-5]<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P40～45,52～60,154～155　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 5/1<br>(金) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **骨学・筋学演習**<br><br>全身を構成する骨・筋、特に頭頸部を構成する骨・筋の解剖学的特徴を整理する。 | 1. 全身の骨と関節を列挙できる。<br>2. 頭蓋骨を構成する骨、縫合や結合、筋の付着部について説明できる。<br>3. 頭蓋底にみられる孔、裂、管等と通過する脈管・神経などを説明できる。<br>4. 全身の主な筋肉の起始・停止と機能について説明できる。<br>5. 表情筋・咀嚼筋の機能を説明できる。<br>6. 舌骨上筋・舌骨下筋群の種類と機能を説明できる。<br>7. 咀嚼・嚥下運動に関わる解剖学的構造を説明できる。<br>8. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造について説明できる。<br>[A-3-2-1,2,3,4,5,6,8,10]<br>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第３版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39,106～109,133～153,240～262,271～293　所要時間60分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 5/12<br>(火) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **骨学・筋学のまとめ**<br><br>到達度試験 | 1. 全身の骨・筋について総合的に説明できる。<br>2. 頭蓋骨を構成する骨と付着する筋の関係性について総合的に説明できる。<br>3. 頭蓋底にみられる孔、裂、管等と通過する脈管・神経、筋隙などを立体的にイメージし、説明できる。<br>4. 咀嚼・嚥下運動に関わる解剖学的構造を説明できる。<br>5. 頭部計測基準点と頭蓋骨の構造について説明できる。<br>**[A-3-2-1,2,3,4,5,6,8,10]**<br>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第３版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39,106～109,133～153,240～262,271～293　所要時間90分程度<br>事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し,理解不足の点について振り返りをすること。　所要時間60分程度 |
| 講義 | 5/14<br>(木) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **脈管学：大動脈、上肢・下肢の動脈**<br><br>大動脈弓の枝、胸腹部大動脈の枝および分布領域を理解する。<br>上肢と下肢の動脈の相同性と分布の特徴を理解する。 | 1. 大動脈弓と枝の分岐位置を説明できる。<br>2. 胸大動脈・腹大動脈の枝と関連する臓器を説明できる。<br>3. 上肢に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。<br>4. 骨盤内の動脈の分岐と分布域の特徴を説明できる。<br>5. 下肢に分布する動脈の走行と特徴を説明できる。<br>6. 拍動を触れる動脈について説明できる。<br>**[A-3-1-4-1,2,3,A-3-2-5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P45～50,154～155,161～162,297～299　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/15（金） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学：頭頸部の動脈内頸動脈・外頸動脈の枝（上甲状腺動脈、顔面動脈、舌動脈）**<br><br>頭頸部の動脈の走行を理解する。<br>内頸動脈・外頸動脈の走行を理解する。<br>上甲状腺動脈、顔面動脈、舌動脈の分枝と栄養供給範囲を理解する。 | 1. 頭頸部に分布する動脈の分岐・走行経路を説明できる。<br>2. 脳への血液供給と大脳動脈輪の関係を説明できる。<br>3. 外頸動脈の分枝、特に上甲状腺動脈・顔面動脈・舌動脈の分岐および走行経路、これらが栄養血管となる臓器を説明できる。<br>**[A-3-1-4-2,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施し、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P156～158,160～161,295～296,264～265　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 5/15（金） | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学：外頸動脈の終枝（顎動脈、浅側頭動脈）**<br><br>外頸動脈終枝の分布範囲を理解する。<br>顎動脈の走行経路を理解する。 | 1. 浅側頭動脈の分岐および走行経路を説明できる。<br>2. 顎動脈の区分、分布領域、走行経路を説明できる。<br>3. 口蓋、上顎と下顎の歯や歯周組織に分布する動脈の走行経路を説明できる。<br>**[A-3-1-4-2,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P158～160,263～264,294～297<br>所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/21<br>(木) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学：全身の静脈系・頭頸部の静脈**<br><br>静脈の走行経路や皮静脈、側副循環などの特徴を理解する。<br>頭頸部の血液の回収経路としての静脈を理解する。 | 1. 静脈の走行の特徴を動脈との比較において説明できる。<br>2. 皮静脈、奇静脈系について説明できる。<br>3. 門脈系、側副循環路の意義を説明できる。<br>4. 静脈注射に用いる血管を説明できる。<br>5. 内頸静脈の枝と回収域を説明できる。<br>6. 翼突筋静脈叢・海綿静脈洞、頭蓋腔からの導出静脈などを含めた顎顔面の静脈の特徴を説明できる。<br>**[A-3-1-4-2,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P50～52,162～164,299 所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 5/22<br>(金) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学：全身のリンパ系**<br>**頭頸部のリンパ管**<br><br>排導系としての機能が炎症伝播路となるリンパ管経路の特殊性について理解する。<br>全身のリンパ管構築、および頭頸部におけるリンパ組織、特に領域リンパ節について理解する。 | 1. 一次リンパ性器官の位置、構造を説明できる。<br>2. 全身のリンパ管構築の特徴を説明できる。<br>3. Virchowのリンパ節の臨床上の重要性を説明できる。<br>4. 顎顔面・口腔領域の所属リンパ節を説明できる。<br>5. Waldeyerの咽頭輪を構成する扁桃とこれらの意義を説明できる。<br>**[A-3-1-4-6,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P60～65,164～169,304～308　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/22<br>(金) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学：胎生循環**<br>**脈管学総復習**<br><br>胎生期特有の血液の流れやそれに伴う構造と共にこれらの構造に関連する出生後の構造を理解する。<br>動脈・静脈の頭頸部ならびに全身の解剖学的特徴を整理する。 | 1. 胎生循環と心臓の構造の関係を説明できる。<br>2. 胎生期に特有の循環経路とそれを構成する血管の役割を説明できる。<br>3. 胎生期に特有の血管に関連する出生後の構造について説明できる。<br>4. 臨床上必要な全身の動脈と静脈を列挙し、意義を説明できる。<br>5. 頭頸部の主な動脈の走行と分布範囲を説明できる。<br>6. 頭頸部の静脈の走行を説明できる。<br>**[A-2-2-2,A-3-1-4-1,2,3,6,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施するとともに、これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第３版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P52～65,154～169 所要時間60分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間60分程度 |
| 講義 | 5/26<br>(火) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学総論**<br>**神経学：脳幹**<br><br>中枢神経の構成と構造について理解する。<br>延髄・橋・中脳の位置や構造、役割を理解する。 | 1. 中枢神経系・脳室の構造について発生学の視点から説明できる。<br>2. 中枢神経の区分を説明できる。<br>3. 灰白質と白質、伝導路の相違を説明できる。<br>4. 脳幹の構成要素、位置及び機能を説明できる。<br>**[A-3-1-5-4,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～72,74～77,170 所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 5/28<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **脈管学のまとめ**<br><br>到達度試験 | 1.　全身の主な血管を列挙できる。<br>2.　頭頸部の主な動脈の走行を関係する骨の形態、鼻腔、口腔、咽頭の構造から歯科医療の視点で説明できる。<br>3.　頭頸部の静脈の走行を説明できる。<br>4.　胎生期と出生後の血流の異同を説明できる。<br>5.　リンパの流れとリンパ節の関係を説明できる。<br>**[A-2-2-2,A-3-1-4-1,2,3,6,A-3-2-2,3,5]**<br>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第３版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P52～65,154～169　所要時間90分程度<br>事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し,理解不足の点について振り返りをすること。　所要時間60分程度 |
| 講義 | 6/4<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：間脳、小脳、終脳、脊髄**<br><br>間脳・小脳・終脳・脊髄の構造と異同について理解する。<br>終脳の各領域（野）と機能、脊髄の前角と後角の機能的な特徴について理解する。<br>脳の保護の仕組みを理解する。 | 1.　中枢神経の組織構築と異同について説明できる。<br>2.　間脳、小脳の構造と機能を説明できる。<br>3.　大脳回と大脳溝の構成と大脳各部の機能との関係性を説明できる。<br>4.　脊髄の各部の機能と特徴を説明できる。<br>5.　脳室・脊髄中心管と脳脊髄液の循環、髄膜について説明できる。<br>**[A-3-1-5-4,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P72～80,170～178　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/11<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：末梢神経概論**<br>**脊髄神経、自律神経**<br><br>脊髄神経の特徴、各神経叢の構成と支配領域や機能を理解する。<br>自律神経の支配領域や神経節について理解する。 | 1. 末梢神経の種類とその概略を説明できる。<br>2. 脊髄神経の構成と特徴を説明できる。<br>3. 頸神経叢の構成を説明できる。<br>4. 腕神経叢、肋間神経、腰仙骨神経叢の構成について説明できる。<br>5. 交感神経、副交感神経の解剖学的特徴や神経節、分布範囲について説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,3,4,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P80～88,178～180,183～195　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 6/18<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：特殊体性求心性神経、体性運動神経（脳神経Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、Ⅷ、Ⅻ）**<br><br>嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、外転神経、内耳神経、舌下神経の支配領域と機能を理解する。 | 1. 嗅神経と嗅覚受容器の位置関係を説明できる。<br>2. 視神経の機能と走行経路の特徴を説明できる<br>3. 眼筋の種類と支配する脳神経を説明できる。<br>4. 内耳神経が司る感覚と走行経路を説明できる。<br>5. 舌下神経の走行経路と支配する筋を説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,4,A-3-1-6-1,A-3-2-2,3,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P180,188～189,192<br>所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/25<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：鰓弓神経１**<br>**（脳神経Ⅴ1、Ⅴ2、Ⅸ）**<br><br>眼神経、上顎神経の走行経路と支配領域を理解する。<br>舌咽神経の支配領域と機能を理解する。 | 1.　三叉神経の走行を説明できる。<br>2.　眼神経の走行経路と支配領域を説明できる。<br>3.　上顎神経の走行経路、支配領域と機能との関係を説明できる。<br>4.　翼口蓋神経節とこの神経節に由来する神経の分布範囲を説明できる。<br>5.　顔面、上顎の歯の知覚を支配する神経を説明できる。<br>6.　舌咽神経の走行経路と支配領域を説明できる。<br>7.　頸動脈洞、頸動脈小体の役割を説明できる。<br>8.　耳下腺の神経支配・走行経路と耳神経節との関連を説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,3,4,A-3-1-6-2,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P181～186,189～190,264～265,289～293　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 7/2<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：鰓弓神経２**<br>**（脳神経Ⅴ3、Ⅹ、Ⅺ）**<br><br>下顎神経の走行経路と支配領域を理解する。<br>迷走神経、副神経の支配領域と機能を理解する。 | 1.　下顎神経の走行経路、支配領域と機能との関係を説明できる。<br>2.　下顎神経と関連する神経節と節後線維の支配領域を説明できる。<br>3.　顔面、下顎の歯の神経支配を説明できる。<br>4.　第一鰓弓に由来する筋、咀嚼筋の神経支配を説明できる。<br>5.　迷走神経・副神経の神経支配を説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,3,4,A-3-1-6-2,3,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P181～182,184～186,190～192,263～265,289～293<br>所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 7/9<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学：鰓弓神経３（脳神経Ⅶ）と自律神経**<br><br>顔面神経の支配領域と走行経路を理解する。<br>頭頸部に分布する自律神経の構成と機能を理解する。 | 1. 顔面神経の走行経路と支配領域、機能を説明できる。<br>2. 鼓索神経と顎下神経節の関係を説明できる。<br>3. 頭頸部における交感神経節と関連する神経支配について説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,3,4,A-3-1-6-2,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P83～86,187～193　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 7/16<br>（木） | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **神経学演習**<br><br>中枢神経,末梢神経の解剖学的特徴を整理する。<br>頭頸部の構造を支配する神経の走行経路や機能を整理する。 | 1. 中枢神経の基本構造を説明できる。<br>2. 脊髄神経に由来する各神経叢の枝の走行、分布を説明できる。<br>3. 自律神経の構成を説明できる。<br>4. 第Ⅰ～Ⅻ脳神経の走行経路と支配する機能を説明できる。<br>5. 頭頸部の感覚・運動を支配する脳神経の分布領域や走行経路、機能を具体的に説明できる。<br>**[A-3-1-5-1,2,3,4,A-3-1-6-1,2,3,A-3-2-2,3,6,7]**<br>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第３版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P66～88,170～195,263～265,289～293　所要時間60分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間60分程度 |
| 講義 | 9/25<br>（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **口腔内臓１：口腔の区分、口唇、口腔前庭、歯肉**<br><br>口腔・口唇の範囲を理解する。<br>口腔粘膜の特徴と粘膜の種類と機能を理解する。 | 1. 口腔の区分を説明できる。<br>2. 粘膜の分類を説明できる。<br>3. 口唇の構造、脈管・神経支配を説明できる。<br>4. 口腔前庭・歯肉の構造を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,A-3-3-1,2]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P208～211　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/2<br>（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **口腔内臓２：固有口腔、口蓋**<br><br>固有口腔の範囲を理解する。<br>硬口蓋～軟口蓋粘膜と裏打ちする骨、筋肉を理解する。 | 1. 固有口腔の区分、解剖学的特徴を説明できる。<br>2. 硬口蓋を構成する骨を説明できる。<br>3. 軟口蓋（口蓋帆）を構成する筋肉の構成と支配神経を説明できる。<br>4. 口峡部にみられる構造、鼻咽腔との関係性を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,A-3-3-1,2,4]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P196～198,211～214,277～280　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 10/9<br>（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **口腔内臓３：口腔底、舌**<br><br>口腔底の構造を理解する。<br>舌背の構造、支配神経を理解する。<br>舌を構成する筋肉、舌周辺の筋肉と栄養血管の関係を理解する。 | 1. 口腔底にみられる構造、舌下隙との関係性を説明できる。<br>2. 舌乳頭の種類と存在部位、味蕾の存在する部位を説明できる。<br>3. 内舌筋、外舌筋の走行、機能を説明できる。<br>4. 舌の支配神経、脈管、リンパを説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,A-3-3-1,2,3]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P214～217　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/16（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **口腔内臓４：唾液腺**<br><br>唾液腺の種類と解剖学的特徴､分泌に関わる支配神経を理解する。 | 1. 唾液腺の構造、存在場所および唾液の性状による分類を説明できる。<br>2. 唾液腺の神経支配、栄養血管を説明できる。<br>3. 舌咽神経の走行経路と分布域を説明できる。<br>4. 鼓索神経の走行経路と分布域を説明できる。<br>5. 味覚障害と関係する他の疾患から神経の走行経路における障害部位を特定できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,A-3-3-1,2,3,7]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P217～223　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 10/23（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **咽頭の構造と嚥下**<br><br>咽頭を構成する筋肉を理解する。<br>咀嚼・嚥下に関わる筋肉の種類と走行を理解する。 | 1. 咽頭各部の構造を説明できる。<br>2. 咽頭筋の種類と機能を説明できる。<br>3. 摂食嚥下の5期の各ステージと関与する筋群、これらの動作を支配する神経の関連を説明できる。<br>**[A-3-2-2,3,4,5,6,9,10,12,15,16,A-3-3-1,2,3,4]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P223～226, 266～270 所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/30（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **内臓学１：呼吸器、消化器**<br><br>呼吸器系、消化器系の解剖学的特徴を理解する。 | 1. 鼻腔、咽頭、喉頭の解剖学的構造を説明できる。<br>2. 気管、気管支、肺の解剖学的構造を説明できる。<br>3.消化管各部位の解剖学的特徴について説明できる。<br>4. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造、位置及び機能について説明できる。<br>5. 腹膜と腹膜後器官について説明できる。<br>**[A-3-1-7-1,2,A-3-1-8-1,2,A-3-2-1,2,3,4,5,6,10,12,13,14,15,16,A-3-3-1,2,3,4,8]**<br>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P97～105,227～234,300～303　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 11/6（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **内臓学２：内分泌、泌尿器、生殖器**<br><br>内分泌器官、泌尿生殖器系の解剖学的特徴を理解する。 | 1. 内分泌器官の種類、位置、構造について説明できる。<br>2. 内分泌器官、細胞から産生されるホルモンと機能について説明できる。<br>3. 腎臓、尿管、膀胱の解剖学的構造について説明できる。<br>4. 男性生殖器の構造を説明できる。<br>5. 女性生殖器の構造を説明できる。<br>**[A-3-1-9-1,2,A-3-1-10-1,A-3-1-11-1]**<br>事前学修：WebClassに提示する課題を実施すると共に、「口腔解剖学第３版」P100～101,234～239の領域と「解剖学実習の手引き」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P229～269　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/13（金） | 2 | 藤原尚樹教授（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授（解剖学講座 機能形態学分野） | **内臓学３：感覚器<br>口腔内臓学、内臓学総復習**<br><br>感覚受容器官の解剖学的特徴を理解する。<br>消化器系、呼吸器系の解剖学的特徴を整理する。<br>頭頸部周辺および口腔内臓の構造と支配する神経の走行や機能を整理する。 | 1. 視覚、聴覚、平衡覚に関する感覚器の構造について説明できる。<br>2. 固有口腔と口腔前庭、口唇、咽頭、鼻咽腔を説明できる。<br>3. 咀嚼・嚥下について解剖学的視点から説明できる。<br>4. 唾液腺の特徴と神経支配を説明できる。<br>5. 呼吸器、消化器の構造と特徴について説明できる。<br>**[A-3-1-6-1,A-3-1-7-1,2,A-3-1-8-1,2,A-3-2-1,2,3,4,5,6,10,12,13,14,15,16,A-3-3-1,2,3,4,7,8]**<br>事前学修：「口腔解剖学第３版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P97～105,196～239,266～230,277～280,300～303　所要時間60分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間60分程度 |
| 演習 | 11/20（金） | 2 | 藤原尚樹教授（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授（解剖学講座 機能形態学分野） | **口腔内臓学、内臓学のまとめ**<br><br>到達度試験 | 1. 固有口腔と口腔前庭、口唇、咽頭、鼻咽腔を説明できる。<br>2. 咀嚼・嚥下について解剖学的視点から説明できる。<br>3. 唾液腺の特徴と神経支配を説明できる。<br>4. 呼吸器、消化器の構造と特徴について説明できる。<br>**[A-3-1-7-1,2,A-3-1-8-1,2,A-3-2-1,2,3,4,5,6,10,12,13,14,15,16,A-3-3-1,2,3,4,7,8]**<br>事前学修：これまでにWebClassに提示した課題と「口腔解剖学第２版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P197～105,196～198,208～234,266～270,277～280,300～303　所要時間90分程度<br>事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し,理解不足の点について振り返りをすること。　所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/27（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **乳歯総論**<br><br>乳歯の形態的特徴を永久歯との比較において理解する。 | 1. 乳歯の概念を説明できる。<br>2. 乳歯の特徴を永久歯と比較して説明できる。<br>3. 乳歯の萌出・歯の交換を説明できる。<br>4. 乳歯と後継永久歯の形態的異同、形態的特徴が類似する歯種について説明できる。<br>**[A-3-4-1,2,4,5,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P85～P93　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 12/4（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **上・下顎乳切歯**<br>**上・下顎乳犬歯**<br><br>乳切歯，乳犬歯の形態的特徴を理解する。 | 1. 乳切歯，乳犬歯に共通する特徴を説明できる。<br>2. 上顎乳切歯，乳犬歯の形態を説明できる。<br>3. 下顎乳中切歯，乳犬歯の形態を説明できる。<br>4. 永久歯との鑑別点を説明できる。<br>5. 左右側の鑑別点を説明できる。<br>6. 乳歯と代生歯胚の発育場所との関係とそれに伴う構造を説明できる。<br>**[A-3-4-1,2,4,5,6]**<br>事前学修：直前の講義で提示する課題を実施すると共に、「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P93～P104　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 12/11（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **上・下顎乳切歯演習**<br>**上・下顎乳犬歯演習**<br><br>乳切歯，乳犬歯の形態的特徴を理解し、スケッチに表現する。 | 1. 上顎乳切歯，乳犬歯の形態を理解し、スケッチに表現できる。<br>2. 下顎乳切歯，乳犬歯の形態を理解し、スケッチに表現できる。<br>**[A-3-4-1,2,4,5,6]**<br>事前学修：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域、直前の講義内容を復習しておくこと。P93～P104<br>所要時間30分程度<br>事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。　所要時間30分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/18<br>（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **上・下顎乳臼歯**<br><br>上・下顎乳臼歯の形態的特徴を理解する。 | 1. 乳臼歯の特徴を説明できる。<br>2. 上顎乳臼歯の形態を説明できる。<br>3. 下顎乳臼歯の特徴を説明できる。<br>4. 第二乳臼歯と第一大臼歯の鑑別点を説明できる。<br>5. 左右乳臼歯の鑑別点が説明できる。<br>6. 後継永久歯との形態的異同について説明できる。<br>**[A-3-4-1,2,4,5,6]**<br>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P104～P113　所要時間30分程度<br>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。　所要時間30分程度 |
| 講義 | 1/8<br>（金） | 2 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **上顎・下顎乳臼歯演習**<br>**永久歯・乳歯のまとめ**<br><br>上顎・下顎乳臼歯の形態的特徴を理解し、スケッチに表現する。<br>歯の解剖学のまとめ<br><br>永久歯と乳歯の形態的特徴を理解し、それらの形態的な異同を整理し、各歯の特徴を理解する。 | 1. 上顎乳臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。<br>2. 下顎乳臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。<br>3. 左右側ならびに第二乳臼歯と第一大臼歯の鑑別点を説明できる。各歯の鑑別ができる。<br>4. 乳歯の解剖学的特徴を理解し、各歯の鑑別ができる。<br>5. 永久歯の解剖学的特徴を理解し、各歯の鑑別ができる。<br>6. 各歯に好発する異常な形態とそれらが出現しやすい歯種について説明できる。<br>7. 乳歯と後継永久歯の形態的な異同について説明できる。<br>8. 左右の歯の鑑別点を説明できる。<br>9. 歯の発達と交換について臨床的視点から説明できる。<br>10. 歯の咬合関係、咬合線､歯列弓について概説できる。<br>**[A-3-4-1,2,4,5,6]**<br>事前学修：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域、直前の講義内容をまとめておくこと。P37～P141　所要時間60分程度<br>事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。　所要時間30分程度 |

実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 5/29<br>(金) | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【骨学実習】**<br><br>全身の骨の形状、連続性を理解し、骨にみられる孔と血管や神経の走行との関係性、各関節を作る骨の配置と動作との関係を三次元的に理解する。 | 1. 体幹・上肢・下肢を構成する骨の特徴と関連性を説明できる。<br>2. 肩関節、肘関節、股関節、膝関節などの構造と動きとの関連性を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-2-2, 8]**<br>事前学習：「口腔解剖学第２版」の以下の領域を読み、内容を復習しておくこと。P5～17, P94～P132, P224～P248　所要時間60分程度<br>事後学習：実習で観察した骨の特徴を「口腔解剖学第２版」やテキストにある2次元の模式図と比較しその特徴をまとめておくこと。 所要時間90分程度 |
| 実習 | 6/5<br>(金) | 3 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【彫刻の仕方】**<br><br>石膏彫刻をすることにより、歯の形態を立体的に理解し、特に臨床では見えない歯根と歯冠の連続性を想像できるようになる。 | 1. 歯の方向を示す用語が説明できる。<br>2. 歯の構造を示す用語が説明できる。<br>3. 平面的なスケッチを石膏棒に三次元的に表現する方法を説明できる。<br>4. 石膏に歯の形態を彫刻する手順を説明できる。<br>**[A-3-4-2, 4]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P200～218　所要時間30分程度<br>事後学習：上顎中切歯の解剖学的特徴を振り返ると共に、歯型彫刻の手順をまとめておくこと。 所要時間30分程度 |
| 実習 | 6/5<br>(金) | 4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【頭蓋骨実習】**<br><br>頭蓋骨の形状、連続性を理解し、骨にみられる管・裂・孔と血管や神経の走行との関係性を三次元的に理解する。 | 1. 頭蓋骨を構成する骨と構造について説明できる。<br>2. 頭蓋底にみられる管・裂・孔と脈管・神経の走行経路の関係を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-2-2, 8]**<br>事前学習：「口腔解剖学第２版」の以下の領域を読み、内容を復習しておくこと。P94～P132, P224～P248 所要時間60分程度<br>事後学習：実習で観察した骨の特徴を「口腔解剖学第２版」やテキストにある2次元の模式図と比較しその特徴をまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 6/12（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【歯形彫刻・上顎中切歯１】**<br><br>上顎中切歯の形態を理解し、三次元的に表現する。 | 1. 石膏操作が行える。<br>2. 上顎中切歯の形態が説明できる。<br>3. 切歯の左右側識別点を説明できる。<br>4. 上顎中切歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。<br>**[A-3-4-2,4]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～51　所要時間60分程度<br>事後学習：歯型彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 6/19（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【歯形彫刻・上顎中切歯２】**<br><br>上顎中切歯の形態を立体的に理解し、三次元的に表現する。 | 1. 石膏操作が行える。<br>2. 上顎中切歯の形態が説明できる。<br>3. 切歯の左右側識別点を説明できる。<br>4. 上顎中切歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。<br>**[A-3-4-2,4]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～51　所要時間60分程度<br>事後学習：歯型彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 6/26（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【歯形彫刻・下顎第一大臼歯１】**<br><br>下顎第一大臼歯の形態を理解し、三次元的に表現する。 | 1. 下顎第一大臼歯の形態が説明できる。<br>2. 下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。<br>3. 下顎第一大臼歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。<br>**[A-3-4-2,4]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83　所要時間60分程度<br>事後学習：歯型彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 7/3<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【歯形彫刻・下顎第一大臼歯２】**<br><br>下顎第一大臼歯の形態を立体的に理解し、三次元的に表現する。 | 1.　下顎第一大臼歯の形態が説明できる。<br>2.　下顎第一大臼歯の左右側を説明できる。<br>3.　下顎第一大臼歯の解剖学的特徴を三次元的に理解し、立体モデルとして表現できる。<br>**[A-3-4-2,4]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P76～83　所要時間60分程度<br>事後学習：歯型彫刻の進行状況を把握し、二次元の歯のスケッチから三次元の歯を彫刻するために必要な形態的特徴を整理しておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 7/10<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【永久歯の形態的特徴の総復習】**<br><br>上顎・下顎の歯列において、中切歯～第二大臼歯までの形態を復習し,理解する。 | 1.　上顎の歯の形態を説明できる。<br>2.　下顎の歯の形態を説明できる。<br>3.　左右の歯列に存在する歯を鑑別できる。<br>4.　各歯の特徴的な形態を整理して説明できる<br>**[A-3-4-1,2,3,4,5,6]**<br>事前学習：「第２版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～83　所要時間60分程度<br>事後学習：歯の形態的特徴を総括し、各歯の鑑別ポイントを整理しておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 9/18<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習1】**<br>**背臥位・腹臥位での全身の体表観察**<br>**胸腹部の皮剥**<br><br>§1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切り<br>§３　胸腹部の皮静脈と皮神経<br>§11 うでの皮切りと腕神経叢<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.　臨床解剖実習の目的について理解し、倫理観を持って実習を行なう心構えを持てる。<br>2.　必要な実習態度、準備について理解し、実行できる。<br>3.　背臥位・腹臥位で体表に観察できる構造について説明できる。<br>4.　手術痕などを見きわめることができる。<br>5.　表皮、真皮、皮下組織の関係性と構造を理解して、適切に剥皮できる<br>6.　胸部から腹部、腋窩～上肢を適切に剥皮できる。<br>7.　胸部から腹部、上肢、下肢の皮下浅層の構造を説明できる。<br>8.　皮静脈・皮神経の走行に注意しながら剖出できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-2-1,　A-3-2-3]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめておくこと。P1～7,9～12,37～41　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 9/25（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習２】**<br>**頸部の剥皮**<br>**広頸筋、頸部浅層（浅頸神経ワナ）の剖出**<br>**胸腹部の皮神経・皮静脈**<br><br>§1 くび・胸・腹部の体表観察と皮切り<br>§2 広頸筋と乳腺<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 頸部の皮膚を広頸筋や神経の走行を理解しながら剖出できる。<br>2. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。<br>3. 浅頸神経ワナを構成する頸神経叢と顔面神経頸枝との関係を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P1～9　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 9/29（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習３】**<br>**胸鎖乳突筋の剖出**<br>**上皮の剥皮と皮神経・皮静脈の剖出**<br>**胸腹部の筋表層までの剖出**<br><br>§4 大胸筋と外腹斜筋<br>§5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋<br>§11 うでの皮切りと腕神経叢<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 頸神経叢を構成する神経とそれらの分布を説明できる。<br>2. 浅頸神経ワナを構成する頸神経叢と顔面神経頸枝との関係、頸神経ワナから筋肉への神経分布を説明できる。<br>3. 胸鎖乳突筋の走行と支配神経を説明できる。<br>4. 広頸筋と表情筋の特殊性を説明できる。<br>5. 上腕の皮膚を皮神経（外側・内側上腕皮神経、外側・内側前腕皮神経）と皮静脈（橈側皮静脈、尺側皮静脈）の走行を理解しながら剖出できる。<br>6. 胸腹部の筋（大胸筋、外腹斜筋、前鋸筋など）表層まで剖出し、各筋の走行の特徴を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P12～19, 37～41<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/2（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習４】**<br>**頸部深層（頸神経叢、腕神経叢）の剖出**<br>**大胸筋の剖出**<br><br>§4 大胸筋と外腹斜筋<br>§5 頸神経叢の枝と胸鎖乳突筋<br>§9 胸部の深層と腋窩<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 頸神経叢、腕神経叢を剖出し､頸椎の椎間孔からでる位置とその走行経路について説明できる。<br>2. 頸動脈鞘内の脈管・神経、外頸静脈を同定できる。<br>3. 胸鎖乳突筋の起始、停止及び頸神経叢の走行との関係を説明できる<br>4. 大胸筋の起始停止と周囲骨との関係性を説明できる<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P12～19, 29～32<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |
| 実習 | 10/6（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習５】**<br>**頸部深層（頸神経叢、腕神経叢、鎖骨下動・静脈）の剖出**<br>**鎖骨離断、静脈角部膨出、斜角筋隙の剖出**<br><br>§8 くびのやや深層<br>§9 胸部の深層と腋窩<br>§10 鎖骨下動静脈とその枝<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 頸神経叢、腕神経叢を剖出し､頸椎の椎間孔からでる位置とその走行経路について説明できる。<br>2. 鎖骨下動脈・静脈の分岐・吻合について説明できる。<br>3. 静脈角周辺のリンパ節とリンパ管の配置、胸管と頸リンパ本幹との関連を説明できる。<br>4. 胸鎖関節の構成と関節円板の関係性を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P25～36 所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/9（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習６】**<br>**頸部深層、鎖骨上窩剖出**<br>**腕神経叢、斜角筋隙剖出**<br>**腹直筋、側腹筋の解剖と切断**<br><br>§8 くびのやや深層<br>§9 胸部の深層と腋窩<br>§10 鎖骨下動静脈とその枝<br>§11 うでの皮切りと腕神経叢<br>§30鼠径部と側腹筋群<br>§31腹直筋鞘<br>§38くびの根もとの深層<br>§75甲状腺と気管<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 頸神経叢、腕神経叢の全容を剖出し、その分岐パターンを説明できる。<br>2. 鎖骨下動脈の枝を剖出、同定し、その走行を説明できる。<br>3. 上腕屈筋の走行と神経の走行との関係を説明できる。<br>4. 椎骨動脈が横突孔に入る位置を観察し、走行について説明できる。<br>5. 腋窩の構造、脈管・腕神経叢からの枝とその走行について説明できる。<br>6. 腹直筋と腹直筋鞘、側腹筋と側腹筋筋膜と腹膜、鼠径管との関係について概説できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-9-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 13, 15]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P25～41，93～102，122～125，287～289　所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |
| 実習 | 10/13（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習７】**<br>**開胸**<br><br>§29胸壁<br>§35胸腔を開く<br>§36胸膜と心膜<br>§37肺<br>§39縦隔<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 胸郭の構成と内胸動脈の走行、胸壁の筋とその走行を説明できる。<br>2. 自然位での胸部内臓・縦隔の範囲について概説できる。<br>3. 心臓の位置、心嚢と心臓に出入りする大血管の走行と関係性を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, A-3-1-8-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P91～93，110～121，125～127<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/16（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習８】**<br>**顔面剥皮、表情筋剖出**<br>**開腹、鼠径管剖出**<br>**腹部内臓の自然位での観察**<br><br>§30鼠径部と側腹筋群<br>§31腹直筋鞘<br>§32横筋筋膜と腹膜<br>§33臍<br>§34腹部内臓の自然位での観察<br>§43腹部内臓の位置<br>§44腹膜と腹膜腔<br>§73顔の浅層<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.　表情筋の配置と顔面神経の走行を概説できる。<br>2.　腹直筋、腹直筋鞘、側腹筋筋膜と腹膜との関係について概説できる。<br>3.　外側臍ひだ、内側臍ひだ、正中臍ひだを発生学的に説明できる。<br>4.　腹部内臓を自然位で同定できる。<br>5.鼠径管と鼠径管内を走行する構造を同定し、その機能的意味を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-2-3]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P93～109, 143～151, 278～283<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |
| 実習 | 10/20（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習９】**<br>**顔面動脈、顔面神経剖出**<br>**耳下腺、耳下腺管剖出**<br>**縦隔の観察**<br>**心臓・肺の取出**<br>**腹部内臓の取出**<br><br>§36胸膜と心膜<br>§37肺<br>§40心臓の外景<br>§42縦隔の深部<br>§44腹膜と腹膜腔<br>§45腹部内臓に分布する血管と神経<br>§46空腸と回腸と結腸<br>§47胃<br>§48肝臓<br>§49十二指腸･膵臓･脾臓<br>§73顔の浅層<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.　頸の深層～胸腔の連続性を説明できる。<br>2.　顔面動脈の走行経路を説明できる。<br>3.　縦隔にみられる臓器を列挙できる。<br>4.　腹部内臓と位置、周囲との機能的関係性を説明できる。<br>5.　横隔膜と周囲の臓器との関係を説明できる。<br>6.　後胸壁・後腹壁と腹膜後器官について概説できる。<br>7.腸間膜の概念を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, 3, A-3-1-7-1, 2, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, A-3-3-1, 2, 7]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P112～122, 127～131, 137～142, 145～173, 278～183<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/23（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習10】**<br><br>**背部～殿部、下肢の剥皮、脂肪除去**<br>**後頭部の剥皮**<br><br>§6背なかの皮切り<br>§7背なかの浅筋<br>§27後頭下の筋<br>§53下肢の皮静脈と皮神経<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 後頭～殿部の筋の走行、脈管・神経の走行経路を説明できる。<br>2. 肺の左右差、肺門周辺の構造について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P20～25, 84～86, 191～196<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |
| 実習 | 10/27（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習11】**<br>**椎骨動脈の走行経路の観察**<br>**後頭部の神経と血管の剖出**<br>**脊柱起立筋の観察**<br><br>§6背中の皮切り<br>§10鎖骨下動静脈とその枝<br>§26胸腰筋膜と固有背筋<br>§27後頭下の筋<br>§77脳出し<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 後頭の脈管・神経の走行を説明できる。<br>2. 固有背筋・後頭下の筋の立体的配置と椎骨との関係について概説できる。<br>3. 臀部を構成する筋肉、これらの筋と坐骨神経との位置的関係を概説できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P20～22, 33～36, 82～86, 297<br>所要時間90分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/30（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習12】**<br>**腹臥位での後頭～背部筋層の観察**<br>**殿部深層の剖出、坐骨神経剖出**<br>**後頭下三角の剖出**<br>**椎骨動脈の走行経路の観察**<br>**脊柱起立筋の観察と除去**<br><br>§26胸腰筋膜と固有背筋<br>§27後頭下の筋<br>§56殿部の深層<br>§57大腿後面の深層<br>§58膝窩と下腿後面<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 脊柱起立筋の走行と椎骨の関係性を説明できる。<br>2. 後頭下三角の構成と椎骨動脈の走行との関係を説明できる。<br>3. 広背筋、肩甲骨背面の筋の種類と走行を説明できる。<br>4. 殿部深層の筋の配置と坐骨神経の走行、それらの関係性を説明できる。<br>5. 後頭部から殿部までの筋の配置について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P82～86, 204～213<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 11/6（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習13】**<br>**表情筋剖出２**<br>**頭蓋腔の観察（脳神経、髄膜、脳の栄養血管）**<br><br>§73顔の浅層<br>§78頭蓋の内面<br>§93脳クモ膜と脳軟膜<br>§94脳の血管<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 表情筋の配置と各筋の関係性について概説できる。<br>2. 脳と脳硬膜、クモ膜、脳軟膜の関係と存在意義を説明できる。<br>3. 頭蓋底でみられる脳神経、血管について同定し、頭蓋に開く孔などの構造との関係性を説明できる。<br>4. 脳下垂体の位置と形態について概説できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1, 4, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。<br>P278～283, 297～301, 343～347<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/10（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習14】**<br>**脊髄取出**<br>**反回神経と動脈管の位置関係**<br>**奇静脈の走行の観察**<br>**交感神経幹、胸管の剖出**<br>**横隔膜**<br>**腎臓・副腎の取出**<br>**腰神経叢の剖出**<br>**腰切断**<br><br>§28脊髄<br>§38くびの根元の深層<br>§42縦隔の深部<br>§50腎臓と副腎<br>§51後胸壁と後腹壁<br>§52横隔膜と腰神経叢<br>§72くびの深層<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 脊髄の構造について説明できる。<br>2. 胸腹腔後面を走行するもの、横隔膜を貫通するものについて説明できる。<br>3. 奇静脈系の走行とその意義、胸管の走行経路とVirchowリンパ節の関係性について説明できる。<br>5.反回神経の走行と左右差が存在する意味について説明できる。<br>5. 腹腔内での腎臓と副腎の位置と周囲臓器との関係を説明できる。<br>6. 腰神経叢の走行と腰部筋肉との関係について説明できる。<br>7. 腰切断の際に切断する必要がある構造、椎間円板を介する脊柱の構造について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1,4,A-3-1-10-1,A-3-2-1,2,3,4,5,6,7,8,12,13,15,16]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91,122～125,137～142,173～190,272～278　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |
| 実習 | 11/13（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座 機能形態学分野） | **【臨床解剖実習15】**<br>**上肢離断**<br>**下肢の脂肪除去**<br>**下肢の皮静脈、皮神経、筋の剖出**<br>**大伏在静脈、大腿三角剖出**<br><br>§12上腕屈側の筋と神経<br>§13肩甲骨の前面の筋<br>§14上腕伸側と肩甲骨背面の筋<br>§15上肢の切り離し<br>§53下肢の皮静脈と皮神経<br>§54大腿筋膜と大殿筋<br>§55大腿前面の深層<br>§56殿部の深層<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 肩甲骨に付着する筋とその走行について説明できる。<br>2. 体幹から上肢を離断する際に切断する必要がある構造を説明できる。<br>3. 下枝を構成する筋とその走行について説明できる。<br>4.大腿三角の構成と骨盤内の脈管との関係性について説明できる。<br>5. 大腿後面の筋と膝窩の関係、膝窩を通る脈管・神経について説明できる。<br>6. 坐骨神経の走行、大腿動脈の走行について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P41～51,191～206<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/17（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習16】**<br>**耳下腺神経叢剖出**<br>**頭部離断**<br>**舌咽神経、迷走神経の剖出**<br>**咽頭後壁の剖出と観察**<br>**環椎、軸椎離断**<br>**舌骨上筋群の剖出と観察**<br>**咽頭後壁を開く**<br><br>§27後頭下の筋<br>§73顔の浅層<br>§74咽頭<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 顔面神経の走行経路を理解し外頭蓋の開口部まで剖出することができる。<br>2. 舌骨上筋の同定と走行の変位について説明することができる。<br>3. 環椎、軸椎と後頭骨の関係性を理解し適切に頭部離断ができる。<br>4. 頸静脈孔と通過する神経、その分布について説明することができる。<br>5. 咽頭後壁を構成する筋と周辺の神経との関係性を説明できる。<br>6. 咽頭後壁を正中で開いた際にみられる咽頭や口腔の構造を説明できる。<br><br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-1-8-1, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 3, 4]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P84～86, 278～287<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間60分程度 |
| 実習 | 11/20（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習17】**<br>**頭部折半**<br>**鼻中隔、鼻腔、口腔、舌、舌骨上筋群、咽頭後壁、甲状腺の観察**<br>**舌、舌下部の剖出**<br>**鼻腔、鼻中隔の剖出**<br><br>§73顔の浅層<br>§74咽頭<br>§75甲状腺と気管<br>§76喉頭<br>§79頭の半切と口腔<br>§80鼻腔と咽頭鼻部<br>§83舌と口蓋<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1. 頭部の正中矢状断する際に、切断する軟組織、骨についての概要を説明できる。<br>2. 頭部を半切してみることが可能になる鼻腔、口蓋、口腔、舌の構造について説明できる。<br>3. 鼻腔、鼻中隔の構造、鼻腔に開口する孔、舌と舌下部、舌を構成する筋について説明できる。<br>4. 咽頭、喉頭の構造について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-7-1, A-3-1-8-1, A-3-1-9-1, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 12, 13, 14, 15, 16, A-3-3-1, 2, 3, 4, 5, 8]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P278～296, 301～309, 315～316<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。 所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/24（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習18】**<br>**心嚢開放、心臓摘出**<br>**心臓壁の血管の剖出**<br>**心臓壁の切開**<br>**大腿骨切断**<br>**足の皮剥**<br><br>§40心臓の外景<br>§41心臓の内景<br>§53下肢の皮静脈と皮神経<br>§54大腿筋膜と大殿筋<br>§55大腿前面の深層<br>§57大腿後面の深層<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1.　心嚢と心臓の関係について説明できる。<br>2.　冠状動脈、冠状静脈の走行、それらと関係する脈管について説明できる。<br>3.　心臓壁を切開し、血流との関係や心房と心室の違い、胎児循環に関連する構造について説明できる。<br>4.　大腿を構成する筋、血管、神経を同定し大腿を切断することができる。<br>3.　足背、足底の剥皮する際に注意すべき皮下の神経・動脈の走行を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-1, 2, A-3-1-5-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P127～137, 191～204, 207～210<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |
| 実習 | 11/27（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習19】**<br>**肺、気管支の剖出、観察**<br>**脊柱縦断と断面の観察**<br>**胸郭の構造総まとめ**<br><br>§28脊髄<br>§37肺<br>§42縦隔の深部<br><br>の内容を三次元的に理解し、適切に剖出を行う。 | 1.肺と気管支の関係性について説明できる。<br>2.　肺に出入りする血管について説明できる。<br>3.　気管支の分岐ににについて説明できる。<br>4.　椎骨と椎間円板の構造、脊柱の前彎と後彎の意義について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-8-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91, 117～122, 137～142<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/1<br>（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習20】**<br>**脳の外景、脳血管の観察**<br>**横隔膜の観察**<br>**上枝・手の神経と筋肉の膨出**<br><br>§11　うでの皮切りと腕神経叢<br>§12上腕屈側の筋と神経<br>§14上腕伸側と肩甲骨背面の筋<br>§16前腕屈側の浅い層<br>§17前腕の伸側と手背<br>§18手のひらの皮切りと手掌腱膜<br>§19手のひらの浅い層<br>§21上肢の血管と神経のまとめ<br>§92脳の概観<br>§93脳クモ膜と脳軟膜<br>§94脳の血管<br>§95脳神経の根<br>§102大脳皮質<br>§103嗅脳とその付近<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.　上腕屈筋の走行と神経の走行との関係を説明できる。<br>2.　上肢の血管と神経の走行について説明できる。<br>3.脳を保護する膜の配置（大脳鎌、小脳テントなど）を概説できる。<br>4.脳の概観から各脳を分類できる。<br>5.　中心溝、外側溝、大脳回・大脳溝の関係を説明できる。<br>6.脳の栄養血管を同定し脳に至るまでの走行経路について概説できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1,4]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P37～44,46～50,52～69,71～73,　342～349,369～375　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |
| 実習 | 12/4<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習21】**<br>**消化管の内腔の観察**<br>**会陰の皮剥、剖出**<br>**骨盤内臓の剖出**<br>**骨盤正中断**<br><br>§46空腸と回腸と結腸<br>§47胃<br>§64膀胱とその周辺<br>§65外陰部と精巣<br>§66会陰<br>§67骨盤の切半<br>§68骨盤内臓の位置<br>§69骨盤の血管と神経<br>§70骨盤内臓<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.　小腸と大腸の構造的異同、幽門、十二指腸、空腸、回腸の構造について概説できる。<br>2.　胃の外景、内景、胃の栄養血管について概説できる。<br>5.　骨盤内臓と動静脈の位置的関係を確認し、骨盤と仙骨を適切に切半できる。<br>6.　男性・女性の骨盤内臓の断面からその構造と配置を概説できる。<br>3.　上肢の筋の走行を確認し、関節の動きに対する作用を説明できる。<br>4.肩関節の構造について説明できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1,A-3-1-7-1,　A-3-1-10-1,A-3-1-11-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P157～164,229～269<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/8<br>（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習22】**<br>**口腔底の観察**<br>**脳の正中矢状断の観察**<br>**肝臓・膵臓・脾臓・十二指腸の観察**<br><br>§48肝臓<br>§49十二指腸･膵臓･脾臓<br>§79あたまの切半と口腔<br>§101大脳切半と第３脳室<br>§104大脳の連合線維とレンズ核<br>§105側脳室と尾状核<br>§106間脳<br>§107大脳と間脳の断面<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1.脳の正中矢状断面をみて各脳と脳室の位置関係について説明できる。<br>2. 肝臓の構造、肝門、胆嚢、胆管の立体的配置について概説できる。<br>3. 十二指腸、膵臓、脾臓の立体的配置および解剖学的特徴について概説できる。<br>4. 口腔底の構造、舌神経、舌下神経、大唾液腺の導管の走行、動脈の走行に付いて説明できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1,4,A-3-1-7-1,2,A-3-2-1,2,3,4,5,6,7,10]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P164～173,301～305,364～369,376～385　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間60分程度 |
| 実習 | 12/11<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習23】**<br>**肩関節の観察**<br>**股関節の観察**<br><br>§22肩の関節とその周辺<br>§71骨盤壁の筋と股関節<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 肩関節の関節包、ローテータカフの構造的役割について説明できる。<br>2. 肩関節を構成する骨の構造と筋の関係を説明できる。<br>4.寛骨と大腿骨に付着する筋の走行と動作について説明できる。<br>5. 股関節の構造を概説できる。<br>**[A-3-1-2-1,A-3-1-3-3,A-3-1-4-2,A-3-1-5-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P73～76,270～271<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間60分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/15（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>志賀華絵非常勤講師 | **【臨床解剖実習２４】**<br>**腎臓、副腎の観察**<br>**咀嚼筋の剖出**<br>**翼突下顎隙の剖出**<br>**顎動脈の走行経路の剖出**<br>**翼突筋静脈叢**<br>**肘関節の観察**<br>**膝関節の観察**<br><br>§23ひじの関節<br>§50腎臓と副腎<br>§62膝の関節<br>§81咀嚼筋と下顎管<br>§82顎関節と側頭下窩<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 肘関節の構成と周囲の関節の動きについて説明できる。<br>2. 腎臓・副腎の構造について断面で説明できる。<br>3. 咀嚼筋の起始・停止、機能を説明できる。<br>4. 顎動脈の走行と分岐する枝・翼突筋静脈叢について説明できる。<br>5. 翼突筋静脈叢～内頸静脈の連続性について説明できる。<br>6. 翼突下顎隙に存在する構造について説明できる。<br>7. 膝関節と周囲の筋の走行について説明できる。<br>8. 膝関節を構成する靭帯の位置と走行、その役割を説明できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-1-9-1, A-3-1-10-1, 4, A-3-2-1, 2, 3, 4, 5, 6, 8, A-3-3-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。<br>P76～78, 173～179, 222～225, 309～315<br>所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |
| 実習 | 12/18（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習25】**<br><br>**眼球の取出と眼窩の観察**<br>**眼球の観察**<br>**手根関節の剖出と観察**<br>**足根関節の剖出と観察**<br>**上肢・下肢の総まとめ**<br><br>§20手の深い層<br>§21上肢の血管と神経のまとめ<br>§24手くびの関節<br>§25手と指の関節<br>§59下腿の前面と足背<br>§60足底<br>§61下腿の最深層<br>§63足の関節<br>§85眼球を前から見る<br>§86眼窩の内容<br>§87眼球など<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 眼窩を構成する骨と眼窩内部の構造について説明できる。<br>2. 眼筋と眼球に関連する脈管、神経について説明できる。<br>3. 眼球の内部構造について説明できる。<br>4. 手根関節の構造と関連する周辺の骨と筋の構造を説明できる。<br>5. 足根関節の構造と関連する周辺の骨と筋の構造を説明できる。<br>6. 上肢の骨、筋、脈管、神経についてを概説できる。<br>7. 下肢の骨、筋、脈管、神経についてを概説できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-6-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P69～72, 78～81, 213～222, 255～227, 319～329　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/22<br>（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習26】**<br>**顎関節の剖出と観察**<br>**舌下神経管、頸静脈孔の剖出**<br>**外耳・中耳・内耳・顔面神経管の剖出**<br>**脳幹の取り外し**<br>**側脳室の観察**<br><br>§82顎関節と側頭下窩<br>§88舌下神経管と頸静脈孔<br>§89外耳と中耳<br>§90内耳<br>§96脳幹の外面<br>§97小脳<br>§98第４脳室<br>§99延髄と橋<br>§100脳幹と小脳の横断面<br>§105側脳室と尾状核<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 舌下神経管、頸静脈孔の位置を頭蓋骨の構成から説明できる。<br>2. 舌咽神経、迷走神経、副神経の経路について説明できる。<br>3. 外耳道を構成する骨・軟骨の範囲を識別できる。<br>4. 鼓膜、中耳での耳小骨の位置関係、耳管について説明できる。<br>5. 乳突蜂巣について説明できる。<br>6. 大脳と側脳室の構造的関係、第三脳室、第四脳室の位置を説明できる。<br>7. 足根関節と動きの関係について概説できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, 4, A-3-1-6-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 8, A-3-3-1, 3, 4]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P313～315, 330～338, 349～364, 378～381　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |
| 実習 | 1/5<br>（火） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習２７】**<br>**上顎神経、上歯神経叢の剖出と観察**<br>**下顎神経と耳神経節の観察**<br>**下顎骨の取り外し**<br>**翼口蓋窩と翼口蓋神経節の剖出**<br>**脊髄の観察**<br>**脊柱縦断と断面観察**<br><br>§28脊髄<br>§78頭蓋の内面<br>§80鼻腔と咽頭鼻部<br>§81咀嚼筋と下顎管<br>§84副鼻腔と翼口蓋神経節<br><br>の内容を三次元的に理解し､適切に剖出を行う。 | 1. 上顎神経の枝、前上歯槽枝、中上歯槽枝、後上歯槽枝の走行について説明できる。<br>2. 眼窩下神経、眼窩下動脈の走行と眼窩下溝、眼窩下管、眼窩下孔の立体的位置関係について説明できる。<br>3. 上歯神経叢と上顎洞の位置関係について説明できる。<br>4. 翼口蓋窩の位置と構成する骨、みられる動脈、神経について説明できる。<br>5. 頸髄、胸髄、腰髄、仙髄、馬尾、頸膨大、腰膨大を識別し説明できる。<br>6. 椎骨と椎間円板の関係、脊柱の前彎と後彎の部位による違い、骨質・椎間円板の加齢に伴う変化について考察できる。<br>**[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-5-1, A-3-2-1, 2, 3, 5, 6, 10, A-3-3-1]**<br>事前学習：「解剖実習の手引き」の以下の領域を読み、剖出の手順、構造の概要をまとめると共に、これまでの剖出との関連性・繋がりを整理すること。P86～91, 297～313, 317～318　所要時間60分程度<br>事後学習：実習の進行状況を把握すると共に、実習中に観察した構造の周囲組織との関係性や位置関係についてまとめておくこと。　所要時間90分程度 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 1/8<br>（金） | 3<br>4 | 藤原尚樹教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野）<br><br>吉岡望准教授<br>（解剖学講座　機能形態学分野） | **【臨床解剖実習２８】納棺**<br><br>生命の尊厳とは何かについて考える。<br>臨床解剖実習全過程を振り返り、人体の構造と成り立ちについての理解を確認する。 | 1. 解剖実習全体を振り返り、人体の構造と成り立ちについて、また生命の尊厳とは何かについて自分の考えをまとめ主張できる。<br>**[C-1-1-1,2,C-1-2-1]**<br>事前学習：全解剖実習を振り返り、ご遺体から学んだことを統括し、今一度生命の尊厳について自分の考えを整理すること。　所要時間60分程度<br>事後学習：臨床解剖実習で学んだこと、ご遺体と接することによって得られた生命観について考えをまとめること。　所要時間90分程度 |

**教科書・参考書・推薦図書**

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 口腔解剖学　第３版 | 前田健康、天野修、阿部伸一、馬場麻人　編 | 医歯薬出版 | 2025年 |
| 教 | 口腔顎顔面解剖ノート　第２版 | 井出吉信　監修　阿部伸一ほか　編 | 学建書院 | 2022年 |
| 教 | ネッター　解剖学アトラス原著第７版 | Frank H. Netter著　相磯貞和、今西宣晶　訳 | 南江堂 | 2022年 |
| 教 | 解剖実習の手びき　第11版 | 寺田春水、藤田恒夫 | 南山堂 | 2004年 |
| 教 | 図説　歯の解剖学　第２版 | 高橋和人ほか著 | 医歯薬出版 | 1998年 |
| 参 | プロメテウス　解剖学アトラス　頭頸部/神経解剖　第４版 | M. Schünkeら編　坂井建雄、河田光博監訳 | 医学書院 | 2026年 |
| 参 | プロメテウス　解剖学アトラス　口腔・頭頸部　第２版 | Eric W. Baker編　坂井建雄、天野修監訳 | 医学書院 | 2018年 |
| 参 | 歯の解剖学　第22版 | 藤田恒太郎　著　桐野忠大、山下靖雄　改訂 | 金原出版 | 1995年 |
| 参 | イラストロ腔顔面解剖学 | 松村譲兒、島田和幸　編著 | 中外医学社 | 2024年 |
| 参 | オーラルバイオロジー -病態から学ぶ歯科基礎医学- | Stephen Creanor監修　片倉朗、里村一人、木本茂成監訳 | 南江堂 | 2018年 |
| 参 | 基礎から学ぶ歯の解剖 | 前田健康　編　酒井英一　著 | 医歯薬出版 | 2015年 |
| 参 | ネッター　頭頸部・口腔顎顔面の臨床解剖学アトラス原著第３版 | Neil S. Norton著　前田健康監訳 | 医歯薬出版 | 2018年 |
| 参 | Moore's 臨床のための解剖学　第３版 | Arthur F. Dalley, Anne M. R. Agur著　佐藤達夫、坂井建雄　監訳 | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 2024年 |
| 参 | ネッター解剖学カラーリングテキスト　原著第３版 | John T.Hansen著　相磯貞和監訳 | 南江堂 | 2025年 |
| 参 | 日本人体解剖学 改訂20版 全２巻 | 金子丑之助 原著　金子勝治　監修、穐田真澄　編著 | 南山堂 | 2020年 |
| 推 | 標準解剖学　第１版 | 坂井建雄著 | 医学書院 | 2017年 |
| 推 | 口腔の機能と解剖 | 田畑純、角田佳折著 | 南山堂 | 2021年 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 推 | 図解　解剖学事典　第３版 | Begründet von Heinz Feneis原著　山田英智監訳 | 医学書院 | 2013年 |
| 推 | イラストで分かる歯科医学の基礎　第５版 | 村上秀明、天野修、大川由一、西村康、吉田篤　監修 | 末永書店 | 2025年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

前期評価：
骨学・筋学到達度試験（30%）、脈管学到達度試験（30%）、前期試験（35%）、演習レポート・提出物の内容（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

後期評価：
内蔵学到達度試験（30%）、後期試験（35%）、後期実習試験（30%）、実習レポート・歯の形態スケッチ・提出物の内容（5%）で評価し、総合評価65%以上を合格とする。

ただし歯の形態スケッチは学修した歯すべてについて指定された書式で完成させ提出すること、解剖実習の参加に際し倫理的観点から「献体登録者による講話会（10月1日）」を受講すること、解剖実習において欠席が多い場合やご遺体に対する倫理的観点から改善が必要であると判断される場合にこれらを補填するための追加課題を完成させ提出すること、を評価の必要条件とする。

総合評価：前期（50%）、後期（50%）で65%以上を合格とする。

| 到達目標 | DP | 演習課題 | 前期到達度試験 | 後期到達度試験 | 定期試験 | 実習（含試験） | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1、2 | 1 | | | | | 2 | | 2 |
| 3、4、5 | 8、9 | | 30 | 15 | 35 | 10 | | 90 |
| 6、7 | 3、4 | 5 | | | | 3 | | 8 |
| | | | | | | | | 0 |
| **合計** | | **5** | **30** | **15** | **35** | **15** | **0** | **100** |

**特記事項・その他**（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

【講義、実習共通】
出席は開始直後にとる。講義・実習の始めに課題や講義内容に関する確認事項を提示する関係から特別な理由がない限りそれ以降に申し出た場合は認めない。

【講義】
各講義において学習した内容は次回以降の講義の基盤となる。すなわち各講義、各単元はすべて積み重ね式の講義体系を取っており、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには毎回WebClassで提示する課題、教材において人体の諸器官の構造や機能との関連についての記載を読み、理解できない内容についてリストアップしておくなど事前学修が重要である。初回講義時に配布するテキスト（冊子）、シラバスの各単元に指示する事前学修すべき教科書のページを元に予習することができる。講義はテキストに書込む形式で実施するので必ず持参すること。必要に応じて追加の資料を配布またはWebClassに掲示する。講義後このテキスト・資料を用いて復習することで、予習、講義での学習、復習を同じ資料上で実施することが可能であり、理解の整理が容易になる。また、各単元の終了時に、到達度試験を設定しており、単元の振り返りをするための動機づけになっている。試験の正答は試験実施後すぐに掲示するので各自確認し、新たに生じた疑問はその都度柔軟に対応するので申し出ること。

【骨学実習】
第１学年で学んだ全身の骨学と第２学年で学んだ頭頸部の骨学を統合してヒトの骨の形態的特徴を観察し三次元的に理解する。それぞれの骨の形態的特徴やその名称を事前に復習しておく事で、骨の左右や上下の形態的異同を認識し、人体での適切な位置関係や周囲との関係性、関節の構成を把握できる。実習中は常にテキスト、教科書、図譜の記載と見比べながら各骨の形態について観察し、生じた疑問点については教員学生間あるいは学生同士のフリーディスカッションを活用して理解を深めることができる。

【歯型彫刻実習】
第１学年で学んだ永久歯の形態について、石膏柱を用いて３倍に拡大して立体的に表現する事で、よりいっそう各歯種に特徴的な形態を理解できる。第１学年に自身で描いた永久歯のスケッチを元に立体模型を削り出していくので事前学習として、歯の形態的特徴を整理しておく必要がある。また適宜学生間でのディスカッションをしながら彫刻を進める事で、自身の理解やスケッチの不備に気づき具体的な歯の形態が成果物に反映できるようになる。また歯の形態の基本的な構成要素を再確認し、立体的な形態に対する理解を深めることができる。このことは臨床の場での歯種の鑑別と各歯の形態的特徴の把握や治療部位の認識・整理に対して直接的に連動する。彫刻の成果物は作成途中から適宜修正ポイントをフィードバックすると共に、最終的に評価後返却する。

【臨床解剖実習】
解剖実習は献体者と遺族の献身的な協力の上に成り立つ貴重な機会である。遺族から大切な遺体を託されているという責任を自覚し、その信頼に応えることが強く求められる。実習は標準的な剖出想定時間を元に班のメンバーが分担、積極的に協力して実習を進めることを前提に体系的に組んでいるが、表層から深層に向い遺体の解剖を進めていくので、より表層にある構造の剖出と解剖学的理解が終了していないと次の解剖に進めない。進行状況により補習実習の実施を含め、実習内容を調整する可能性があるので、実習室での指示を注意して聞き、必ず記録すること。遺体を用いた実習であることの性格上後戻りはできないため、欠席することがないよう体調管理には十分に留意のうえ、かつ適切な倫理観に基づいて実習に望むこと。欠席回数が多い学生や実習態度に改善が必要と判断される場合、関係する課題を策定し、その課題の実施と提出により学修内容の補填を実施することがある。適宜剖出部位の確認や理解の整理のためスケッチを課すので、学生同士のディスカッションを積極的に行うことで理解を深めることができる。スケッチは評価後に返却する。実習ではチーム医療で必要な相互のコミュニケーションスキルを養うことができる。

**（次ページに続く）**

【アクティブラーニング】
講義においてはすでに学修した内容について振り返る機会を毎回提示し、学生間でディスカッションを行いながら答えを導き出す場を設ける。常に人体の構造を機能との関連性を考えながら講義に臨むと共に、振り返りの習慣を身に付けることで、新たな知識の統合的理解を深める。
骨学実習、歯型彫刻実習、臨床解剖実習は座学で単元ごとに学んだ内容を総合的に理解した上で実施することが必要で、実習を行うにあたり提示する予定表を元に事前学修（振り返り整理）を行うとともに、学生同士でその場で議論しながら実習すること自体がアクティブラーニングであり、臨床での治療計画や実際の治療操作に直結する思考を養う。また実習内に提示する課題を班の中で協力して実施することでよりいっそう解剖学的知識の定着、自分自身の理解不足領域の認識、学習内容の理解度を深める。これら課題は実習時間内で教員も参加するフリートーキングやディスカッションを通じてフィードバックすると共に、成果物はその内容を確認した後、返却する。

【WebClass】
講義内容に関する予習課題を提示するので、課題を実施し次の講義前に提出すること。これらの内容に対するフィードバックは講義内で行なう。また、その他の演習課題や学修にかかわる情報などもアップロードするので講義の前後で毎回確認すること。各単元終了時には振り返り課題やポイントを提示するので、それらを積極的に活用し学修内容の定着を図ること。課題等により生じた疑問は次回の講義中または講義の前後など適宜設ける教員とのディスカッションの場、オフィスアワーを積極的に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| MacBook Pro 14inch | Apple | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義・実習の資料作成と提示用 |
| iMac 27 inch | Apple | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義・実習の資料作成と提示用 |
| iPad Pro 13 inch | Apple | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義・実習の資料作成と提示用 |
| m-Book K700SN-M2S5 | マウスPC | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義・実習の資料作成と提示用 |
| LIFEBOOK | 富士通 | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義・実習の資料作成と提示用 |
| デジタル一眼レフカメラ一式 | D700 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 解剖実習遺体の破格症例の画像記録 |
| カラーコピー機　image RUNNER ADVANCE | C3530FⅡ | 1 | 視聴覚用機器 | 講義の配布資料作成 |
| MSシュレッダー | MSR-25CM | 1 | 視聴覚用機器 | 講義の配布資料作成 |
| ノートパソコン HP 250G7 Notebook | 14T85PA#ABJ | 1 | 視聴覚用機器 | 講義の配布資料作成 |
| スキャナー附属インクジェットプリンター EP-885AB | EPSOM | 1 | 視聴覚用機器 | 講義の配布資料作成 |

# 組織学・発生学

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 解剖学講座（発生生物・再生医学分野）原田 英光 教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 解剖学講座（発生生物・再生医学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通期 | | 前期 | 28.0時間 | 28.0時間 |
| | | | 後期 | 28.0時間 | 28.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

組織学は生体におけるミクロの基本構造の理解や口腔を含めた人体諸器官を構成する細胞と細胞周囲の物質について、発生学は人体の初期発生と器官形成の初期過程および頭頸部の発生について、体系的に組まれた講義を聴取して講義・実習概要集（テキスト）等に記載ならびに整理する作業を行う。さらにこれらの作業を通じて行った認知活動を客観的に自己評価する作業を行う。実習では、講義において学習した人体各器官の組織を実際に顕微鏡やバーチャルスライドで観察するなかで、平面的情報しか得られない組織標本から、講義で学んだ知識や断面の形状などを基に立体構造を推測しながらスケッチを描くこと通して、細胞や組織の正常な構造的特徴と機能を認知する作業を行う。また発生学実習では粘土を使い、胚子や顎顔面の構造が時間と共に刻々と変化する様子を３次元的に理解する作業を行う。

## 教育成果（アウトカム）

講義：人体を構成する諸器官の微細構造と生理的機能、病理的変化との関連性、さらには器官の成り立ちや奇形・先天性疾患との関連性を理解した歯科医師になるための基盤が形成される。
（ディプロマポリシー：４、８、９）
実習：人体の緻密で精巧な構造の理解と、人体の構造を科学的に見る観察力や洞察力が形成される。実習を行う際に、モニターに表示された組織像や顕微鏡の組織像について、周囲の学生とのディスカッションを行うことによって、コミュニケーションスキルの向上や協調性の重要性を認識できる。ポートフォリオの作製や到達度試験を通じて、自己の認知活動を再評価する習慣が身につく。

（関連するディプロマポリシー：4、8、9）

## 到達目標（SBOs）

1. 人体を構成する基本的な構造，具体的には細胞，細胞外基質，組織，器官，器官系について説明できる。
2. 人体の細胞，細胞外基質，組織，器官について形態的な特徴と機能を説明できる。
3. 人体の発生過程と基本的な構造を説明できる。
4. 歯と口腔の構造とそれを構成する細胞，細胞外基質，組織，器官について形態的特徴と機能を説明できる。
5. 歯と口腔の発生過程を説明できる。
6. 歯と口腔の発生学的な異常が疾患とどのように関連するかを説明できる。
7. 人体,特に歯，口腔の微細な構造，すなわち顕微鏡等での組織像を読み解くことができる。

**事前事後学修の具体的内容及び時間**

講義：一年を通じた講義・実習内容をまとめた概要集（テキスト）を利用して次回の授業内容を確認すると同時に、ポートフォリオを用いて単元の重要ポイントを把握し、バーチャルスライドやWebClassから閲覧できる実習標本、電子顕微鏡写真集などの視覚素材も有効に用いて事前学修（予習等）を行う。事前学修結果の確認のため講義・演習中に適宜口頭で質問するので回答の準備をしておくこと。得られた回答に関しては教員がその場でコメントしてフィードバックする。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。本内容は全授業に対して該当するものとする。
実習：講義・実習概要集（テキスト）とポートフォリオを用いて次回の実習内容を確認し、教科書やテキストの顕微鏡写真・イラストやバーチャルスライド、WebClassで閲覧できる実際の実習組織標本を有効に用いて事前学修（予習等）を行うこと。バーチャルスライド（http://ndp.iwate-med.ac.jp）はPC・タブレットやOSの種類に影響を受けず、どこからでもWebブラウザーで閲覧可能であり，低倍から高倍まで自由に拡大率を調節できるので、効果的な学習を支援する。ポートフォリオ内の予習課題は、該当する実習前にあらかじめ記入しておき、授業の中で内容の確認を行う。事前学修結果の確認のため実習中に適宜口頭で質問するので回答の準備をしておくこと。得られた回答に関しては教員がその場でコメントしてフィードバックする。各授業に対する事前学修の時間は最低45分を要する。事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。本内容は全授業に対して該当するものとする。

講義（事前学修：最低30分を要する　事後学修：最低45分を要する）
実習（事前学修：最低45分を、事後学修：最低30分を要するが、事前準備に時間をかけることで事後学修は時間を節約できる。但し、合計で75分以上は最低でも要する。

講義/演習/実習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/6（月） | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **骨・軟骨I**<br>骨 ・軟骨組織の基本構造と組織学的特徴について理解できる。<br>骨のリモデリングに関わる細胞について組織学的に理解できる。 | 1. 骨組織の構造について説明できる。<br>2. 骨の改造に関わる細胞について説明できる。<br>3. 軟骨組織の解剖学的・組織学的構造について説明できる。<br>4. 軟骨の種類と分類について説明できる<br>5. 血中カルシウムの調節機構について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-2-3,4,5]** |
| 実習 | 4/6（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **骨・軟骨I**<br>骨 ・軟骨組織の基本構造と組織学的特徴について理解できる。<br>骨のリモデリングに関わる細胞について組織学的に理解できる。 | 1.骨組織の基本構造について説明できる。<br>2. 骨芽細胞・骨細胞・破骨細胞などリモデリングに関わる細胞の形態的特徴と周囲組織との関わりについて説明できる。<br>3. 軟骨組織に見られる細胞の形態的特徴と細胞外マトリックスについて説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-2-3,4,5]** |
| 講義 | 4/13（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **骨・軟骨II**<br>骨・軟骨の発生について理解できる。 | 1. 骨・軟骨の形成様式について説明できる。<br>2. 骨・軟骨の形成に関わる細胞について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-2-3]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 4/13<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **骨・軟骨II**<br><br>骨・軟骨の形成、それに関わる細胞を組織学的に理解できる。 | 1. 骨の形成様式について説明できる。<br>2. 骨の形成に関わる細胞の組織学的特徴と機能について説明できる。<br>3. 軟骨の形成様式について説明できる。<br>4. 軟骨の形成に関わる細胞の組織学的特徴と機能について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-2-3]** |
| 講義 | 4/20<br>（月） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **循環器（血液・脈管）**<br>末梢血における血球成分の種類と形態的特徴、および機能と造血について理解する。<br>心臓、脈管の基本構造について理解する。 | 1. 血液細胞の種類とその特徴について説明できる。<br>2. 血液細胞の発生について説明できる。<br>3. 造血組織について説明できる。<br>4. 心臓の構造、組織学的特徴について説明できる。<br>5. 脈管の基本的構造について説明できる。<br>6. 動脈と静脈の構造的違いについて説明できる。<br>7. 毛細血管の種類と機能について説明できる。<br>8. リンパ管の構造と機能について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-4-3,5,6,7, A-4-2-1, 2]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 4/20（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **循環器（血液・脈管）実習**<br>結合組織に見られる遊走細胞の特徴と血液細胞との関係について理解する。<br>末梢血塗抹標本と骨髄標本を観察し、血球の種類と構造、および造血について理解する。<br>心臓、脈管の組織学的特徴について理解する。 | 1. 結合組織に見られる遊走細胞の特徴・機能を説明でき、標本内で識別できる。<br>2. 末梢血塗抹標本で赤血球・各種白血球・血小板を識別できる。<br>3. 心臓の組織学的特徴を説明できる。<br>4. 動脈、静脈、毛細血管とリンパ管の構造的相違を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-4-3,5,6,7,A-4-2-1,2]** |
| 講義 | 4/27（月） | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **生殖器**<br>精巣と卵巣の構造と機能について理解する。 | 1. 精巣の構造と精子形成について説明できる。<br>2. 卵巣の構造と卵子形成について説明できる。<br>3. 精巣と卵巣の内分泌細胞について説明できる。<br>4. 生殖細胞の発生機序について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-11-1]** |
| 実習 | 4/27（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **生殖器　実習**<br>精巣と卵巣の構造と機能を組織学的に理解する。 | 1. 精巣の形態学的特徴と精子形成について説明できる。<br>2. 卵巣の形態学的特徴と卵子形成について説明できる。<br>3. 精巣と卵巣の内分泌細胞について識別し、その機能について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-11-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/11（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **発生学-1**<br>人体発生学を学ぶ意義について理解する。<br>受精から三層性胚盤までの胚形成過程について理解する。 | 1. 個体発生の意義について説明できる。<br>2. 受精～着床までの経過と受精卵の変化について説明できる。<br>3. 三胚葉形成の過程、意義について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-1-1,2]** |
| 実習 | 5/11（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **発生学-1　実習**<br>受精から三層性胚盤までの胚形成過程について理解する。 | 1. 受精～着床までの経過と受精卵の変化について説明できる。<br>2. 三胚葉の形成機序について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-1-1,2]** |
| 講義 | 5/18（月） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **発生学-2**<br>神経管・神経堤、体節、鰓弓の形成、胚子の折りたたみの発生過程について理解する<br>外胚葉・内胚葉・中胚葉、ならびに神経堤から形成される器官について理解する。<br>個体の発生段階と先天異常に付いて理解する。<br>全身の形成異常の発生機構を理解する。 | 1. 神経管、神経堤、体節、鰓弓の形成、胚子の折りたたみの発生過程を説明できる。<br>2. 神経堤の形成過程とそこから形成される器官について説明できる<br>3.外胚葉、中胚葉、内胚葉から形成される器官について説明できる。<br>4. 個体発生過程と先天性疾患の関係について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-1-3,4,6,7]** |
| 実習 | 5/18（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **発生学-2　実習**<br>神経管・神経堤、体節、鰓弓の形成、胚子の折りたたみの発生過程について理解する。 | 1. 胚子の屈曲について説明できる。<br>2.鰓弓の形成過程について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-1-3,4,6,7]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/25<br>（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **内分泌**<br>内分泌腺の機能、ホルモンについて理解する。<br>下垂体、甲状腺、副腎、膵臓の機能、組織学的特徴を理解する。 | 1. 内分泌の意義について説明できる。<br>2. 内分泌腺の種類と機能、組織学的特徴について説明できる。<br>3. ホルモンの種類とそれらの機能について説明できる。<br>4. 脳下垂体の構造的特徴を説明できる。<br>5. 甲状腺、上皮小体の組織学的特徴を説明できる。<br>6. 副腎・膵臓の組織学的特徴を説明できる。<br>7. 副腎・膵臓が分泌するホルモン、を説明できる。<br>8. 膵臓外分泌部と内分泌部の組織構築の違いを説明できる。<br>9. 血糖値の制御機構を説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-9-1,2,3,A-3-1-7-2]** |
| 実習 | 5/25<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **内分泌　実習**<br>内分泌腺の機能、ホルモンについて理解する。<br>下垂体、甲状腺,副腎の機能、組織学的特徴を理解する。 | 1. 組織構築の違いから内分泌腺の種類を識別できる。<br>2. 下垂体の組織構築と構成細胞を識別できる。<br>3. 甲状腺と上皮小体の組織構築を識別できる。<br>4. 副腎の組織構築と構成細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-9-1,2,3,A-3-1-7-2]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/1<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **呼吸器**<br>呼吸器の基本概念について理解する。<br>鼻腔、副鼻腔、気管の形態学的特徴について理解する。<br>肺の形態学的特徴について理解する。 | 1. 呼吸器系を構成する器官と、その機能・組織学的特徴を説明できる。<br>2. 気道の粘膜上皮の特徴について説明できる。<br>3. 肺の構造を説明できる。<br>4. 気管支樹と肺胞について説明できる。<br>5. 血液－空気関門について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-8-1,2,A-3-3-8]** |
| 実習 | 6/1<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **呼吸器　　実習**<br>鼻腔、気管の組織構造について理解する。<br>肺の組織構造について理解する。 | 1. 鼻腔の組織学的特徴を理解し、呼吸部と嗅部を識別できる。<br>2. 気管の組織学的特徴を説明できる。<br>3.気管支樹の特徴を理解し、肺の組織からそれぞれを識別できる。<br>4.肺胞を構成する細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-8-1,2,A-3-3-8]** |
| 講義 | 6/8<br>(月) | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **消化器-1**<br>**（食道、胃,小腸,大腸）**<br>消化管の組織学的一般構造について理解する。<br>消化器系の入口としての口腔の役割を理解する。<br>食道・胃・小腸・大腸の組織構造と機能の関係について理解する。 | 1. 消化管の解剖学的名称と特徴について説明できる。<br>2. 消化管の組織学的一般構造について説明できる。<br>3. 消化管にみられる神経叢の特徴と機能について説明できる。<br>4. 食道の組織学的特徴と機能について説明できる。<br>5. 胃の組織学的特徴と機能について説明できる。<br>6. 小腸の組織学的特徴と機能について説明できる。<br>7. 大腸の粘膜上皮を構成する細胞とその機能を説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-7-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 6/8<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **消化器-1　　実習**<br>**（食道、胃,小腸,大腸）**<br>食道・胃・小腸・大腸の基本構造について理解する。 | 1. 食道、胃の組織学的差異を識別できる。<br>2. 固有胃腺を構成する細胞を識別でき、それぞれの機能について説明できる。<br>3. 小腸の特徴を組織標本から識別し、説明できる。<br>4. 大腸の特徴を組織標本から識別し、説明できる。<br>5. 肛門管の組織構造が説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-7-1]** |
| 講義 | 6/15<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **消化器-2**<br>**（肝臓、膵臓）**<br>肝臓、膵臓の組織構造と機能の関係について理解する。 | 1. 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について説明できる。<br>2. 肝類洞やDisse腔を形成する細胞やその構造を説明できる。<br>3.膵臓の外分泌部、内分泌部の構造と機能を説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-7-1, 2]** |
| 実習 | 6/15<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **消化器-2　実習**<br>**（肝臓、膵臓）**<br>大腸、肝臓、膵臓の基本構造について理解する。 | 1. 肝臓と膵臓を組織標本で識別できる。<br>2. 肝小葉と小葉間結合組織、小葉間の三つ組みを識別し、それらの組織構築と機能との関係を説明できる。<br>3. 膵臓の外、内分泌部を識別し、組織学的特徴について説明できる。<br>4. Langerhans島を識別し、その組織学的特徴を説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-7-1, 2]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/22<br>（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **リンパ性器官**<br>リンパ性器官の構造と機能を理解する。 | 1. リンパ球の循環について説明できる。<br>2. リンパ組織及びリンパ小節の特徴、構造、機能について説明できる。<br>3. リンパ節、脾臓、胸腺、扁桃の構造、機能について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>[A-3-1-4-6, A-3-2-16] |
| 実習 | 6/22<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **リンパ性器官　実習**<br>リンパ性器官の構造と機能を理解する。 | 1. リンパ節の構造とその構成細胞を識別できる。<br>2. 脾臓の構造とその構成細胞を識別できる。<br>3. 胸腺の構造とその構成細胞を識別できる。<br>4. 扁桃の構造とその構成細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>[A-3-1-4-6, A-3-2-16] |
| 講義 | 6/29<br>（月） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **泌尿器**<br>腎臓・膀胱・尿道などの組織構造、ネフロンの組織構造と生理機能との関連性について理解する。 | 1. 腎臓の組織構造について説明できる。<br>2. ネフロンの構造とその構成細胞の特徴について説明できる。<br>3. ネフロンの構造を機能と連携して説明できる。<br>4. 膀胱・尿道の組織学的構造を説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>[A-3-1-10-1] |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 6/29<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **泌尿器　実習**<br>腎臓・膀胱・尿道などの組織構造と、生理機能との関連性について理解する。 | 1. 腎臓の組織構造について識別できる。<br>2. ネフロンの構造とその構成細胞を識別できる。<br>3. ネフロンを構造する各部の組織学的特徴と機能を連携して説明できる。<br>4. 膀胱・尿道などについての組織学的構造を識別できる。<br>5. 講義・実習を通して授業内容の定着を自ら確認できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-10-1]** |
| 講義 | 7/6<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **感覚器**<br>感覚器官の構造、組織学的特徴について理解する。 | 1. 眼球の構造、組織学的特徴について説明できる。<br>2. 外耳、中耳、内耳の構造、組織学的特徴について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-1-6-1]** |
| 実習 | 7/6<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **感覚器　実習**<br>感覚器官の構造、組織学的特徴について理解する。 | 1. 眼球の構造とその構成細胞を識別できる。<br>2. 外耳、中耳、内耳の構造とその構成細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-1-6-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 7/13<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **到達度試験-1**<br>これまでに組織学で学んだことについて振り返り、再確認と定着を図る。 | 1. これまでに学んだ事項についての理解度を確認する。 |
| 実習 | 7/13<br>(月) | 4 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **総括復習解説**<br>これまでに組織学で学んだことについて振り返り、再確認と定着を図る。 | 1. これまでに学んだ事項についての理解度を確認する。 |
| 講義 | 9/28<br>(月) | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **頭頸部の発生-1**<br>鰓弓・鰓嚢に由来する器官の発生過程について理解する。<br>神経堤の発生について理解する。<br>咽頭領域の先天異常の発生機序について理解する。<br>甲状腺、舌、腺性下垂体の発生過程とその異常について理解する。 | 1. 鰓弓由来の骨、筋の発生と神経支配について説明できる。<br>2. 神経堤の発生について説明できる。<br>3. 咽頭溝、咽頭嚢由来の器官について説明できる。<br>4. 咽頭領域の先天異常の発生機序を発生過程に基づいて説明できる。<br>5. 甲状腺の発生過程とその異常について理解する。<br>6. 舌の発生過程とその異常について理解する。<br>7. 腺性下垂体の発生過程について理解する。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-1,2,4]** |
| 実習 | 9/28<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **頭頸部の発生-1　実習**<br>鰓弓・鰓嚢に由来する器官の発生過程について理解する。<br>甲状腺、舌、腺性下垂体の発生過程とその異常について理解する。 | 1. 鰓弓由来の骨、筋の発生と神経支配について説明できる。<br>2. 咽頭溝、咽頭嚢由来の器官について説明できる。<br>３．神経堤の発生と分化について説明できる。<br>3. 舌の発生について説明できる。<br>4. 甲状腺の発生について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-1,2,4]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/5<br>（月） | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **頭頸部の発生-2**<br>頭部神経堤由来細胞と頭頸部を構成する組織との関係について理解する。<br>顎・顔面の形成について理解する。<br>一次口蓋・二次口蓋の形成機序について理解する。<br>顎顔面領域の先天異常の発生機構について理解する。 | 1. 神経堤に由来する細胞から形成される顎顔面領域の組織について説明できる。<br>2. 頭蓋の形成について説明できる。<br>3. 顔面の形成について説明できる。<br>4. 一次口蓋と二次口蓋の形成機序について説明できる。<br>5. 顔面領域の先天異常の発生機序を発生過程に基づき説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-1,2,3,4]** |
| 実習 | 10/5<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **頭頸部の発生-2　実習**<br>頭部神経堤由来細胞と頭頸部を構成する組織との関係について理解する。<br>顎・顔面領域の形成過程やそれらの組織像にみられるさまざまな構造について理解する。 | 1. 神経堤に由来する細胞から形成される顎顔面領域の組織について説明できる。<br>2. 頭蓋の発生過程について説明できる。<br>3. 顔面の形成について説明できる。<br>4. 一次口蓋と二次口蓋の形成機序について説明できる。<br>5. 顔面領域の先天異常の発生機序を発生過程に基づき説明できる。<br>6. 顎顔面の発生の異常がどのような臨床症状に表れるかを理解できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-1,2,3,4]** |
| 講義 | 10/19<br>（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-1**<br>歯胚の初期発生過程（歯堤・蕾状期・帽状期）について理解する。 | 1. 歯原性上皮と歯堤および唇溝堤について説明できる。<br>2. 蕾状期、帽状期の歯胚の組織構築とその特徴について説明できる。<br>3. エナメル器、歯乳頭、歯小嚢の由来と将来分化する組織について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-4-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/19（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-1 実習**<br>歯胚の初期発生過程にみられる組織学的変化について理解する。 | 1. 蕾状期・帽状期の歯胚の組織学的特徴を識別できる。<br>2. 各発達ステージの歯胚を組織像から判断できる。<br>3.各発達ステージの歯胚を構成する組織や細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-4-1]** |
| 講義 | 10/26（月） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-2**<br>歯胚の後期発生過程について理解する。 | 1. 鐘状期初期と後期歯胚の組織構築の違いについて説明できる。<br>2.エナメル芽細胞と象牙芽細胞の分化について説明できる。<br>3. エナメル質と象牙質形成について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-4-1]** |
| 実習 | 10/26（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-2 実習**<br>歯を構成する硬組織の形成過程と各基質の形成細胞の分化過程について理解する。 | 1. 鐘状期初期と後期の歯胚の違いを識別できる。<br>2. エナメル質と象牙質形成に関わる細胞と、その形態的特徴を識別し、基質形成との関連性を説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-4-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/28（水） | 1 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-3**<br>歯根と歯周組織の形成過程について理解する。<br>歯の萌出や交換に伴って生じる歯牙や歯周組織の変化について理解する。 | 1. Hertwig上皮鞘の歯根形成誘導過程について説明できる。<br>2. セメント質、歯根膜、歯槽骨の形成過程を説明できる。<br>1. 歯牙萌出のメカニズムについて説明できる。<br>2. 歯の交換時に見られる生理的歯牙移動について説明できる。<br>3. 乳歯と永久歯の交換時の組織学的事象について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-4-1]** |
| 実習 | 10/28（水） | 2 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯の発生-3　実習**<br>歯根と歯周組織の形成過程について組織学的に理解する。<br>歯の萌出や交換、生理的または臨床的歯牙移動に伴う歯牙や歯周組織の変化について理解する。 | 1. サービカルループとHertwig上皮鞘の違いを識別し、Hertwig上皮鞘の歯根形成誘導との関わりについて説明できる。<br>2. Hertwig上皮鞘をMalassez上皮遺残を識別し、その組織学的意義を説明できる。<br>3. 歯小嚢細胞を識別し、そこから歯周組織が形成される過程について説明できる。<br>4. 歯牙萌出の際に見られる組織学的変化とその際に観察できる細胞を識別できる。<br>5. 縮合エナメル上皮を識別し、その組織学的意義を説明できる。<br>6. 導帯管・破骨細胞、破歯細胞を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-4-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/2<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **エナメル質**<br>エナメル質の組織構造について理解する。 | 1. エナメル小柱とその走行について説明できる。<br>2. Hunter-Schreger条の組織学的特徴と成因について説明できる。<br>3. エナメル質の成長線について説明できる。<br>4. Retzius条と周波条の関連性について説明できる。<br>5. エナメル葉、エナメル叢、エナメル紡錘について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-8,A-3-4-1, 4]** |
| 実習 | 11/2<br>(月) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **エナメル質　実習**<br>エナメル質の組織学的構造について理解する。 | 1. 研磨標本でエナメル小柱の構造と走行を識別できる。<br>2. エナメル質の成長線を識別し、その違いについて説明できる。<br>3. エナメル葉、エナメル叢、エナメル紡錘を識別できる。<br>4. Hunter-Schreger条を識別し、その特徴と成因について説明できる。<br>5.エナメル質の加齢変化について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-8,A-3-4-1,4]** |
| 講義 | 11/9<br>(月) | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **象牙質**<br>象牙質の形成機序や石灰化過程について理解する。<br>象牙質の構造と機能について理解する。 | 1. 象牙質の石灰化機構を説明できる<br>2. 象牙質の形成過程を説明できる。<br>3. 象牙質の構造について説明できる。<br>4. 球間象牙質・球間網と石灰化の関係を説明できる。<br>5. 象牙細管とその内容物、象牙細管が関係して形成される構造について説明できる。<br>6. 象牙質の成長線、生理的変化に伴う構造について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-8,A-3-4-1, A-3-4-4]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/9<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **象牙質　実習**<br>象牙質が形成される過程について組織学的に理解する。<br>象牙質の形成機序や石灰化過程について理解する。<br>象牙質の組織学的構造について理解する。 | 1. 象牙芽細胞分化の際に見られる組織学的変化とその際に観察できる細胞を識別できる。<br>2. 象牙質の種類とその特徴について研磨標本と組織切片から識別できる。<br>3. 象牙細管の組織構造や部位による走行の違いを識別できる。<br>4. 象牙質の石灰化と球間象牙質、球間網の関係を理解し、それぞれを識別できる。<br>5. 象牙質の成長線を識別できる。<br>6. 象牙質の生理的、病理的変化に伴う構造を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-8, A-3-4-1, A-3-4-4]** |
| 講義 | 11/16<br>（月） | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯髄**<br>象牙質・歯髄複合体の構造と機能について理解する。 | 1. 象牙前質、石灰化球、象牙質の関係について説明できる。<br>2. 象牙質形成帯の組織構造について説明できる。<br>3. 歯髄の神経分布と知覚について説明できる。<br>4. 象牙粒の種類と成因について説明できる。<br>5. 歯髄の加齢変化について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-8, A-3-4-5]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/16（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯髄　実習**<br>象牙質形成帯と歯髄の組織学的構造について理解する。 | 1. 歯髄を構成する細胞とその配置について説明できる。<br>2. 象牙質形成帯の層構築を識別し、各層の特徴について説明できる。<br>3. 歯髄の神経分布について説明できる。<br>4. 象牙粒の種類を識別し、その成因について説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>[A-2-4-8, A-3-4-5] |
| 講義 | 11/30（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯周組織**<br>歯周組織（セメント質、歯根膜、歯槽骨）の組織構造や特徴について理解する。 | 1. セメント質の種類、発生、分布について説明できる。<br>2. 歯根膜の組織構造について説明できる。<br>3. 歯根膜主線維の走行とSharpey線維について説明できる。<br>4. セメント質・歯根膜の生理的加齢変化について説明できる。<br>5. 歯槽骨の構造について説明できる。<br>6. 固有歯槽骨の特徴と歯牙の支持に果す役割について説明できる。<br>7. 生理的または臨床的歯牙移動に伴って生じる変化について説明できる。<br>8. 顎骨の加齢変化について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>[A-2-4-7, A-3-4-4, 7] |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/30<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **歯周組織　実習**<br>セメント質の組織学的特徴について理解する。<br>歯根膜の構造と役割について理解する。<br>歯槽骨の構造について理解する。 | 1. セメント質の種類と分布範囲について識別できる。<br>2. セメント芽細胞とセメント細胞、セメント小体の構造を識別できる。<br>3. セメント質に見られるSharpey線維を識別でき、この線維と歯根膜主線維の関連性について説明できる。<br>4. 歯根膜の細胞成分と線維成分・脈管神経隙を識別できる。<br>5. 歯槽骨の組織学的構造を識別できる。<br>6. 固有歯槽骨と支持歯槽骨の構造的違いを識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-7, A-3-4-4, 7]** |
| 講義 | 12/2<br>（水） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **口腔粘膜1-咀嚼粘膜（歯肉・口蓋）**<br>歯肉・口蓋粘膜の組織学的特徴について理解する。 | 1. 粘膜の分類と組織学的特徴の関連性について説明できる。<br>2. 重層扁平上皮の細胞構築と角化について説明できる。<br>3. 歯肉の組織構造と特徴について説明できる。<br>4. 歯肉と歯槽粘膜の組織学的違いについて説明できる。<br>5. 付着上皮の特異性と臨床的意義について説明できる。<br>6. 歯肉線維の走行について説明できる。<br>7. 硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-3-2, A-3-4-7]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/2<br>(水) | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **口腔粘膜1-咀嚼粘膜**<br>**（歯肉・口蓋） 実習**<br>歯肉・口蓋粘膜の組織学的特徴について理解する。 | 1. 口腔上皮の角化、錯角化、非角化について識別できる。<br>2. 歯-歯肉接合部の組織構築を識別し、それらの組織学的特徴について説明できる。<br>3. 歯肉溝上皮と付着上皮、内縁上皮と外縁上皮の組織学的違いを識別できる。<br>4. 咀嚼粘膜と被覆粘膜の違いを理解し、歯肉と歯槽粘膜を識別できる。<br>5. 近遠心断・頬舌断の切片に見られる歯肉線維の走行とその違いを識別できる。<br>6. 硬口蓋と軟口蓋の組織学的差異を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-3-2, A-3-4-7]** |
| 講義 | 12/7<br>(月) | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **口腔粘膜-2**<br>**（口唇、舌）**<br>外皮の構造と口腔粘膜の構造の異同について理解する。<br>口蓋の組織学的特徴について理解する。特殊粘膜の特徴や舌乳頭の分類、および味蕾の構造と機能について理解する。 | 1. 口唇皮膚部の構造と皮膚附属器について説明できる。<br>2. 口腔粘膜と皮膚の類似点と相違を説明できる。<br>3. 舌乳頭の種類と特徴について説明できる。<br>4. 味蕾の構造と分布について説明できる。<br>5. 特殊粘膜の組織学的特徴について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-3-2, 4, A-3-3-3]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/7<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **口腔粘膜-2　実習**<br>**（口唇、舌）**<br>口唇の組織学的特徴、特に外皮～口腔粘膜の連続性と構造の異同について理解する。<br>硬口蓋と軟口蓋の組織学的違いを理解する。<br>舌と味蕾について理解する。 | 1. 被覆粘膜、咀嚼粘膜、特殊粘膜の違いを識別できる。<br>2. 外皮の層構築と皮膚附属腺や毛包の構造について識別できる。<br>3. 舌乳頭の種類を識別できる。<br>4. 各舌乳頭を構成する上皮から味蕾を識別できる。<br>5. 味蕾を構成する細胞を識別できる。<br>6. von Ebner腺を識別でき、その意義を説明できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-3-2,4, A-3-3-3]** |
| 講義 | 12/14<br>（月） | 3 | 大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **唾液腺**<br>大唾液腺ならびに小唾液腺の組織学的構造と種類、および分布について理解する。 | 1. 大唾液腺の一般的組織構造について説明できる。<br>2. 大唾液腺の種類とそれぞれの特徴について説明できる。<br>3. 終末部の構造について説明できる。<br>4. 介在部、線条部、排出導管の組織学的違いについて説明できる。<br>5. 漿液腺、粘液腺、混合腺の違いについて説明できる。<br>6. 小唾液腺の分布と組織学的特徴について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-3-3-6,7]** |
| 実習 | 12/14<br>（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **唾液腺　実習**<br>大唾液腺の組織学的特徴について理解する。 | 1. 終末部の組織構築を識別できる。<br>2. 介在部、線条部、排出管の識別ができる。<br>3. 漿液腺、粘液腺、混合腺の構造と違いを識別できる。<br>4. 耳下腺、顎下腺、舌下腺を組織学的に識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-3-3-6,7]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/21（月） | 3 | 池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **顎関節**<br>顎関節の組織学的特徴について理解する。 | 1. 顎関節の構造と組織学的特徴について説明できる。<br>2. 下顎頭軟骨の特徴について説明できる。<br>3. 滑膜・滑液について説明できる。<br>4. 顎関節の加齢変化について説明できる。<br>事前学修：テキスト、教科書の当該範囲を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。<br>**[A-2-4-7, A-3-2-8]** |
| 実習 | 12/21（月） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **顎関節　実習**<br>咀嚼に関与する顎関節の組織学的構造について理解する | 1. 下顎頭と下顎窩・関節結節の組織学的特徴を理解し、一般の関節との違いを識別できる。<br>2. 関節円板、関節包の組織学的特徴を識別できる。<br>事前学修：ポートフォリオ当該範囲の予習ページを完成させる。実習で使用するスライドを観察して疑問点を整理しておく。所要時間45分程度。<br>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**[A-2-4-7, A-3-2-8]** |
| 演習 | 1/13（水） | 3 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **到達度試験-2**<br>これまでに組織学で学んだことについて振り返り、再確認と定着を図る。 | 1. これまでに学んだ事項についての理解度を確認する。 |
| 実習 | 1/13（水） | 4 | 原田英光教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>大津圭史教授<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野）<br><br>池崎晶二郎講師<br>（解剖学講座 発生生物・再生医学分野） | **総括復習解説**<br>これまでに組織学で学んだことについて振り返り、再確認と定着を図る。 | 1. これまでに学んだ事項についての理解度を確認する。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 組織細胞生物学　原著5版 | Abraham L, Kierszenbaum, Laura L. Tres　著　内山安男監訳 | 南江堂 | 2022 |
| 教 | 口腔組織・発生学　第3版 | 前田健康、網塚憲生、中村浩彰　編 | 医歯薬出版 | 2023 |
| 教 | カラーアトラス口腔組織発生学　第4版 | 磯川桂太郎、下田信治、山本仁　編著 | わかば出版 | 2016 |
| 参 | ひと目でわかるビジュアル人体発生学 | 山田重人、山口豊 | 羊土社 | 2022 |
| 参 | ネッター　解剖生理学アトラス　第７版 | J. T. Hansen, B. M. Koeppen著、相磯貞和、渡辺修一　訳 | 南江堂 | 2022 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

総括評価：
到達度試験1（7月13日）
　　（試験範囲： 4月6日～7月13日講義・実習内容）
前期試験（8月26～９月4日）
　　（試験範囲：4月6日～7月13日講義・実習内容）
到達度試験2（1月13日）
　　（試験範囲：9月28日～12月21日講義・実習内容）
後期試験（1月18日～1月27日）
　（試験範囲：9月28日～12月21日講義・実習内容）
　※試験の範囲などは、進行状況によって、事前に連絡の上、多少の変更をすることがある。）

評価方法：
受講態度、ポートフォリオ等20%, 前期到達度試験(記述式、MCQ)　5%, 前期試験(記述式、MCQ)35%　後期到達度試験(記述式、MCQ)5%, 後期試験(記述式、MCQ)　35%を総合的に評価して65%以上のものを合格とする。

形成的評価：
講義、実習毎の口頭試問、ポートフォリオチェック等で理解度を確認し、フィードバックする。

| 到達目標 | DP | 到達度試験試験 | ポートフォリオ | 定期試験 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1, 2 | 4, 8, 9 | 2.5 | 5 | 15 | | 22.5 |
| 3, 5, 6 | 4, 8, 9 | 2.5 | 5 | 15 | | 22.5 |
| 4 | 4, 8, 9 | 2.5 | 5 | 20 | | 27.5 |
| 7 | 4, 8, 9 | 2.5 | 5 | 20 | | 25 |
| **合計** | | **10** | **20** | **70** | | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

1. 出席は原則として授業開始直後にとる。それ以降に申し出た場合は認めない。
2. 実習ではバーチャルスライドや標本を用い、時間内に各自ポートフォリオの所定欄にスケッチや学修のまとめを作製することで、講義で学んだ内容の定着を図る。
3. ポートフォリオ内の予習課題は、該当する講義・実習前にあらかじめバーチャルスライド、教科書・アトラスやテキストを用いて記入しておくこと。
4. 使用するPC、タブレット等がインターネット（有線接続が望ましい）に接続できるように準備をしておくこと。
5. バーチャルスライドやWebClassを使い、前もって実習スケッチの予習を行うことが望ましい。
6. ポートフォリオは、実習スケッチの記入のみならず、各自の勉強のために自由に書き込みや資料添付をして構わない。
7. 実習終了後、該当するポートフォリオの提出を求める。
8. ポートフォリオのすべてのページにおいて、学修記録、受講記録、すべての課題が完成していることを必要条件とする。
9. 試験実施日、それまでの実習内容に該当するポートフォリオの提出を求める。
10. ポートフォリオは評価後、コメントを付けて次回実習時に返却する。
11. すべての講義、演習の中で教員とのディスカッションの機会を設け、能動的学修を行う。
12. 試験のあとは解説時間を設ける。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| ノートパソコン一式 | MacBookPro | 3 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 授業のプレゼンテーション及び研究データの解析、講義用スライド・資料の作製 |
| タブレットパソコン | iPad | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 授業のプレゼンテーション及び研究データの解析、講義用スライド・資料の作製 |
| デスクトップパソコン一式 | iMac | 3 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 授業のプレゼンテーション及び研究データの解析、講義用スライド・資料の作製 |
| デスクトップパソコン一式 | Microsoft surface | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 授業のプレゼンテーション及び研究データの解析、講義用スライド・資料の作製 |
| オフィス向け複合機 | Canon IR-ADVC2030F | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義用スライド・資料の作製 |
| 70型4K液晶テレビ CN1ライン | 4T-C70CN1 | 1 | 視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器 | 講義、実習の際のモニターとして |

# 生理学Ⅱ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 生理学講座（病態生理学分野）　黒瀬　雅之　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 生理学講座（病態生理学分野） | | | | |
| 対象学年 | 1 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 後期 | | 前期 | 56.0時間 | 0.0時間 |
| | | | 後期 | 20.0時間 | 8.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

生理学は、生体の動的な“機能”を解析し、個体全体の生命現象を解明する学問である。生理学Ⅱでは、生命維持の根幹を成す植物機能（血液・循環・呼吸・消化・排泄・内分泌）および高次神経機能と感覚・運動制御を主たる対象とする。
前期では、循環・呼吸・体液調節・内分泌などの各器官系がいかにしてホメオスタシス（生体恒常性）を維持しているかを体系的に学修する。
後期では、歯科臨床に直結する″口腔・顎顔面領域の生理″に重点を置く。咀嚼・嚥下・唾液・発音といった口腔固有の機能について、その制御機構を神経生理学的に深く理解するとともに、味覚や口腔感覚、疼痛のメカニズムについても理解を深める。
これらの学修を通じ、歯科診療において不可欠な“全身状態の把握”や“口腔機能管理”を行うための医学的根拠を修得する。講義では視覚的な理解を助ける動画教材や講義ノートを活用し、臨床現場で病態を論理的に説明できる能力（プロフェッショナリズム）の育成を目指す。

## 教育成果（アウトカム）

講義：生体の構造と機能を“機能”の視点から学習することにより、個体全体の生命現象に“動き”をつけて説明出来るようになる。特に、歯科医師となった際に、病状の説明を医学的な背景を踏まえて簡潔に説明しようとする態度が身につく。
実習：実際に被験者となることで、自分の身体に生じた感覚や反応を、その背景にある生体現象を基礎知識をベースとして理論的に説明しようとする態度が身につく。
ディプロマポリシーとの関連（評価の観点）
1. プロフェッショナリズム
2. コミュニケーション能力〇
3. チーム医療の実践能力
4. 包括的歯科医療の実践能力◎
5. 地域保健・医療の実践能力
6. 高水準の診療能力
7. 国際貢献への資質
8. 研究マインドの保持◎
9. 生涯学習の実践

（関連するディプロマポリシー：2、4、8）

到達目標（SBOs）

1　循環系：全身の血液循環を支える心臓の電気的・機械的活動と血圧調節を理解する。
・心臓の興奮伝導系と心電図波形の生理的意味を説明できる。
・血圧測定の原理を理解し、調節機序（RAA系等）を説明できる。
2　呼吸器系：外呼吸と内呼吸の仕組み、および血液によるガス運搬を理解し、生体への酸素供給と二酸化炭素排出の維持機構を評価する。
・呼吸運動の機序および肺の弾性と気道抵抗について説明できる。
・血液による酸素・二酸化炭素の運搬機構を説明できる。
3　体液・腎臓・内分泌系：ホルモンによる恒常性維持と腎臓による体液量・pH調節を理解し、全身の代謝バランスを制御する統合的機能を評価する。
・体液のpH維持（緩衝系）および浸透圧の調節機構を説明できる。
・主要なホルモンの種類、作用および分泌異常について説明できる。
4　感覚生理学総論：外界からの情報を電気信号に変換し脳へ伝える仕組みを理解し、特に歯科領域で重要な味覚や触覚の受容機構を評価する。
・体性感覚の受容器の構造と情報の伝達経路について説明できる。
・味覚器の構造、味覚の受容と伝達機構について説明できる。
5　疼痛と制御：痛みの発生から脳での認知、および生体に備わる鎮痛機構を理解し、歯科臨床での除痛や疼痛管理の理論的背景を評価する。
・疼痛の発生機序、分類および下行性抑制系等の制御機構を説明できる。
6　神経系と高次機能：運動の指令伝達と反射、および睡眠や言語といった高次機能を理解し、神経系による生体制御の階層性を評価する。
・反射、半自動運動、随意運動の発現と調節機序を説明できる。
・睡眠・覚醒の機序と脳波、および高次脳機能について概説できる。
7　消化と代謝：食物の消化・吸収プロセスとエネルギー代謝、体温調節を理解し、生命維持に不可欠な栄養摂取と熱産生の仕組みを評価する。
・消化管の基本構造、消化液および消化管ホルモンの機能を説明できる。
・体温調節の仕組みおよび摂食・飲水行動の調節機序を説明できる。
8　唾液：唾液の分泌調節とう蝕予防等の口腔保護機能を理解し、歯科医師として口腔環境を維持するための基礎知識を評価する。
・唾液の性状、構成成分、生理機能および分泌調節を説明できる。
9　咀嚼・嚥下・反射：口腔から咽頭における食物の処理プロセスを理解し、摂食嚥下リハビリテーションの基礎となる運動制御と防御反射を評価する。
・咀嚼のリズム制御機構および咀嚼周期について説明できる。
・嚥下5期のプロセス、制御機構および気道保護機序を説明できる。
・嘔吐反射と絞扼反射の生理的機序を説明できる。
10　発音・構音：音声の生成と構音器官の動態を理解し、歯科的介入（補綴等）がコミュニケーション機能に及ぼす影響の理解度を評価する。
・咽頭・喉頭の機能および発声の原理について説明できる。
・構音器官としての口腔の機能および母音・子音の生成機序を説明できる。

**事前事後学修の具体的内容及び時間**

【事前学修】各回到達目標の内容に関し教科書または参考書を用いて調べるものとする。各回到達目標内に、事前学修の必要最低限の時間の目安を記載した。本内容は全授業に対して該当するものとする。これ以外に事前学修を必要とする場合は、Web-Class上に課題などを示す。単に教科書を読むだけでなく、自分用のノートに重要事項をまとめる等の工夫を凝らし、1年時のうちに自律的な学習習慣を確立することが重要である。 なお、学習の補助として生成系AIを利用することは構わないが、回答を鵜呑みにせず、必ず教科書や信頼できる学術的根拠と照らし合わせるなど、依存し過ぎないよう留意すること。

【事後学修】講義毎に「講義ノート」形式の資料を作成し配付するので、講義中に必要事項を適宜記入し復習に役立てて欲しい。学期修了後には学年が上がっても使用することの出来る自作「講義ノート」を完成させると良い。また、講義終了後には、Web-Classを通じて「リアクションペーパー」の提出を求めることがある。これは、講義内容を自分の言葉で要約し、疑問点や考察を言語化することで知識の定着を図るためのものである。要約は「自分の頭で考え、自分の言葉で出力すること」に意義があり、生成系AIを用いた安易な要約は、学修上の意味をなさない。提出された内容は、必要に応じてAI識別ツール等を用いてチェックを行う場合がある。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/2（木） | 1 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **心臓の構造と血液循環**<br><br>心臓の解剖学的構造と血液循環の経路を学び、心臓がポンプとして血液を全身に送り出すメカニズムと、その駆動を支える心筋の特性について理解する。 | 1: 心房・心室の構造と、血液の逆流を防ぐ弁の役割を説明できる。<br>2: 体循環と肺循環の経路を挙げ、全身の血液の流れを記述できる。<br>3: 心筋の構造的特徴と、骨格筋とは異なる生理学的特性を列挙できる。<br>**[A-3-1-4]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p76-91を読み、心臓の各弁の名称と血液の逆流を防ぐ仕組みを調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した血液の循環経路について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/2（木） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **刺激伝導系と心機能の調節**<br><br>心臓が自律的に拍動を維持するための刺激伝導系の仕組みと、その活動を周囲の環境や神経・ホルモンがいかに調節しているかを理解する。 | 1: 刺激伝導系の構成要素を図示しながら説明できる。<br>2: ペースメーカー電位（緩徐な脱分極）の発生機序を説明できる。<br>3: 前負荷・後負荷の概念を理解し、スターリングの法則を概説できる。<br>4: 自律神経および内分泌系による心機能調節機構を比較して説明できる。<br>**[A-3-1-4]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p81-82, p90-102を読み、刺激伝導系を構成する特殊心筋の名称を順番に挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したペースメーカー電位の発生機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/8（水） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **心電図と血圧の生理学**<br><br>心臓の電気的活動を記録する心電図の原理と波形の意味を学ぶ。また、血管系の特徴と血圧を規定する因子、日常臨床に不可欠な血圧測定の意義を理解する。 | 1：心電図の各波形が、心臓のどの活動に対応しているかを説明できる。<br>2：動脈、毛細血管、静脈の構造的・機能的な違いを列挙できる。<br>3：血圧を決定する主要な要因の関係を記述できる。<br>4：血圧測定の原理（コロトコフ音）を理解し、圧受容器反射による短期的血圧調節機構を説明できる。<br>**[A-3-1-4、D-2-3-2,5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p81-82, p90-102を読み、正常な心電図波形がそれぞれ何を表すか調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した血圧を決定する因子（心拍出量・末梢血管抵抗）について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/15（水） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **呼吸器の構造と換気**<br><br>呼吸器系の解剖学的構造を学び、肺呼吸を成立させるための胸郭・呼吸筋の動きや、換気効率を左右する物理的因子について理解する。 | 1：呼吸器系の構造と、それぞれの主要な機能を列記できる。<br>2：吸息・呼息時における主要な呼吸筋の働きを説明できる。<br>3：肺胞の表面張力とサーファクタントの役割、および肺のコンプライアンスについて概説できる。<br>**[A-3-1-8]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p103-110を読み、吸息と呼息に関わる主要な呼吸筋をそれぞれ挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した換気の力学的メカニズム（胸腔内圧の変化）について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/16（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **ガス輸送と調節機構**<br><br>肺胞および組織におけるガス交換の原理と、血液による酸素・二酸化炭素の運搬メカニズムを学ぶ。また、代謝状況に応じた呼吸の神経性・化学性調節を理解する。 | 1：肺胞気および血液中のガス分圧を挙げ、拡散の原理を説明できる。<br>2：ヘモグロビンによる酸素運搬と、酸素解離曲線の変化を概説できる。<br>3：二酸化炭素の血中運搬形態（重炭酸イオン等）を列挙できる。<br>4：呼吸中枢によるリズム形成と、化学受容器を介した調節を説明できる。<br>**[A-3-1-8]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p110-121を読み、、酸素解離曲線が右方へシフトする要因を3つ以上挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した呼吸の化学性調節について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/16（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **呼吸機能評価と病態生理**<br><br>スパイロメトリーによる肺機能検査の原理を学び、代表的な呼吸器疾患（閉塞性・拘束性疾患）の病態を生理学的視点から理解する。 | 1: スパイロメトリーにおける肺気量分画を図示し、概説できる。<br>2: 代表的な呼吸器疾患を挙げ、換気障害の分類を説明できる。<br>**[A-3-1-8-1,2、D-6-1]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p111-121を読み、スパイロメトリーにおける各肺気量分画の定義を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した換気障害の分類（閉塞性・拘束性）について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/22（水） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **ホルモン概論と下垂体・生殖生理**<br><br>ホルモンの化学的分類と受容体を介したシグナル伝達の基本原理を学ぶ。また、内分泌系の司令塔である下垂体ホルモンの作用と、性ホルモンによる生殖機能の調節について理解する。 | 1: ホルモンの化学的分類と作用機序の違いを説明できる。<br>2: 下垂体前葉・後葉ホルモンの種類と、その作用を列挙できる。<br>3: ホルモンのフィードバック調節機構を概説できる。<br>4: 生殖器生殖器の構造と、性ホルモンによる機能調節を説明できる。<br>**[A-3-1-9]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p132-156を読み、ホルモンの化学的分類（3種類）とその作用機序を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した下垂体前葉・後葉ホルモンの標的器官と作用について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/23（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **甲状腺・副甲状腺の生理**<br><br>基礎代謝を司る甲状腺ホルモンと、骨代謝に関わるカルシウム調節機構を学ぶ。歯科臨床においても重要な、骨のリモデリングに関わる内分泌環境を理解する。 | 1: 甲状腺ホルモンの合成過程と、代謝・成長に対する作用を説明できる。<br>2: 副甲状腺ホルモン、カルシトニン、ビタミンDを比較できる。<br>3: 血中$Ca^{2+}$濃度の調節機構と、骨形成・吸収の関係を論述できる。<br>**[A-3-1-9]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p132-150を読み、血中カルシウム濃度調節に関わる3つのホルモンを挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した甲状腺ホルモンによる基礎代謝の調節について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/23（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **副腎・膵臓ホルモンとエネルギー代謝**<br><br>ストレス反応に関わる副腎ホルモンと、糖代謝を制御する膵臓ホルモンの作用を学ぶ。電解質バランスの維持や、血糖調節の機序、糖尿病の病態について理解を深める。 | 1：副腎皮質および副腎髄質の生理作用を説明できる。<br>2: ホルモンの拮抗的な作用を理解し、血糖値の調節機構を記述できる。<br>3: 糖尿病の病態生理と、歯科治療時に考慮すべき合併症を説明できる。<br>4: ストレスに対する防御反応におけるホルモンの役割を概説できる。<br>**[A-3-1-9]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 p132-156を読み、血糖値を上昇させる複数のホルモンと下降させるホルモンを整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した副腎皮質と髄質ホルモンの生理作用について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/30（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **腎臓の概要と濾過機能**<br><br>腎臓の解剖学的構造とネフロンの構成を学び、尿生成の第一段階である糸球体濾過の仕組みとその調節機序について理解する。 | 1: 腎単位（ネフロン）の構造と、腎血流量の調節機構を説明できる。<br>2: 糸球体濾過量（GFR）を決定する要因を記述できる。<br>3: 糸球体濾過障壁の構造と、蛋白尿が発生する機序を概説できる。<br>**[A-3-1-10]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p59-75を読み、ネフロン（腎単位）を構成する各部位の名称を順番に挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した糸球体濾過量（GFR）を決定する要因について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/30（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **尿細管機能と物質輸送**<br><br>糸球体で濾過された原尿から、体に必要な物質（水、電解質、グルコース等）がどのように再吸収され、老廃物が分泌されるかを部位別に学習する。 | 1: 近位尿細管、ヘンレループ、遠位尿細管の各部位における物質輸送の特徴を説明できる。<br>2: グルコースやアミノ酸の再吸収メカニズムを記述できる。<br>3: 腎臓における排泄の意義と、クリアランスの概念について概説できる。<br>**[A-3-1-10]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p59-75を読み、原尿中の物質がどこでどのように再吸収されるか概要を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した腎クリアランスの概念と計算の意義について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/13（水） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **尿の濃縮と水電解質調節**<br><br>対向流増幅系による髄質の高浸透圧形成と、バゾプレシンによる水の再吸収調節を学び、体内の浸透圧を一定に保つ仕組みを理解する。 | 1: ヘンレループにおける対向流増幅系の仕組みと、髄質高浸透圧形成の意義を説明できる。<br>2: バゾプレシンによる集合管での水再吸収調節を記述できる。<br>3: 尿の濃縮・希釈を通じて、体液浸透圧が維持される機序を概説できる。<br>**[A-3-1-10]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p59-75を読み、対向流増幅系が尿の濃縮に果たす役割を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したバゾプレシンによる水の再吸収調節について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/14（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **血圧・体液量の長期調節（RAA系）**<br><br>腎臓が血圧や細胞外液量を感知し、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系（RAA系）を介していかに調節しているかを学ぶ。 | 1. 糸球体傍細胞によるレニン分泌の刺激因子を3つ挙げることができる。<br>2. レニン、アンジオテンシン、アルドステロンに至る流れを図示できる。<br>3. アンジオテンシンIIによる血管収縮、および副腎皮質への作用について説明できる。<br>4. アルドステロンによるナトリウム再吸収および水分保持のメカニズムを記述できる。<br>**[A-3-1-10]**<br>**事前学修**:基礎歯科生理学p100-101を読み、レニン分泌を促進する要因を3つ以上挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**:講義で解説したRAA系について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/14（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **血液pHの調節メカニズム**<br><br>生体内で生成される酸を中和し、血液pHを狭い範囲に維持するための緩衝系、呼吸性調節、および腎性調節の連携について理解する。 | 1: 重炭酸緩衝系を中心とした体液の緩衝作用を説明できる。<br>2: 呼吸と腎臓によるpH調節の役割分担を記述できる。<br>3: アシドーシスとアルカローシスの原因と、代償作用を概説できる。<br>**[A-3-1-10]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p59を読み、生体に備わっている3つのpH調節機構を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したアシドーシスとアルカローシスの病態について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 5/21（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **生理学演習Ⅱ**<br><br>到達度評価試験を行い、これまでの知識の再確認を行う。 | これまでの講義内容についての理解度を評価する。<br>**[A-3-8,9,10]**<br>**事前学修**:これまでの講義範囲を読み返し、重要用語の定義を再確認しておくこと。所要時間300分程度。<br>**事後学修**:テストで正解できなかった箇所を中心に、基礎歯科生理学と照らし合わせて自分の言葉で整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/21（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **感覚生理学総論**<br><br>外部環境からの刺激を神経信号へと変換する受容器の仕組み、感覚の種類、および刺激の強さや性質を脳が識別する基本原理について学習する。 | 1: 特殊感覚、体性感覚、内臓感覚の分類を列記できる。<br>2: 適刺激、受容器電位、順応の概念を説明できる。<br>3: 刺激の強さと受容器電位、および発火頻度の関係を概説できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p180-188を読み、適刺激、受容器電位、感覚の順応の定義を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した刺激の強さが活動電位の頻度に変換される仕組みについて、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/28（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **触圧覚と温冷覚の情報処理**<br><br>皮膚に存在する様々な受容器（メルケル細胞、パチニ小体等）の構造と、触圧刺激や温度刺激が電気信号に変換され、中枢へ伝達される過程を理解する。 | 1: 皮膚の触圧受容器の種類と、それぞれの特性の違いを記述できる。<br>2: 二点識別閾の概念を理解し、部位による鋭敏さの違いを説明できる。<br>3: 温受容器・冷受容器の特性と、温度受容メカニズムを概説できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p180-192を読み、皮膚に存在する受容器（触圧覚・温冷覚）の種類を挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した二点識別閾の部位差が生じる理由について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/28（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **痛覚の生理学と制御**<br><br>組織損傷を伝える侵害受容の仕組み、痛みの伝達経路、および生体に備わった痛みの抑制機構について学び、「痛み」の臨床的意義を理解する。 | 1: 侵害受容器の特徴と、痛み信号を伝える神経線維の違いを説明できる。<br>2: 一次痛と二次痛の発生機序を比較して記述できる。<br>3: 炎症性疼痛の発生メカニズムを概説できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p210-220を読み、痛みを伝える2種類の神経線維の特徴を比較しておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した疼痛発生機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/4（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **固有感覚（深部感覚）の情報処理**<br><br>筋肉や関節の状態を感知する受容器（筋紡錘・腱器官）の仕組みを学び、自分の体の位置や動きを把握し、運動を精密に制御するためのフィードバック機構を理解する。 | 1: 筋紡錘とゴルジ腱器官の構造と機能の違いを説明できる。<br>2: α－γ連関の意義と運動制御における役割を記述できる。<br>3: 意識にのぼる深部感覚と、非意識的な固有感覚の違いを概説できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p224-229を読み、筋紡錘と腱器官がそれぞれ何を検知しているか調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したα－γ連関が運動の感度に果たす役割について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 6/4（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **味覚の情報処理機構**<br><br>歯科臨床に極めて重要な味覚について、味蕾の構造、五基本味（甘・酸・塩・苦・旨）の受容メカニズム、および味覚情報の脳への伝達経路について詳しく学習する。 | 1: 味蕾の構造と、味細胞におけ電気信号変換プロセスを説明できる。<br>2: それぞれの受容体やイオンチャネルによる識別機序を記述できる。<br>3: 味覚を伝える脳神経と、中枢での伝達経路を概説できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p192-199を読み、五基本味の名称とそれぞれを受容する受容体の種類を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した味覚情報の伝達経路と関与する脳神経について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 6/11（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **視覚・聴覚・平衡感覚・嗅覚の概要**<br><br>視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚の各受容器におけるエネルギー変換（光・音・物理・化学刺激）の原理を理解する。 | 1: 視覚器における光受容メカニズムと視神経への伝達過程を概説できる。<br>2: 聴覚器における音の振動受容と、前庭器官による平衡感覚の受容原理を説明できる。<br>3: 嗅細胞における刺激の受容と、脳への情報の送り方を記述できる。<br>**[A-3-1-6]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p192-205を読み、視覚・聴覚・平衡感覚の受容器におけるエネルギー変換の場を特定しておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した外部刺激が神経信号に変わるプロセスについて、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/11（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **脊髄の構造と感覚上行路**<br><br>末梢で受容された感覚情報が、脊髄のどの部位を通り、どのような経路を経て脳に到達するかを整理する。また、脊髄の解剖学的構造と情報の統合機能を理解する。 | 1: 脊髄の横断面における灰白質と白質の構造を説明できる。<br>2: 後索－内側毛帯路の経路を記述できる。<br>3: 脊髄視床路の経路を、後索路と比較して図示できる。<br>4: 脊髄前根と後根の機能の違いを概説できる。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学 関連領域を読んで、脊髄の灰白質と白質の役割の違いを調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した味覚情報の伝達経路と関与する脳神経について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 6/18（木） | 1 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **唾液の性状と生理的役割**<br><br>口腔環境の維持に不可欠な唾液の性状、構成成分、および多岐にわたる生理機能について学習し、その重要性を理解する。 | 1. 唾液の構成成分（有機・無機質）と化学的性質を説明できる。<br>2. 安静時と刺激時唾液の性状および分泌量の違いを記述できる。<br>3. 唾液の多岐な生理機能（自浄・緩衝・抗菌等）を概説できる。<br>4. 大・小唾液腺による分泌物の特徴の差異を説明できる。<br>**[A-3-3-6,7]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p426-441を読んで,唾液が持つ機能を3つ以上挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した唾液の成分とその生理的意義について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 6/18（木） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **唾液腺の分泌調節機構**<br><br>大唾液腺の構造と、自律神経系による分泌調節（反射機構）を詳しく学ぶ。また、加齢や薬剤、疾患による分泌量の変化（口腔乾燥症）についても理解を深める。 | 1: 大唾液腺の組織学的特徴と分泌される唾液の質を比較できる。<br>2: 唾液分泌における二相性変化を説明できる。<br>3: 自律神経が唾液の量と質に及ぼす影響を記述できる。<br>4: 加齢変化や口腔乾燥症などの代表的な病態について概説できる。<br>**[A-3-3-6,7]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p426-441を読み、大唾液腺の名称と特徴を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した自律神経による分泌調節について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/25<br>（木） | 2 | 中村史郎教授<br>非常勤講師<br>（昭和医科大学 歯学部） | **運動機能の階層的制御と反射の生理学**<br><br>随意運動、リズム運動、反射の階層的制御を学ぶ 。筋紡錘や腱器官を介した脊髄反射の回路構成を整理し 、脳幹による姿勢・眼球運動の調節機序を理解する 。これにより後期の咀嚼・嚥下制御を学ぶ基礎を築く 。 | 1: 運動の階層性（随意・リズム・反射）を説明できる 。<br>2: 反射弓の構成を挙げ、単シナプス・多シナプス反射を図示できる 。<br>3：脳幹における運動パターン形成（CPG）の概念を提示できる 。<br>**[A-3-1-5-4,5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p223-225, p237-246, p370-371を読んで、随意運動と反射の定義の違いを調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した脳幹による反射の仕組みについて、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 7/9<br>（木） | 1 | 佐藤義英教授<br>非常勤講師<br>（日本歯科大学<br>新潟生命歯学部） | **消化管の構造と咀嚼・嚥下の準備**<br><br>消化管の共通構造（粘膜・筋層・自律神経支配）を学び、口腔から胃に至るまでの食物の輸送と初期消化の機序を理解する。 | 1. 消化管壁の基本4層構造と神経支配を説明できる。<br>2. 蠕動運動や分節運動など消化管の輸送機序を記述できる。<br>3. 胃液の成分と分泌調節のメカニズムを概説できる。<br>4. 胃の貯留・排出機能と自律神経の関係を説明できる。<br>**[A-3-3-7]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p157-179を読んで、胃液の成分と胃酸の役割を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した食道から胃における食塊の輸送機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 7/9<br>（木） | 2 | 佐藤義英教授<br>非常勤講師<br>（日本歯科大学<br>新潟生命歯学部） | **消化腺の機能と化学的消化の統合**<br><br>強力な消化酵素を出す膵臓、胆汁を生成する肝臓、および十二指腸における化学的消化のプロセスを学び、器官間の連携を理解する。 | 1. 膵液に含まれる消化酵素の種類と活性化機序を説明できる。<br>2. 肝臓の主要な生理機能（代謝・解毒等）を記述できる。<br>3. 胆汁による脂質の乳化プロセスと排泄経路を概説できる。<br>4. 消化管ホルモンによる膵液・胆汁の分泌調節を説明できる。<br>**[A-3-3-7]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p157-179を読んで、膵臓から出る消化酵素の名称を3つ以上挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した十二指腸における化学的消化の連携について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 7/16（木） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **栄養素の吸収機序と水分調節**<br><br>小腸での最終的な分解と栄養素の吸収機序、および大腸における水分吸収と排泄の仕組みを学ぶ。 | 1. 三大栄養素（糖・蛋白・脂質）の吸収経路を記述できる。<br>2. 小腸粘膜における二次能動輸送の仕組みを説明できる。<br>3. 大腸における水分・電解質の再吸収プロセスを概説できる。<br>4. 排便反射の機序と関与する自律神経を説明できる。<br>**[A-3-3-7]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p157-179を読んで、小腸の絨毛構造が吸収に有利な理由を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した各栄養素の分解から吸収に至る一連のフローについて、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 9/30（水） | 4 | 山村健介教授<br>非常勤講師<br>（新潟大学 歯学部） | **記憶と学習の生理学**<br><br>経験によって行動が変容する「学習」と、その情報を保持する「記憶」の仕組みを、シナプス可塑性（長期増強：LTPなど）の分子メカニズムから脳領域（海馬など）の役割まで学習する。 | 1. 記憶の種類（短期・長期、宣言・非宣言）を分類できる。<br>2. シナプス可塑性（LTP）の発生機序を説明できる。<br>3. 記憶形成における海馬および大脳皮質の役割を記述できる。<br>4. 学習による行動変容の生理学的意義を概説できる。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p246-277を読んで、短期記憶から長期記憶へ移行するための条件を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したシナプス可塑性（長期増強：LTP）の発生機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 10/7（水） | 2 | 福本健太郎准教授<br>（医学部 神経精神科学講座） | **精神機能と情動の生理学**<br><br>脳による「こころ（精神）」の制御機構を、情動（1次・2次）や報酬系の仕組みから学ぶ。また、精神疾患の病態や、歯科治療時に留意すべき抗精神病薬の副作用、口腔セネストパチーについて理解を深める。 | 1. 情動に関与する大脳辺縁系（扁桃体等）の役割を説明できる 。<br>2. 報酬系におけるドパミン作動性ニューロンの意義を概説できる 。<br>3. 抗精神病薬が顎口腔領域に及ぼす副作用を列記できる 。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p246-277を読んで、情動（喜怒哀楽）に関与する大脳辺縁系の主な部位を挙げておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したドパミンによる報酬系と歯科的副作用について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/14（水） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **高次脳機能と脳の統合**<br><br>知覚、思考、言語、意思決定といった人間特有の高次脳機能を整理する。大脳皮質の連合野（前頭連合野など）による情報の統合と、左右半球の機能差、言語野の局在について学ぶ。 | 1. 各連合野（前頭・頭頂・側頭）の主な役割を説明できる。<br>2. 言語中枢（ブローカ野・ウェルニッケ野）の局在を記述できる。<br>3. 優位半球（左右大脳半球の機能差）について概説できる。<br>4. 脳波の波形と意識レベルや睡眠段階の関係を説明できる。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p246-277を読んで、ブローカ野とウェルニッケ野の機能的な違いを調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した優位半球の概念と言語中枢の局在について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 10/21（水） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **口腔体性感覚の生理**<br><br>歯根膜感覚、舌・粘膜の触圧覚、および歯髄感覚（歯の痛み）の受容メカニズムを学ぶ。口腔特有の鋭敏な感覚がいかに咀嚼運動の制御に寄与しているかを理解する。 | 1. 歯根膜受容器の種類と咬合力の感知機序を説明できる。<br>2. 舌および口腔粘膜における触圧受容の特性を記述できる。<br>3. 歯髄神経による痛みの受容メカニズムを概説できる。<br>4. 口腔感覚が下顎運動の調節に果たす役割を説明できる。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p301-321を読んで、歯根膜受容器が感知する「咬合力」の性質を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した口腔内の鋭敏な感覚が咀嚼制御に果たす役割について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/4（水） | 2 | 黒瀬雅之教授（生理学講座 病態生理学分野） | **顎反射の仕組みと臨床的意義**<br><br>閉口反射や開口反射など、口腔周囲の筋運動を制御する反射回路を学ぶ。不意の侵害刺激に対する防御反応や、咀嚼時のリズム調節における役割を理解する。 | 1. 閉口反射の反射弓と受容器を説明できる。<br>2. 開口反射の反射弓と、それを誘発する刺激を記述できる。<br>3. 歯根膜咬筋反射の機序と臨床的意義を説明できる。<br>**[A-3-1-5]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p356-372を読んで、開口反射と閉口反射がそれぞれどのような刺激で誘発されるか調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した顎運動に関わる主要な反射回路について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/11（水） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **咀嚼運動の生理**<br><br>下顎、舌、頬の協調運動としての咀嚼を理解する。脳幹の咀嚼中枢（CPG）によるリズム形成と、食塊の性状に応じた末梢からのフィードバック調節を学ぶ。 | 1. 1回の咀嚼周期（開口・閉口・咬合相）を定義できる。<br>2. 脳幹（CPG）による咀嚼リズムの生成機序を説明できる。<br>3. 食塊の性状に応じた咀嚼運動の調節メカニズムを記述できる。<br>4. 咀嚼能率の評価法と、その生理学的意義を概説できる。<br>**[A-3-2]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p373-399を読んで、1回の咀嚼周期（開口～咬合）の各相の名称を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した脳幹による咀嚼リズムの生成について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/18（水） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **嚥下の生理学**<br><br>口腔内の食塊を胃へ送り込む一連の不可逆的な反射運動について、5つのステージ（先行期、準備期、口腔期、咽頭期、食道期）に分けて学習する。 | 1. 嚥下5期（先行期～食道期）の定義と流れを説明できる。<br>2. 咽頭期における喉頭挙上と気道閉鎖の機序を記述できる。<br>3. 嚥下運動と呼吸運動の協調メカニズムを概説できる。<br>4. 脳幹（延髄）の嚥下中枢による運動制御を説明できる。<br>**[A-3-2]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p400-412を読んで、嚥下5期のうち「第3期（咽頭期）」で起こる気道保護機能を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した一連の嚥下運動の連動について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/25（水） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **嘔吐反射の生理**<br><br>有害物質の排出や生体防御として機能する嘔吐の機序を学ぶ。あわせて、歯科治療の妨げとなる催吐反射（絞扼反射）の受容部位と、中枢への伝達・発現プロセスを理解する。 | 1. 嘔吐中枢およびCTZを介した反射の仕組みを説明できる。<br>2. 嘔吐に伴う身体的反応（呼吸停止・腹圧上昇等）を記述できる。<br>3. 絞扼反射の生理的機序と受容部位を概説できる。<br>**[A-3-2]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p419-423を読んで、嘔吐中枢を刺激する末梢および中枢の要因を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した嘔吐の発生機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/9<br>（水） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **発声（発音）の生理学**<br><br>肺からの呼気エネルギーを声帯の振動によって音源（原音）へと変換する、発声のメカニズムを学ぶ。喉頭の解剖学的構造と、声の高さ・強さを調節する神経制御を理解する。 | 1. 発声の三要素（呼気、声帯振動、共鳴）を定義できる。<br>2. 喉頭の解剖的構造と声帯の運動調節を説明できる。<br>3. ベルヌーイ効果による声帯振動の物理的機序を記述できる。<br>4. 喉頭神経麻痺が音声生成に与える影響を概説できる。<br>**[A-3-2]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p442-462を読んで、発声の三要素（呼気、声帯振動、共鳴）の定義を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説したベルヌーイ効果による声帯振動の物理的機序について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 12/16<br>（水） | 2 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野） | **構音（言語生成）の生理学**<br><br>喉頭で作られた原音を、口腔、咽頭、鼻腔の形状変化（共鳴）によって言語へと加工する構音プロセスを学ぶ。特に、歯の欠損や補綴物が音韻に及ぼす影響を理解する。 | 1. 構音の定義と構音器官（舌・唇・軟口蓋等）を説明できる。<br>2. 母音と子音の生成における構音様式の違いを記述できる。<br>3. 鼻音生成時における軟口蓋の開閉メカニズムを概説できる。<br>4. 歯科的要因（欠損や義歯）による構音障害の機序を説明できる。<br>**[A-3-2]**<br>**事前学修**：基礎歯科生理学p442-462を読んで、母音と子音の生成における構音器官の動態を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：講義で解説した歯科的要因が構音に及ぼす影響について、自分の言葉で説明できるようノートを整理すること。所要時間45分程度。 |

## 実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/1<br>（木）<br><br>10/8<br>（木） | 3<br>4 | 黒瀬雅之教授<br>（生理学講座 病態生理学分野）<br><br>山村健介教授<br>非常勤講師<br>（新潟大学 歯学部） | **心電図**<br><br>心電図記録の手技を習得し、各波形および心電軸が示す心筋の興奮伝導プロセスの生理的意義を理解する。<br><br>**血　圧**<br><br>聴診法による血圧測定の原理を理解し、正確な測定技術を習得する。あわせて、姿勢の変化や運動負荷などの外部刺激が自律神経を介して血圧・心拍数に及ぼす動態を理解する。 | 1. 心電計の電極を正しく装着し、心電図記録を適切に実施できる。<br>2. 心電図の各波形（P, QRS, T）と心筋興奮の対応を説明できる。<br>3. 聴診法による血圧測定の原理を理解し、正確に測定できる。<br>4. コロトコフ音の発生機序と最高・最低血圧の定義を記述できる。<br>5. 安静時と負荷時の心拍数・血圧の変化を計測し比較できる。<br>6. 外部刺激による循環動態の変化を自律神経の観点から考察できる。<br>**[A-3-1-4、D-2-3-5]**<br>**事前学修**：心電図の基本波形の意味と聴診法による血圧測定の原理を調べておくこと。所要時間30分程度。<br>**事後学修**：実習で得られた自己のデータを解析し、運動負荷等が循環系に及ぼす影響を自分の言葉で整理すること。所要時間45分程度。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 基礎歯科生理学　第７版 | 岩田幸一・井上富雄・舩橋誠・加藤隆史　編 | 医歯薬出版 | 2020 |
| 参 | ビジュアル生理学・口腔生理学　第４版 | 吉垣純子・石井久淑編 | 学建書院 | 2025 |
| 参 | 標準生理学<br>第１０版 | 鯉淵典之・伊佐 正・河合佳子・八木田和弘・横山詩子・久場博司編 | 医学書院 | 2025 |
| 参 | 生理学テキスト<br>第９版 | 大地陸男　著 | 文光堂 | 2022 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

生理学Ⅱの成績評価は、講義で習得した知識の定着度を確認する到達度試験および定期試験、実習の理解度を測る実習レポート、日々の学習姿勢を反映する平常点を合算して総合的に判定する。

**到達度試験および定期試験**：前期の段階で基礎知識の定着を確認する到達度試験を実施し、その後、前期・後期の各学期末に定期試験を行う。これらにより、一般生理学および口腔生理学の広範な知識と理解度を評価する。

・定期試験の再試験と追試験：大学の規定に従い、指定された期間内に実施する。

・到達度試験の追試験：原則として実施しない。ただし、診断書の提出がある病欠や忌引き等、やむを得ない事情がある場合に限り実施する。その際、試験成績は本来の点数の90%として換算する。

・到達度試験の再試験：クラス全体の平均点が70点を下回った場合に限り実施する。実施時期については、該当学生と相談の上で決定する。

**実習評価（レポート）**：レポートを期日までに提出することを評価の前提とする。レポートでは、手技の理解に加え、得られたデータの生理学的考察が適切になされているかを評価の対象とする。

・提出期限の厳守：期日を過ぎたレポートは、理由の如何を問わず採点対象から除外する。

・評価内容：手技の理解に加え、得られたデータの生理学的考察が適切になされているかを評価の対象とする。

**平常点（リアクションペーパー）**：Web-Classを通じて提出されるリアクションペーパーを評価に加味する。講義内容の要約や自身の考察を言語化する能力、主体的な学習態度を重視する。

・提出期限の厳守：期日を過ぎた提出は一切受け付けない。

・評価内容：講義内容の要約や自身の考察を言語化する能力、主体的な学習態度を重視する。

**評価の開示について** リアクションペーパーおよびレポートの個々の点数については、開示しない。

**合格基準** 別途定める配点割合に基づき合算した総点数の65%以上を取得した者を合格とする。

| 到達目標 | DP | 到達度試験 | 定期試験 | レポート | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2,4,8 | 6 | 4.5 | 6 | 1 | 17.5 |
| 2,3 | 4,8 | 12.5 | 13 | | 1 | 26.5 |
| 4,5 | 4,8 | | 14 | | 1 | 15 |
| 6,7 | 4,8 | | 18.5 | | 1 | 19.5 |
| 8,9,10 | 4,8 | | 20.5 | | 1 | 21.5 |
| **合計** | | **18.5** | **70.5** | **6** | **5** | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

各講義の事前事後学修の具体的内容や試験に関する連絡は、①講義時に担当教員からの伝達 ②クラス委員への伝達のいずれかで行う。講義資料はWeb-Classで配信を行う。
試験問題は原則回収するが、試験後に教員に開示を求めることが出来る。写真撮影は認めない。
試験に関しては、原則追試験は行わないが、新型ウイルス感染症など大学が公式に認めた欠席の場合は追試験を行う。診断書があれば必ず追試験を受験出来るわけではない。
到達度試験に関しては、再試験を実施する場合がある。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| アネロイド血圧計 | | 6 | 基礎実習用機器 | 血圧測定 |
| 聴診器 | | 10 | 基礎実習用機器 | 血圧測定 |
| 標準12誘導解説機能付心電計 | ECG Explorer 500X1 | 1 | 基礎実習用機器 | 心電図計測 |

# 生化学Ⅱ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 生化学講座（細胞情報科学分野）　石崎　明　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 生化学講座（細胞情報科学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通期 | | 前期 | 28.0時間 | 28.0時間 |
| | | | 後期 | 28.0時間 | — |

## 学修方針（講義概要等）

生体を構成する成分の化学的構造や生体における化学反応を理解することを目的とする。初年時に学習した生物学、化学および生化学Ⅰの知識を活用することで、より深い理解を得ることができる。本科目で得られた知識を臨床科目の生化学的側面の理解に役立てることを目標とする。

## 教育成果（アウトカム）

【講義/演習】
前期は主として一般生化学の内容を実施する。生体成分やエネルギーとなる物質の構造、機能、代謝の基礎的原理を理解する。後期は口腔生化学の学習をすることにより、口腔領域を構成する分子の構造と機能を生化学的に理解する。これらの学習により、臨床科目の生化学、細胞生物学、分子生物学的側面を理解する。
【実習】
タンパク質や核酸の取扱いならびに分析方法を学習することにより、講義内容をより深く理解する。将来、歯科医師として診断や研究に携わる際に役立つ生化学・分子生物学的技術を修得するとともに、客観的かつ論理的な考察を導き出すことができる。

（関連するディプロマポリシー：4、8）

## 到達目標（SBOs）

1. 生体構成成分の化学構造や機能を理解する。
2. 代謝や恒常性維持等の高次生命現象を説明できる。
3. 口腔領域を構成する分子の構造と機能を理解する。
4. 研究手法の原理を理解し、客観的かつ論理的な考察ができる。
5. 臨床科目の生化学的側面の理解に役立てる準備ができる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、各回到達目標の内容に関し教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。授業終了後は配布された資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は最低60分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとし、適宜、講義時間内で事前学修内容に関する質疑応答を行う。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習/実習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/8（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **代謝Ⅰ［糖質代謝：解糖系と糖新生］**<br><br>生体を構成する基本物質である糖質の分解経路と、合成経路を理解する。 | 1. 解糖系による糖の分解を概説できる。<br>2. 解糖系と糖新生系を比較する。<br>3. 糖新生の役割を説明できる。<br>4. 解糖系と糖新生系の調節を説明できる。<br>**[A-1-2-2, A-1-2-5]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p.69-80を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/8（水） | 4 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **代謝Ⅱ［グリコーゲン代謝、ペントースリン酸回路とヌクレオチド代謝］**<br><br>グリコーゲンならびにペントースの生体内代謝を理解する。 | 1. グリコーゲンの合成と分解および調節機構について説明できる。<br>2. グルコース異化経路としてペントースの代謝を説明できる。<br>3. ペントースリン酸回路におけるリボースリン酸合成とNADPH生成を説明できる。<br>4. プリンおよびピリミジン塩基の合成と分解の経路の違いを対比できる。<br>5. 再利用経路の意義について説明できる。<br>6. ヌクレオチド代謝に関与する代謝疾患を説明できる。<br>**[A-1-2-2, A-1-3-2]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p.69-80を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/15（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **代謝Ⅲ［TCAサイクル、酸化的リン酸化とATP合成］**<br><br>ピルビン酸の分解経路と電子伝達系における酸化的リン酸化の役割を理解する。 | 1. ピルビン酸からアセチルCoAへの転化とそれに続くTCAサイクルと酸化的リン酸化によるATP産生の過程を概説できる。<br>2. 電子伝達系におけるプロトンの流れとATP合成を関連づけて説明できる。<br>3. ATP合成酵素によるATP合成のしくみを説明できる。<br>4. 酸化的リン酸化の阻害剤や脱共役剤を列挙し、その作用について説明できる。<br>**[A-1-2-2, A-1-2-4]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p.81-92を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 実習 | 4/15（水） | 4 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **実習ガイダンス**<br><br>実験に必要な態度を理解する。 | 1. 実験に必要な態度を示すことができる。<br>2. 実習に必要な知識を理解する。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5]** |
| 演習 | 5/13（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習①**<br><br>代謝Ⅰ～Ⅲで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-1-2-2, A-1-2-4, A-1-2-5, A-1-3-2]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |
| 実習 | 5/13（水） | 4 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **基本実技/試薬調製**<br><br>実験に必要な本操作および計算方法を理解する。 | 1. 試薬の濃度計算やpH調節ができる。<br>2. 用途にあわせた定量器を選択できる。<br>3. 自動ピペットを正しく使用できる。<br>4. 実習に必要な試薬を調製できる。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 5/20（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **代謝Ⅳ［脂質・アミノ酸代謝］**<br><br>脂質の生体内代謝とその動態について理解する。タンパク質の分解とその後のアミノ酸の生体内代謝について理解する。 | 1. 脂質の吸収や生体内での運搬のしくみについて理解する。<br>2. 脂肪酸のβ酸化を説明できる。<br>3. 脂質代謝と疾患との関係について説明できる。<br>4. アミノ基転移反応を説明できる。<br>5. 尿素回路とその役割を説明できる。<br>**[A-1-2-1, A-1-2-3, A-1-2-5, A-1-2-8]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p.93-138を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/20（水） | 4 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **代謝Ⅴ［血糖調節と代謝］**<br><br>血糖調節ホルモンが代謝を調節し、血糖レベルの維持に働いていることを理解する。 | 1. 血糖調節ホルモンを列挙し、その作用を説明できる。<br>2. 肝臓や筋における血糖調節ホルモンによる糖質代謝調節のしくみを説明できる。<br>3. 脂肪組織における血糖調節ホルモンによる脂質代謝調節のしくみを説明できる。<br>4. 飢餓や糖尿病におけるケトン体利用のしくみを理解する。<br>5. 筋における血糖調節ホルモンによるタンパク質代謝調節のしくみを説明できる。<br>**[A-1-2-9]**<br>事前学修：教科書「図解よくわかる生化学」p.69-138を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 実習 | 5/27（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **遺伝子発現解析法［RT-PCR法による骨分化マーカー遺伝子の増幅］**<br><br>RT-PCRを実施することにより、遺伝子増幅の原理について理解する。 | 1. PCR法ならびにcDNAを鋳型としたRT-PCR法の原理および利用法について説明できる。<br>2. 遺伝子増幅装置を扱うことができる。<br>3. 遺伝情報の伝達機構（セントラルドグマ）について説明できる。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-4-1, A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5]** |
| 実習 | 5/27（水） | 4 | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 6/3（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **遺伝子発現解析法［RT-PCR法による骨分化マーカー遺伝子の検出］**<br><br>PCR産物の検出を実施することにより、特異的に発現する遺伝子について理解する。 | 1. 核酸のアガロースゲル電気泳動法の原理について概説できる。<br>2. PCR産物とDNAマーカーの染色像からサイズ（塩基対）を推定できる。<br>3. 遺伝子の組織特異的発現について説明できる。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-4-1, A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5]** |
| 実習 | 6/3（水） | 4 | | | |
| 演習 | 6/10（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習②**<br><br>代謝Ⅳ～Ⅴで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-1-2-1, A-1-2-3, A-1-2-5, A-1-2-8, A-1-2-9]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |
| 講義 | 6/10（水） | 4 | 中居賢司<br>客員教授 | **代謝Ⅵ［代謝性疾患の生化学］**<br><br>糖・脂質代謝の異常と疾患―糖尿病や心筋梗塞症など―の関連を理解する。 | 1. 疾患の生化学的側面を説明できる。<br>2. 糖質・脂質代謝について理解を深める。<br>3. 糖尿病や心筋梗塞症を代謝と関連付けて説明できる。<br>4. 歯科治療における全身管理の意義を説明できる。<br>**[A-1-2-2, A-1-2-3, A-1-2-9]**<br>事前学修：代謝Ⅰ～Ⅴについて講義プリントを見直しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 実習 | 6/17（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **定量分析法［カルシウムとリンの定量／アルカリホスファターゼの活性測定］**<br><br>硬組織関連因子の測定を実施することにより、硬組織の組成や石灰化について理解する。 | 1. カルシウムならびにリンの定量法について説明できる。<br>2. 脱灰液中のカルシウムとリンの濃度比を算出できる。<br>3. 硬組織の無機成分であるヒドロキシアパタイトについて理解する。<br>4. 酵素溶液の取扱いを習熟する。<br>5. 酵素反応速度論ならびに酵素活性の阻害作用を概説できる。<br>6. 石灰化におけるアルカリホスファターゼの役割を理解する。<br>**[A-1-1-2, A-1-2-5, A-1-3-5, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-4-1, A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5]** |
| 実習 | 6/17（水） | 4 | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/24（水） | 3 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **恒常性Ⅰ［血液の成分と機能］**<br><br>細胞の生存と活動を支えている血液の成分とそれらの働きについて理解する。 | 1. 血液の主な働きを説明できる。<br>2. 血球細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる。<br>3. 血漿成分の働きや疾患における変化について説明できる。<br>4. 血液凝固因子の特徴ならびに血液凝固と線溶の過程を説明できる。<br>5. ヘム・ポルフィリン代謝を説明できる。<br>**[A-3-1-4-5, A-3-1-4-8, A-1-4-2]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p. 201-232を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 6/24（水） | 4 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **恒常性Ⅱ［ホルモン・サイトカイン］**<br><br>受容体を介する情報伝達のしくみ、ホルモンの種類と作用を理解する。 | 1. 細胞膜受容体と細胞内受容体について説明できる。<br>2. ペプチドホルモンとステロイドホルモンの作用機構を説明できる<br>3. 各種プロテインキナーゼによる細胞内情報伝達機構を概説できる。<br>4. 代表的増殖因子やサイトカインを列挙し、その作用機構を概説できる。<br>5. ホルモンの分泌異常と疾患を関係づける。<br>**[A-1-1-2, A-1-2-1, A-1-2-3, A-1-4-1, A-1-5-2, A-3-1-9-2]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「図解よくわかる生化学」p. 175-200を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 実習 | 7/1（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **タンパク質分析法［電気泳動法による唾液タンパク質の分離・分析］**<br><br>唾液タンパク質の電気泳動法による分析を実施することにより、タンパク質の性質および唾液の有機成分について理解する。 | 1. ポリアクリルアミドゲル電気泳動法の原理を説明できる。<br>2. 界面活性剤を概説できる。<br>3. タンパク質溶液の取扱いを習熟する。<br>4. タンパク質の染色法を説明できる。<br>5. 分子量の違いから唾液に含まれるタンパク質を推定できる。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-4-1, A-3-3-6, A-3-3-7]** |
| 実習 | 7/1（水） | 4 | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 7/8（水） | 3 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **タンパク質分析法［ウェスタンブロット法による唾液アミラーゼの検出］**<br><br>唾液アミラーゼのウェスタンブロット法による検出を実施することにより、アミラーゼの構造や性質・機能について理解する。 | 1. ウェスタンブロット法の原理を説明できる。<br>2. 抗原抗体反応を説明できる。<br>3. 酵素の活性染色を概説できる。<br>4. アミラーゼの分子量を推定できる。<br>5. 唾液におけるアミラーゼの役割を理解する。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5, A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-4-1, A-3-3-6, A-3-3-7]** |
| 実習 | 7/8（水） | 4 | | | |
| 講義 | 7/15（水） | 3 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **恒常性Ⅲ［炎症のメカニズム］**<br><br>炎症のメカニズムとそれを調節する細胞や分子の作用を理解する。 | 1. 自然免疫と獲得免疫を概説できる。<br>2. 炎症関連細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる<br>3. 急性炎症と慢性炎症の発生機序を説明できる。<br>4. 炎症性サイトカインの機能を説明できる。<br>5. 代表的なケミカルメディエーターを列挙し、その作用を説明できる。<br>6. アラキドン酸カスケードを説明できる。<br>**[A-1-2-1, A-1-2-3, A-1-2-7, A-4-2-1, A-5-5-1, A-5-5-2]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「口腔生化学」p. 295-232を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 7/15（水） | 4 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **癌の生化学Ⅰ［癌遺伝子、癌抑制遺伝子］**<br><br>発癌の原因ならびに転移・浸潤のメカニズムについて理解する。 | 1. 代表的な癌遺伝子と癌抑制遺伝子を列挙する。<br>2. 癌遺伝子や癌抑制遺伝子の機能を説明できる。<br>3. 遺伝子変異と発癌の分子機構を説明できる。<br>4. 癌の悪性化と多段階発癌を説明できる。<br>5. 癌の転移や浸潤のメカニズムについて説明できる。<br>**[A-1-2-7, A-1-3-2, A-5-1-1, A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-4, A-5-6-5]**<br>事前学修：生化学Ⅰの学修内容の復習ならびに教科書「口腔生化学」p. 29-66を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 7/22（水） | 3 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習③**<br><br>恒常性Ⅰ～Ⅲ、癌の生化学Ⅰで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-3-1-4-5, A-3-1-4-8, A-1-4-2, A-1-1-2, A-1-2-1, A-1-2-3, A-1-2-7, A-1-4-1, A-1-5-2, A-3-1-9-2, A-4-2-1, A-5-5-1, A-5-5-2, A-1-3-2, A-5-1-1, A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-4, A-5-6-5]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |
| 講義 | 7/22（水） | 4 | 齋藤正夫<br>非常勤講師<br>（山梨大学医学部教授） | **癌の生化学Ⅱ［癌の発生機序、浸潤・転移のメカニズム］**<br><br>癌の発生機序と浸潤・転移のメカニズムについて理解する。 | 1. 癌細胞の特性について説明できる。<br>2. 発癌の原因を列挙する。<br>3. 細胞周期の調節機構を説明できる。<br>4. アポトーシスのメカニズムを説明できる。<br>5. 癌の転移や浸潤の機構について理解を深める。<br>**[A-1-3-2, A-5-1-1, A-5-6-1, A-5-6-2, A-5-6-4, A-5-6-5]**<br>事前学修：癌の生化学Ⅰについて講義プリントを見直しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 実習 | 8/19（水） | 3 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **実習講義［分子生物学的研究手法］**<br><br>基本的な実験手法の原理を理解する。 | 1. 核酸の解析手法を列挙できる。<br>2. タンパク質の解析手法を列挙できる。<br>3. 各ブロッティング法、PCR法、塩基配列決定法、ELISA法を説明できる。<br>4. 遺伝子変異・多型を概説できる。<br>**[A-1-3-2, A-1-3-3, A-1-3-5, A-1-3-6]**<br>講義の中で教員とのディスカッションの機会を設定する。 |
| 実習 | 8/19（水） | 4 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野）<br><br>横田聖司講師<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **実習プレゼンテーション**<br><br>実習で得た知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 実験手法を概説できる。<br>2. 班員で協力して発表資料を作製できる。<br>3. 発表方法を身につける。<br>4. 発表を聞く態度を身につける。<br>5. 考えの異なる意見を尊重し、議論に参加できる。<br>**[A-1-1-2, A-1-3-5]**<br>実習内容に関してプレゼンテーションを実施する機会を設け、発信する力の強化を狙う。加えて実習内容の理解を深める。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 9/25<br>（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **結合組織Ⅰ［線維成分の構造と機能］**<br><br>結合組織の主要成分であるコラーゲンおよびエラスチンの構造と機能を理解する。 | 1. コラーゲンの種類と存在部位を列挙する。<br>2. コラーゲン分子のアミノ酸組成、一次構造および高次構造の特徴を説明できる。<br>3. コラーゲンの生合成を説明できる。<br>4. エラスチンの構造を説明できる。<br>5. コラーゲンおよびエスラチンの架橋構造を説明できる。<br>6. コラーゲンの異常による疾患を概説できる。<br>**[A-1-5-3, A-1-5-4]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.87-126を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 10/2<br>（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **結合組織Ⅱ［細胞外マトリックス成分の機能］**<br><br>プロテオグリカンおよび細胞接着に関わる細胞外マトリックス成分の構造と機能を理解する。 | 1. プロテオグリカンの特徴を説明できる。<br>2. 主要なグリコサミノグリカンを列挙できる。<br>3. 主要なプロテオグリカンの構造と機能および分布を説明できる。<br>4. 主要な接着性タンパク質の構造と機能および分布を説明できる。<br>5. インテグリンの構造と機能を説明できる。<br>6. 主要な細胞接着因子の構造と機能を説明できる。<br>**[A-1-5-1, A-1-5-3]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.87-126を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/9（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **結合組織Ⅲ［細胞外マトリックスの分解調節機構］**<br><br>細胞外マトリックス成分の分解とその調節機構を理解する。 | 1. マトリックスメタロプロテアーゼ(MMP)の特徴、および主要なMMPの機能について説明できる。<br>2. セリンプロテアーゼの種類と役割について説明できる。<br>3. マトリックス成分の分解調節機構について説明できる。<br>4. 基底膜の構造と構成成分を説明できる。<br>5. ケラチンの構造と機能を説明できる。<br>6. 細胞骨格と細胞接着装置の成分と役割について説明できる。<br>**[A-1-5-3, A-1-5-4]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.87-126を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 10/16（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習④**<br><br>結合組織Ⅰ～Ⅲで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-1-5-1, A-1-5-3, A-1-5-4]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |
| 講義 | 10/23（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **硬組織Ⅰ［歯や骨の成分・組成・石灰化］**<br><br>骨、象牙質、エナメル質、セメント質の性状と機能を理解する。 | 1. 押し上げ説、エピタキシー説、基質小胞説を概説できる。<br>2. 硬組織を構成する無機質と有機質の占める割合を説明できる。<br>3. ヒドロキシアパタイト結晶の基本構造を説明できる。<br>4. ヒドロキシアパタイト結晶におけるイオン交換について説明できる。<br>5. 骨、象牙質およびセメント質の有機成分を列挙する。<br>6. エナメル質および象牙質に特有なタンパク質について説明できる。<br>**[A-3-1-2-5, A-3-4-3, A-3-4-4]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.127-180を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/30（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **硬組織Ⅱ［骨代謝のメカニズム］**<br><br>骨芽細胞と破骨細胞の相互作用による骨形成・骨吸収のしくみを理解する。 | 1. 歯科における骨科学の重要性を認識する。<br>2. 骨の成長のしくみについて細胞レベルで理解する。<br>3. 骨芽細胞の増殖・分化とこの細胞による骨形成のしくみについて分子レベルで説明できる。<br>4. 骨吸収因子による骨芽細胞を介した破骨細胞の分化と成熟について説明できる。<br>**[A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p. 181-204を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/6（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **硬組織Ⅲ［骨のリモデリング・代謝性骨疾患］**<br><br>骨リモデリングについて理解し、この異常と各種疾患の発症との関連性について理解する。 | 1. 破骨細胞による骨吸収を分子レベルで説明できる。<br>2. 骨形成や骨吸収と体内カルシウム動態との関連性について理解する。<br>3. 骨リモデリングの異常と疾患を関連付けることができる。<br>4. 代謝性骨疾患を列挙できる。<br>**[A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p. 181-204を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/13（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **硬組織Ⅳ［血清カルシウム調節］**<br><br>ホルモンによる血清カルシウム調節のしくみについて理解する。 | 1. 生体内におけるカルシウムの役割と動態を説明できる。<br>2. 血中カルシウムの恒常性に関与する臓器とホルモンを列挙できる。<br>3. 副甲状腺ホルモンの性状と作用機序について説明できる。<br>4. カルシトニンの性状と作用機序について説明できる。<br>5. ビタミンD3の合成と活性化を説明できる。<br>6. ビタミンD3の性状と核内受容体を介した作用機序について説明できる。<br>7. 血中カルシウムの変動に続いて起る、3つのホルモンによるカルシウム濃度の正常化のしくみを統合して説明できる。<br>**[A-3-1-9-1, A-3-1-9-2, A-3-1-9-3]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.205-230を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 11/20（金） | 1 | 石崎明教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習⑤**<br><br>硬組織Ⅰ～Ⅳで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-3-1-2-2, A-3-1-2-3, A-3-1-2-4, A-3-1-2-5, A-3-1-9-1, A-3-1-9-2, A-3-1-9-3]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |
| 講義 | 11/27（金） | 1 | 桑島幸紀准教授<br>（口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野） | **硬組織Ⅴ［口腔内の硬組織と矯正歯科治療］**<br><br>口腔内を構成する硬組織と矯正治療の関連を生化学的に理解する。 | 1. 口腔内を構成する硬組織を説明できる。<br>2. 歯根、歯根膜、歯槽骨の機能について説明できる。<br>3. 矯正歯科治療について概説できる。<br>**[A-3-1-2全般, E-5-4全般]**<br>事前学修：硬組織Ⅰ～Ⅳについて講義プリントを見直しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/4（金） | 1 | 帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野） | **唾液［唾液の成分と作用］**<br><br>唾液の無機成分と有機成分、作用について理解する。 | 1. 唾液の種類と一般的な特徴を説明できる。<br>2. 唾液の作用を列挙する。<br>3. 唾液の無機成分を列挙する。<br>4. 唾液の有機成分を列挙し、その機能を説明できる。<br>6. 唾液の酵素を列挙し、その作用を説明できる。<br>**[A-3-3-6, A-3-3-7]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.231-248を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 12/11（金） | 1 | 帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野） | **歯周組織Ⅰ［歯の堆積物］**<br><br>ペリクルとプラークの形成機構を理解し、プラーク細菌の糖代謝とう蝕の発生機序を理解する。 | 1. ペリクル・プラークの組成、形成過程とその役割を説明できる。<br>2. プラーク細菌の菌体外多糖の合成に関与する酵素と基質を挙げ、合成機構を説明できる。<br>3. プラーク細菌による糖代謝の特徴と酸産生を説明できる。<br>4. ステファン曲線と臨界pHを説明できる。<br>5. プラーク細菌によるアミノ酸代謝の特徴と産生物を概説できる。<br>**[A-1-2-1, A-1-2-2, A-5-5-1]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.249-294を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 12/18（金） | 1 | 帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野） | **歯周組織Ⅱ［歯周疾患の生化学］**<br><br>歯周疾患の成り立ちを理解し、歯周組織の破壊と再生のメカニズムを理解する。 | 1. 歯周組織を破壊する因子を列挙できる。<br>2. 歯周炎発症の分子機構を説明できる。<br>3. 炎症性サイトカインを列挙し、その機能を概説できる。<br>4. 慢性歯周炎への移行について説明できる。<br>5. 炎症性骨吸収のメカニズムを説明できる。<br>6. 組織再生性細胞の働きを説明できる。<br>7. 組織再生誘導材料を列挙できる。<br>**[A-4-2-1, A-5-5-1, A-5-3-1]**<br>事前学修：教科書「口腔生化学」p.295-344を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 1/8<br>（金） | 1 | 帖佐直幸准教授<br>（生化学講座 細胞情報科学分野） | **演習⑥**<br><br>唾液、歯周組織Ⅰ～Ⅱで学習した知識を確実なものとし、問題解決能力を身に付ける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙する。<br>2. 学習方法を説明できる。<br>3. 理解した項目を身に付ける。<br>**[A-3-3-6, A-3-3-7, A-1-2-1, A-1-2-2, A-5-5-1, A-4-2-1, A-5-5-1, A-5-3-1]**<br>演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 図解よくわかる生化学　第6版 | 中島邦夫ほか著 | 南山堂 | 2004年 |
| 教 | 口腔生化学　第6版 | 髙橋信博、石崎明ほか編著 | 医歯薬出版 | 2018年 |
| 教 | Essential細胞生物学　原書第5版　訳書 | Alberts B ほか著、中村桂子ほか監訳 | 南江堂 | 2021年 |
| 参 | スタンダード生化学・口腔生化学　第4版 | 池尾　隆 ほか編 | 学建書院 | 2023年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

前期試験（実習講義と提出物を含む）（50%）と後期試験（50%）の成績から評価する。

| 到達目標 | DP | 定期試験 | 実習提出物 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1、2 | 4 | 40 | | | 40 |
| 3 | 4 | 40 | | | 40 |
| 4 | 8 | 5 | 5 | | 10 |
| 5 | 4、8 | 10 | | | 10 |
| **合計** | | **95** | **5** | | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

学生参加型講義（ICT活用の演習）実施のためにDESS演習を設定する。DESS演習を使用して復習を行うことで理解を深める。事前に指示があった実施予定日にはDESS演習に接続できるように準備しておくこと。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| デスクトップパソコンiMac | Z0PG　Education | 1 | 視聴覚用機器 | デスクトップパソコンiMac |
| デスクトップパソコン・Pavilion | Slimline 400-220jp/CT | 1 | 視聴覚用機器 | デスクトップパソコン・Pavilion |
| レーザープリンター | LBP87301 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | レーザープリンター |
| 貯蔵ボックス | MDF-30R | 2 | 基礎実習・研究用機器 | 貯蔵ボックス |
| ダイレクトヒート型CO2インキュベーター | CPI-165 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | ダイレクトヒート型CO2インキュベーター |
| プリンター　Satera | LBP841C | 1 | 基礎実習・研究用機器 | プリンター　Satera |
| 培養顕微鏡　DMIL　DED | DMIL　LED | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 培養顕微鏡　DMIL　DED |
| 超純水製造装置 simplicity | SIMSV01JP | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実験、実習に用いる試薬の溶媒として利用 |
| 微量分光光度計 Bio Drop μ Lite | | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実験・実習用試料の分析 |
| スキャナー　ScanSnap | SV600 | 1 | 基礎実習専用機器 | 実習の配布試料作成 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| フリーズ超低温槽一式 | CLN-32U | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実験、実習試料及び試薬の保存 |
| iPad Pro Wi-Fi 256GB 一式 | MPF02J/A | 1 | 視聴覚用機器 | 講義・実習のプレゼンテーション、実習データの解析 |
| デスクトップパソコン iMac Retina 4K | ZONX CTO | 1 | 視聴覚用機器 | 講義・実習の資料提示及び研究データ解析用 |
| 超低温フリーザー | MDF-DU300H-PJ | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 細胞・試薬・試料の保存 |
| コンパクトPAGE Ace twin | WSE-1025／2322245 | 8 | 基礎実習用機器 | タンパク質の分離及びウエスタンブロット法の習得 |
| 冷蔵庫 | SJ-PD28E | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 研究実験及び実習における試料及び試薬の保存 |
| ノートパソコン | 13インチMacBook Air | 1 | 視聴覚用機器<br>基礎実習用機器 | プレゼンテーション用 |
| デスクトップパソコンEliteOne 800 CT一式 | G5 All-in-One | 1 | 視聴覚用機器<br>基礎実習用機器 | 資料作成用 |
| 複合機iADVANCE DX一式 | C3720F | 1 | 視聴覚用機器<br>基礎実習用機器 | 資料作成用 |
| WSE-4115 パワードブロッド・Ace | 2322490 | 1 | 基礎実習用機器 | ウェスタンブロッドの実験用 |
| サーマルサイクラー LifeECO Ver2.0 | TC-96GHBC | 1 | 基礎実習用機器 | 遺伝子工学の基礎であるRT-PCR法に使用 |
| 微量高速遠心機 | KITMAN-18 | 1 | 基礎実習用機器 | 実験・実習用試料の分析 |
| スタンドアローン型マイクロプレートリーダー・専用サーマルプリンター | バイオメディカルサイエンス・ PS-AMR100 , PS-AMR100PR | 1 | 基礎実習用機器 | 実験・実習用試料の分析 |

# 微生物学・免疫学Ⅰ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 微生物学講座（分子微生物学分野）　石河　太知　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 微生物学講座（分子微生物学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数 | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通年 | | 前期 | 28.0時間 | ― |
| | | | 後期 | 28.0時間 | ― |

## 学修方針（講義概要等）

微生物は自然界に広く生息しており、その種類はウイルスから原虫まで多岐にわたる。ヒトは微生物との相互作用なくしては生存し得ない。しかし反面、ごく限られた微生物がヒトに対して病原性を発揮する。微生物学・免疫学Ⅰでは２年次において、「微生物学総論および各論」と宿主側の感染防御機構たる「免疫学」の知識を理解することを目的とする。宿主―寄生体相互作用に基づいた感染症の知識、検証技術を習得し、さらに生命科学の一分野としての微生物学・免疫学について講義・演習を通じて学修する。

## 教育成果（アウトカム）

医学全般に関連した微生物学総論と宿主側の感染防御機構たる免疫学について学び、さらに寄生体側すなわち病原微生物について、その性状、病原因子を疾患との関わりから理解することができる。将来の歯科医師として必要な微生物学・免疫学の知識や技術を習得し、さらに最先端の生命科学への理解が身につく。

（関連するディプロマポリシー：1～4、6、8、9）

## 到達目標（SBOs）

〈微生物学総論〉
1. 微生物の分類とそれぞれの特徴・病原性を説明できる。
2. 化学療法剤（抗菌薬等）の分類と特徴を説明できる。
3. 微生物の滅菌・消毒法を説明できる。

〈微生物学各論〉
4. 各種の病原微生物（原虫・真菌・細菌・ウイルス）の構造と病原因子を説明できる。
5. 各種の病原微生物による感染症や治療法、予防法を説明できる。

〈免疫学〉
6. 免疫系の構成因子と特徴を説明できる。
7. 自然免疫・獲得免疫について説明できる。
8. 粘膜免疫について説明できる。
9. アレルギー・自己免疫疾患の種類、特徴について説明できる。
10. ワクチンの原理と種類、特徴について説明できる。

〈全体〉
11. 課題解決に必要なコミュニケーションならびに協調性の意義について説明できる。
12. 微生物学・免疫学における高度な専門性および医療・研究倫理について説明できる。
13. 生涯学習のためのICTスキルならびに情報リテラシーについて説明できる。

**事前事後学修の具体的内容及び時間**

各講義前後には、下記の事前・事後学修を定める。詳細はシラバス各講義欄に記載する。
【事前学修】
シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、教科書等を用いて事前学習を行うこと。各講義に対する事前学習の時間は平均30分を要する。
【事後学修】
講義後に公開される事後課題を、講義資料や教科書を用いてノートにまとめ、到達目標の内容を確認すること。各講義に対する事後学習の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/7（火） | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **微生物学序論**<br>**細菌の構造**<br><br>医学微生物学の意義、微生物の生物分類学上の位置、分類および構造的特徴を理解する。 | 1. 微生物の発見と医学微生物学の発展について説明できる。<br>2. Kochの条件を説明できる。<br>3. 生物の系統と微生物の分類学上の位置づけを説明できる。<br>4. 微生物の分類を説明できる。<br>5. 細菌の構造物について説明できる。<br>6. 細菌の構造物の機能について説明できる。<br>7. 感染の定義，感染症について説明できる。<br>8. 宿主-寄生体相互作用について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,9]**<br>事前学修：教科書p.2-14,18-21,57-60を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 4/14（火） | 3 | 三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **細菌の代謝・生育・遺伝**<br><br>細菌のエネルギー代謝および生育の生理学、ならびに染色体、遺伝子の構造および転写の調節機構を理解する。 | 1. 解糖、発酵、好気呼吸について説明できる。<br>2. 異化作用について説明できる。<br>3. 同化作用について説明できる。<br>4. 細菌が生育するための栄養素および培地について説明できる。<br>5. 種々の細菌培養法について説明できる。<br>6. 細菌が増殖するための環境因子について説明できる。<br>7. 原核細胞と真核細胞の染色体構造の違いを説明できる。<br>8. 遺伝子の伝達様式を説明できる。<br>9. 転写に関与する因子と正負の調節について説明できる。<br>**[A-1-3-5, A-4-1-1,2]**<br>事前学修：教科書p.15-18,40-56を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/21（火） | 3 | 佐々木実非常勤講師 | **グラム陽性球菌**<br><br>病原性グラム陽性球菌の細菌学的性状とその病原性を理解する。 | 1. レンサ球菌の形態、分類、分布、培養法について説明できる。<br>2. A群レンサ球菌の病原因子について説明できる。<br>3. その他のレンサ球菌の性状、病原性について説明できる。<br>4. ブドウ球菌の形態、分類、分布と培養法について説明できる。<br>5. 黄色ブドウ球菌の病原因子について説明できる。<br>6. MRSAについて説明できる。<br>7. コアグラーゼ陰性ブドウ球菌について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.140-147を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/19（火） | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **グラム陽性桿菌**<br><br>病原性グラム陽性桿菌の性状とその病原性について理解する。 | 1. リステリアの細菌学的性状と病原性について説明できる。<br>2. マイコバクテリウムの性状と病原性について説明できる。<br>3. コリネバクテリウムの性状と病原性について説明できる。<br>4. 細胞内寄生性細菌について説明できる。<br>5. バシラス属細菌の性状と病原性について説明できる。<br>6. クロストリジウム属細菌の性状と病原性について説明できる。<br>7. 偏性嫌気性細菌の生理学的性状と病原性について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.148-154を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 5/26（火） | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **グラム陰性細菌**<br><br>病原性グラム陰性細菌の性状とその病原性について理解する。 | 1. グラム陰性球菌に分類される菌の種類、性状、病原性について説明できる。<br>2. グラム陰性桿菌に分類される菌の種類、性状、病原性について説明できる。<br>3. スピロヘータに分類される菌の種類、性状、病原性について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.155-174を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/2<br>(火) | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **スピロヘータ・偏性細胞内寄生性微生物、その他の病原微生物**<br><br>スピロヘータ・マイコプラズマ、クラミジア、リケッチアの細胞生物学と病原性を理解する。 | 1. マイコプラズマの性状と病原性について説明できる。<br>2. クラミジアの性状と病原性について説明できる。<br>3. リケッチアの性状と病原性について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,4,5]**<br>事前学修：教科書p.175-183を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 6/9<br>(火) | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **前期演習1** | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>**[A-1-3-5, A-4-1-1,2,3,5,9]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 6/16<br>(火) | 3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **前期演習1解説**<br><br>講義で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>**[A-1-3-5, A-4-1-1,2,3,5,9]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/23<br>(火)<br><br>6/30<br>(火) | 3<br><br>3 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **ウイルス学**<br><br>ウイルスの性状と感染経路、標的器官を知り、抗ウイルス薬の作用機構を理解する。 | 1. ウイルス粒子の構造と各部位の機能を説明できる。<br>2. ウイルス粒子の増殖過程を説明できる。<br>3. ウイルスの分類について説明できる。<br>4. DNAウイルス、RNAウイルスを列挙できる。<br>5. DNAウイルス感染症について説明できる。<br>6. RNAウイルス感染症について説明できる。<br>7. 主要な病原性ウイルスの感染経路、標的器官を説明できる。<br>8. 抗ウイルス薬の特徴と作用機構を説明できる。<br>9. インターフェロンの抗ウイルス作用機構を説明できる。<br>10. 歯科口腔領域に関連するウイルス感染症について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.21-26,184-210を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 7/7<br>(火) | 3 | 村木靖教授<br>（微生物学講座 感染症学・免疫学分野） | **ウイルス学**<br><br>歯科口腔領域に関連する病原ウイルス感染症について理解する。 | 1. 歯科口腔領域に関連するウイルス感染症について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.21-26,184-210を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後、理解が不十分だった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 7/7<br>(火) | 4 | 三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **真菌・原虫**<br><br>真菌の細胞生物学と病原性を理解する。 | 1. 細菌や他の微生物との細胞生物学的な相違点を説明できる。<br>2. 二形性真菌と形態変換について説明できる。<br>3. 真菌感染症の分類と主な疾患について説明できる。<br>4. 抗真菌薬の作用機序について説明できる。<br>5. 主な原虫とその感染症について説明できる。<br>**[A-4-1-1,2,3,5]**<br>事前学修：教科書p.27-39を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 7/14<br>(火) | 4 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **前期演習2**<br><br>課題に対しグループ内でディスカッションをし、講義内容の相互理解を深める。 | グループワーク<br>1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>7. グループで協調し課題解決に務めることができる。<br>8. グループワークの成果をWebClassを用いて提出することができる。<br>**[A-1-3-5, A-4-1-1,2,3,5,9]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 8/19<br>(水) | 1 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **前期演習2解説**<br><br>グループワーク成果の発表を通し、講義で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。 | グループワーク<br>1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>7. グループで協調し課題成果を発表することができる。<br>**[A-1-3-5, A-4-1-1,2,3,5,9]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 9/28（月） | 2 | 石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野） | **免疫応答の成立とその調節**<br><br>免疫応答による生体防御の仕組みを理解する。 | 1. 免疫応答に関与する器官と細胞について説明できる。<br>2. 免疫細胞の抗原認識機構と反応性について説明できる。<br>3. 主なサイトカインとその生物活性について説明できる。<br>4. 免疫系による微生物排除機構を説明できる。<br>**[A-4-2-1,2,A-5-5-2]**<br>事前学修：教科書p.82-92を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 10/5（月） | 2 | 石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野） | **自然免疫**<br><br>自然免疫に関与する免疫細胞や補体の役割や、自然免疫の仕組みを理解する。 | 1. 自然免疫に関与する細胞について説明できる。<br>2. 自然免疫による微生物排除機構を説明できる。<br>2. 抗原提示細胞とその機序について説明できる。<br>3. 補体の機能について説明できる。<br>**[A-4-2-2,3,4,A-5-5-2]**<br>事前学修：教科書p.93-103を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 10/19（月） | 2 | 石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野） | **細胞性免疫**<br><br>細胞性免疫の概念と意義、成立機序を理解する。 | 1. 細胞性免疫に基づく免疫現象を説明できる。<br>2. 細胞性免疫の成立機序を説明できる。<br>3. 細胞性免疫の発現機序を説明できる。<br>**[A-4-2-2,3,A-5-5-2]**<br>事前学修：教科書p.110-117を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/28（水） | 3<br>4 | 中田匡宣非常勤講師（鹿児島大学　教授） | **免疫グロブリン・粘膜免疫**<br><br>抗体を主とした宿主防御機構（体液性免疫）を理解する。 | 1. 抗体の種類、構造と機能を説明できる。<br>2. Ｂ細胞抗原レセプターを介するシグナル伝達とＢ細胞活性化を説明できる。<br>3. Ｔ細胞抗原レセプターを介するシグナル伝達とＴ細胞活性化を説明できる。<br>4. 抗体による中和反応、沈降反応、凝集反応を説明できる。<br>5. 補体反応の古典経路と別経路を説明できる。<br>6. 粘膜免疫の特徴を説明できる。<br>**[A-4-2-2,3,4,A-5-5-2]**<br>事前学修：教科書p. 104-109, 117-121を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 11/2（月） | 2 | 石河太知教授（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教（微生物学講座 分子微生物学分野） | **後期演習1** | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>**[A-4-2-1,2,3,4,A-5-5-2]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 11/9<br>（月） | 2 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **後期演習1解説**<br><br>講義で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。 | 1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>**[A-4-2-2,3,4,A-5-5-2]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/16<br>（月） | 2 | 佐々木実非常勤講師 | **過敏症反応・免疫異常と疾患**<br><br>過敏症の発症機序とその特徴について理解する。<br>免疫不全および自己免疫疾患の発症と特徴について理解する。 | 1. Coombsによる過敏症の分類について説明できる。<br>2. 各過敏症反応の発症メカニズムについて説明できる。<br>3. 各過敏症反応の特徴と疾患について説明できる。<br>4. 主な免疫不全症の発症機序と疾患について説明できる。<br>5. 自己免疫疾患発現に関与する因子について説明できる。<br>6. 代表的な自己免疫疾患をあげ、その特徴について説明できる。<br>**[A-4-2-5,6]**<br>事前学修：教科書p.122-137を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 11/30<br>（月） | 2 | 三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **滅菌と消毒**<br>**ワクチン**<br><br>滅菌と消毒の定義およびそれぞれの方法を理解する。<br>ワクチンの意義と種類、特徴を理解する。 | 1. 滅菌と消毒それぞれの定義を説明できる。<br>2. 物理的、化学的方法による滅菌法を説明できる。<br>3. 主な消毒薬の分類とその効果について説明できる。<br>4. ワクチンの意義を説明できる。<br>5. ワクチンの種類について説明できる。<br>**[A-4-1-1,8,A-4-2-7]**<br>事前学修：教科書p.74-79、132-136を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/2<br>（水） | 1<br>2 | 根本優子非常勤講師 | **免疫学総括**<br><br>グループワークにて学生間で事前課題についてディスカッションし、内容について講義内で発表し全体及び個々の理解を深める。 | グループワーク<br>1. 免疫に関わる細胞について説明できる。<br>2. 免疫に関わる液性因子について説明できる。<br>3. 自然免疫について説明できる。<br>4. 獲得免疫について説明できる。<br>5. 細胞性免疫について説明できる。<br>6. 体液性免疫について説明できる。<br>7. 粘膜免疫について説明できる。<br>8. ワクチンについて説明できる。<br>**[A-4-2-1,2,3,4,5,6,7,A-5-5-2]**<br>事前学修：事前に示された課題についてグループで取り組み、講義内での発表に臨む準備をしておくこと。所要時間30分程度<br>事後学修：各班の発表内容の解説をノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 12/7<br>（月） | 2 | 三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **化学療法と薬剤耐性**<br><br>化学療法と化学療法剤、ならびに細菌の薬剤耐性について理解する。 | 1. 選択毒性と抗菌薬の作用機序について説明できる。<br>2. 抗菌スペクトルと抗菌力の力価について説明できる。<br>3. 薬剤耐性およびその発現機序について説明できる。<br>**[A-4-1-6,7,A-6-4-6]**<br>事前学修：教科書p.57-74を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義後の課題をノートにまとめ、到達目標の内容を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 12/14（月） | 2 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **後期演習2**<br><br>課題に対しグループ内でディスカッションをし、講義内容の相互理解を深める。 | グループワーク<br>1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>7. グループで協調し課題解決に務めることができる。<br>8. グループワークの成果をWebClassを用いて提出することができる。<br>**[A-4-1-6,7,8,A-4-2-1,2,3,4,5,6,7,A-5-5-2,A-6-4-6]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |
| 演習 | 1/13（水） | 2 | 石河太知教授<br>（微生物学講座 分子微生物学分野）<br><br>三浦利貴助教<br>（微生物学講座 分子微生物学分野） | **後期演習2解説**<br><br>グループワーク成果の発表を通し、講義で修得した知識を確実なものとして深化させ、問題解決能力の基礎を身につける。 | グループワーク<br>1. 講義で理解できなかった項目を列挙できる。<br>2. 理解できなかった項目の学習方法を説明できる。<br>3. 理解できなかった項目について学習し、説明できる。<br>4. 提示された課題の問題点を列挙できる。<br>5. 提示された課題についての学習方法を説明できる。<br>6. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。<br>7. グループで協調し課題成果を発表することができる。<br>**[A-4-1-6,7,8,A-4-2-1,2,3,4,5,6,7,A-5-5-2,A-6-4-6]**<br>事前学修：今までに作成したノートや教科書、講義資料を参照し、学習内容を再確認しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：演習問題の解説を、資料を参考にノートにまとめておくこと。所要時間45分程度。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 口腔微生物学・免疫学 第5版 | 川端重忠ほか　編 | 医歯薬出版 | 2021年 |
| 参 | 口腔微生物学　第8版 | 石原和幸ほか　編 | 学建書院 | 2024年 |
| 参 | エッセンシャル免疫学　第4版 | 平野俊夫ほか　監訳 | MEDSi | 2023年 |
| 推 | 歯科衛生学シリーズ 微生物学 第2版 | 寺尾豊ほか　著編 | 医歯薬出版 | 2024年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

下記により評価し、65%以上を合格とする。

前期試験（MCQ、記述） ---------- 40%
後期試験（MCQ、記述） ---------- 40%
演習試験 ---------- 10%
提出物 ---------- 6%
発　表 ---------- 3%
その他 ---------- 1%

| 到達目標 | DP | 定期試験 | 演習試験 | 提出物 | 発表 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1、2、3 | 4、6、8 | 20 | 3 | 1 | | | 24 |
| 4、5 | 4、8 | 20 | 2 | 1 | | | 23 |
| 6、7、8、9、10 | 4、8 | 40 | 5 | 1 | | | 46 |
| 11 | 2、3 | | | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 12 | 1、4 | | | 1 | 1 | | 2 |
| 13 | 9 | | | 1 | 1 | | 2 |
| **合計** | | **80** | **10** | **6** | **3** | **1** | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

一般的な講義に加え、グループワークによる知識定着をはかる。事前学修としてWebClassを用いた資料や教科書による学修に加え、講義終了毎に事後学修としてポートフォリオの作成や課題により自学自修の習慣の定着化と知識の集約化をはかる。グループワークは少人数班を複数編成し、課題に対しチーム内でディスカッションをし、班ごとに成果物の提出を課す。学修定着度は定期的な演習試験により確認し、提出物の確認や解説および補足講義を通しフィードバックを行う。学修課題の提出はWebClassを介して行うことで、ICTスキルや情報リテラシーの習得を図る。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| モノクロコピー・複合機一式 | | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 配付資料作成等 |
| ノートパソコン MacBook Pro | | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成、プレゼンテーション等 |
| ノートパソコン MacBook Air | | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成、プレゼンテーション等 |
| デスクトップパソコン iMac | | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成等 |
| タブレットパソコンiPad Air | | 1 | 視聴覚用機器 | 講義プレゼンテーション等 |
| 教室付属AVシステム | | 1 | 視聴覚用機器 | 講義プレゼンテーション等 |

# 歯科理工学Ⅰ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 医療工学講座　武本 真治 教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 医療工学講座 | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通期 | | 前期 | 28.0時間 | ― |
| | | | 後期 | 12.0時間 | 30.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

歯科理工学は歯科医療で取り扱われる材料、器械、器具について科学的理論（基礎科学）と臨床応用（応用科学）に関する学問であり、低学年で学修した基礎科学を発展させて、歯科臨床で安全、安心、高機能に歯科材料、器械、器具を使用するための特性を理解することを目的とする。特に、化学、物理学、生物学を活かしながら、歯科材料に必要な金属学、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、さらに器械や器具に必要な機械工学などの関連学問領域の基礎知識を理解する。また、歯科材料を使って顎顔面口腔領域の形態および機能の回復とそれを維持するために製作される修復物の成形法を学修する。これらの歯科材料の取扱いや成形方法を活かして、歯科疾患の予防と治療にどのように応用されているかを理解する。特に、臨床応用の観点から関連深い保存修復学、歯内療法学、歯科補綴学、歯科矯正学、口腔外科学および歯科インプラント学などでの臨床では幅広く応用され、改良され、さらには新規の機材や材料の開発や歯科医療システムに対して基礎的知識を応用できるように知識の習得を講義と実習を通じて学修する。

## 教育成果（アウトカム）

歯科臨床では、様々な材料（歯科材料、歯科生体材料）と医療用器械・器具を駆使して、口腔機能の回復が図られており、それぞれ重要な役割を担っている。したがって、歯科医師はこれらに関する科学的な知識をもち、医療へ合理的に応用する技術に習熟することに加えて、患者に対してわかりやすく説明できることが必要である。生体に対して異物である材料を生体内で機能させるためには、材料の物理学的、機械的、化学的および生物学的性質（生体に対する影響）を理解するとともに、機能を回復させるための手段の一つとして、修復物の製作方法を整理して実行することができるに学修する。それらの修復方法が臨床でどのように活用され、患者の口腔内で機能を発揮させられるかを理解し、高学年で学ぶ臨床科目に活かせる基本的な考え方を身につけることができる。

（関連するディプロマポリシー：1、2、4、6、8、9）

## 到達目標（SBOs）

1）金属材料、無機材料（セラミックス）、高分子材料および複合材料の構造と物性を説明できる。
2）生体材料と歯科材料の機械的、物理的、化学的および生物学的安全性を説明できる。
3）歯科精密鋳造による修復物の製作過程を使用機器、材料と関連付けて説明できる。
4）印象材、模型材、ワックス、埋没材の種類と性質を説明できる。
5）歯科用合金の種類と成分及び特性を説明できる。
6）審美修復材料の種類、特徴、製作法との関連、材料の選択基準を説明できる。
7）CAD/CAMによる製作手順を使用機器と関連付けて説明できる。
8）歯科用セメントの種類と成分および特性を説明できる。
9）歯科用接着材の種類と成分および特徴を説明できる。

**事前事後学修の具体的内容及び時間**

講義で使用する事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べ、講義に臨むこととする。事前学修内容について講義はじめにプレテストまたは講義中に発表することによりフィードバックする。
事後学修として、講義中および講義要旨にポストテストとして行う。その内容で理解が不十分な箇所については、講義要旨および教科書等を見直し学修するようにする。本内容はすべての歯科理工学の講義、実習に対して該当するものとする。

（事前学修：平均15分を要する　事後学修：平均60分を要する）

講義/演習/実習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/8（水） | 2 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **1. 歯科理工学概論**<br><br>歯科理工学の概念を学ぶ。また、臨床科目との関連を理解する。 | 1. 歯科臨床と歯科理工学の関わりを説明できる。<br>2. 歯科臨床（歯冠修復、義歯補綴、矯正治療、齲蝕予防治療、口腔外科治療、インプラント治療など）に用いられる歯科材料を挙げることができる。<br>3. 歯科臨床に用いられる器械・器具を挙げることができる。<br>4. 歯科技工に用いられる歯科材料と器械・器具を挙げることができる。<br>**[B全般]**<br><br>事前学修：教科書第1章を読み、疑問点を抽出しておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 4/15（水） | 2 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **2. 歯科材料の種類と構造、機械的性質 Ⅰ**<br><br>金属材料、無機材料（セラミックス）、高分子材料（有機材料）、複合材料の構造的特徴とその化学的性質を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での金属材料、無機材料、高分子材料の使用例を挙げられる。<br>2. 化学結合の種類と特徴を説明できる。<br>3. 金属材料、無機材料、高分子材料の構造的特徴を説明できる。<br>4. 歯科臨床での歯科材料および歯質の機械的性質を説明できる。<br>5. 強さ、靭性、脆性、展延性、硬さを説明できる。<br>6. 各種材料の応力ーひずみ特性（弾性係数、レジリエンス、耐力など）を説明できる。<br>**[B-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/22（水） | 2 | 武本真治教授（医療工学講座） | **3. 歯科材料の機械的性質II、物理的性質I、光学的性質**<br><br>歯科材料の物理的・機械的性質（熱的、力学的性質）について学ぶ。 | 1. 歯と歯科生体材料の機械的性質を比較できる。<br>2. 密度、熱膨張性、熱伝導性を説明できる。<br>3. 光の性質を説明できる。<br>4. 歯と歯科生体材料の物理的性質を比較できる。<br>**[B-1-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 5/13（水） | 2 | 武本真治教授（医療工学講座） | **4. 歯科材料の光学的性質、化学的性質、生物学的安全性**<br><br>歯科材料の物理的・光学的性質について学ぶ。<br>材料の化学的性質（化学構造、物質の状態、基本的な化学反応）を学ぶ。 | 1. 歯と歯科生体材料の物理的性質を比較できる。<br>2. 物質の状態変化（溶解と析出、融解と凝固、ゾル化とゲル化）を説明できる。<br>3. 酸-塩基反応を説明できる。<br>4. 口腔内環境と化学反応性（金属の腐食、高分子の加水分解など）を説明できる。<br>5. 生物学的安全性試験について説明できる。<br>6. 医療機器の分類について説明できる。<br>**[B-1-1, B-1-2,B-1-3]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 5/20（水） | 2 | 武本真治教授（医療工学講座） | **5. 鋳造理論**<br><br>金属の成形法の一つである歯科精密鋳造法の概要と使用する材料を学ぶ。 | 1. 鋳造で製作できる修復物、補綴装置の例を挙げられる。<br>2. 歯科臨床での治療の流れを説明できる。<br>3. 歯科精密鋳造法を用いた金属成形技術の理論を説明できる。<br>4. 歯科精密鋳造法の製作手順を説明できる。<br>**[B-2-1,B-3-1]**<br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/3（水） | 2 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **6. 歯科理工学演習1**<br><br>ユニット1～5に関する演習問題を解き、応用力と問題解決能力を身につける。 | 1. 問題演習を通して、これまでに学んだ各ユニットの目標への到達をより確かなものにする。<br>**[B-1,B-2-1,B-1-3]**<br><br>事前学修：ユニット1～5の講義内容を復習しておく（90分）。<br>事後学修：演習後、誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）。 |
| 講義 | 6/10（水） | 2 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **7. 印象材1**<br><br>模型作製のための印象採得操作の概要、印象採得に用いられる材料の種類を学ぶ。 | 1. 歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。<br>2. 印象材の種類を説明できる。<br>3. 歯科臨床における弾性印象材の用途を説明できる。<br>4. 印象採得時の弾性ひずみ、塑性ひずみ（永久ひずみ）の重要性を説明できる。<br>**[B-2-1,B-2-2]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 6/17（水） | 2 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **8. 印象材2**<br><br>弾性印象材の特徴を学ぶ。非弾性印象材の特徴を学ぶ。また、印象への石膏の注入操作方法を学ぶ。 | 1. 弾性印象材の成分・組成と硬化機構および性質を説明できる。<br>2. 歯科臨床における非弾性印象材の用途を説明できる。<br>3. 非弾性印象材の成分・組成と硬化機構および性質を説明できる。<br>**[B-2-1,B-2-2]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/24（水） | 2 | 武本真治教授（医療工学講座） | **9. 模型用材料1**<br><br>歯科臨床での印象採得の方法を学ぶ。<br>印象採得から模型作製までの方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での模型用材料の用途を説明できる。<br>2. 模型材の種類を列挙できる。<br>3. 石膏の混水比を説明できる。<br>4. 石膏の硬化機構を説明できる。<br>5. 石膏の硬化時間に影響を与える因子（混水比、温度、添加剤）を説明できる。<br>6. 石膏の硬化膨張に影響を与える因子を説明できる。<br>7. 石膏の圧縮強度に影響を与える因子を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 7/1（水） | 2 | 佐々木かおり助教（医療工学講座） | **10. 歯科用ワックス**<br><br>歯科用ワックスの種類、用途およびワックスパターンの作製法について学ぶ。 | 1. 歯科臨床におけるワックスの用途を説明できる。<br>2. ワックスの種類、成分と用途別分類を説明できる。<br>3. ワックスパターンの作製法の概要を説明できる。<br>4. ワックスパターン作製時の変形の原因、作製後の取り扱い上の注意事項を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 7/8（水） | 2 | 佐々木かおり助教（医療工学講座） | **11. 埋没材、鋳型の作製**<br><br>鋳造の理論、埋没材の種類（石膏系、リン酸塩系）と特性ならびに鋳型の取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 鋳型の作製に用いる石膏系およびリン酸塩系埋没材の種類、組成、成分の役割、性質を説明できる。<br>2. 埋没操作を説明できる。<br>3. 鋳型加熱の目的を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 7/15（水） | 2 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **12. 鋳造用合金**<br><br>鋳造用合金の種類と成分の役割を学ぶ。 | 1. 歯科用合金の種類を説明できる。<br>2. 鋳造用合金の組成を列挙できる。<br>3. 鋳造用合金の成分の役割を説明できる。<br>4. 鋳造用合金の物理的性質（熱的性質）を説明できる。<br>**[B-2-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 7/22（水） | 2 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **13. 歯科理工学演習2**<br><br>ユニット6～11に関する演習問題を解き、応用力と問題解決能力を身につける。 | 1. 問題演習を通して、これまでに学んだ各ユニットの目標への到達をより確かなものにする。<br>**[B-1, B-2-1, B-1-3]**<br><br>事前学修：ユニット6～11の講義内容を復習しておく（90分）。<br>事後学修：演習後、誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）。 |
| 講義 | 8/19（水） | 2 | 服部雅之客員教授 | **14. 合金融解と鋳込み、鋳造欠陥、鋳造精度**<br><br>合金の融解と鋳造方法について学ぶ。<br>鋳造欠陥と鋳造精度について学ぶ。 | 1. 鋳造方法を説明できる。<br>2. 合金の融解方法（熱源）を説明できる。<br>3. 歯科臨床における合金の融解と鋳込みの重要性を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 講義 | 9/30（水） | 1 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **15. 印象用材料3 ・模型用材料2/印象採得・**<br><br>歯科臨床での印象採得の方法を学ぶ。<br>印象採得から模型作製までの方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床における印象採得の方法を説明できる。<br>2. 印象採得から模型作製までの流れを説明できる。<br>3. 模型作製時の注意点を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/7（水） | 1 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **実習オリエンテーション**<br><br>実習で行う内容を理解する。 | 1. 実習で取り扱う道具の名称を列挙できる。<br>**[B-2-1,B-2-2]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（30分）。<br>事後学修：実習に必要な知識を復習する（30分）。 |
| 講義 | 10/21（水） | 1 | 佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **16. 合着用セメント**<br><br>歯科用仮着・合着用セメントの種類、成分、硬化機構、性質および取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床における歯冠修復物・補綴物の仮着・合着の目的を説明できる。<br>2. 仮着・合着用セメントの種類を挙げ、それぞれの主要成分を説明できる。<br>3. 各セメントの性質（強さ、接着性、歯髄刺激性、被膜厚さ、崩壊率）を説明できる。<br>4. 各セメントの取り扱い上の注意点を説明できる。<br>**[B-2-3]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 実習 | 10/22（木） | 3・4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>田邉耕二非常勤講師<br>畑中昭彦非常勤講師<br>（各班を分担） | **歯科理工学実習1**<br>**印象材**<br>**模型材**<br><br>弾性印象材の性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。<br>３種類の石膏の性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での印象材の使用目的・用途を説明できる。<br>2. 弾性印象材の練和方法と硬化時間に及ぼす因子（粉液比、温度）を説明できる。<br>3. 弾性印象材の弾性ひずみと永久ひずみを実測し、印象精度に及ぼす影響を説明できる。<br>4. 弾性印象材から作製した石膏模型の寸法精度について説明できる。<br>5. 印象採得精度に及ぼす要因を説明できる。<br>6. 歯科診療での模型の使用目的・用途を説明できる。<br>7. ３種類の石膏の硬化時間、硬化膨張、強さに及ぼす因子（混水比、練和時間、調節剤）を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（80分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/29（木） | 3・4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>勢島　尚非常勤講師<br>昆　隆一非常勤講師<br>（各班を分担） | **歯科理工学実習2**<br>**印象材**<br>**模型材**<br><br>弾性印象材の性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での印象材の使用目的・用途を説明できる。<br>2. 弾性印象材の練和方法と硬化時間に及ぼす因子（粉液比、温度）を説明できる。<br>3. 弾性印象材の弾性ひずみと永久ひずみを実測し、印象精度に及ぼす影響を説明できる。<br>4. 弾性印象材から作製した石膏模型の寸法精度について説明できる。<br>5. 印象採得精度に及ぼす要因を説明できる。<br>6. 歯科診療での模型の使用目的・用途を説明できる。<br>7. ３種類の石膏の硬化時間、硬化膨張、強さに及ぼす因子（混水比、練和時間、調節剤）を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（80分）。 |
| 講義 | 11/11（水） | 1 | 澤田智史非常勤講師 | **17. 歯科用陶材**<br><br>歯科用陶材の用途、種類、成分・組成、焼成体の性質を学ぶ。<br>陶材焼付鋳造冠作製に用いる焼付用陶材の成分・組成、特徴を学ぶ。また、金属と陶材との結合機構を学ぶ。 | 1.歯科臨床における歯科用陶材の使用例を挙げることができる。<br>2.歯冠部修復・補綴に用いられるセラミックス材料の種類を挙げ、それぞれの一般的特徴を説明できる。<br>3.インレー、クラウン作製に用いられる陶材の成分・組成を説明できる。<br>4.歯科用陶材の物理的性質・機械的性質、化学的性質および生物学的性質を説明できる。<br>**[B-1, B-2-1, B-3-1]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/12（木） | 3・4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>畑中昭彦非常勤講師<br><br>（各班を分担） | **歯科理工学実習3**<br>**歯科用ワックス**<br>**鋳造用埋没材**<br><br>鋳造用ワックスの加圧短縮率と内部応力による変形を調べ、ワックスのレオロジー的性質を学ぶ。<br>歯科用合金の鋳造に用いる石膏系埋没材の性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床でのワックスの使用目的・用途を説明できる。<br>2. 直接法用インレーワックスと間接法用インレーワックスの加圧短縮率（フロー）を説明できる。<br>3. インレーワックスの内部応力による変形を説明できる。<br>4. 歯科精密鋳造で用いる埋没材の使用目的・用途を説明できる。<br>5. 埋没材の硬化膨張に及ぼす混水比の影響を説明できる。<br>6. 埋没材の吸水膨張、加熱膨張を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（80分）。 |
| 実習 | 11/19（木） | 3・4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>畑中昭彦非常勤講師<br><br>（各班を分担） | **歯科理工学実習4**<br>**歯科用ワックス**<br>**鋳造用埋没材**<br><br>鋳造用ワックスの加圧短縮率と内部応力による変形を調べ、ワックスのレオロジー的性質を学ぶ。<br>歯科用合金の鋳造に用いる石膏系埋没材の性質を調べ、取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床でのワックスの使用目的・用途を説明できる。<br>2. 直接法用インレーワックスと間接法用インレーワックスの加圧短縮率（フロー）を説明できる。<br>3. インレーワックスの内部応力による変形を説明できる。<br>4. 歯科精密鋳造で用いる埋没材の使用目的・用途を説明できる。<br>5. 埋没材の硬化膨張に及ぼす混水比の影響を説明できる。<br>6. 埋没材の吸水膨張、加熱膨張を説明できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（80分）。 |
| 講義 | 11/25（水） | 1 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **18. CAD/CAMによる歯冠修復物の製作**<br><br>強度、成形性に優れたニューセラミックスの種類と成分、性質ならびに成形法を学ぶ。 | 1. CAD/CAMシステムに用いる器械の構造と原理を説明できる。<br>2. CAD/CAMによるセラミックス成形法の概要を説明できる。<br>3. CAD/CAMにより成形できる複合レジン、金属材料の種類を列挙できる。<br>**[B-2-1, B-3-1, B-3-4]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/3<br>（木） | 3<br>・<br>4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>野口竜実非常勤講師<br><br>（各班を分担） | **歯科理工学実習**<br>**精密鋳造1**<br><br>金属クラウンの鋳造操作を実習し、材料の理工学的性質と取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での精密鋳造の目的・適用例を説明できる。<br>2. インレーワックスを用いたろう型作製を説明できる。<br>3. 金属クラウン製作の一連の操作（スプルー、埋没、加熱、合金の融解、遠心鋳込み、研磨）を説明できる。<br>4. ３Dプリンタでのレジンパターンの形成方法を説明できる。<br>**[B-2-1,B-2-2,B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（15分）。 |
| 講義 | 12/9<br>（水） | 1 | 武本真治教授<br>（医療工学講座） | **19. 接着性レジンセメント**<br><br>接着性レジンセメントの種類、成分、硬化機構、性質および取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床における歯冠修復物・補綴物の合着の目的を説明できる。<br>2. 接着性レジンセメントの種類を挙げ、それぞれの主要成分を説明できる。<br>3. 接着性モノマーの種類を説明できる。<br>4. 各セメントの取り扱い上の注意点を説明できる。<br>**[B-2-3]**<br><br>事前学修：事前学修要綱を事前にWebClassにアップロードするので、教科書等を用いて事前に調べておく（15分）。<br>事後学修：講義の最後に実施するポストテストを用い、各自不足している知識を補完する（60分）。 |
| 実習 | 12/10<br>（木） | 3<br>・<br>4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座）<br><br>渡邉浩章非常勤講師<br><br>（各班を分担） | **歯科理工学実習**<br>**精密鋳造2**<br><br>金属クラウンの鋳造操作を実習し、材料の理工学的性質と取り扱い方法を学ぶ。 | 1. 歯科臨床での精密鋳造の目的・適用例を説明できる。<br>2. 金属クラウン製作の一連の操作（スプルー、埋没、加熱、合金の融解、遠心鋳込み、研磨）を説明できる。<br>3. クラウン鋳造体の支台装置への適合性に影響を及ぼす因子（ライナーの有無、埋没材の種類）を説明できる。<br>4. ３Dプリンタでのレジンパターンの形成方法を説明できる。<br>**[B-2-1,B-2-2,B-3-1]**<br><br>事前学修：教科書、講義レジメ、実習書で手順を確認しておくこと（15分）。<br>事後学修：実習のレポートを作成する（80分）。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 演習 | 12/23<br>（水） | 1 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **20. 歯科理工学演習3**<br><br>ユニット12～18に関する演習問題を解き、応用力と問題解決能力を身につける。 | 1. 問題演習を通して、これまでに学んだ各ユニットの目標への到達をより確かなものにする。<br>**[B-1,B-2-1,B-1-3]**<br><br>**事前学修：ユニット12～18の講義内容を復習しておく（90分）。**<br>**事後学修：演習後、誤答した箇所を各自知識を補完する（90分）** |
| 実習 | 1/7<br>（木） | 3<br>・<br>4 | 武本真治教授<br>佐々木かおり助教<br>（医療工学講座） | **歯科理工学実習**<br>**実習試験**<br>**実習試験解説**<br>**補足講義**<br><br>実習で学んだ知識および技術の要点についての理解度の評価を受ける。 | 1. 実習で学んだ知識と技術についての筆記試験問題に的確に解答できる。<br>**[B-2-1, B-2-2, B-3-1]**<br><br>事前学修：歯科理工学実習で行った内容、レポートの内容を補完しておく（95分）。<br>事後学修：実習試験で誤答した箇所を各自知識を補完する（80分）。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | スタンダード歯科理工学：生体材料と歯科材料　第8版 | 中嶌裕ほか　編集幹事<br>武本真治ほか　編 | 学建書院 | 2024年 |
| 教 | 新編歯科理工学　第7版 | 服部雅之、武本真治編 | 学建書院 | 2024年 |
| 教 | 歯科理工学実習書（配布） | 医療工学講座 編 | 医療工学講座 | 2025年 |
| 参 | 基礎歯科理工学 | 宮坂平ほか編 | 医歯薬出版 | 2019年 |
| 参 | 臨床歯科理工学 | 宮崎隆ほか編 | 医歯薬出版 | 2006年 |
| 参 | コア歯科理工学 | 小園凱夫ほか編著 | 医歯薬出版 | 2008年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

講義（①定期試験（前期：後期＝4：6）、②演習、③平常点（プレテスト、ポストテスト））75%
実習（①筆記試験、②実習レポート）　25%
計100%で評価（ただし、出席や態度等、状況に応じて減点する）

| 到達目標 | DP | 演習 | レポート | 実習試験 | 定期試験 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1,2,3,4,5,6 | 2,4,6,8,9 | 9 | 12.5 | 12.5 | 46.5 | 1.1 | 81.6 |
| 7 | 1,2,4,6,8,9 | 1 | | | 5 | 0.1 | 6.1 |
| 8,9 | 4,6,8 | 2 | | | 10 | 0.3 | 12.3 |
| **合計** | | **12** | **12.5** | **12.5** | **61.5** | **1.5** | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

　アクティブラーニングとして、思考力、推論能力を向上するためにディスカッション方式の講義を行う。また、ポストテストを使用して学生は復習を行い知識の定着を図る。知識の定着を確実にするため数ユニット毎に演習を行い、その内容についてディスカッションしながら解説する。
　学生参加型講義(ICT活用の演習)を実施するために、講義の途中あるいは最後にクリッカーを使用して学生の理解度の確認を行う。
　実習では実習結果および考察するべき内容をレポートとしてWebClassに提出する。
　本コースでは、一般的な講義に加えて演習や実習も行う。演習は、終了後にフィードバック講義を実施するとともに、学生の習熟度表をフィードバックする。
　実習終了後には習得すべき項目として、実習試験の解説を含めたまとめ講義を行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| 熱膨張計一式(開閉式管状炉) | KRO-11K | 2 | 基礎実習専用機器 | 埋没材の加熱膨張測定 |
| ﾏｲｸﾛｶｯﾃｨﾝｸﾞﾏｼﾝ一式 | BS-300CL型 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実験試料及び実習試料の作製 |
| 蒸留水製造装置一式 | RFD240NA | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習用試薬の調製 |
| 送風定温乾燥器架台付 | DRM320DA型 | 1 | 基礎実習専用機器 | 実習での試料の乾燥 |
| 窓付恒温水槽 | TBN402DA | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 印象材等の定温実験 |
| 超純水製造装置 | RFU424BA | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習用試薬の調製 |
| 電子天秤精密比重計 | AUW220D+SMK401 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 試料の秤量 |
| μRS1000記録計TGK | 173-70-01-06 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 寸法変化、膨張率等の記録 |
| 卓上集塵機 | HD-400M | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習用試料作製 |
| ハイブラスターオーバルジェット | | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 鋳造体表面の酸化膜の除去 |
| サーマルロボ | TR-2AR | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習に使用する試料の調製 |
| 恒温水槽 | F-0015DN | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習に使用する水の加温 |
| ノートパソコン | EliteBook 820G1/CT | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成用 |
| デスクトップパソコン | Inspiron3647 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成用 |
| デスクトップパソコン | ENVY700-270jp/CT | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成用 |
| ノートパソコン | Surface Pro3 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成用 |
| デスクトップパソコン | ProOne 600 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成用 |
| ノートパソコン | LAVIE Direct HZ | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成および提示 |
| ノートパソコン | ASUS ExpertBook | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料の作成および提示 |
| HP ENVY Desktop TE01-0109jp | 9AQ32AA-AAAU | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成 |
| カラー複合機・image Runner Advance | C5235F | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義の配布資料作成 |
| サーマルロボ | TR-1AR | 5 | 基礎実習専用機器 | 実習試料の保存 |
| デジタル一眼レフカメラ | EOS Kiss X9 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習風景、講義資料に必要な写真の撮影 |
| プロジェクタースクリーン・パワープロジェクター | IWS-82-V-CA WX300USTi | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習資料の提示、アクティブラーニングの実施 |
| 自動サーボスタンド／ハンディフォースゲージ | HF100／ JSV-H1000 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 歯科材料の接着試験および圧縮試験 |
| 印象材弾性比較試験機 | A-003 | 3 | 基礎実習・研究用機器 | 印象材の弾性ひずみ試験 |
| 印象材永久ひずみ試験機 | A-003-2 | 3 | 基礎実習・研究用機器 | 印象材の永久ひずみ試験 |
| 冷蔵庫 | RXG51J(XW) | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 試料および材料の保存 |
| 3D プリンタ | TRS 3Dプリンタ　XL4K | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 試料の作製 |
| ノートパソコンDELL NI75SA | NI75SAWHBW | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成用および講義用 |
| ASUS Tek ExpertBook B5302FEA | B5302FEA-EM0119R | 1 | 視聴覚用機器 | 講義資料作成用および講義用 |
| バイブレーター　R-I | | 1 | 基礎実習用機器 | 基礎実習時の指導用 |
| バキュームミキサー　スタンド付 | VM115 | 1 | 基礎実習用機器 | 基礎実習時の指導用 |

# 薬理学Ⅰ

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 薬理学講座（病態制御学分野）　中村　正帆　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 薬理学講座（病態制御学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 後期 | | 前期 | ― | ― |
| | | | 後期 | 22.0時間 | 6.0時間 |

## 学修方針（授業概要等）

薬理学は薬物の生体における作用を追究し、生命現象や病態の理解を深める学問であり、薬物治療に関わる基盤領域として重要である。本授業では薬物療法の実践に必要な薬理学的思考を修得するために、日常診療で用いられる様々な薬物の個体・細胞・分子レベルにおける薬理作用を学修する。
実践的な能力を獲得できるよう能動的学修を主体とし、記述課題、学修者間相互学修、ロールプレイ、対話と討論、発表などのアウトプット型授業を実施する。学修到達度と授業の質を評価するために、各講義・演習・実習ごとに学修者アンケートを実施する。

## 教育成果（アウトカム）

薬力学と薬物動態学を修得し、各薬物の作用機序と有害反応を説明できる。
疾患・病態の基礎を理解し、薬物療法の実践につながる薬理学的思考力が形成される。
患者や家族に対して薬物療法の概要を説明できる能力の基礎が形成される。

（関連するディプロマポリシー：1 - 4, 6, 8, 9）

## 到達目標（SBOs）

1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。
2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。
3．薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。
4．薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
5．薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。
6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。
7．末梢神経系に作用する薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
8．局所麻酔薬と全身麻酔薬の種類と作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
9．薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。
10．抗微生物薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
11．抗腫瘍薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。
12．分子標的薬の作用機序と有害反応を説明できる。
13．疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。
14．能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他の学生と協働して学修することができる。

**事前事後学修の具体的内容及び時間**

【事前学修】
　シラバスに記載されている授業内容を確認し、教科書・講義資料・自己学修問題等を用いて事前学修すること。各授業の事前学修の時間は45分または3時間を要する。
【事後学修】
　授業課題の内容を教科書と講義資料を用いて復習し、自己学修問題で知識を定着させること。各授業の事後学修の時間は45分または2時間を要する。

（事前学修：平均45分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/8（木） | 1 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **L1：オリエンテーション・薬理学概論**<br><br>薬理学Iの概要、薬の種類（医薬品の分類）、薬の作用様式、標的分子の種類、受容体の細胞内情報伝達 | 1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。<br>**[A-6-1全般、A-6-2全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 10/8（木） | 2 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **L2：薬力学と薬理作用**<br><br>薬物の用量反応関係、受容体結合と薬理作用との関係性 | 2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。<br>**[A-6-2全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 10/15（木） | 2 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **L3：薬物動態**<br><br>薬物の投与経路、薬物の生体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）、薬物相互作用 | 3．薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。<br>4．薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。<br>5．薬物の生体膜通過に影響する因子を説明できる。<br>9．薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。<br>**[A-6-3全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 10/22（木） | 1 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **L4：神経薬理学総論・アドレナリン作用薬**<br><br>自律神経系の機能、神経伝達物質の合成放出機構、カテコラミンとその受容体および関連薬物の作用機序と臨床適応 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>7．末梢神経系に作用する薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/22（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L5：コリン作用薬・筋弛緩薬**<br><br>アセチルコリンとその受容体および関連薬物の作用機序と臨床適応 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>7．末梢神経系に作用する薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 11/12（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L6：局所麻酔薬・全身麻酔薬**<br><br>イオンチャネルの構造と機能、局所麻酔薬の薬理作用、中毒の病態、局所麻酔薬と併用される血管収縮薬の薬理作用と薬物相互作用吸入麻酔薬の薬物動態、全身麻酔薬の作用機序・有害反応・臨床適応 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>8．局所麻酔薬と全身麻酔薬の種類と作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>9．薬物相互作用の機序と注意事項を説明できる。<br>13．疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 演習 | 11/19（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野）<br><br>田村晴希講師（薬理学講座 病態制御学分野） | **L7：中間まとめ試験**<br><br>L1-L6の授業内容について復習する。 | 薬理学総論、薬力学、薬物動態学、神経薬理学総論、自律神経作用薬、麻酔薬について説明できる。<br>**[A-6全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：中間まとめ内容を復習する。 |
| 講義 | 12/3（木） | 1 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L8：化学療法総論・抗菌薬I**<br><br>化学療法の原理、細菌感染症の治療薬とその作用機序 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>10．抗微生物薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/3（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L9：抗菌薬II・消毒薬**<br><br>抗菌薬・消毒薬とその作用機序 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>10．抗微生物薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 12/10（木） | 1 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L10：抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬**<br><br>真菌感染症、ウイルス感染症、寄生虫感染症の治療薬とその作用機序 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>10．抗微生物薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |
| 講義 | 12/10（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野） | **L11：抗がん薬・分子標的薬**<br><br>抗腫瘍薬の分類・作用機序・有害事象・臨床適応、分子標的薬の薬理作用および有害反応 | 6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>11．抗腫瘍薬の作用機序、適応、禁忌、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>12．分子標的薬の作用機序と有害反応を説明できる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：教科書や講義資料、自己学修問題で予習する。<br>事後学修：授業課題、講義資料、教科書で復習し、自己学修問題で知識を定着する。 |

実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/29（木） | 1 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野）<br><br>田村晴希講師<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **E1：シミュレーション実習__心血管系1**<br><br>自律神経・循環器作用薬の薬理作用 | 1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。<br>2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。<br>3．薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。<br>4．薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。<br>6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>7．末梢神経系と循環器系に作用する薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>14．能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他の学生と協働して学修することができる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：実習書を精読する。関連する授業内容を復習する。<br>事後学修：レポートを作成し提出する。所要時間３時間。 |
| 実習 | 10/29（木） | 2 | 中村正帆教授<br>（薬理学講座 病態制御学分野）<br><br>田村晴希講師<br>（薬理学講座 病態制御学分野） | **E2：シミュレーション実習_心血管系2**<br><br>自律神経・循環器作用薬の薬理作用 | 1．薬物の受容体結合・細胞内シグナル伝達過程と薬理作用との定量的関連性および作動薬・拮抗薬と分子標的薬を説明できる。<br>2．薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係とその決定因子を説明できる。<br>3．薬物投与方法（経口、舌下、皮膚、粘膜、直腸、注射等）を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。<br>4．薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。<br>6．主な薬物の有害事象、有害反応、中毒を概説できる。<br>7．末梢神経系と循環器系に作用する薬の作用機序、適応、有害反応、投与時の注意事項を説明できる。<br>14．能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他の学生と協働して学修することができる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般]**<br>事前学修：実習書を精読する。関連する授業内容を復習する。<br>事後学修：レポートを作成し提出する。所要時間３時間。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/17（木） | 2 | 中村正帆教授（薬理学講座 病態制御学分野）<br><br>田村晴希講師（薬理学講座 病態制御学分野） | **R1：薬理学ロールプレイ_基礎編**<br><br>学生が医療者・患者に扮して模擬診療（ロールプレイ）を実施し、その後薬物治療の基礎的事項について学生間で対話し学修する。 | 13. 疾患、薬物療法の目的、用法用量、薬理作用、有害反応、服用時の注意点について概要を理解した上で、模擬患者に説明または対話できる。<br>14. 能動的姿勢で実験や課題に取り組み、他の学生と協働して学修することができる。<br>**[A-6-2全般、A-6-3全般、A-6-4全般、D-4-2全般、D-4-3全般]**<br>事前学修：模擬症例に基づいて、医療者役、患者家族役は模擬診療実演を準備する。解説者役は疾患と治療薬について解説資料を作成する。所要時間3時間。<br>事後学修：演者以外の受講者は実演されたロールプレイについてレポートを作成する。所要時間2時間。 |

**教科書・参考書・推薦図書**

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 薬の基本とはたらきがわかる薬理学 | 柳田俊彦　編 | 羊土社 | 2023 |
| 参 | 現代歯科薬理学　第7版 | 鈴木邦明　監修 | 医歯薬出版 | 2024 |
| 参 | 標準薬理学　第8版 | 飯野正光　監修 | 医学書院 | 2021 |
| 参 | 薬がみえる　vol.1～4 | 野元正弘ら　監修 | メディックメディア | 2021など |
| 参 | Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 14th edition | L.L.Brunton & B.C.Knollmann | McGraw-Hill EDUCATION | 2023 |

**成績評価方法・基準・配点割合等**

総括評価：試験（中間と定期）：70%、発表・実演・実習・グループ学習・レポート・授業課題：30%
形成的評価：授業課題・自己学修問題・レポートなどで理解度を確認し、必要に応じてフィードバックする。発表・実演・実習・グループ学習では、個別の質問への返答や全体への解説をその場で行う。

| 到達目標 | DP | 試験 | 発表･実演･実習 | レポート | 授業課題 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1-12 | 3,4 | 60 | 2 | 2 | 4 | 1 | 69 |
| 13,14 | 1-4,6,8,9 | 10 | 12 | 7 | 1 | 1 | 31 |
| **合計** | **－** | **70** | **14** | **9** | **5** | **2** | **100** |

**特記事項・その他**（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

・学修環境：教員と学修者は協働して、安全で快適な学修環境保持に努めること。
・出席確認：原則として、授業課題の写真データを授業終了時にWebClassに提出することで、講義出席と判定する。これ以外の方法で出席を確認する場合は、必ず授業開始時に連絡するので、その指示に従うこと。
・レポートなど：捏造・改竄・盗用は不正行為である。正しく引用すること。
・質問や相談など：いつでも受け付ける。どのような内容でも構わない。授業時に教員に話しかけるか、WebClassかEメールでアポイントメントをとること。

1. 講義資料：原則としてWebClassに講義前日までに掲載する。自己学修に活用すること。
2. 自己学修問題：WebClassに5肢択一を中心とした問題を掲載する。事前学修、事後学修に活用すること。
3. 授業課題：講義で記述式課題に取り組む（A4用紙1-2枚）。授業終了時に課題用紙全体を写真に撮り、WebClassの指定項目に提出する。提出をもって講義を出席とする。
4. 授業アンケート：各授業終了時にWebClassのアンケートに回答する。アンケートに回答することで、自分自身の理解度や受講状況を記録することができる。
5. レポート：原則としてWebClassの指定項目に提出する。指定されたファイル形式とファイル名、提出期限を厳守すること。
6. 試験のフィードバック方法：試験について講評と解説をWebClassにアップロードする。必要に応じて個別に面談する。
7. その他のフィードバック方法：原則として授業中またはWebClassでフィードバックする。必要に応じて個別に指導する。
8. グループワーク、ロールプレイ実演、発表、実験実習など能動的学修・学修者相互学修：実施方法は授業で説明する。必要に応じて事前にグループ学修した上、資料などを作成し、発表や実演の準備と練習をすること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有：大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、事例を交えて専門領域に関して教育する。

**授業に使用する機械・器具と使用目的**…特記すべき機械・器具等はありません。

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

# 病理学総論

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 病理学講座（病態解析学分野）入江 太朗 教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 病理学講座（病態解析学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 後期 | | 前期 | — | — |
| | | | 後期 | 24.0時間 | 32.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

3年次前期に学修する口腔病理学と3年次後期から開始される臨床系科目を修得するための基盤となる病理学の修得を確実なものとするために、病理学総論の知識を用いることにより、代表的な病変の病理組織標本における基本的な病理組織学的所見を適切に指摘でき、それらの所見に基づいて病態を考察できる知識と技能をアクティブラーニングにより学修する。

## 教育成果（アウトカム）

歯科医師として科学的根拠を基盤とした診断と医療を行うために、次年度に予定されている病理学各論（口腔病理学）を身につけるための基盤となる代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍、奇形を学修することにより、病気の原因や成り立ちを理解することができる。

（関連するディプロマポリシー：4、8、9）

## 到達目標（SBOs）

1.病因論を説明できる。
2.代謝障害を説明できる。
3.循環障害を説明できる。
4.炎症を説明できる。
5.腫瘍を説明できる。
6.奇形を説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書とWebClassに提示されている講義資料とプレテストを用いて事前学修（予習・復習）を行うものとする。各授業に対する事前学修の時間は55分を要する。各講義の講義開始時にプレテストを行い、講義時間内に担当教員とのディスカッションの機会を設ける。事後学修として振り返り問題演習の課題プリントのレポート作成を行う。事後学修の時間は55分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：55分を要する　事後学修：55分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 9/29（火） | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座 病態解析学分野） | **病理学序論、病因論**<br><br>病理学の概念と病因について理解する。 | 1. 病理学の意義を説明できる。<br>2. 病理学と臨床医学の関係を説明できる。<br>3. 内因について説明できる。<br>4. 外因について説明できる。<br>5. 病理検査法について説明できる。<br>6. 細胞診について説明できる。<br>7. 特殊検査法について説明できる。<br>8. 内分泌障害について説明できる。<br>**[A-5-1]** |
| 講義 | 9/29（火） | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座 病態解析学分野） | **細胞傷害の機序**<br><br>どの様な代謝過程の異常がいかなる機能的ないし形態的異常を生じるのか理解する。 | 1. 細胞傷害をきたす因子について説明できる。<br>2. 細胞傷害の機序と形態学的変化について説明できる。<br>3. 空胞変性、脂肪変性、好酸性変性、硝子様変性、硝子滴変性、フィブリノイド変性、角質変性、粘液変性について説明できる。<br>4. 壊死とアポトーシスについて説明できる。<br>5. 萎縮について説明できる。<br>**[A-5-2-1～4]** |
| 講義 | 10/6（火） | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座 病態解析学分野） | **循環障害**<br><br>代謝過程の概略を把握した上でその異常により生じる代表的な疾患を理解する。 | 1. 脂質代謝障害について説明できる。<br>2. 糖代謝異常について説明できる。<br>3. タンパク質代謝異常について説明できる。<br>4. 核酸代謝異常について説明できる。<br>5. 色素代謝異常症について説明できる。<br>6. 無機物代謝障害について説明できる。<br>**[A-5-2-5]** |
| 講義 | 10/13（火） | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座 病態解析学分野） | **炎症**<br><br>障害的刺激・侵襲に対する局所ならびに全身的な防御反応について理解する。 | 1. 炎症の定義と原因について説明できる。<br>2. 炎症反応のカスケードについて説明できる。<br>3. 炎症巣の構造と浸潤細胞について説明できる。<br>4. 炎症のケミカルメディエーターについて説明できる。<br>5. 急性炎症について説明できる。<br>6. 慢性炎症について説明できる。<br>7. 炎症の転帰について説明できる。<br>8. 炎症の名称と分類について説明できる。<br>**[A-5-5]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/20（火） | 1 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野） | **増殖と修復**<br><br>病的侵襲に対する生体の活動的変化を理解する。 | 1. 細胞増殖と分化について説明できる。<br>2. 肥大と増生について説明できる。<br>3. 化生について説明できる。<br>4. 再生について説明できる。<br>5. 肉芽組織と異物処理について説明できる。<br>**[A-5-3-1～5]** |
| 演習 | 11/10（火） | 1 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **病理学到達度試験**<br><br>これまでに行った講義の内容についての理解度を確認する。 | 1. 病理学序論、病因論についての理解度を確認する。<br>2. 細胞傷害の機序についての理解度を確認する。<br>3. 循環障害についての理解度を確認する。<br>4. 炎症についての理解度を確認する。<br>**[A-5-1, A-5-2, A-5-4, A-5-5]** |
| 講義 | 11/10（火） | 2 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野） | **感染と免疫異常**<br><br>生体恒常性維持のための自己・非自己の識別に基づく異物処理のしくみとその異常について理解する。 | 1. 免疫応答とその調節について説明できる。<br>2. 免疫反応と組織障害について説明できる。<br>3. 自己免疫疾患について説明できる。<br>4. 免疫不全症候群について説明できる。<br>5. 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類やその診について説明できる。<br>**[A-4-1-3, A-4-2-1～4, 6]** |
| 講義 | 11/24（火） | 1 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野） | **代表的な全身の非腫瘍性疾患**<br><br>病理学各論における臓器別疾患の代表例について理解する。 | 1. 上部消化管の代表的な疾患について簡単に説明できる。<br>2. 下部消化管の代表的な疾患について簡単に説明できる。<br>3. 。<br>4. 免疫不全症候群について説明できる。<br>5. 細菌、ウイルス、真菌及び原虫による感染症の種類やその診について説明できる。<br>**[A-5-1～5]** |
| 講義 | 12/1（火） | 1 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野） | **腫瘍Ⅰ**<br><br>正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。 | 1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。<br>2. 組織学的分類と命名法について説明できる。<br>3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。<br>4. 腫瘍の生物学について説明できる。<br>5. 腫瘍の発生について説明できる。<br>6. 癌遺伝子・癌抑制遺伝子について説明できる。<br>7. 腫瘍免疫について説明できる。<br>8. 宿主に及ぼす腫瘍の影響について説明できる。<br>**[A-5-6-1～4]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/15（火） | 1 | 佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **腫瘍Ⅱ**<br><br>正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。 | 1. 良性腫瘍の組織型について説明できる。（乳頭腫・腺腫・線維腫・脂肪腫・骨腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・神経鞘腫・色素性母斑）<br>2. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。（扁平上皮癌・紡錘形細胞癌・腺癌・軟骨肉腫・骨肉腫・平滑筋肉腫・多発性骨髄腫・悪性黒色腫）癌の広がり方と進行度について説明できる。前癌病変と境界病変について説明できる。<br>**[A-5-6-5～6]** |
| 講義 | 1/5（火） | 1 | 佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **染色体・遺伝子および発生の異常**<br><br>発生の異常やそれに関わる原因について理解する。 | 1. 染色体・遺伝子の基本概念を説明できる。<br>2. 発生異常について説明できる。<br>3. 染色体異常による疾患について説明できる。<br>4. 遺伝子異常による疾患について説明できる。<br>**[A-5-1-1]** |
| 講義 | 1/5（火） | 2 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野） | **病理学総論の要点**<br><br>病理学総論の重要事項を整理し理解する。 | 1. 病理学総論で学んだ重要事項について説明できる。<br>**[A-5-3, A-4-2-1～4, 6, A-5-6, A-5-1-1]** |

実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/6（火） | 2 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習①（細胞傷害・代謝障害１）**<br><br>細胞傷害・代謝障害の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 蛋白変性（顆粒変性および空胞変性）の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 蛋白質変性（粘液変性・硝子変性）の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. 脂肪変性の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-2]** |
| 実習 | 10/13（火） | 2 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習②（細胞傷害・代謝障害２）**<br><br>細胞傷害・代謝障害の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 蛋白変性（顆粒変性および空胞変性）の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 蛋白質変性（粘液変性・硝子変性）の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. 脂肪変性の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-2]** |
| 実習 | 10/20（火） | 2 | 入江太朗教授（病理学講座 病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師（病理学講座 病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習③（代謝障害・循環障害１）**<br><br>代謝障害・循環障害の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 色素変性(ヘモジデリン・ビリルビン・リポフスチン・メラニン)の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 出血の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. うっ血の病理組織学的特徴を説明できる。<br>4. 血栓症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-2, A-5-4]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 10/27<br>(火) | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習④（代謝障害・循環障害2）**<br><br>代謝障害・循環障害の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 色素変性(ヘモジデリン・ビリルビン・リポフスチン・メラニン)の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 出血の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. うっ血の病理組織学的特徴を説明できる。<br>4. 血栓症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-2, A-5-4]** |
| 実習 | 10/27<br>(火) | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑤（炎症・増殖と修復１）**<br><br>炎症・増殖と修復の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 再生の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 器質化の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. 化膿性炎の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-3, A-5-5]** |
| 実習 | 11/17<br>(火) | 1<br>2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **プレテスト・実習到達度試験**<br><br>これまでに行ったプレテスト（事前練習版・本番版）と実習内容（実習①-③）についての理解度を確認する。 | 1. 細胞傷害の病理組織形態学的特徴を説明できる。<br>2. 代謝障害の病理組織形態学的特徴を説明できる。<br>3. 循環障害の病理組織形態学的特徴を説明できる。<br>4. 炎症の病理組織形態学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-2, A-5-3, A-5-4, A-5-5]** |
| 実習 | 11/24<br>(火) | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑥（炎症・増殖と修復２）**<br><br>炎症・増殖と修復の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 再生の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 器質化の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. 化膿性炎の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-5-3, A-5-5]** |
| 実習 | 12/1<br>(火) | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑦（免疫異常・感染症１）**<br><br>免疫異常・感染症の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 真菌感染症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 特異性炎の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. ウイルス感染症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-4-1-3]** |
| 実習 | 12/8<br>(火) | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑧（免疫異常・感染症２）**<br><br>免疫異常・感染症の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 真菌感染症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>2. 特異性炎の病理組織学的特徴を説明できる。<br>3. ウイルス感染症の病理組織学的特徴を説明できる。<br>**[A-4-1-3]** |
| 実習 | 12/8<br>(火) | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑨（良性腫瘍１）**<br><br>良性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1. 良性上皮性腫瘍について説明できる。<br>（乳頭腫・腺腫）<br>2. 良性非上皮性腫瘍について説明できる。<br>（線維腫・脂肪腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・色素性母斑）<br>**[A-5-6]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 12/15<br>（火） | 2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑩（良性腫瘍２）**<br><br>良性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1.　良性上皮性腫瘍について説明できる。<br>（乳頭腫・腺腫）<br>2.　良性非上皮性腫瘍について説明できる。<br>（線維腫・脂肪腫・平滑筋腫・血管腫・リンパ管腫・色素性母斑）<br>**[A-5-6]** |
| 実習 | 12/22<br>（火） | 1<br>2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **バーチャルスライド実習⑪（悪性腫瘍）**<br><br>悪性腫瘍の病理組織形態学的特徴を理解する。 | 1.　悪性上皮性腫瘍について説明できる。<br>2.　悪性非上皮性腫瘍について説明できる。<br>**[A-5-6]** |
| 実習 | 1/12<br>（火） | 1<br>2 | 入江太朗教授<br>（病理学講座　病態解析学分野）<br><br>佐藤泰生講師<br>（病理学講座　病態解析学分野） | **プレテスト・実習試験**<br><br>これまでに行ったプレテスト（事前練習版・本番版）と実習内容（実習④-⑥）についての理解度を確認する。 | 1.　病理学総論で学んだ病理組織形態学的重要事項についての理解度を確認する。<br>**[A-4-1-3, A-5-6]** |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 歯学生のための基礎病理学 | 高田 隆 監、入江太朗 他著 | 医歯薬出版 | 2024年 |
| 参 | 要説 病理学総論 | 草間 薫、入江太朗 他編 | 医学情報社 | 2020年 |
| 参 | スタンダード病理学 | 下野正基 編著 | 学建書院 | 2019年 |
| 参 | カラーアトラス 基礎組織病理学 第4版 | スティーヴンス 他著 今井　大 他監訳 | 西村書店 | 2004年 |
| 参 | 標準病理学　第6版 | 北川昌伸・仁木利郎 編 | 医学書院 | 2019年 |
| 参 | シンプル病理学　改訂第7版 | 笹野公伸 他編 | 南江堂 | 2015年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

講義と実習の総合評価とし、評価点合計で65%以上を合格とする。
講義：病理学到達度試験(20%)、後期試験(30%)、プレテスト(2.5%)、振り返り問題演習(2.5%)により評価する。
実習：実習到達度試験(20%)、実習試験(20%)、実習スケッチの検印数(5%)とする。

| 到達目標 | DP | 病理学到達度試験 | 実習到達度試験 | 実習試験 | 後期試験 | 実習スケッチ | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1、2 | 4、8、9 | 10 | 10 | | | 2 | 1 | 23 |
| 3、4 | 4、8、9 | 10 | 10 | | | 1 | 1 | 22 |
| 5 | 4、8、9 | | | 10 | 15 | 1 | 2 | 28 |
| 6 | 4、8、9 | | | 10 | 15 | 1 | 1 | 27 |
| **合計** | | **20** | **20** | **20** | **30** | **5** | **5** | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義毎に講義内容に関連する「プレテスト」(講義日までにWebClassに掲載される事前練習版と講義日の講義開始時に実施される本番版)と重要項目の「振り返り問題演習」を実施し到達度を確認する。プレテストの事前練習版と本番版については講義開始時にその解説によるフィードバックを行う。振り返り問題演習については提出されたプリントに記載内容の不足がある場合には添削によるフィードバックを行った上で再提出を求める。実習スケッチは口頭試問・ディスカッションにより実習内容が十分理解されていることを確認の上検印を行う。口頭試問により理解が不十分と考えられる場合はレポート作成を指導する場合がある。

実習スケッチの検印数が全てのスケッチの全検印数の6割未満の場合、実習試験の受験資格を失う。

各講義・実習時間内に講義・実習内容に関して担当教員とのディスカッションの機会、及び学生の理解度を講義の途中あるいは最後にクリッカーを活用して確認する機会も必要に応じて設ける。演習問題を学生同士で教え合う時間を設けることで理解を深める機会も同様に設定する。

講義担当者は、学生参加型講義を実施するために、必要に応じて過去の国試問題等を演習用に準備し、クリッカー等を用いて、演習と解説の成果・習得の確認を行う。

各学生は各回の講義到達目標を事前に教科書で調べた上で、各講義・演習および実習に臨むこと。講義終了後は、事前学修済み教材を活用し事後学修を必ず行うこと。いずれも55分を目安とする。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| デスクトップパソコンProDesk600一式 | G3 SF/CT | 1 | 視聴覚用（学部授業他）機器 | 実習（講義）の資料提示用 |
| オールインワン蛍光顕微鏡 | BZ-X700 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 実習・研究における形態学的観察用 |
| カラー複合機・imageRUNNER ADVANCE | C2218F-V 18PPM | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料作成 |
| デスクトップパソコン・Mate J ・一式 | MJ28E/L-J SPL | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料作成 |
| ノートパソコン | 250G6 | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義資料作成 |
| ディスプレイモニタ　24.1型 | EV2456-BK | 1 | 基礎実習・研究用機器 | 講義・実習資料作成 |
| デスクトップパソコン | Prodesk400 G6 SF/CT | 1 | 視聴覚用機器<br>基礎実習機器 | 講義・実習資料作成 |

# 衛生学・公衆衛生学

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 口腔医学講座（予防歯科学分野）　小林　琢也　教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 口腔医学講座（予防歯科学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数 | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 後期 | | 前期 | ― | ― |
| | | | 後期 | 34.0時間 | 8.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

健康と疾病の概念、公衆衛生・疫学の考え方、環境衛生と健康の関連、健康を保持増進させるための社会制度などについて学修し、個別の予防・治療学を学ぶ前に、集団を対象とする予防医学について理解する。
講義資料は講義前にWebClassに掲載するので、事前学修に使用すること。

## 教育成果（アウトカム）

【講義】
疫学では、前期の医学統計学で学んだ数学的手法を疾病の原因を実際の疾病のリスクならびに健康要因の評価に応用する手法を学ぶことで、EBM〈Evidence Based Medicine〉実践のための基礎を身につけることができる。また、社会環境を含めた健康に対する環境の影響と感染症/非感染症の差違を学修することで、様々な集団に対する健康理方法等を包括的に理解することで、保健医療分野における地域住民のリスク管理ならびに地域の環境改善に貢献するための基礎的知識と態度が身につく。

【実習】
衛生･公衆衛生学的指標の測定を実施することにより、環境と健康の関連を理解できるようになる。

（関連するディプロマポリシー：1、4、5、7、8、9）

## 到達目標（SBOs）

1.公衆衛生の意義を列挙できる。
2.健康と疾病、障害の概念を説明できる。
3.日本の保健医療の現状を概説できる。
4.疫学指標を列挙できる。
5.調査目的に応じた疫学研究方法を選択できる。
6.与えられたデータから基本的な疫学指標を算出できる。
7.根拠に基づく医療<EBM>の方法を概説できる。
8.環境と健康のかかわりを概説できる。
9.代表的な環境衛生指標を列挙できる。
10.ライフステージに応じた地域保健活動を列挙できる。
11.感染症と非感染症の予防法の差違を説明できる。
12.疾病予防における栄養の重要性を概説できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書等（シラバスに指定）を用いて事前学修を行うこと。事前学修には平均30分を要する。講義前後で同じ内容の小テスト（プレ・ポストテスト）を実施する。講義後に問題と正解がWebClassに公開される。問題を解きなおすだけでなく、周辺知識を含めた学修を事後に行うこと。事後学修は平均45分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 9/30（水） | 3 | 佐藤俊郎准教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）<br><br>岸　光男客員教授 | **公衆衛生総論1**<br><br>公衆衛生学の意義と目的を学ぶことで、歯科医学・医療における公衆衛生の役割を理解できるようになる。 | 1. 公衆衛生学の目的と現代社会における適用を概説できる。<br>2. 健康と疾病の概念を概説できる。<br>3. 第一次、第二次および第三次予防を説明できる。<br>4. 健康日本21（第二次と第三次）の目標を列挙できる。<br>**[PS-04、SO-02、C-4-1-1・2、C-5-1～5]**<br>事前学修：教科書第一章を読み、疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 10/7（水） | 3 | 佐藤俊郎准教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）<br><br>岸　光男客員教授 | **疫学1**<br><br>疫学の基本概念を学ぶことで，集団における疾患のとらえ方を理解することができる。 | 1. 疫学の概念を概説できる。<br>2. 疫学指標を列挙できる。<br>3. 疫学の研究方法と適用を説明できる。<br>**[PS-04、SO-02、C-6-1-1]**<br>事前学修：教科書p. 18-32を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 10/14（水） | 3 | 佐藤俊郎准教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）<br><br>岸　光男客員教授 | **疫学2**<br><br>リスク指標と標本測定値の誤差要因等を学ぶことで、疫学的根拠への理解を深めることができる。 | 1.リスク指標を算出できる。<br>2.標本抽出法を列挙できる<br>3.誤差と交絡の違いを説明できる。<br>4.因果関係の判定基準を列挙できる。<br>**[PS-04、C-6-1-1]**<br>事前学修：教科書p. 18-32のなかで前回講義で述べられていないところについて疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 10/21（水） | 3 | 佐藤俊郎准教授（口腔医学講座 予防歯科学分野）<br><br>岸　光男客員教授 | **EBM、統計解析法**<br><br>EBMの概念と基礎的な医療統計を学ぶことで歯科診におけるEBMが実践できるようになる。 | 1.EBMの5つのステップを列挙できる。<br>2.二次研究（レビュー、メタ分析）の意義を説明できる。<br>3.変数の種類を列挙できる。<br>4.グラフの種類と意味を列挙できる。<br>5.正規分布を説明できる。<br>6.統計学的分析法（ｔ検定、Ｆ検定、χ2検定、相関係数、順位相関係数）を概説できる。<br>**[C-6-1-1、C-6-2-1・4]**<br>事前学修：教科書p. 32-35、p. 40-46をを読み、疑問点を抽出しておくこと。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 10/21（水） | 4 | 衣斐美歩講師（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **スクリーニング保健統計調査**<br><br>スクリーニングについて学ぶことで集団の健康管理法について理解できる。<br><br>国の行う保健統計調査の概要を知ることで主要な健康問題を認識できる。 | 1.スクリーニングの意義を説明できる。<br>2.スクリーニングの有効性の指標を算出できる。<br>3.臨床検査の基準範囲の意味を統計学的に説明できる。<br>4.国が行う主な保健統計調査とその目的を列挙できる。<br>**[C-6-1-2・3]**<br>事前学修：教科書p. 35-38, p. 58-62を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 11/4（水） | 3 | 杉山由紀子助教（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **人口統計、その他の保健統計調査**<br><br>人口統計指標と日本の人口静態・動態ならびに主要な保健統計調査の結果を学ぶことで、超高齢社会の健康問題を把握できる。 | 1.我が国の人口問題を概説できる。<br>2.人口静態の指標を列挙できる。<br>3.人口動態の指標を列挙できる。<br>4.国が行う保健統計調査の結果を概説できる。<br>**[C-6-2-2・3]**<br>事前学修：教科書p. 47-58を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 11/4（水） | 4 | 衣斐美歩講師（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **疫学･統計演習**<br><br>具体的データを用いて保健医療統計の演習をすることで統計学的応用力が身につく。 | 1.主な疫学指標（相対危険、寄与危険、オッズ比）を算出できる<br>2.主なスクリーニングの指標（敏感度、特異度、陽性適中度、陰性適中度、尤度比）を算出できる<br>3.主な人口統計指標(平均寿命、平均余命、新生児・乳幼児死亡率)を算出できる。<br>4.主な統計指標（平均値、中央値、最頻値、四分位、分散）を算出できる。<br>5.データに適した統計解析法を選択できる。<br>**[PS-04、C-6-1-1・2、C-6-2-1・3・4]**<br>事前学修：ここまでの範囲の教科書と講義資料を復習しておくこと。 |
| 講義 | 11/11（水） | 3 | 大石泰子助教（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **国際保健、環境と健康1（地球環境保全、公害）**<br><br>環境問題について学ぶことで、環境が健康にもたらす影響と国内外の組織が行う取組みについて理解できる。 | 1. 主な地球環境問題を列挙できる。<br>2. 主な世界環境保全のための条約を列挙できる。<br>3. 国際保健に関わる主な組織とその役割について説明できる。<br>4. SDGｓについて概説できる。<br>5. 日本の代表的公害事例を列挙できる。<br>6. 環境基本法を概説できる。<br>**[C-4-5-1・2・3・4、C-7-2・3・4・5、E-1-1-5]**<br>事前学修：教科書p. 97-123、p.240-245を読み疑問点を抽出しておくこと。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/11（水） | 4 | 大石泰子助教<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **環境と健康２（温熱環境、大気物質・水質・騒音・廃棄物）**<br><br>衛生学的環境指標を学ぶことで環境が健康にもたらす影響への理解が深まる。 | 1. 空気の正常・異常成分を列挙できる。<br>2. 大気汚染物質による健康影響を説明できる。<br>3. 生活用水の取水から排水までの経路を概説できる。<br>4. 上水道の水質基準を列挙できる。<br>5. 浄水法および汚水処理法を説明できる。<br>6. 水質汚濁による健康影響を説明できる。<br>7. 騒音・振動の健康影響を説明できる。<br>8. 廃棄物処理を概説できる。<br>**[C-4-5-1・2・3・4、E-1-1-5]**<br>事前学修：教科書p. 97-123のなかで前回講義で述べられていないところについて再度疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 12/9（水） | 3 | 杉山由紀子助教<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **地域保健総論**<br><br>地域保健の基本的な考え方および仕組みを理解する。 | 1.プライマリー ヘルス ケアを説明できる。<br>2.ヘルスプロモーションを説明できる。<br>3.地域保健活動の進め方を説明できる。<br>4.プリシードプロシードモデルを概説できる。<br>5.保健行政の体系（WHO、厚生労働省、都道府県、市町村の関連など）を概説できる。<br>6.保健所と市町村保健センターの役割を概説できる。<br>**[GE-02、PS-10、SO-02・03、C-4-3-1、C-4-2-5・6]**<br>事前学修：教科書p. 132-140を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 12/9（水） | 4 | 佐藤華子助教<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **地域保健各論1**<br>**母子保健・学校保健**<br><br>母子保健について学ぶことで地域母子保健における歯科医師の役割が理解できる。<br><br>学校保健について学ぶことで学校保健における歯科医師の役割が理解できる。 | 1.母子保健の意義と目的を説明できる。<br>2.母子保健活動の仕組みについて説明できる。<br>3.乳幼児健康診査について説明できる。<br>4.学校保健の意義と目的を概説できる。<br>5.学校保健活動の仕組みについて説明できる。<br>6.学校保健活動とその組織について説明できる。<br>**[C-4-2-5、C-4-3-1・4・5]**<br>事前学修：教科書p. 149-178を読み疑問点を抽出しておくこと。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/16（水） | 3 | 岸　光男客員教授 | **地域保健各論2**<br>**産業保健・成人保健1**<br><br>産業保健について学ぶことで産業保健における歯科医師の役割が理解できる。<br><br>成人保健を学ぶことで成人保健における超高齢社会の歯科医師の役割が理解できる。 | 1.産業保健の意義を説明できる。<br>2.職域における産業保健活動について説明できる。<br><br>3.成人保健の意義と目的を概説できる。<br>4.成人保健の現状・動向を説明できる。<br>**[C-4-2-5、C-4-3-1、D-6-2-5]**<br>事前学修：教科書p. 177-199を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 12/16（水） | 4 | 岸　光男客員教授 | **地域保健各論3**<br>**成人保健2・高齢者保健**<br><br>成人保健を学ぶことで成人保健における超高齢社会の歯科医師の役割が理解できる。<br><br>高齢者保健を学ぶことで超高齢社会の保健福祉について理解する。 | 1. 成人保健活動（生活習慣病対策など）を説明できる。<br>2. 特定健康診査・特定保健指導を説明できる。<br>3. 生活習慣変容のための行動科学的介入を概説できる。<br>4. 高齢者保健の意義と目的を概説できる。<br>5. 介護保険制度と地域支援事業を概説できる。<br><br>**[PS-04・10、SO-02・03、C-4-2-5、C-4-3-1・4・6]**<br>事前学修：教科書p. 199-222, P. 140-145を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 12/23（水） | 3 | 岸　光男客員教授 | **地域保健各論4**<br>**高齢者保健2　障害者・精神保健福祉**<br><br>障害者福祉を学ぶことでの歯科医師の役割が理解できる。<br><br>精神保健医療福祉を学ぶことで精神障害者の保健福祉について理解する。 | 1. 地域包括ケアシステムと地域支援事業を概説できる。<br>2. 障害者福祉の意義と目的を説明できる。<br>3. 障害者福祉の現状・動向を説明できる。<br>4.　障害者福祉活動(自立支援給付、地域生活支援事業など）を列挙できる。<br>5. 精神保健医療福祉の意義と目的を説明できる。<br>**[PS-10、SO-02・03、C-4-2-5、C-4-3-1・4・5・6]**<br>事前学修：前回の講義資料を復習し、疑問点を整理しておくこと。教科書p. 223-239を読み疑問点を抽出しておくこと。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 12/23（水） | 4 | 岸　光男客員教授 | **健康と食生活**<br><br>栄養と健康について学ぶことで口腔保健における栄養指導の重要性が理解できる。 | 1.健康と栄養との関係を概説できる。<br>2.国民栄養の現状について説明できる。<br>3.日本人の食事摂取基準について説明できる。<br>4.食中毒の原因を列挙できる。<br>5.保健機能食品を説明できる。<br>6.食品の安全性について説明できる。<br>7. 食育基本法を概説できる。<br>**[PS-10、SO-02、C-4-2-5]**<br>教科書第五章を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 1/6（水） | 3 | 佐藤華子助教<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **感染症の予防**<br><br>感染症について学ぶことで歯科医療における感染対策の意義を理解できる。 | 1.感染症の成立要素を列挙できる。<br>2.感染症成立要素に応じた対策を概説できる。<br>3.感染症法に基づく感染症を列挙できる。<br>4. 検疫と予防接種について概説できる。<br>5. 院内感染対策を概説できる。<br>**[A-4-1-9、PS-09、CS-07、C-5-4、C-7-5、E-1-1-1・2・3]**<br>事前学修：教科書第四章を読み疑問点を抽出しておくこと。 |
| 講義 | 1/6（水） | 4 | 衣斐美歩講師<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野） | **地域保健演習**<br><br>地域保健に関する問題演習を行うことで、地域保健に対する理解が深まる。 | 1.主な地域保健活動を列挙できる。<br>2.主な地域保健活動の実施主体と根拠法を列挙できる。<br>3.地域保健におけるPDCAサイクルを概説できる。<br>**[PS-10、SO-02、C-5-1-1～6]**<br>事前学修：ここまでの範囲の教科書と講義資料を復習しておくこと。 |

実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 11/18（水）<br><br>11/25（水） | 3<br><br>4 | 佐藤俊郎准教授<br>衣斐美歩講師<br>大石泰子助教<br>佐藤華子助教<br>杉山由紀子助教<br>（口腔医学講座 予防歯科学分野分野） | **環境衛生実習**<br><br>環境測定を実施することで環境衛生についての理解が深まる。 | 1.水質検査を行うことができる。<br>2.感覚温度を求めることができる。<br>3.空気の成分を測定することができる。<br>4.測定値から生活環境を評価することができる。<br>**[C-4-5-1・2・3・4、E-1-1-5]**<br>事前学修：実習書の内容を良く確認しておくこと。実習書は実習1週前までに配布する。 |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 教 | 新編　衛生学・公衆衛生学 第１版（第5刷） | 安井利一、嶋﨑義浩、岸　光男、他　編 | 医歯薬出版 | 2025年 |
| 参 | 口腔保健・予防歯科学　第２版 | 山下喜久ほか　編 | 医歯薬出版 | 2023年 |
| 参 | スタンダード衛生・公衆衛生　第18版 | 安井利一、神原正樹、荒川浩久　編 | 学建書院 | 2023年 |
| 参 | 国民衛生の動向 2024/2025(「厚生の指標」臨時増刊号) | 厚生労働統計協会　編 | 厚生労働統計協会 | 2024年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験　90%
平常点（ポストテスト、実習レポート）10%　で評価する。

| 到達目標 | DP | ポストテスト、実習レポート | 定期試験 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1～12 | 1、4、5、7、8、9 | 10 | 90 | | 100 |
| **合計** | | **10** | **90** | | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義資料は講義前にWebClassに掲載するので、事前学修に使用すること。
提出されたレポートは採点後返却する。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

## 授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

# 歯科専門体験実習

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）桑島 幸紀 准教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）等 | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数 | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 通期 | | 前期 | 4.0時間 | 8.0時間 |
| | | | 後期 | — | 20.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

本実習は多職種連携教育（Interprofessional Education：IPE）の一環として、1年次に修得したアカデミックリテラシーおよび問題解決型学修の知識を基盤に、歯科医療における多職種連携の実際を体験的に理解することを目的とする。現場見学やグループ討議、振り返り学修を通して理解を深化させ、将来の臨床実習および臨床研修に必要なチーム医療の基盤を形成する。さらに、多職種連携における歯科医師の役割を理解し説明できること、ならびに他職種を尊重した専門職としての適切な態度を身につけることを目指す。

## 教育成果（アウトカム）

本学附属病院歯科医療センターおよび開業歯科医院での体験を通して、歯科医療の基本的な知識・技能・態度を身につけ、歯科医療の概要を説明できる。さらに、チーム医療における歯科医師の役割と適切な専門職態度を理解し説明できるとともに、他職種との協働の重要性を認識し、実習体験を振り返りながら自身の役割について考察できる。

（関連するディプロマポリシー：1～6）

## 到達目標（SBOs）

1. 歯科専門体験実習の目的を説明できる。
2. 歯科専門体験実習に必要な身だしなみを説明できる。
3. 患者に接するときの心構えを説明できる。
4. 良医の条件を説明できる。
5. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。
6. 医療情報の収集法を説明できる。
7. 医療面接の目的と方法を説明できる。
8. 主訴、現病歴、既往歴等の定義を説明できる。
9. 医療人として適切な身だしなみ・態度を実践できる。
10. 担当歯科医師・スタッフ・患者に対して、適切な挨拶および自己紹介ができる。
11. 担当歯科医師・スタッフの指導のもとで、患者に丁寧な応対ができる。
12. 歯科診療の基本的な流れ（診療前・診療中・診療後）を理解し、患者への配慮の重要性を説明できる。
13. 実習体験を振り返り、自身の学びと今後の課題を言語化できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている実習内容を確認し、本実習の意義について熟考してから実習に臨むこと。歯科医療におけるチーム医療、多職種連携についてあらかじめ調べることが必要である。各実習に対する事前事後学修の時間は平均75分を要する。
事前学修：シラバスに記載されている内容を確認し、教科書等を用いて事前学修を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。
事後学修：講義で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均45分を要する。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 7/17（金） | 3 | 桑島幸紀准教授<br>口腔保健育成学講座<br>（歯科矯正学分野） | **歯科疾患と治療法**<br>**歯科専門体験実習事前オリエンテーション**<br><br>口腔・顎顔面領域の診察、検査、診断および予防を行うために必要な基本的な知識、態度を身につける。<br><br>（矢巾キャンパス東2-D講義室） | 1. 歯科専門体験実習の目的を説明できる。<br>2. 歯科専門体験実習に必要な身だしなみを説明、実施できる。<br>3. 患者に接するときの心構えを説明する。<br>4. 良医の条件を説明する。<br>5. インフォームドコンセントの定義と重要性を説明する。<br>6. 医療情報の収集法を説明する。<br>7. 医療面接の目的と方法を説明する。<br>8. 主訴、現病歴、既往歴等の定義を説明する。<br>**[PR-01～06、GE-01 ～05、CS-01 、CS-07 、CM-01 ～05、IP-01 ～04、E-6-1-1 、E-6-1-2 ]**<br>事前学修：講義資料を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。<br>事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 |
| 講義 | 8/25（金） | 2 | 桑島幸紀准教授<br>口腔保健育成学講座<br>（歯科矯正学分野） | **歯科専門体験について**<br><br>歯科専門体験実習の目的，実施要項を理解する。<br><br>（矢巾キャンパス東2-D講義室） | 1. 歯科専門体験実習の目的を説明できる。<br>2. 歯科専門体験実習に必要な身だしなみを説明、実施できる。<br>3. 歯科専門体験実習のスケジュールを説明できる。<br>**[PR-01～06、GE-01 ～05、CS-01 、CS-07 、CM-01 ～05、IP-01 ～04、E-6-1-1 、E-6-1-2 ]**<br>事前学習：実習を行う施設等について事前に示すので、これについて調べておくこと。 |

実習日程表

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 実習 | 7/24<br>(金) | 1<br>2<br>3<br>4 | 歯学部臨床系全講座<br>（分野） | **歯科専門体験事前実習**<br><br>（内丸　歯科医療センター） | 1. 医療人として適切な身だしなみ・態度を実践できる。<br>2. 担当歯科医師・スタッフ・患者に対して、適切な挨拶および自己紹介ができる。<br>3. 担当歯科医師・スタッフの指導のもとで、患者に丁寧な応対ができる。<br>4. 歯科診療の基本的な流れ（診療前・診療中・診療後）を理解し、患者への配慮の重要性を説明できる。<br>5. 実習体験を振り返り、自身の学びと今後の課題を言語化できる。<br>**[PR-01～06、GE-01 ～05、CS-01 、CS-07 、CM-01 ～05、IP-01 ～04、E-6-1-1 、E-6-1-2 ]**<br>事前学習：各自が実習を行う臨床科目について大学HPにてその内容を理解しておくこと。 |
| 実習 | 9/9<br>(水)<br>～<br>9/17<br>(木) | | 開業歯科医院 | **歯科専門体験実習** | 1. 医療人として適切な身だしなみ・態度を実践できる。<br>2. 担当歯科医師・スタッフ・患者に対して、適切な挨拶および自己紹介ができる。<br>3. 担当歯科医師・スタッフの指導のもとで、患者に丁寧な応対ができる。<br>4. 歯科診療の基本的な流れ（診療前・診療中・診療後）を理解し、患者への配慮の重要性を説明できる。<br>5. 実習体験を振り返り、自身の学びと今後の課題を言語化できる。<br>**[PR-01～06、GE-01 ～05、CS-01 、CS-07 、CM-01 ～05、IP-01 ～04、E-6-1-1 、E-6-1-2 ]**<br>事前学習：各自が実習を行う歯科医院にてその内容を理解しておくこと。 |
| 実習 | 9/18<br>(金) | 1<br>2 | 桑島幸紀准教授<br>口腔保健育成学講座<br>（歯科矯正学分野） | **歯科専門体験実習発表会**<br><br>（矢巾　大堀講堂） | |

**教科書・参考書・推薦図書**…予め指定する図書はありません。

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

**成績評価方法・基準・配点割合等**

実習評価（講義、オリエンテーション及び各施設の担当指導者からの評価、発表会、）およびレポートで評価する。（講義評価10%、実習評価50%、レポート25%、発表会15%）

| 到達目標 | DP | 講義 | 各施設の担当指導者からの評価 | 発表会 | レポート | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1～8 | 4 | 10 | | | | 10 |
| 9～12 | 4 | | 50 | | 25 | 75 |
| 13 | 1、4 | | | 15 | | 15 |
| **合計** | | **10** | **50** | **15** | **25** | **100** |

**特記事項・その他**（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

本実習では、本学附属病院歯科医療センターおよび開業歯科医院での体験を通して知識、技能、態度を学ぶ。最終日に開催する発表会で、各自がプレゼンテーション行い、伝える力の強化を図るとともに、研修先の歯科医師、教員、スタッフとのディスカッション、コミュニケーションの機会を設ける。各自の実習目標、事後報告書はポートフォリオとしてWebClassに提出する。ポートフォリオの内容から考察が不十分である場合は個別に追加指導を行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

**授業に使用する機械・器具と使用目的**…特記すべき機械・器具等はございません。

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

# 専門英語（2年）

| | |
|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 病理学講座（病態解析学分野）　入江　太朗　教授<br>法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）　熊谷　章子　教授 |
| 担当講座（分野） | 教養教育センター外国語学科英語分野、解剖学講座（機能形態学分野）、解剖学講座（発生生物・再生医学分野）、生理学講座（病態生理学分野）、生化学講座（細胞情報科学分野）、病理学講座（病態解析学分野）、微生物学講座（分子微生物学分野）、薬理学講座（病態制御学分野）、医療工学講座 |

| | | | | 講義/演習 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | 前期 | 18.0時間 | 0.0時間 |
| 期間 | 通期 | | 後期 | 18.0時間 | 0.0時間 |

## 学修方針（講義概要等）

教養課程で履修した英語の理解度をさらに深めるため、グループワーク、ディスカッション、ディベートなどのアクティブ・ラーニングを活用した繰り返し演習・講義を実施する。本科目の修得により、医学・歯学で使用される基礎的な英語基本用語を再確認できる。3年次の医療リベラルアーツにおいて実施される専門英語の演習を行うに足る十分な歯学専門英語の知識を確実に身につけることができる。

## 教育成果（アウトカム）

医学・医療のグローバル化、先進化にともない、歯科医学・医療についての情報を収集する場面、増加する外国人の歯科診療を行う場面など、様々な場面で、英語を用いたコミュニケーションを行うことが必要とされる。専門英語では、1）医学の共通語としての医学（歯科）用語を学び、臨床実習のケースプレゼンテーションや歯科医師国家試験における“歯科医学、医療分野で必要とされる英語”に備えるとともに、2）教養課程で学んだ英語をさらに発展させ、専門論文などを読む上で必要な読解力を習得することで、総合的なコミュニケーションスキルを高める。

（関連するディプロマポリシー：7、8）

## 到達目標（SBOs）

1. 臨床の現場で使用される基礎的な歯学英語基本用語を理解できる。
2. 基礎的な歯学英語基本用語の成り立ちと基本構造を説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修については、各回到達目標の内容に関し教科書あるいは2D専門英語テキストを用いて調べるものとし、各回平均15分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとし、適宜、講義冒頭で事前学修内容の発表時間を設ける。

（事前学修：平均15分を要する　事後学修：平均15分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日（曜） | 時限 | 担当教員（講座 分野） | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**［コア・カリキュラム］**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/7（火）<br>4/14（火） | 4<br>4 | 柳谷千枝子准教授（外国語学科英語分野） | **医学・歯学英語の基礎Ⅰ**<br>医療（病気や症状など）に関連した英語や表現を理解する。<br>医療に関連したトピックを読む。 | 1. 病気や症状など医療に関連した英語を理解し、正確に読み、書き、発音できる。<br>2. 医療に関連した英文を読んで、要点を説明できる。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |
| 講義 | 4/21（火）<br>5/12（火）<br>5/19（火） | 4<br>3<br>4 | 柳谷千枝子准教授（外国語学科英語分野） | **医学・歯学英語の基礎Ⅱ**<br>歯学に関連した英語や表現を理解する。<br>歯学に関連したトピックを読む。 | 1. 歯学に関連した英語を理解し、正確に読み、書き、発音できる。<br>2. 歯学に関連した英文を読んで、要点を説明できる。<br>3. 客観的評価（中間試験）およびフィードバックを受け、医学・歯学英語の理解度をはかる。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |
| 講義 | 6/9（火）<br>6/16（火） | 4<br>4 | 松田竜宙助教（外国語学科英語分野） | **医学・歯学英語の基礎Ⅲ**<br>医療現場で使用する英語表現を理解する。<br>英文の構造と内容を理解する。 | 1. 医療現場で使用する英語を理解し、応用できる。<br>2. 会話や英文の内容を、口頭または文章で表現できる。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |
| 講義 | 6/23（火）<br>6/30（火） | 4<br>4 | 松田竜宙助教（外国語学科英語分野） | **医学・歯学英語の基礎Ⅴ**<br>医療に関連した英語や表現を理解する。<br>様々な医療に関連したトピックを読む。 | 1. 医療に関連した英語を理解し、正確に読み、書き、発音できる。<br>2. 医療に関連した英文を読んで、要点を説明できる。<br>3. 客観的評価（中間試験）およびフィードバックを受け、医学・歯学英語の理解度をはかる。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 9/28<br>(月)<br><br>10/5<br>(月) | 1<br><br>1 | Levine-小倉<br>Jonathan助教<br>（外国語学科英語分野）<br><br>藤原尚樹教授（機能形態学分野）<br>大津圭史教授、池崎昌二郎講師（発生生物・再生医学分野）<br>石崎明教授、帖佐直幸准教授、横田聖司講師（細胞情報科学分野）<br>黒瀬雅之教授（病態生理学分野）<br>武本真治教授、佐々木かおり助教（医療工学講座）<br>佐藤泰生講師（病態解析学分野）<br>中村正帆教授、山田ありさ助教（病態制御学分野）<br>石河太知教授、三浦利貴助教（分子微生物学分野） | **医学・歯学の基本用語Ⅰ**<br>**-語根と接尾辞**<br><br>基礎的な医学・歯学用語を理解する。 | 1. 医学・歯学分野の基礎的な英語用語を理解することができる。<br>2. 医学・歯学用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。<br>3. 言葉の持つ意味を深く考える態度を身につける。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |
| 講義 | 10/19<br>(月)<br><br>11/2<br>(月) | 1<br><br>1 | Levine-小倉<br>Jonathan助教<br>（外国語学科英語分野）<br><br>藤原尚樹教授（機能形態学分野）<br>大津圭史教授、池崎昌二郎講師（発生生物・再生医学分野）<br>石崎明教授、帖佐直幸准教授、横田聖司講師（細胞情報科学分野）<br>黒瀬雅之教授（病態生理学分野）<br>武本真治教授、佐々木かおり助教（医療工学講座）<br>佐藤泰生講師（病態解析学分野）<br>中村正帆教授、山田ありさ助教（病態制御学分野）<br>石河太知教授、三浦利貴助教（分子微生物学分野） | **医学・歯学の基本用語Ⅱ**<br>**-接頭辞**<br><br>基礎的な医学・歯学用語を理解する。 | 1. 医学・歯学分野の基礎的な英語用語を理解することができる。<br>2. 医学・歯学用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。<br>3. 言葉の持つ意味を深く考える態度を身につける。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 11/9（月）<br>11/16（月）<br>11/30（月）<br>12/7（月） | 1<br>1<br>1<br>1 | 藤原尚樹教授（機能形態学分野）<br>大津圭史教授、池崎昌二郎講師（発生生物・再生医学分野）<br>石崎明教授、帖佐直幸准教授、横田聖司講師（細胞情報科学分野）<br>黒瀬雅之教授（病態生理学分野）<br>武本真治教授、佐々木かおり助教（医療工学講座）<br>佐藤泰生講師（病態解析学分野）<br>中村正帆教授、山田ありさ助教（病態制御学分野）<br>石河太知教授、三浦利貴助教（分子微生物学分野） | **医学・歯学の基本用語Ⅲ**<br><br>基礎的な医学・歯学用語を理解する。 | 1. 医学・歯学分野の基礎的な英語用語を理解することができる。<br>2. 医学・歯学用語の成り立ちと基本構造を学ぶ。<br>3. 言葉の持つ意味を深く考える態度を身につける。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |
| 演習 | 12/14（月） | 1 | 入江太朗教授<br>（病理学講座 病態解析学分野） | **医学・歯学の基本用語／演習（到達度評価試験）** | 1. 客観的な評価（到達度評価試験）をうけ、達成度と理解度を知る。<br>2. 結果のフィードバックをうけ、英語での理解度、コミュニケーション力の向上をはかる。<br>**[CM-02, SO-07, C-2-5, C-7-1, C-7-2]** |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 参 | Medical Terminology A short course 9th ed. | Davi-Ellen Chabner | Saunders | 2023年 |
| 参 | Dental Terminology 3rd ed. | Charline M Dofka | Delmar Cengage Learning | 2013年 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

総合評価：中間試験1(10%)，中間試験2(5%)，前期試験(35%)と後期到達度評価試験(50%)
前期は、ハンドアウトを使用して講義をおこなう。中間試験2回と前期試験を行う。
後期は、個々の英語力の多様なレベルに対応できるよう、少人数のグループ学修（基礎系8講座（分野）の教員等が担当）の形式でおこない、使用するテキストを配布する。後期到達度評価試験により達成度と理解度を評価する。

| 到達目標 | DP | 中間試験1 | 中間試験2 | 前期試験 | 後期到達度試験 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 7,8 | 10 | 5 | 35 | | | 50 |
| 2 | 7,8 | | | | 50 | | 50 |
| **合計** | | **10** | **5** | **35** | **50** | | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

・WebClassにテキストの音声ファイルを公開するので、活用すること。
・各々個人で、英語での理解度、コミュニケーション力の向上に努めること。
・各回到達目標の内容を使用するテキストとともに事前に教科書で調べること。

【フィードバック】
・中間試験1，2については、講義内でフィードバックを行い、前期試験と後期到達度試験についてはWebClass上でフィードバックを行う。
【アクティブラーニング】
・後期は少人数のグループ学修の形式で行われるため、グループ・ディスカッションやグループワークによるアクティブラーニングを行う。
【ICT】
講義前にWebClassに資料を提示するので事前学習に利用すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的 …特記すべき機械・器具等はございません。

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

# 医学統計学

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 教養教育センター情報科学科（数学分野）<br>長谷川　大　准教授 | | | | |
| 担当講座（分野） | 教養教育センター情報科学科（数学分野） | | | | |
| 対象学年 | 2 | 区分・時間数<br>（1コマ2時間換算） | | 講義/演習 | 実習 |
| 期間 | 前期 | | 前期 | 26.0時間 | — |
| | | | 後期 | — | — |

## 学修方針（講義概要等）

生命科学の領域には、現象の因果関係が錯綜し、決定論的方法ではなかなか解決できない問題がとりわけ多い。近年、データサイエンスおよび統計学は複雑で曖昧な生命現象を解明するために有効な科学的方法論として医療系諸分野の実務・研究に広く用いられ、その重要性が以前にも増して強く認識されるようになった。本講義では、今後のデータ駆動型社会において重要となる、「データをもとに事象を適切に捉え、分析・説明する力」を習得するために、統計学的思考力を養う。

## 教育成果（アウトカム）

標本理論、標本分布について復習することで基礎理解を深め、次の講義段階（統計的推測）と将来の応用課題に対する学修基盤を固めることができる。次に、統計的推測（推定と検定）の原理と方法を理解して、医学・歯学に関連する具体的な総合問題を解くことによって、将来歯科医師として臨床研究をする際に役立つ統計学的思考と具体的な扱い方を習得することができる。

（関連するディプロマポリシー：8）

## 到達目標（SBOs）

1. 標本調査について概説できる。
2. 基本的な区間推定ができる。
3. 基本的な仮説検定ができる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

事前学修については、WebClassにアップロードされた該当回の授業プリントを通読すること。
事後学修については、講義で配布されたプリントの演習問題を解き、答案を清書したものをPDF化し期限内にWebClassの提出フォームにアップロードすること。提出されたレポートは添削してWebClass上に返却し、翌回の講義で解説を行う。返却されたレポートはWebClassにアップロードされた解答解説や該当回の授業プリントを用いて復習すること。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均60分を要する）

講義/演習日程表

| 区分 | 月日(曜) | 時限 | 担当教員(講座 分野) | **ユニット名**<br>内容 | 到達目標<br>**[コア・カリキュラム]**<br>事前事後学修 |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 4/3(金) | 2 | 長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **1. 標本抽出/推定(1)点推定と区間推定、母平均**<br><br>標本抽出の原理・方法、区間推定の原理・方法および母平均の区間推定を理解する。 | 1.母集団と標本、母数と統計量の違いを概説できる。<br>2.標本調査について概説できる。<br>3.点推定と区間推定の違いを概説できる。<br>4.正規母集団の母平均の区間推定を概説できその信頼区間を計算できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 4/14(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **2. 推定(2)母比率、母分散**<br><br>比率と分散の区間推定を理解する。 | 1.母比率の区間推定を概説できその信頼区間を計算できる。<br>2.正規母集団の母平均の区間推定を概説できその信頼区間を計算できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 4/21(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **3. 統計解析ソフトウェアの利用(1)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて基本的な区間推定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて母平均、母比率および母分散の区間推定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |
| 講義 | 5/12(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **4. 仮説検定(1)考え方、平均、比率**<br><br>仮説検定の考え方と方法、平均および比率の検定を理解する。 | 1.仮説検定の統計学的意味を説明できる。<br>1.検定の基本的な手順が説明できる。<br>2.第一種，第二種の過誤および危険率を説明できる。<br>3.片側検定と両側検定を説明できる。<br>4.母分散が未知の場合の平均値の検定ができる。<br>5.比率の検定ができる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 5/19(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **5. 統計解析ソフトウェアの利用(2)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて平均および比率の検定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて平均および比率の検定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |
| 講義 | 5/26(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **6. 仮説検定(2)比率の差、独立性**<br><br>比率の差の検定法と独立性の検定を理解する。 | 1.比率の差を検定できる。<br>2.独立性の検定を使用できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 6/2(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>(情報科学科 数学分野) | **7. 統計解析ソフトウェアの利用(3)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて比率の差および独立性の検定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて比率の差および独立性の検定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 講義 | 6/9<br>(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **8. 仮説検定（3）適合性**<br><br>適合性の検定法を理解する。 | 1. 適合性（母数既知）を検定できる。<br>2. 適合性（母数未知）を検定できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 6/16<br>(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **9. 統計解析ソフトウェアの利用(4)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて適合性および正規性の検定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて適合性および正規性の検定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |
| 講義 | 6/23<br>(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **10. 仮説検定（4）分散、平均の差**<br><br>分散および平均の差の検定法を理解する。 | 1.母分散を検定できる。<br>2.等分散性を検定できる。<br>3.独立2群間の平均値の差の検定を説明できる。<br>4.母分散が未知かつ等しい場合の平均の差を検定できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 6/30<br>(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **11. 統計解析ソフトウェアの利用(5)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて分散、等分散性および平均の差の検定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて分散、等分散性および平均の差の検定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |
| 講義 | 7/7<br>(火) | 2 | 長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **12. 仮説検定(5)相関係数、回帰直線**<br><br>相関係数および回帰係数に関する有意性の検定について理解する。 | 1.相関係数の有意性を検定できる。<br>2.回帰係数の有意性を検定できる。<br>**[RE-02、C-6-2-1]** |
| 講義 | 7/14<br>(火) | 2 | 江尻正一教授<br>長谷川大准教授<br>（情報科学科 数学分野） | **13. 統計解析ソフトウェアの利用(6)**<br><br>統計解析ソフトウェアを用いて相関係数および回帰係数の検定をする。 | 1.統計ソフトフェアを用いて相関係数および回帰係数の検定ができる。<br>**[RE-02、IT-04、C-6-2-1]** |

## 教科書・参考書・推薦図書

| 区分 | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|---|---|---|---|
| 参 | EZRでやさしく学ぶ統計学 改訂3版 | 神田 善伸 | ムイスリ出版 | 2020 |
| 参 | 生物統計学 標準教科書 改訂増補版 | 寺尾哲、森川敏彦　共著 | ムイスリ出版 | 2018 |
| 参 | 医系の統計入門 第2版 | 根岸龍雄 監修、階堂武郎 著 | 森北出版 | 2013 |
| 参 | Excelによるメディカル/コ・メディカル 統計入門 | 勝野恵子、井川俊彦 | 中外医学社 | 2003 |
| 参 | 医学への統計学 新版 | 丹後俊郎 | 朝倉書店 | 1993 |

## 成績評価方法・基準・配点割合等

定期試験70%、レポート30%で評価する。

| 到達目標 | DP | レポート | 定期試験 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 8 | 2 | | | 2 |
| 2 | 8 | 8 | 20 | | 28 |
| 3 | 8 | 20 | 50 | | 70 |
| **合計** | | **30** | **70** | | **100** |

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

1.各自、所有の関数電卓を持参のこと。必要に応じてEZRが利用可能なノートPCを持参のこと。
2.各授業の中で、演習問題を学生同士で教えあう時間を設け、全体および個々の理解を深める。
3.試験後にフィードバックとして答案を開示し改善点を伝える。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

| 使用機器・器具等の名称・規格 | | 台数 | 使用区分 | 使用目的 |
|---|---|---|---|---|
| ノートPC | | 1 | 視聴覚用機器 | 資料作成・プレゼン用 |
| タブレット端末 | | 1 | 視聴覚用機器 | プレゼン用 |
| 教室付属AVシステム | | 1 | 視聴覚用機器 | プレゼン用 |

# 自　由　科　目

# (海外外国語研修)

# (地域医療課題解決演習)

# 海外英語演習

| | | | |
|---|---|---|---|
| 責任者・コーディネーター | 外国語学科英語分野　柳谷　千枝子 准教授 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 外国語学科英語分野 | | |
| 担　当　教　員 | 柳谷　千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、<br>松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教 | | |
| 対象学年 | 1, 2, 3, 4, 5, 6 | 区分・時間数 | 約 2 週間 |
| 期　間 | 後期 | | |

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性を涵養する一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。

（ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9）

・到達目標（SBO）

(1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
(2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
(3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
(4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・成績評価方法

【総括的評価】　研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。
*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

| 到達目標 | DP | 中間試験 | レポート | 小テスト | 定期試験 | 発表 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1、4 | 1、7、9 | | 30 | | | | | 30 |
| 1、2、3、4 | 1、2、3、7 | | | | | | 70 | 70 |
| 合計 | | | 30 | | | | 70 | 100 |

備考：
「その他」（70%）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研 修 先 ：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）
期　　間：3 月（約 2 週間）の予定
宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各 1 時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無　無

# （令和８年度）地域医療課題解決演習

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目担当責任者 | 医学部総合診療医学講座　下沖 収 教授 | | |
| 担当講座・学科（分野） | （医学部）総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野<br>（歯学部）歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、<br>口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野<br>（薬学部）臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野<br>（看護学部）地域包括ケア講座 | | |
| 担当教員 | （医学部）下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、髙橋 智弘 講師、前田　哲也 教授、<br>赤坂　博 助教<br>（歯学部）小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授<br>（薬学部）松浦 誠 教授、白石　博久 特任教授<br>（看護学部）岩渕 光子 教授、赤井 純子 助教<br>＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様 | | |
| 対象学年 | 全学年（全学部） | 期　間 | 通期 |
| 区分・時間数 | 演習　　16.0 時間（全８回）<br>（1 コマ 2 時間換算） | 単位数 | １単位 |

■　学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■　教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
（ディプロマ・ポリシー）
医学部：1，2，4，6，8　歯学部：1，2，3，5，9　薬学部：1，2，3　看護学部：1，2，3，7，8

■　到達目標（SBOs）

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■　成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。

| 到達目標 | DP | | | | ルーブリック | 発表参加態度 | 成果物 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 医 | 歯 | 薬 | 看 | | | | |
| 1,2,3,4 | 1，2，4，6，8 | 1，2，3，5，9 | 1，2，3 | 1，2，3，7，8 | 30 | 50 | 20 | 100 |
| 5 | 2 | 9 | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | | | | | 30 | 50 | 20 | 100 |

■　事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後 4 時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■　特記事項・その他

| |
|---|
| 開催日：別途調整のうえ指定　　対　象：全学年（全学部）　　会　場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等<br>＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30 分以上の遅刻は欠席とする。<br>当該科目に関する実務経験の有無　有<br>行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。 |

実施日程

| 月日 | 時限 | 内容／到達目標 | 担当教員 | 会場 |
|---|---|---|---|---|
| 第 1 回<br>6 月<br>予定 | 5 限<br>予定 | オリエンテーションと概要講義<br><br>2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。<br>3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。 | 大間々 真一 准教授<br>髙橋 智弘 講師<br>前田　哲也 教授<br>赤坂　博 助教<br>小林 琢也 教授<br>熊谷 章子 特任教授<br>松浦 誠 教授<br>白石　博久 特任教授<br>岩渕 光子 教授<br>赤井 純子 助教 | 矢巾町 |
| 第 2 回<br>6 月<br>予定 | 5 限<br>予定 | グループワーク　（課題理解の共有）<br>1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。<br>2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。 | | 矢巾キャンパス |
| 第 3 回<br>7 月<br>予定 | 未定 | 施設等訪問、インタビュー<br>1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。<br>2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。 | | 矢巾町 |
| 第 4 回<br>8 月<br>予定 | 5 限<br>予定 | グループワーク　（振り返り）<br>1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。<br>2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。 | | 矢巾キャンパス |
| 第 5 回<br>9-10 月<br>予定 | 未定 | 施設等訪問、インタビュー<br>1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。<br>2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。 | | 矢巾町 |
| 第 6 回<br>11 月<br>予定 | 5 限<br>予定 | グループワーク　（振り返り）<br>1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。<br>2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。 | | 矢巾キャンパス |
| 第 7 回<br>11 月<br>予定 | 5 限<br>予定 | グループワーク（プレゼンテーション作成）<br>1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。 | | 矢巾キャンパス |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第8回<br>12月<br>予定 | 5限<br>予定 | 検討発表会・まとめ<br>1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。<br>2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。 | | 矢巾キャンパス |

# 学則・試験規程・その他

# 岩手医科大学学則

## 第１章　目的及び使命

第１条　本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、充分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

２　各学部における教育研究上の目的は別に定める。

３　本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

４　前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

## 第２章　組織及び修業年限

第２条　本学に次の学部学科を置く。

医学部　医学科

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

看護学部　看護学科

２　医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は６年とし、看護学部は４年とする。

３　各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の２倍を超えることができない。

## 第３章　学年・学期及び休業日

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第４条　学年は、前期、後期の２期に分ける。

前期　４月１日から９月 30 日まで

後期　10 月１日から３月 31 日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第５条　定期休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

（３）　春期休業　３月 16 日から４月 15 日まで

（４）　夏期休業　７月 16 日から８月 31 日まで

（５）　冬期休業　12 月 23 日から１月 15 日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。
２　臨時休業日は、その都度学長が定める。

## 第４章　授業科目、授業時間数及び単位

第６条　各学部の授業科目等は別表１のとおりとする。

## 第５章　授業科目の履修及び課程修了の認定

### 第１節　医学部、歯学部

第７条　医学部、歯学部においては、第６条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。
２　履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。
３　履修した科目に単位を付与する場合は、45 時間の学修を必要とする内容を１単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。
第８条　所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。
２　試験に関する実施規程は別に定める。
第９条　試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

### 第２節　薬学部、看護学部

第 10 条　薬学部、看護学部においては、第６条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。
２　履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。
３　単位の計算は、第７条第３項を準用する。
第 11 条　履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。
第 12 条　試験の成績は、第９条を準用する。

### 第３節　全学部共通

第 13 条　特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。
第 14 条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを標準とする。
第 14 条の２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。
第 15 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 16 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 17 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30 単位を超えないものとし、かつ、第 15 条第１項（同条第２項において準用する場合を含む。）及び前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

## 第６章　卒業及び学位

第 18 条　医学部、歯学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

２　薬学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習 20 単位以上を含む 186 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

３　看護学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

## 第７章　入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条　入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条　本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

（1） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
（2） 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む)。
（3） 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
（4） 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
（5） 文部科学大臣の指定した者。
（6） 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
（7） その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者。

第 21 条　入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

第 22 条　本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

２　本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条　入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人２名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条　保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち１名は学費負担者でなければならない。

２　保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第１項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条　学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条　病気、その他やむを得ない事由により３ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

２　休学の期間は、１年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に１年以内の休学を許可することができる。

３　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

４　休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条　休学期間であっても事故止みとなり復学を願い出た場合は、教授会の議を経て許可することがある。

第 28 条　他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

２　本学の第１学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第２学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。
３　転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。
第 29 条　本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

## 第８章　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第 30 条　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表２に定める。
第 31 条　授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。
（１）　入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。
（２）　入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。
（３）　入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年４月 25 日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の２回目の納入期限日は９月 25 日までとする。
（４）　薬学部第５学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。
第 32 条　授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30 日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。
第 33 条　納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。
２　前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

## 第９章　職員組織

第 34 条　本学に次の職員を置く。
学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。
２　職員の定員に関しては、別にこれを定める。

## 第 10 章　教授会

第 35 条　本学に教授会を置く。
２　教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。

３　教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　教授会の運営に関する規程は、別に定める。

## 第 11 章　学生収容定員

第 36 条　各学部の学生定員は次のとおりとする。
医学部医学科　入学定員　95 名　収容定員　570 名
歯学部歯学科　入学定員　73 名　収容定員　438 名
薬学部薬学科　入学定員　50 名　収容定員　300 名
看護学部看護学科　入学定員　90 名　3 年次編入学定員　5 名　収容定員　370 名

## 第 12 章　研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条　本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。
２　研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。
第 38 条　本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。
２　聴講生の規程は、別に定める。
第 38 条の２　本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。
２　科目等履修生の規程は、別にこれを定める。
第 38 条の３　研究生、研修生、研究員、聴講生には、第８条、第９条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。
第 39 条　外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

## 第 13 章　賞罰

第 40 条　人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。
第 41 条　学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。
２　懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の４種とする。

第 42 条　次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（2）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（3）　正当の理由がなく欠席が多い者

（4）　本学の秩序を乱す者

## 第 14 章　附属施設

第 43 条　本学に次の附属施設を置く。

（1）　附属図書館

（2）　附属病院

（3）　附属薬用植物園

２　附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

## 第 15 章　学生の厚生補導等

第 44 条　学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

２　学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条　本学に学生寮を置くことができる。

## 第 16 章　学生心得

第 46 条　学生心得は、別に定める。

## 第 17 章　改廃

第 47 条　この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附　則

この学則は、昭和 22 年６月 18 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 27 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 29 年９月 15 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 40 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 41 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 43 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 44 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 46 年１月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 48 年４月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 50 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 52 年１月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 53 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 54 年２月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 55 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 57 年１月５日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 59 年１月２日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 61 年１月６日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成元年４月１日から施行する。
2　第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の（）書は昭和 63 年度以降歯学部に入学した者に適用する。
3　この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第３項の規定は適用しない。

附　則

1　この学則は、平成２年１月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第２項、第３項および第 27 条第２項の規定は、平成２年４月１日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条２項、第３項および第 27 条第２項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成２年 10 月 19 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成３年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成３年５月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附　則

1　この学則は、平成５年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成７年９月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年９月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 11 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 13 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 14 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成 17 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 18 年 11 月 30 日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度～29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 90人 | 90人 | 90人 | 90人 | 90人 | 90人 |
| 収容定員 | 490人 | 500人 | 510人 | 520人 | 530人 | 540人 |

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

この学則は、平成 20 年８月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度～29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 |
| 収容定員 | 505人 | 520人 | 535人 | 550人 | 565人 | 570人 |

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

1　この学則は、平成 21 年４月１日から施行する。

2　学生定員の取扱については、平成 20 年８月５日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成 20 年４月１日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成 21 年４月１日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

| | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度～29年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 110人 | 110人 | 110人 | 110人 | 110人 | 110人 |
| 収容定員 | 520人 | 550人 | 580人 | 610人 | 640人 | 660人 |

附　則

1　この学則は、平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 22 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度～29年度 | 平成30年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 125人 | 125 人 | 125 人 | 125 人 | 125 人 | 125 人 | 110 人 |
| 収容定員 | 565人 | 610人 | 655人 | 700人 | 735人 | 750人 | 735人 |

| | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度 | 平成37年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 110人 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 | 95人 |
| 収容定員 | 720人 | 690人 | 660人 | 630人 | 600人 | 585人 | 570人 |

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

4　第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度～31年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 75人 | 75人 | 75人 | 75人 | 75人 | 75人 |
| 収容定員 | 475人 | 470人 | 465人 | 460人 | 455人 | 450人 |

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 22 年６月 28 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

3　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 23 年２月 28 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 23 年６月１日から施行する。（平成 23 年５月 30 日一部改正）

附　則

1　この学則は、平成 24 年７月１日から施行する。（平成 24 年６月 25 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。（平成 24 年 10 月 29 日一部改正）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 123人 | 123 人 | 123 人 | 123 人 | 123 人 | 108 人 | 108 人 |
| 編入学定員 | 7人 | 7 人 | 7 人 | 7 人 | 7 人 | 7 人 | 7 人 |
| 収容定員 | 705人 | 745人 | 765人 | 770人 | 768人 | 751人 | 736人 |

| | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度 | 平成37年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 編入学定員 | 0人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| 収容定員 | 701人 | 666人 | 631人 | 596人 | 583人 | 570人 |

3　第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度～31年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 73人 | 73人 | 73人 | 73人 | 73人 | 73人 |
| 収容定員 | 458人 | 451人 | 444人 | 442人 | 440人 | 438人 |

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。（平成 27 年３月 23 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年８月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 30 年４月１日から施行する。（平成 29 年７月 31 日一部改正、平成 30 年３月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 123 人 | 123 人 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 編入学定員 | 7 人 | 7 人 | 0人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| 収容定員 | 766人 | 766人 | 731人 | 696人 | 661人 | 626人 | 598人 |

| | 平成37年度 |
|---|---|
| 入学定員 | 95 人 |
| 編入学定員 | 0 人 |
| 収容定員 | 570人 |

3　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 120 人 | 120 人 | 120 人 | 120 人 | 120 人 | 120 人 |
| 収容定員 | 920人 | 880人 | 840人 | 800人 | 760人 | 720人 |

附　則

この学則は、平成 31 年４月１日から施行する。(平成 30 年４月 23 日一部改正（別表１第６条関係の変更)、平成 31 年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。（令和元年７月 29 日一部改正、令和２年３月 30 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和２年度から令和９年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和２年度 | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 126 人 | 126 人 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 編入学定員 | 4 人 | 4 人 | 0人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| 収容定員 | 766人 | 766人 | 731人 | 696人 | 664人 | 632人 | 601人 |

| | 令和９年度 |
|---|---|
| 入学定員 | 95 人 |
| 編入学定員 | 0 人 |
| 収容定員 | 570人 |

附　則

1　この学則は、令和３年４月１日から施行する。（令和２年６月 29 日一部改正、令和３年３月 29 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和３年度 | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 80 人 | 80 人 | 80 人 | 80 人 | 80 人 | 80 人 |
| 収容定員 | 760人 | 680人 | 600人 | 560人 | 520人 | 480人 |

附　則

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。（令和３年４月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)、令和３年７月 26 日一部改正、令和４年３月 28 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和４年度から令和 10 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和４年度 | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 126 人 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 編入学定員 | 4 人 | 0人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 | 0 人 |
| 収容定員 | 766人 | 731人 | 699人 | 667人 | 632人 | 601人 | 570人 |

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。（令和４年９月６日一部改正、令和５年３月 27 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和５年度から令和 11 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和５年度 | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 | 令和11年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 130 人 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 収容定員 | 766人 | 734人 | 702人 | 667人 | 636人 | 605人 | 570人 |

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。（令和５年 10 月 26 日一部改正、令和５年 12 月 18 日一部改正、令和６年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更、第７条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 12 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 130 人 | 95人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 | 95 人 |
| 収容定員 | 769人 | 737人 | 702人 | 671人 | 640人 | 605人 | 570人 |

3　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 11 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和６年度 | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和 10 年度 | 令和 11 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 50 名 | 50 名 | 50 名 | 50 名 | 50 名 | 50 名 |
| 収容定員 | 530 名 | 460 名 | 390 名 | 360 名 | 330 名 | 300 名 |

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。（令和６年 12 月 16 日一部改正、令和７年３月 24 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和７年度から令和 13 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和７年度 | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 130 名 | 95名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 |
| 収容定員 | 772名 | 737名 | 706名 | 675名 | 640名 | 605名 | 570名 |

附　則

1　この学則は、令和７年８月１日から施行する。（令和７年６月 30 日一部改正（別表２第 30 条関係の変更））

附　則

1　この学則は、令和８年４月１日から施行する。（令和７年 12 月 15 日一部改正、令和８年３月 30 日一部改正（第２条第３項関係の変更、別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和８年度から令和 14 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

| | 令和８年度 | 令和９年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 | 令和14年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入学定員 | 130 名 | 95名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 | 95 名 |
| 収容定員 | 772名 | 741名 | 710名 | 675名 | 640名 | 605名 | 570名 |

別表1（第6条関係：歯学部）

| 科目区分 | 科目名 | 履修年次 | 時間数 | 単位 | 区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 教養教育科目 | 多職種連携のためのアカデミックリテラシー | 1 | 16.0<br>16.0 | 2 | 講義<br>演習 | 必修 |
| | 医療倫理学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 法学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 心理学 | 1 | 16.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 医療における社会・行動科学 | 1 | 16.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 医療面接の基礎 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | データサイエンス | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 情報リテラシー | 1 | 14.0<br>14.0 | 1 | 講義<br>演習 | 必修 |
| | 物理学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 物理学実習 | 1 | 42.0 | 1 | 実験 | 必修 |
| | 専門課程への化学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 化学実習 | 1 | 42.0 | 1 | 実験 | 必修 |
| | エッセンシャル生物 | 1 | 16.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 専門課程への生物学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 生物学実習 | 1 | 42.0 | 1 | 実験 | 必修 |
| | English Reading & WritingⅠ | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | English Reading & WritingⅡ | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | English Speaking & ListeningⅠ | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | English Speaking & ListeningⅡ | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 必修 |
| | 健康運動科学 | 1 | 16.0<br>16.0 | 1 | 講義<br>実技 | 必修 |
| | ベーシック生物 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | スタンダード生物 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | アドバンスト生物 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 自然・文化人類学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | ベーシック化学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | ベーシック物理 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 解析学入門 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 医療とスポーツ | 1 | 18.0<br>10.0 | 1 | 講義<br>実技 | 選択 |
| | 医療とコミュニケーション | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 道徳のしくみ | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | アドバンスト数学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | ベーシック数学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | アドバンスト化学 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 文学の世界 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 実践英語 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 医療と福祉 | 1 | 28.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 科学英語 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 医療と物語 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 人間関係論 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | パーソナリティ心理学 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 哲学の世界 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 医療と法律 | 1 | 20.0 | 1 | 講義 | 選択 |
| | 医学統計学 | 2 | 26.0 | 1 | 講義 | 必修 |

| 科目区分 | 科目名 | 履修年次 | 時間数 | 区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 歯学専門科目 | 歯科医学概論 | 1 | 48.0 | 講義 | 必修 |
| | （看護・介護体験実習、病院案内実習） | 1 | 58.0 | 実習 | 必修 |
| | 解剖学Ⅰ | 1 | 42.0 | 講義 | 必修 |
| | 組織学基礎 | 1 | 28.0 | 講義 | 必修 |
| | 生理学Ⅰ | 1 | 28.0 | 講義 | 必修 |
| | 生化学Ⅰ | 1 | 28.0 | 講義 | 必修 |
| | 臨床歯科学入門 | 1 | 44.0 | 講義 | 必修 |
| | 解剖学Ⅱ | 2 | 84.0 | 講義 | 必修 |
| | 解剖学Ⅱ実習 | 2 | 140.0 | 実習 | 必修 |
| | 組織学・発生学 | 2 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 組織学・発生学実習 | 2 | 56.0 | 実習 | 必修 |
| | 生理学Ⅱ | 2 | 76.0 | 講義 | 必修 |
| | 生理学Ⅱ実習 | 2 | 8.0 | 実習 | 必修 |
| | 生化学Ⅱ | 2 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 生化学Ⅱ実習 | 2 | 28.0 | 実習 | 必修 |
| | 微生物学・免疫学Ⅰ | 2 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科理工学Ⅰ | 2 | 40.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科理工学Ⅰ実習 | 2 | 30.0 | 実習 | 必修 |
| | 薬理学Ⅰ | 2 | 22.0 | 講義 | 必修 |
| | 薬理学Ⅰ実習 | 2 | 6.0 | 実習 | 必修 |
| | 病理学総論 | 2 | 24.0 | 講義 | 必修 |
| | 病理学総論実習 | 2 | 32.0 | 実習 | 必修 |
| | 衛生学・公衆衛生学 | 2 | 34.0 | 講義 | 必修 |
| | 衛生学・公衆衛生学実習 | 2 | 8.0 | 実習 | 必修 |
| | 歯科専門体験実習（講義） | 2 | 4.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科専門体験実習 | 2 | 28.0 | 実習 | 必修 |
| | 専門英語（2年） | 2 | 36.0 | 講義 | 必修 |

| 科目区分 | 科目名 | 履修年次 | 時間数 | 区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 歯学専門科目 | 微生物学・免疫学Ⅱ | 3 | 36.0 | 講義 | 必修 |
| | 微生物学・免疫学Ⅱ実習 | 3 | 20.0 | 実習 | 必修 |
| | 歯科理工学Ⅱ | 3 | 38.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科理工学Ⅱ実習 | 3 | 32.0 | 実習 | 必修 |
| | 薬理学Ⅱ | 3 | 22.0 | 講義 | 必修 |
| | 薬理学Ⅱ実習 | 3 | 6.0 | 実習 | 必修 |
| | 口腔病理学 | 3 | 32.0 | 講義 | 必修 |
| | 口腔病理学実習 | 3 | 52.0 | 実習 | 必修 |
| | 予防歯科学 | 3 | 20.0 | 講義 | 必修 |
| | 予防歯科学実習 | 3 | 8.0 | 実習 | 必修 |
| | 保存修復学 | 3 | 42.0 | 講義 | 必修 |
| | 保存修復学実習 | 3 | 42.0 | 実習 | 必修 |
| | 補綴学総論 | 3 | 14.0 | 講義 | 必修 |
| | 補綴学総論実習 | 3 | 14.0 | 実習 | 必修 |
| | 歯科放射線学 | 3 | 46.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科放射線学実習 | 3 | 10.0 | 実習 | 必修 |
| | 医科学（3年） | 3 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯周病学 | 3 | 52.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯周病学実習 | 3 | 32.0 | 実習 | 必修 |
| | 臨床薬理学 | 3 | 12.0 | 講義 | 必修 |
| | 臨床薬理学実習 | 3 | 16.0 | 実習 | 必修 |
| | 社会と歯学 | 3 | 28.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯内療法学 | 3 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯内療法学実習 | 3 | 42.0 | 実習 | 必修 |
| | 全部床義歯補綴学（Ⅰ） | 3 | 10.0 | 講義 | 必修 |
| | 全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習 | 3 | 18.0 | 実習 | 必修 |
| | 冠橋義歯学 | 3 | 44.0 | 講義 | 必修 |
| | 冠橋義歯学実習 | 3 | 68.0 | 実習 | 必修 |
| | 基礎科学演習 | 3 | 6.0 | 演習 | 必修 |
| | 基礎科学演習実習 | 3 | 28.0 | 実習 | 必修 |
| | 医療リベラルアーツ | 3 | 24.0 | 演習 | 必修 |
| | 歯科総合演習（3年） | 3 | 68.0 | 演習 | 必修 |
| | チーム医療リテラシー | 3 | 24.0 | 演習 | 必修 |
| | 全部床義歯補綴学（Ⅱ） | 4 | 16.0 | 講義 | 必修 |
| | 全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習 | 4 | 54.0 | 実習 | 必修 |
| | 部分床義歯補綴学 | 4 | 32.0 | 講義 | 必修 |
| | 部分床義歯補綴学実習 | 4 | 52.0 | 実習 | 必修 |
| | 歯科麻酔学 | 4 | 56.0 | 講義 | 必修 |
| | 法歯科医学・災害歯科医学 | 4 | 14.0 | 講義 | 必修 |
| | 法歯科医学・災害歯科医学実習 | 4 | 14.0 | 実習 | 必修 |
| | 医科学（4年） | 4 | 98.0 | 講義 | 必修 |
| | 口腔外科学 | 4 | 138.0 | 講義 | 必修 |
| | 口腔外科学実習 | 4 | 16.0 | 実習 | 必修 |
| | 口腔インプラント学 | 4 | 20.0 | 講義 | 必修 |
| | 口腔インプラント学実習 | 4 | 8.0 | 実習 | 必修 |
| | 歯科矯正学 | 4 | 70.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科矯正学実習 | 4 | 42.0 | 実習 | 必修 |
| | 小児歯科学 | 4 | 40.0 | 講義 | 必修 |
| | 小児歯科学実習 | 4 | 30.0 | 実習 | 必修 |
| | 障害者歯科学 | 4 | 28.0 | 講義 | 必修 |
| | 専門英語（4年） | 4 | 14.0 | 講義 | 必修 |
| | 高齢者歯科医学 | 4 | 46.0 | 講義 | 必修 |
| | 歯科総合演習（4年） | 4 | 126.0 | 演習 | 必修 |
| | コミュニケーション学 | 4 | 12.0 | 講義 | 必修 |
| | コミュニケーション学実習 | 4 | 38.0 | 実習 | 必修 |
| | 総合講義（Ⅰ） | 5 | 276.7 | 講義 | 必修 |
| | 臨床実習（Ⅰ・Ⅱ） | 5 | 1212.0 | 実習 | 必修 |
| | 総合講義（Ⅱ） | 6 | 851.5 | 講義 | 必修 |
| | 4学部合同セミナー | 6 | 4.0 | 演習 | 必修 |

| 科目区分 | 科目名 | 履修年次 | 時間数 | 単位 | 区分 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 自由科目 | 海外英語演習 | 1～6 | 約2週間 | 2 | 演習 | 自由 |
| | 地域医療課題解決演習 | 1～6 | 16.0 | 1 | 演習 | 自由 |

別表２（第30条関係）

１．入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。（転部入学含む）

| | | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | 看護学部 |
|---|---|---|---|---|---|
| 入学検定料 | | 60,000 円 | 40,000 円 | 35,000 円 | 30,000 円 |
| 入学金 | | 2,000,000 円 | 600,000 円 | 350,000 円 | 250,000 円 |
| 授業料（年額） | | 2,500,000 円 | 2,500,000 円 | 1,300,000 円 | 1,000,000 円 |
| 実験実習費 | 初年度（年額） | 500,000 円 | － | 125,000 円 | 150,000 円 |
| | 第2学年以降（年額） | 500,000 円 | － | 195,000 円 | 150,000 円 |
| 施設整備費（年額） | | 1,000,000 円 | 1,000,000 円 | 400,000 円 | 250,000 円 |
| 教育充実費 | 入学時 | 3,000,000 円 | 2,000,000 円 | － | － |
| | 第2学年以降（年額） | 1,000,000 円 | 800,000 円 | － | － |

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

２．再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

| | | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | 看護学部 |
|---|---|---|---|---|---|
| 入学検定料 | | 60,000 円 | 40,000 円 | 35,000 円 | 30,000 円 |
| 入学金 | | 500,000 円 | 300,000 円 | 175,000 円 | 125,000 円 |
| 授業料（年額） | | 2,500,000 円 | 2,500,000 円 | 1,300,000 円 | 1,000,000 円 |
| 実験実習費 | 第 1 学年(年額) | 500,000 円 | － | 125,000 円 | 150,000 円 |
| | 第2学年以降（年額） | 500,000 円 | － | 195,000 円 | 150,000 円 |
| 施設整備費（年額） | | 1,000,000 円 | 1,000,000 円 | 400,000 円 | 250,000 円 |
| 教育充実費 | 第 1 学年(年額) | － | － | － | － |
| | 第2学年以降（年額） | 1,000,000 円 | 800,000 円 | － | － |

３．転入学（歯学部に限る。）に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

４．編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

| | | 医学部 | 歯学部 | 薬学部 | 看護学部 |
|---|---|---|---|---|---|
| 入学検定料 | | 60,000 円 | 40,000 円 | 35,000 円 | 30,000 円 |
| 入学金 | | 2,000,000 円 | 600,000 円 | 350,000 円 | 250,000 円 |
| 授業料（年額） | | 2,500,000 円 | 2,500,000 円 | 1,300,000 円 | 1,000,000 円 |
| 実験実習費（年額） | | 500,000 円 | － | 195,000 円 | 150,000 円 |
| 施設整備費（年額） | | 1,500,000 円 | 1,000,000 円 | 400,000 円 | 250,000 円 |
| 教育充実費 | 編入学時 | 3,000,000 円 | 800,000 円 | － | － |
| | 次年度以降（年額） | 1,000,000 円 | 800,000 円 | － | － |

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

５．留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1)　第１学年において留年した者

留年年度における第１学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2)　第２学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考　第１項から第５項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

# 岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程

第１条　本規程は、岩手医科大学学則第２条第３項に定める在学年限について、歯学部における取扱いを定めるものである。

第２条　歯学部の学生の在学年限は、同一学年につき２年とする。ただし、次の学生は、所定の期限までに在学年限延長願（別紙様式１）を歯学部長に提出した上で、歯学部教授会の議を経て学長が決定した場合に限り、１年間当該学年の在学年限の延長が認められることがある。なお、通算して修業年限の２倍を超える場合は在学年限の延長は認めない。

（１）　第４学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。または、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する臨床実習前全国統一試験（CBT、OSCE）を受験し不合格となった者。

（２）　第６学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。

（３）　前各号における在学年数には、休学した期間は含めない。

第３条　この規程の改廃は、歯学部教授会及び教学運営会議の議を経て学長が決定する。

第４条　この規程に関する事務は、歯学部教務課が行う。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

別紙様式１（第２条関連）

# 在学年限延長願

岩手医科大学学長　殿
岩手医科大学歯学部長　殿

年　　月　　日

歯学部＿＿＿＿年＿＿＿＿番

学 生 氏 名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

保証人氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

このたび、当該学年における在学年数が２年目であること、並びに所定の試験に不合格となったことから、「岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程」第２条に定める在学年限の延長をお願いいたしたく、保証人連署の上、願書を提出いたします。

※大学使用欄

年　　月　　日受付

| 学　長 | 歯学部長 | 歯学部<br>教務委員長 | 歯学部<br>学生部長 | 事務局長 | 学務部長 | 歯学部教務課<br>総括課長 | 歯学部教務課<br>係長 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

（趣旨）

第１条　大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第２条に則り、学則第１条第２項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

（各学部等の目的と使命）

第２条　医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

（１）　医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

（２）　歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

（３）　薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成する。

（４）　看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

（５）　全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う人としての教養を高め、豊かな人間性を涵養する。そのため、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

（改廃）

第３条　この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年９月 26 日　から施行し、改正後の規定は、平成 22 年６月 15 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月１日から施行する。（薬学部における目的の変更）

附　則

この規程は、平成 29 年　４月１日から施行する。（看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更）

附　則

この規程は、令和２年２月 12 日から施行する。（教養教育センターの目的の追加）

附　則

この規程は、令和８年２月１日から施行する。（医学部および教養教育センターの目的と使命の追記）

# 学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1．本学学生としての心構え

（1）医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。

（2）学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。

（3）学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。

（4）講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

○アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

（1）不適切な態度･行動の繰り返し

- 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- 時間管理ができない
- 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- 患者や同僚などへの無礼
- 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- 学修環境や臨床現場を混乱させる
- 教員へ挑戦的行動をとる
- 教員からの指摘を受け入れない

（2）不正行為

- 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- 講義、実習での出席届の不正
- 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

（３）職務上の役割以外の不正行為または詐欺

- 研究でのデータ捏造
- 金銭的詐欺
- 経歴詐欺、書類偽造
- 資格詐称
- ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
- 不正行為や健康問題の大学への未申告
- 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽

（４）医療人を目指す者としての不適切な行動

- ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
- 守秘義務の不履行
- ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
- 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
- 性的、人種的およびその他のハラスメント
- 不適切な診察や一線を越えた行動
- 不当な差別

（５）攻撃的な暴力や脅し

- 暴行、身体的暴力
- いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
- ハラスメント
- ストーカー行為

（６）薬物またはアルコールの誤用や濫用

- 飲酒運転
- 処方薬の乱用
- 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
- 薬物の不適切使用
- 不適切な過度の飲酒

（７）その他の不適切行動または犯罪行為

- 違法薬物の所持、取り扱い、提供
- 窃盗
- 無賃乗車
- 金融詐欺
- 児童ポルノ
- 児童虐待またはその他の虐待
- 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

２．伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないよう必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

３．学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続をする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

４．ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

５．ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

６．授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

７．自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合にのみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

| | |
|---|---|
| 登録料 | 2,000 円（年間） |
| 有効期限 | 申請年度内に限り有効　　※年度毎に更新申請が必要 |
| 通学許可基準 | 大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること |
| 申請に必要なもの | ①　自動車通学許可申請書　②登録料　③免許証 |
| 登録証の発行 | 申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、<br>許可された場合のみ発行 |

８．自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

| | |
|---|---|
| 登録料 | バイク　1,000 円　自転車　500 円 |
| 有効期限 | 在籍中有効 |
| 申請に必要なもの | ②　登録申請書　②登録料　③免許証（バイクのみ） |
| 登録証の発行 | 申請後、即日ステッカーを発行 |

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

９．自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

| 交通事故・道路交通法違反の内容 | | 酒酔い・酒気帯び運転 | 無免許運転 | 酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合 |
|---|---|---|---|---|
| 死亡事故又は重大な傷害事故 | 運転者 | 無期停学 | 無期停学 | 6 ヶ月以内の停学 |
| | 同乗者 | 6 ヶ月以内の停学 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 |
| 傷害事故 | 運転者 | 無期停学 | 6 ヶ月以内の停学 | 戒告又は注意 |
| | 同乗者 | 3 ヶ月以内の停学 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 |
| 上記以外の交通事故・道路交通法違反 | 運転者 | 無期停学 | 1 ヶ月以内の停学 | 注意 |
| | 同乗者 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 |
| 死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合 | 運転者 | 退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学 | 退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学 | 退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学 |
| | 同乗者 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 | 状況に応じた処分 |

## １０．トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は 1 人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

| 内容 | 対応 | 日頃の注意点 |
|---|---|---|
| 【ワンクリック詐欺】<br>パソコンのＷＥＢサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求 | 払わない<br>連絡しない | ①知らないアドレスからのメールは見ない<br>②怪しいページは見に行かない<br>③利用規約は必ずチェックする |
| 【悪質商法】<br>マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品を売り込む | クーリング・オフ制度を利用する | ①街頭で声をかけられても相手にしない<br>②契約（署名や押印）は慎重に<br>③入会等は即断せず家族や知人に相談する |

## １１．注意事項

### （１）飲酒

20 歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいっき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

### （２）拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

### （３）盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

１）多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。

２）ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。

３）自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。

４）学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届出てください。

５）学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を経由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

（4）校舎内､講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

（5）喫煙

20 歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

（6）薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

１２．受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

（1）私語　（2）居眠り　（3）途中入退室　（4）携帯電話・スマートフォンの私的利用　（5）食事や飲酒　（6）受講中の化粧

（7）服装の乱れ

１３．日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

（1）ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方のことを考えましょう。

（2）タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

（３）言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

（４）駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない停め方はやめましょう。

# 岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第１条　この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第２条　欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第３条　学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第４条　次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することがある。

（１）　近親者の死亡の場合であって、１親等にあっては連続１週間、２親等にあっては連続３日、３親等にあっては１日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）

（２）　学校保健安全法施行規則（昭和 33 年文部省令第 18 号）第 18 条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第 19 条に定める期間の欠席

（３）　授業中の事故による入院又は加療のための欠席

（４）　交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席

（５）　大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席

（６）　学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席

（７）　その他学部長が特に認める欠席

第５条　前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

| 欠席事由に対応する前条の号 | 添付書類 | 提出期限 |
|---|---|---|
| （１） | 会葬礼状等の説明書類 | 当該期間最終日から２週間以内 |
| （２） | 医師の診断書 | 登校後１週間以内 |
| （３） | | |
| （４） | 交通機関が発行する遅延証明書 | 欠席日から１週間以内 |
| （５） | 事由を証明する書類 | 原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から１週間以内 |
| （６） | | |
| （７） | 学部長が指定する書類 | 学部長が指定する期間内 |

第６条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第７条　この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第８条　この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

平成 20 年８月 18 日一部改正

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する（関係法令の名称変更）。

附　則

この規程は、平成 31 年４月１日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

# 岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに 該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。

（1）午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報（ 以下「暴風警報等」という。）が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。

（2）登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（3）岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（4）暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。

（1）前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。

（2）前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。

（3）前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。

（4）学内外からの照会には各教務課があたる。

3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。

4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。

5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の審議を得るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】（ⅰ）警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。

（ⅱ）警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。

（ⅲ）学外の実習棟の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和２年１月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

昭和 42 年 10 月 1 日　制定
昭和 45 年 12 月 28 日　改正
昭和 48 年 5 月 16 日　改正
昭和 54 年 6 月 6 日　改正
昭和 55 年 6 月 10 日　改正
平成 4 年 2 月 20 日　改正
平成 8 年 5 月 15 日　改正
平成 9 年 3 月 17 日　改正
平成 9 年 8 月 6 日　改正
平成 10 年 3 月 4 日　改正
平成 11 年 3 月 24 日　改正
平成 13 年 2 月 21 日　改正
平成 15 年 1 月 24 日　改正
平成 16 年 3 月 3 日　改正
平成 18 年 3 月 15 日　改正
平成 18 年 11 月 15 日　改正
平成 21 年 3 月 18 日　改正
平成 26 年 3 月 13 日　改正
平成 30 年 3 月 7 日　改正
令和 5 年 2 月 16 日　改正
令和 7 年 3 月 5 日　改正
令和 8 年 3 月 4 日　改正

**岩手医科大学歯学部試験規程**

（趣　　旨）

第１条　この規程は、学則第 8 条第 2 項の規定に基づき、歯学部の試験に関し定めるものである。

（試験科目等）

第２条　試験科目及び試験の実施については、教授会の議を経てこれを定める。

（試験の種類）

第３条　試験は、次のとおりとする。

（１）本試験　履修した授業科目について行う試験をいう。

（２）再試験　本試験において不合格となった科目について改めて行う試験をいう。

（３）追試験　病気又は止むを得ない理由により試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により当該試験科目について行う試験をいう。

（４）科目認定試験　第 2 学年、第 3 学年で不合格となった授業科目について進級後の学年で行う試験をいう。

（試験方法）

第４条　試験は、筆答、口答、レポート提出、製作品提出、実地試問、その他の中から、担当教員が適当と認めた方法により実施する。

（試験日程）

第５条　本試験は、前期及び後期の授業終了時に行うものとする。

２　本試験及び再試験の日程及び時間割等は、その実施の 2 週前までに発表する。

３　追試験は、学業成績判定までに行うものとする。

４　科目認定試験は、当該科目の責任者・コーディネーターが指定した時期に行う。

（受験資格）

第６条　各授業科目の所定履修時間の原則３分の２以上出席しなければ、本試験を受験することができない。ただし、その取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（再・追試験受験手続）

第７条　再試験及び追試験の該当者は、所定の手続きをとらなければならない。

２　追試験該当者は、追試験願及び試験欠席届に理由書（病気の場合は診断書、その他は明確な理由書）を添えて提出し、当該科目責任者及び学部長の承認を得なければならない。

３　再試験料は１科目 3,000 円、追試験料は１科目 1,000 円とし、その都度前納しなければならない。

（評　　点）

第８条　各学年で履修する科目の評点は、次のとおりとする。

（１）第１学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

（２）第２学年～第５学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、65 点以上を合格とする。

（３）第６学年で履修する科目の評点に関し必要な事項は、別に定める。

（４）再試験、追試験及び科目認定試験の取り扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（進　　級）

第９条　各学年で履修した全科目の試験に合格した者は、教授会の議を経て進級とする。

２　前項以外の者で、別に定める要件を満たした者は、教授会の議を経て進級とする。

３　進級不可と判定された者は留年とし、当該学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（卒　　業）

第 10 条　所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て学長が卒業の認定をする。

２　卒業不可と判定された者は留年とし、第 6 学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（成績評価の開示）

第 11 条　個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

（成績評価の異議申し立て）

第 12 条　成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行う場合には、別に定める「成績評価に対する異議申し立てに関する内規」の手続きにより「成績評価に対する異議申立書」（所定の様式による）を、歯学部教務課に提出するものとする。

（罰　　則）

第 13 条　試験に関して不正行為があった場合は、学則第 41 条により懲戒する。

（規程の改廃）

第 14 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第 15 条　この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
2　この規程は、平成 8 年 5 月 15 日から施行する。
3　この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
4　この規程は、平成 9 年 8 月 6 日から施行する。
5　この規程は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
6　この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
7　この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
8　この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
9　この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
10　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
11　この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
12　この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
13　この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
14　この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（学則第 18 条第 1 項との整合性を図る修正）
15　この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
16　この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
17　この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）

# 2026年度岩手医科大学歯学部 試験規程の取扱内規

１．この内規は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第６条及び第８条の取扱いに関して定めるものである。

２．第６条（受験資格）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）別に受験資格を規定された科目及び試験については、それぞれ規定された要件を満たさなければならない。

（２）半期10回未満の科目で、出席が所定の割合未満の科目がある場合でも、当該学期における全科目の出席状況を勘案し、受験を認めることがある。

（３）第１学年において次のいずれかに該当する者は、再試験を受けることができない。
①履修科目の３分の１を超えて60点未満の評価を得た者
②総平均点が60点未満の者（小数点以下切り捨て）

（４）第２学年から第４学年においては、各授業科目の所定履修時間の５分の４以上出席しなければならない。

（５）第２学年において履修科目の総平均点が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（６）第３学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（３年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（７）歯科総合演習（３年）については、追試験を実施しない。

（８）第４学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（４年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（９）歯科総合演習（４年）については、追試験を実施しない。

(10) 第５学年前期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②前期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(11) 第５学年後期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②後期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(12) 第５学年総合講義（Ⅰ）については、追試験を実施しない。

(13) 第６学年第１回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（基盤形成講義II、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②前期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義①に選出されている者は、その講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義①の受講対象者は、前年度の成績及び実力確認試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(14) 第６学年第２回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（臨実特化講義、必修特化講義、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②後期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義②及び知識統合講義に選出されている者は、それぞれの講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義②の受講対象者は、大学主催の模擬試験、到達度評価試験、第１回総合試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする（追加する場合がある）。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(15) 第６学年卒業判定保留解除試験（再試験）における受験資格の要件は次のとおりとする。
①２．(13)、(14) に定める要件を全て満たしていること。
②判定基準点（必修問題75%以上、一般問題65%以上、臨床実地問題65%以上、総合得点70%以上）がいずれも合格基準に到達していない場合は、受験することができない。
③総合得点が63%未満の者は、受験することができない。

(16) 第６学年総合講義（Ⅱ）については、追試験を実施しない。

３．第８条（評点）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）追試験の点数は、その得点より１割を減じたものとする。

（２）再試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（３）科目認定試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（４）歯科総合演習（３年）は、前期試験を30%、３年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（５）歯科総合演習（４年）は、前期試験を30%、４年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（６）第５学年総合講義（Ⅰ）は、実力確認試験及び復習試験（週間と月間）を 10%、前期総合試験を 40%、後期総合試験を 50%として評価する。
（７）第６学年総合講義（Ⅱ）は、実力確認試験及び到達度評価試験を５％、第１回総合試験を 40%、第２回総合試験を 55%として評価する。
（８）第６学年総合講義（Ⅱ）の判定基準点、判定基準及び評点は、次のとおりとする。
判 定 基 準 点：必修問題 75%以上、一般問題 65%以上、臨床実地問題 65%以上、総合得点 70%以上（小数点以下切り捨て）。
判　定　基　準：必修問題、一般問題、臨床実地問題、総合得点いずれも基準点を満たしていること。
評　　点：100 点満点とし、総合得点を評点に用いる。
（９）第６学年で履修する４学部合同セミナーの評点は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

付　則
この内規は、2026 年３月 27 日から施行する。

# 2026年度岩手医科大学歯学部 進級・卒業に関する申し合わせ事項

１．この申し合わせ事項は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第９条及び第10条の取扱いに関して定めるものである。

２．第９条（進級）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第１学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

（２）第２学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 履修科目の平均点が65点以上
b. 再試験を受験している
c. 55点未満の科目がない
d. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（３）第３学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 歯科総合演習（３年）に合格している
b. 履修科目の平均点が65点以上
c. 再試験を受験している
d. 55点未満の科目がない
e. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（４）第４学年における修了要件は、履修した全科目の試験及び歯学生共用試験（CBT・OSCE）に合格していることとする。

（５）第５学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していること及び臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）を修了していることとする。

（６）臨床実習の修了要件は、次のとおりとする。

①全科目のリクアイアメントを100％以上所定の期日までに達成していること。
②臨床実習の全日程において、５分の４以上出席していること。
③臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験及び臨床実地試験）に合格していること。
④学外連携プログラムに係る実習（介護体験実習、地域医療体験実習）を修了していること。
⑤岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

（７）第２学年及び第３学年の修了要件を満たさずに進級した者は、進級後の学年で不合格となった授業科目の科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（８）カリキュラムの変更等により留年時に再履修できない授業科目が発生した場合は、不合格となった授業科目に限り、科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（９）科目認定試験に不合格となった者は留年とし、改めて不合格となった科目認定試験を受けなければならない。

３．第10条（卒業）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第６学年における卒業要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

付　則

この申し合わせ事項は、2026年３月27日から施行する。

# 岩手医科大学歯学部 成績評価に対する異議申し立てに関する内規

制定　令和８年３月４日

（趣　　旨）

第１条　この内規は、岩手医科大学歯学部の学生（以下「学生」という。）が、履修した授業科目に係る成績評価に対して疑義が生じ、科目責任者からの説明をもってしても疑義の解消に至らなかった場合に行う異議申し立てに関して、必要な事項を定める。

（成績評価方法等の明示）

第２条　責任者・コーディネーター（以下「科目責任者」という。）は、成績評価に関連する事項を教育要項等に明示し、学生に説明しなければならない。

（成績評価結果の説明）

第３条　科目責任者は、学生に対して成績評価結果の基となる試験結果等の説明に努めるものとする。

（成績評価に関する質問・疑問等の受付）

第４条　科目責任者は、成績開示後に一定期間を設けて学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付けるとともに、これに真摯に対応するものとする。

（異議申し立て手続き）

第５条　学生は、次に掲げる事項に該当する場合、成績評価に対する異議申し立てをすることができるものとする。

（１）成績の誤記入等、明らかに科目責任者等の誤りであると思われる場合。

（２）教育要項等により学生に明示している成績評価方法・基準・配点割合等から明らかに逸脱していると思われる場合。

２　学生は、異議申し立てを行う場合、成績開示後５日以内に成績評価に対する異議申立書（別記様式１）を、歯学部教務課に提出するものとする。ただし、同一の成績評価に対する異議申し立ては１回限りとする。

（異議申し立ての審査）

第６条　歯学部長は、異議申し立てを受けた場合、歯学部教務委員会へ回答書（別記様式２）の作成を指示するものとする。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てを受理する場合、歯学部教務委員長を長とする成績評価に対する異議申し立て審査委員会（以下「成績異議申立審査委員会」という。）を設置する。

３　成績異議申立審査委員会は、成績評価に対する異議申立書に基づき、審査を行う。

４　成績異議申立審査委員会は、審査に際し、当該学生及び科目責任者等への聴取調査を行うことができる。また、必要に応じて、科目責任者等に対して成績判定に用いた資料の提出を求めることができる。

（審査結果の取り扱い）

第７条　成績異議申立審査委員会は、審査結果を歯学部教務委員会に報告する。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てへの対応を決定し、歯学部長に報告する。

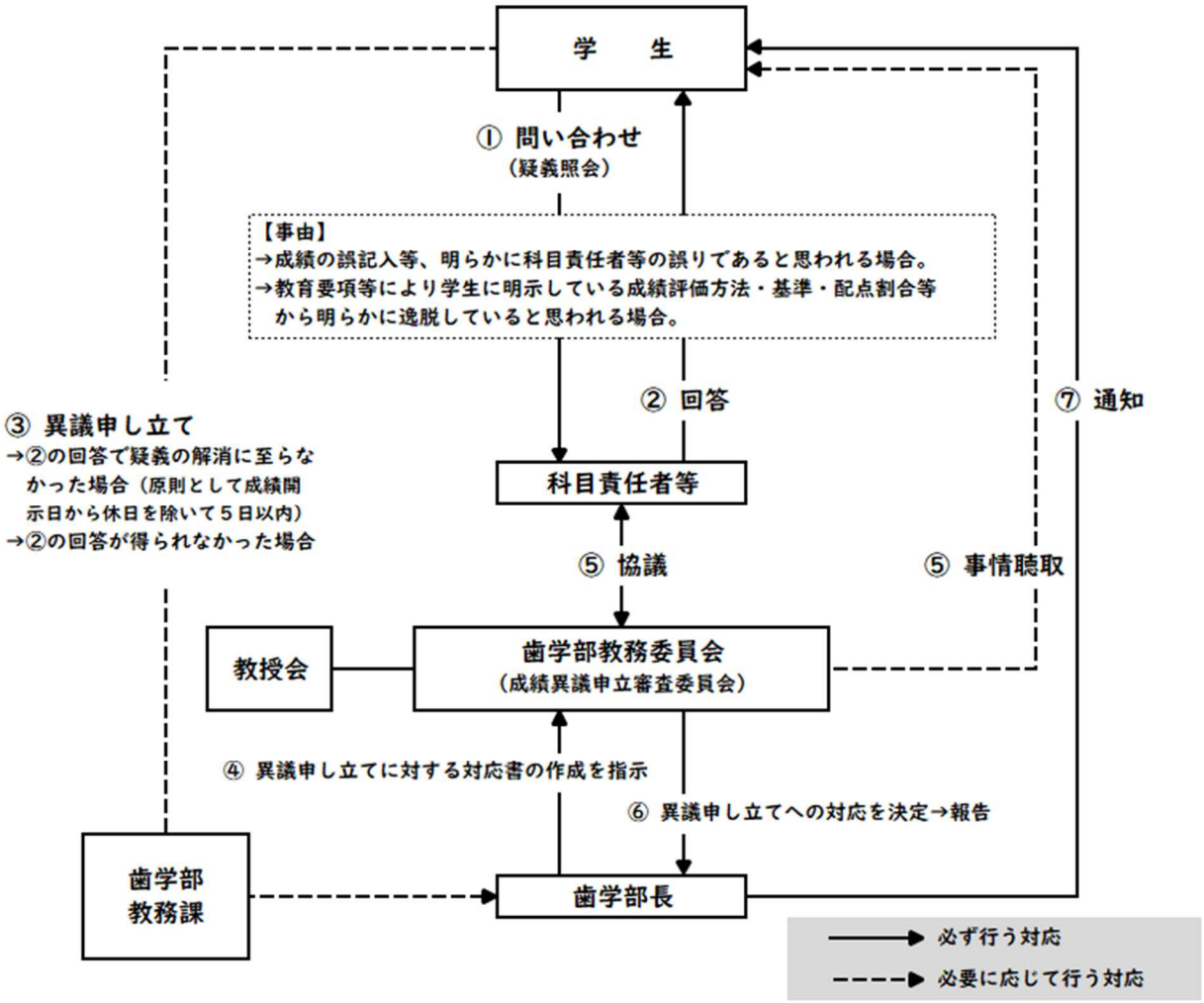
３　歯学部長は、審査結果を当該学生へ回答書（別記様式２）にて通知するものとする。

（内規の改廃）

第８条　この内規の改廃は、歯学部教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第９条　この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。



（様式１）

令和　　年　　月　　日

# 成績評価に対する異議申立書

歯学部長　様

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名　　㊞

以下の理由のとおり、当該授業科目の成績評価に対して異議を申し立てます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業科目名 | | 開示された<br>成績評価 | 点 |
| 科目責任者名 | | | |
| 異議を申し立てる<br>具体的理由 | | | |

提出先：歯学部教務課

（様式２）

令和　　年　　月　　日

# 成績評価に対する異議申立への回答書

歯 学 部　　年　　番
学籍番号
氏　　名

歯学部長

令和　　年　　月　　日付、提出のありました成績評価に対する異議申し立てについて、歯学部教務委員会の決定に基づき、以下のとおり回答いたします。

| | |
|---|---|
| 授業科目名 | |
| 科目責任者名 | |
| 異議申立への対応 | １．成績評価の変更を行います。　**【変更後の成績評価：　　点】**<br>２．成績評価の変更を行いません。 |
| 具体的理由 | |

# 岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和６年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、「障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　障害のある学生等　障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)第２条第１号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。

（２）　合理的配慮　障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないよう必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

（教職員の責務）

第３条　本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないよう、合理的配慮の提供に努めなければならない。

（支援体制）

第４条　本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

２　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第５条及び第６条の手続きを経ることとする。

３　学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　学事課

（４）　その他学生部長が必要と認めた者

（面談）

第５条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口に相談後、面談を実施することとする。

２　面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　教務委員長

（４）　クラス担任

（５）　当該学部教務課

（６）　健康管理センター

（７）　学事課

（８）　その他学生部長が必要と認めた者

３　前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

（申請）

第６条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式１の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

２　新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。

３　更新申請は、年度ごとに行うものとする。

（合理的配慮の検討）

第７条　学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

２　前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたると判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

（１）　本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)

（２）　実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)

（３）　費用及び負担の程度

（４）　本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

（合理的配慮の提供）

第８条　本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

２　合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

（情報保護）

第９条　合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報を共有することができるものとする。

（事務）

第 10 条　本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

（改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

様式第１号(第６条関係)

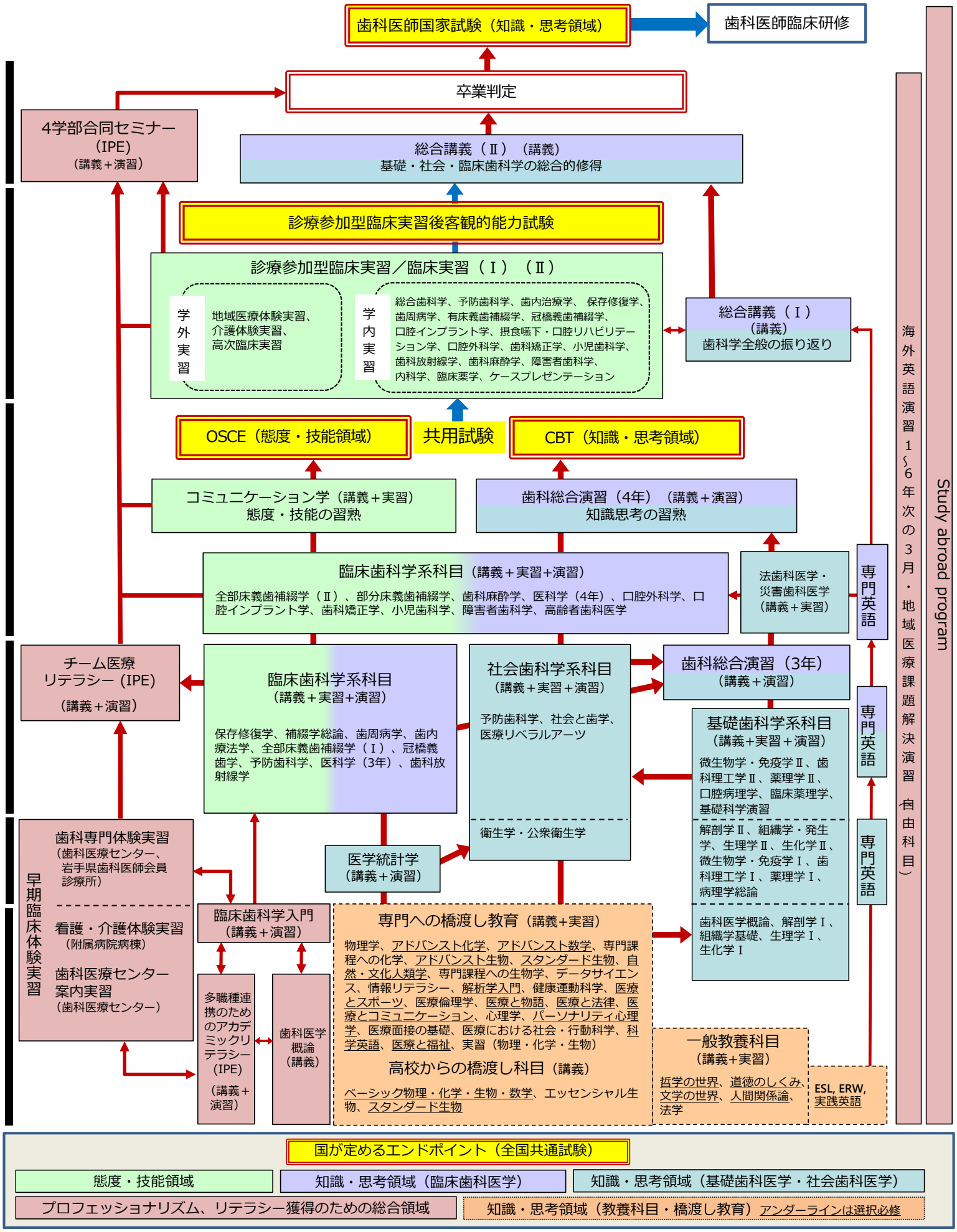
学生支援室　御中

# 修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、＿＿＿年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

<table>
<tr><td>申請日</td><td colspan="4">＿＿＿＿ 年 ＿＿ 月 ＿＿ 日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(ふりがな)<br>氏名※自筆</td><td colspan="2" rowspan="2">(　　)<br>※自筆 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td><td>入学年度</td><td>＿＿＿＿＿年度</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td>＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>学部学年等</td><td colspan="4">＿＿＿学部 ＿＿＿年 出席番号 ＿＿＿番</td></tr>
<tr><td>連絡先・現住所</td><td colspan="4">携帯電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿<br>E-mail ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿<br>現 住 所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>緊急連絡先<br>(保護者等)</td><td colspan="4">氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿<br>住　　所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿<br>電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　本人との関係：＿＿＿</td></tr>
<tr><td rowspan="3">障がい等の名称<br><br>障がいの種類<br><br>根拠書類</td><td colspan="4">＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿<br>※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと</td></tr>
<tr><td colspan="4">障がいの種類(該当箇所にチェックのこと)<br>□身体障がい □知的障がい □精神障がい □その他心身の機能の障がい</td></tr>
<tr><td>障害者手帳<br>□有(　　手帳　　種　　級)<br>□無</td><td>診断書<br>□有<br>□無</td><td colspan="2">その他<br>□有<br>(内容：　　)</td></tr>
<tr><td>申し出理由<br>及び<br>希望する配慮内容</td><td colspan="4">配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など)<br><br>希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="4">□規程第９条　関係者間における個人情報の共有に同意します。</td></tr>
</table>

# 歯学部歯学科カリキュラムマップ　2026



## GPA（Grade　Point　Average）制度について

●定　義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値で表したものである。

●目　的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

●評価および GP

| 医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年<br>薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年 | | |
|---|---|---|
| 評価 | GP | 各科目成績 |
| A | 3 | 100～80 点 |
| B | 2 | 79～70 点 |
| C | 1 | 69～60 点 |
| D | 0 | 59 点以下 |

| 歯学部 2～6 学年 | | |
|---|---|---|
| 評価 | GP | 各科目成績 |
| A | 3 | 100～80 点 |
| B | 2 | 79～70 点 |
| C | 1 | 69～65 点 |
| D | 0 | 64 点以下 |

※歯学部における第 6 学年総合講義Ⅱ及び 4 学部合同セミナーの評価については別に定める。

●対　象：各年度による

●単位算出方法：

$$\frac{\text{1 コマ 2 時間（1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分）×回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

（例）

●GPA 計算方法：

$$\frac{\text{（評価「A」単位数×3 点）+（評価「B」単位数×2 点）+（評価「C」単位数×1 点）}}{\text{総単位数（不合格科目を含める）}}$$

●GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

●対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

## CAP 制度の導入について

●目　的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が 1 年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対　象：全学部・全学年

●制度内容について【歯学部】

本学歯学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必用な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1 年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

| 学年 | 自由科目単位数 |
|---|---|
| 1～6 学年 | 3.0 単位 |

# 大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

> **第二十一条**　各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
> 2　前項の単位数を定めるに当たっては、**一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する**ことを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1 単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて 45 時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる**事前・事後学修が必要になります。**

例えば以下の例を考えてみます。

例）講義・実習 14 コマで 1 単位の科目の場合
　　講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間（90 分を 2 時間として計算） ＝ 28 時間
　　45 時間 － 28 時間 ＝ 17 時間
　　計 17 時間分（1 コマあたり 72 分以上）の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

**シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。**なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間（90 分＝2 単位時間）ではなく実時間（実際の授業時間）に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。

2．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。

3．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。

4．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。

5．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

（平成 26 年 3 月 11 日制定）

岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因解明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット（含、Social Network Service）に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報（姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等）を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(ミクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

教育成果物の利用に関して

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

# 学生健康診断規程

（趣旨）

第１条　この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

（健康診断の実施）

第２条　大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年１回、健康診断を実施しなければならない。

２　健康診断は健康管理センターが実施する。

（健康診断の種類）

第３条　健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

２　定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

３　臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

（受診の義務）

第４条　学生は健康診断を受けなければならない。

２　学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

３　前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

（健康診断の総合評価及び通知）

第５条　健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

（事後措置）

第６条　学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者があるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

２　学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

３　健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

（復学時の健康診断）

第７条　疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

（証明書の発行）

第８条　第３条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

# 令和8年度　学生健康診断等実施要領

## １．学生健康診断

＊M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

| 健　診　日　時 | | 対象学生 | 個人票配付時間・場所 | | 健診会場 | 健診項目 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4月20日(月) | 9：30～11：30 | 3M | 9:20 | キャンパスモール<br>階段下<br>(Yショップ前)<br><br>・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。 | **＜矢巾キャンパス １階＞**<br><br>■北側入口(胸部検診車)<br>・胸部X線撮影<br><br>■キャンパスモール<br>正面入口付近<br>・視力検査<br><br>■キャンパスモール<br>ヤマザキショップ向かい側<br>・血圧測定<br><br>■東研究棟 SGL<br>・身長<br>・体重<br>・内科診察<br>・歯科健診<br><br>■西講義実習棟<br>キャンパスモール側トイレ<br>・尿検査<br><br>■西研究棟 ラウンジ<br>・ 血液検査 | ■必須項目<br>・身長<br>・体重<br>・血圧<br>・内科診察<br>・視力検査<br>・胸部X線撮影<br><br>■学年別追加項目<br>【1年】<br>・血液検査<br>・尿検査<br>・歯科健診<br>【4年】<br>・血液検査<br>・尿検査<br><br>■B型肝炎接種前検査<br>(血液検査)<br>・3M<br>・4D<br>・4P<br>・1N<br>・1DH<br>・3N編入生 |
| | | 4D | 10:50 | | | |
| | 13：30～15：30 | 4P | 13:20 | | | |
| | | 4N | 13:50 | | | |
| | | 6M | 14:20 | | | |
| | | 3DH | 14:50 | | | |
| 4月21日(火) | 9：30～11：30 | 1M | 9:20 | | | |
| | | 1D | 10:50 | | | |
| | 13：30～16：00 | 1P | 13:20 | | | |
| | | 6P | 13:50 | | | |
| | | 1N<br>3N編入生 | 14:30 | | | |
| | | 1DH | 15:20 | | | |
| 4月22日(水) | 9：30～12：00 | 4M | 9:20 | | | |
| | | 2N | 10:50 | | | |
| | 13：30～16：00 | 2M | 13:20 | | | |
| | | 2D | 14:50 | | | |
| | | 2P | 15:10 | | | |
| | | 2DH | 15:30 | | | |
| 4月23日(木) | 9：30～12：00 | 5M | 9:20 | | | |
| | | 3D | 10:50 | | | |
| | | 3P | 11:20 | | | |
| | 13：30～15：30 | 5D | 13:20 | | | |
| | | 6D | 13:40 | | | |
| | | 5P | 14:10 | | | |
| | | 3N | 14:40 | | | |

※　変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

## ２．心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

| 対象学年 | 日　　時 | 会　　場 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 1N | 4月20日(月)5限　16:20～17:50 | 各教室 | 東大式エゴグラム<br>学生精神的健康調査 |
| 1D | 4月22日(水)4限　14:40～16:10 | | |
| 1P | 4月22日(水)5限　16:20～17:50 | | |
| 1M | 4月24日(金)1限　8:50～10:20 | | |
| 2～6年(M・D・P)<br>2～4年(N) | 4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、<br>健康診断時に実施 | 健康診断会場 | メンタルヘルスチェック |

## ３．健康講話

| 対　　象 | 日　　時 | 会　　場 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 1M・1D・1P・1N | 5月13日(水)5限　16:20～17:50 | 大堀記念講堂 | 受動喫煙講習会<br>(学生部と共催) |
| | 6月5日(金) 2限　10:30～12:00 | 大堀記念講堂 | メンタルヘルス講習会 |

## ４．ワクチン接種日程について

（１）Ｂ型肝炎ワクチン　　対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

| 区　　分 | 日　　時 | | 対象学生 | 会　　場 |
|---|---|---|---|---|
| 接種前<br>採血検査 | 4月20日(月) | 9:30～11:30 | 3M、4D | 矢巾キャンパス<br>西研究棟1階<br>ラウンジ |
| | | 13:30～15:30 | 4P | |
| | 4月21日(火) | 13:30～16:00 | 1N･1DH･3N編入生 | |
| ワクチン接種<br>１回目 | 5月21日(木) | 14:40 | 1N、3N編入生 | |
| | | 15:30 | 4D | |
| | | 16:10 | 4P | |
| | 5月22日(金) | 15:00 | 3M | |
| | | 16:00 | 1DH | |
| ワクチン接種<br>２回目 | 6月18日(木) | 14:40 | 1N、3N編入生 | |
| | | 15:30 | 4D | |
| | | 16:10 | 4P | |
| | 6月19日(金) | 15:00 | 3M | |
| | | 16:00 | 1DH | |
| ワクチン接種<br>３回目 | 11月5日(木) | 14:40 | 1N、3N編入生 | |
| | | 15:30 | 4D | |
| | | 16:10 | 4P | |
| | 11月6日(金) | 15:00 | 3M | |
| | | 16:00 | 1DH | |
| 接種後採血 | 12月3日(木) | 14:40 | 1N、3N編入生 | |
| | | 15:30 | 4D | |
| | | 16:10 | 4P | |
| | 12月4日(金) | 15:00 | 3M | |
| | | 16:00 | 1DH | |
| 追加接種<br>(該当者のみ) | 1月7日(木) | 15:30 | 3M、4D、4P | |
| | | 16:10 | 1DH、1N、3N編入生 | |
| 追加接種後採血<br>(該当者のみ) | 2月4日(木) | 15:30 | 3M、4D、4P | |
| | | 16:10 | 1DH、1N、3N編入生 | |

（２）インフルエンザワクチン　　対象：全員（接種料金は自己負担）

| キャンパス | 日　　時 | | 対象学生 | 会　　場 |
|---|---|---|---|---|
| 内　丸 | 10月13日(火) | 15:30 | 6D | 内丸<br>創立60周年記念館<br>8階　研修室 |
| | 10月14日(水) | 14:30 | 1DH | |
| | | 15:00 | 2DH | |
| | | 15:30 | 3DH | |
| 矢　巾 | 10月19日(月) | 13:30 | 1N | 矢巾キャンパス<br>西講義実習棟2階<br>西2-C実習室 |
| | | 15:00 | 4D | |
| | | 15:30 | 4P | |
| | | 16:10 | 3M | |
| | 10月20日(火) | 13:30 | 1P | |
| | | 14:00 | 5D | |
| | | 15:00 | 1M | |
| | | 16:10 | 2N | |
| | 10月21日(水) | 13:30 | 2M | |
| | | 14:30 | 6P | |
| | | 15:00 | 3P･3D | |
| | | 16:10 | 1D | |
| | 10月22日(木) | 13:30 | 4M | |
| | | 15:00 | 6M | |
| | | 16:10 | 4N | |
| | 10月23日(金) | 13:30 | 5P | |
| | | 14:00 | 2D | |
| | | 14:30 | 5M | |
| | | 15:00 | 2P | |
| | | 16:10 | 3N | |

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

## 歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

１．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

２．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 学　　長 | 小笠原　邦昭 | 水 | 10：00～12：00 | 学長室<br>事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ること |
| 解剖学講座<br>機能形態学分野 | 藤原　尚樹 | 月～金 | 16：30～17：30 | 解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室<br>（内線 5842）<br>naokif@iwate-med.ac.jp |
| | 吉岡　望 | 月～金 | 16：30～17：30 | 解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室<br>（内線 5842）<br>yoshinoz@iwate-med.ac.jp |
| 解剖学講座<br>発生生物・再生医学分野 | 原田　英光 | 月～金 | 16：30～17：30 | 解剖学講座　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または<br>hideha@iwate-med.ac.jp |
| | 大津　圭史 | 月～金 | 16：30～17：30 | 解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または<br>kotsu@iwate-med.ac.jp |
| | 池崎　晶二郎 | 月～金 | 16：30～17：30 | 解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または<br>sikezaki@iwate-med.ac.jp |
| 生理学講座<br>病態生理学分野 | 黒瀬　雅之 | 月・木 | 16：30～17：30 | 病態生理学分野 211 室<br>内線 5692<br>kurose@iwate-med.ac.jp |
| | 加藤　哲也 | 火・水 | 16：30～17：30 | 病態生理学分野 213 室<br>内線 5690<br>tkkatou@iwate-med.ac.jp |
| 生化学講座<br>細胞情報科学分野 | 石崎　明 | 月 | 16：30～17：30 | 生化学講座細胞情報科学分野教授室<br>内線 5740<br>aishisa@iwate-med.ac.jp |
| | 帖佐　直幸 | 水 | 16：30～17：30 | 生化学講座細胞情報科学分野<br>スタッフルーム（253 室）内線 5741<br>nchosa@iwate-med.ac.jp |
| | 横田　聖司 | 水 | 16：30～17：30 | 生化学講座細胞情報科学分野<br>スタッフルーム（253 室）内線 5741<br>syokota@iwate-med.ac.jp |
| 微生物学講座<br>分子微生物学分野 | 石河　太知 | 月～金 | 16：00-17：00 | 微生物学講座分子微生物学分野教授室<br>内線 5800<br>tishikaw@iwate-med.ac.jp |
| | 三浦　利貴 | 月～金 | 12:00～13:00<br>16:00～17:00 | 微生物学講座分子微生物学分野<br>スタッフルーム 1 303　内線 5801<br>tosmiura@iwate-med.ac.jp |

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 薬理学講座<br>病態制御学分野 | 中村　正帆 | 月 | 16：00～16：30 | 薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム<br>363　内線 5811<br>tadahonk@iwate-med.ac.jp |
| | 田村　晴希 | 月 | 12：00～13：00<br>16：00～17：00 | 薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム<br>363　内線 5811<br>htamura@iwate-med.ac.jp |
| | 山田　ありさ | 月 | 16：00～17：00 | 薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム<br>363　内線 5811<br>yamaari@iwate-med.ac.jp |
| 病理学講座<br>病態解析学分野 | 入江　太朗 | 木 | 16：00～18：00 | 病理学講座病態解析学分野　教授室<br>内線 5900<br>tarou@iwate-med.ac.jp |
| | 佐藤　泰生 | 木 | 16：00～17：30 | 病理学講座病態解析学分野　461 室<br>staisei@iwate-med.ac.jp |
| 法科学講座<br>法歯学・災害口腔医学分野 | 熊谷　章子 | 木 | 18：00～19：00 | 法科学講座法歯学・災害口腔医学分野<br>スタッフルーム　内線 5684<br>kumagaia@iwate-med.ac.jp |
| 医療工学講座 | 武本　真治 | 木 | 16：30～17：30 | 医療工学講座教授室西 317<br>（内線 5760）<br>takemoto@iwate-med.ac.jp |
| | 佐々木　かおり | 月・木 | 16：30～17：30 | 医療工学講座スタッフルーム西 316<br>（内線 5763）<br>sskkaori@iwate-med.ac.jp |
| 歯科保存学講座<br>う蝕治療学分野 | 野田　守 | 木 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>nodam@iwate-med.ac.jp |
| | 浅野　明子 | 月 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>akiasano@iwate-med.ac.jp |
| | 千田　弥栄子 | 火 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>yaekon@iwate-med.ac.jp |
| | 東　兼司 | 水 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>kenjih@iwate-med.ac.jp |
| | 相上　雄亮 | 水 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>yaigami@iwate-med.ac.jp |
| | 大塚　泰寛 | 水 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>oyasuhir@iwate-med.ac.jp |
| | 清水　彩恵子 | 水 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>tobishi@iwate-med.ac.jp |
| | 鈴木　大平 | 水 | 18：00～19：00 | 歯科保存学講座う蝕治療学分野医局<br>273 号室<br>staihei@iwate-med.ac.jp |
| 歯科保存学講座<br>歯周療法学分野 | 佐々木　大輔 | 月 | 17：00～18：00 | 歯周療法学分野医局（372 号室）<br>daisukes@iwate-med.ac.jp |
| | 村井　治 | 火・木 | 17：00～18：00 | 歯周療法学分野医局（372 号室）<br>osamurai@iwate-med.ac.jp |
| | 鈴木　啓太 | 水 | 17：00～18：00 | 歯周療法学分野医局（372 号室）<br>esuzuki@iwate-med.ac.jp |
| | 相原　恵子 | 火 | 17：00～18：00 | 歯周療法学分野医局（372 号室）<br>kaihara@iwate-med.ac.jp |

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 歯科補綴学講座<br>有床義歯・口腔リハビリテーション学分野 | 小林　琢也 | 金 | 17：00～18：00 | 教授室（441 号室）　内線 #4531<br>kobataku@iwate-med.ac.jp |
| | 佐藤　宏明 | 木 | 17：30～18：30 | 義歯外来、医局、研究室　内線 4441<br>satohiro@iwate-med.ac.jp |
| | 米澤　悠 | 木 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　内線 4406<br>yyone@iwate-med.ac.jp |
| | 米澤　紗織 | 木 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　内線 71576<br>saki@iwate-med.ac.jp |
| | 原　総一朗 | 火 | 17：00～18：00 | 医局、研究室（406 号室）　内線 4406<br>sohara@iwate-med.ac.jp |
| | 島田　崇史 | 木 | 17：00～18：00 | 医局、研究室（406 号室）　内線 #71575<br>shimtak@iwate-med.ac.jp |
| | 伊藤　凌 | 木 | 17：00～18：00 | 医局、研究室（404 号室）　内線 71563<br>itoryo@iwate-med.ac.jp |
| 歯科補綴学講座<br>冠橋義歯・口腔インプラント学分野 | 今　一裕 | 火 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　453 号室<br>kazukon@iwate-med.ac.jp |
| | 深澤　翔太 | 水 | 17：30～18：30 | 医局、研究室　447 号室<br>sfu@iwate-med.ac.jp |
| | 横田　潤 | 火 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　445 号室<br>jyokota@iwate-med.ac.jp |
| | 福徳　暁宏 | 水 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　447 号室　内線 #4418<br>afukuto@iwate-med.ac.jp |
| | 齊藤　裕美子 | 月 | 16：00～17：00 | 医局、研究室　433 号室　内線 4439<br>ysaito@iwate-med.ac.jp |
| | 佐々木　渓斗 | 水 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　407 号室　内線 4418<br>sasakikeito0329@gmail.com |
| | 八戸　勇樹 | 水 | 17：00～18：00 | 医局、研究室　407 号室　内線 4418<br>yk.8nohe@gmail.com |
| | 星　美貴 | 水 | 17：30～18：30 | 医局、研究室　445 号室　内線 #4440<br>hoshmiki@iwate-med.ac.jp |

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 口腔顎顔面再建学講座<br>口腔外科学分野 | 山田　浩之 | 月 | 18：00～19：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野　教授室　内線 6311<br>yamadah@iwate-med.ac.jp |
| | 川井　忠 | 木 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 6311<br>kawait@iwate-med.ac.jp |
| | 大橋　祐生 | 月・火・<br>木・金 | 18：00～20：00 | 矢巾附属病院<br>耳鼻咽喉科頭頸部外科医局　内線 6302<br>yohashi@iwate-med.ac.jp |
| | 古城　慎太郎 | 金 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 6311<br>kshinta@iwate-med.ac.jp |
| | 平野　大輔 | 月・木・金 | 16：00～17：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71535<br>thirano@iwate-med.ac.jp |
| | 高橋　美香子 | 水 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71590<br>tmikako@iwate-med.ac.jp |
| | 野宮　孝之 | 月・水 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71116<br>tnomiya@iwate-med.ac.jp |
| | 秋本　祐基 | 火 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71527<br>akimoto@iwate-med.ac.jp |
| | 川又　慎介 | 月・火・<br>木・金 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71529<br>kawashi@iwate-med.ac.jp |
| | 矢菅　絵里加 | 月・火 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院<br>口腔外科学分野医局　内線 71530<br>erikay@iwate-med.ac.jp |
| 口腔顎顔面再建学講座<br>歯科麻酔学分野 | 佐藤　健一 | 火 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>satoken@iwate-med.ac.jp |
| | 筑田　真未 | 月 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>mchikuda@iwate-med.ac.jp |
| | 佐藤　州 | 金 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>satoshu@iwate-med.ac.jp |
| | 坂野上　和奏 | 水 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>sakanoue@iwate-med.ac.jp |
| | 柳町　晴香 | 木 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>yanaharu@iwate-med.ac.jp |
| | 前澤　五月 | 木 | 17：00～18：00 | 矢巾附属病院５階<br>歯科麻酔学分野医局　内線 6342<br>satsukim@iwate-med.ac.jp |

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 口腔顎顔面再建学講座<br>歯科放射線学分野 | 泉澤　充 | 火・木・土 | 12：00～13：00 | 歯科放射線学分野・特任教授室(134 号室)<br>内線 #4513<br>mizumisa@iwate-med.ac.jp |
| | 髙橋　徳明 | 火・木 | 17：00～18：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室)<br>内線 71574<br>tnoriaki@iwate-med.ac.jp |
| | 佐藤　仁 | 木 | 17：00～18：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室 (135 号室)<br>内線 #4513<br>satohito@iwate-med.ac.jp |
| | 星野　正行 | 水・金 | 17：00～18：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室)<br>内線 #4513<br>mhoshino@iwate-med.ac.jp |
| | 星　勲 | 水 | 17：00～18：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室)<br>内線 #4513<br>isaohosh@iwate-med.ac.jp |
| | 金森　尚城 | 月・火・水 | 12：00～13：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室)<br>内線 #4513<br>kanataka@iwate-med.ac.jp |
| | 菅野　江美 | 火・木・金 | 12：00～13：00 | 歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室)<br>内線 #4513<br>emkanno@iwate-med.ac.jp |
| 口腔保健育成学講座<br>歯科矯正学分野 | 佐藤　和朗 | 木 | 17：00～18：00 | 歯科矯正学分野・教授室 (456 号室)<br>内線:4533<br>kazsatoh@iwate-med.ac.jp |
| | 桑島　幸紀 | 木 | 17：00～19：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>ykuwaji@iwate-med.ac.jp |
| | 飯塚　康之 | 月 | 17：00～19：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>yiizuka@iwate-med.ac.jp |
| | 菊池　恵美子 | 木 | 12：00～13：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>eaomatsu@iwate-med.ac.jp |
| | 浅沼　莞奈 | 木 | 12：00～13：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>asanumak@iwate-med.ac.jp |
| | 深澤　慶子 | 木 | 12：00～13：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>keikof@iwate-med.ac.jp |
| | 上田　茜 | 木 | 12：00～13：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>uakane@iwate-med.ac.jp |
| | 吉田　弘法 | 月 | 17：00～18：00 | 歯科矯正学分野・医局 (472 号室)<br>内線:4511<br>hironori@iwate-med.ac.jp |

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 口腔保健育成学講座<br>小児歯科学・障害者歯科学分野 | 熊谷　美保 | 月～木 | 18：00～19：00 | 小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局<br>（PHS 71557）<br>mkumagai@iwate-med.ac.jp |
| | 齊藤　桂子 | 月～金 | 18：00～19：00 | 小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局<br>（PHS 71587）<br>ksaitho@iwate-med.ac.jp |
| | 磯部　可奈子 | 月・水・木・金 | 16：00～17：00 | 小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局<br>（PHS 71485）<br>kisobe@iwate-med.ac.jp |
| 口腔医学講座<br>関連医学分野 | 千葉　俊美 | 月～金 | 16：00～17：00 | 口腔医学講座 関連医学分野<br>教授室440号室　内線 #4435<br>toschiba@iwate-med.ac.jp |
| | 王　挺 | 月～金 | 16：00～17：00 | 口腔医学講座 関連医学分野<br>研究室444号室　内線 #4228<br>tingwang@iwate-med.ac.jp |
| 口腔医学講座<br>予防歯科学分野 | 佐藤　俊郎 | 火・水・木 | 17：00～18：00 | 予防歯科学分野519号室（内 #4516）<br>toshiros@iwate-med.ac.jp |
| | 衣斐　美歩 | 月～金 | 16：00～17：00 | 予防歯科学分野519号室（内 #4516）<br>mibi@iwate-med.ac.jp |
| | 大石　泰子 | 火・木・金 | 16：00～17：00 | 予防歯科学分野519号室（内 #4516）<br>toishi@iwate-med.ac.jp |
| | 佐藤　華子 | 月・金 | 17：00～18：00 | 予防歯科学分野517号室（内 #4518）<br>satohana@iwate-med.ac.jp |
| | 杉山　由紀子 | 月・水・木 | 17：00～18：00 | 予防歯科学分野517号室（内 #4518）<br>yukikosu@iwate-med.ac.jp |
| 非常勤教員 | 授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。 | | | |

# 教養教育センター　オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

| 担当教員 | | 担当教員 | 曜日 | 時間帯 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 人間科学科 | 哲学分野 | 林　研 | 月・金 | 16:30～17:30 | 266人間科学科<br>教授・准教授室 |
| | | 三浦　康宏 | 水 | 16:30～17:30 | 264-1文学分野　研究室 |
| | 法学分野 | 廣瀬　清英 | 火～木 | 12:00～13:00 | 223法学分野　研究室 |
| | 心理学・<br>行動科学分野 | 藤澤　美穂 | 水・金 | 12:00～13:00 | 262人間科学科<br>教授・准教授室 |
| | | 香川　由美 | 月・水・金 | 16:30～17:30 | 267心理学・行動科学分野<br>研究室 |
| | 体育学分野 | 佐々木　亮平 | 月・水・金 | 12:00～13:00 | 103体育学分野　研究室 |
| 情報科学科 | 数学分野 | 江尻　正一 | 月～金 | 16:30～17:30 | 257情報科学科<br>教授・准教授室 |
| | | 長谷川　大 | 月～金 | 16:30～17:30 | 225数学分野　研究室 |
| | 医学統計<br>情報学分野 | 髙橋　史朗<br>教養教育センター長<br>教養教育センター学生部長 | 月・木 | 16:30～17:30 | 258情報科学科<br>教授・准教授室 |
| | | 小野　保 | 月・水 | 16:30～17:30 | 222医学統計情報学分野<br>研究室 |
| 物理学科 | | 奥村　健一 | 月～金 | 16:30～17:30 | 253物理学科<br>教授・准教授室 |
| | | 小松　真 | 月～金 | 17:00～18:00 | 254物理学科　研究室2<br>komatsum@iwate-med.ac.jp |
| | | 小田　泰行 | 月～金 | 16:30～17:30 | 254物理学科　研究室2 |
| 化学科 | | 中島　理<br>教務専門委員長 | 月 | 12:00～13:00 | 256化学科<br>教授・准教授室 |
| | | 東尾　浩典 | 月～金 | 16:30～17:30 | 255化学科　研究室 |
| | | 吉田　潤 | 月・水 | 16:30～17:30 | 255化学科　研究室 |
| 生物学科 | | 三枝　聖 | 月・水・金 | 16:30～17:30 | 261生物学科　研究室 |
| | | 菅　孔太朗 | 月・水・金 | 16:30～17:30 | 261生物学科　研究室 |
| | | 内藤　雪枝 | 月・水・金 | 12:00～13:00 | 261生物学科　研究室 |
| 外国語学科 | 英語分野 | 柳谷　千枝子 | 月・木・金 | 16:30～17:30 | 265外国語学科<br>教授・准教授室 |
| | | 松田　竜宙 | 火・木 | 16:30～17:30 | 224英語分野　研究室2 |
| | | Jonathan Levine-Ogura | 月～金 | 16:30～17:30 | 221英語分野　研究室4 |
| | | Robert Ken Asano | 月・水・金 | 16:30～17:30 | 226英語分野　研究室1 |
| 教養教育センター | | 非常勤教員 | | 授業終了時 | 各講義室 |

## 医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学長 | 小笠原　邦昭 | 水 | 10:00～12:00 | 学長室 | 事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること |
| 副学長 | 仲　哲治 | 月～金 | 9:00～17:00 | 創薬・医療機器開発教授室 | 内線：5635 |
| 医学教育学講座<br>医学教育学分野 | 髙田　亮 | 月・火・水・金 | 16:00～18:00 | 医学教育学講座 | 内線：5102<br>内線：71339 |
| | 相澤　純 | 月 | 月：12:00～13:00 | | 内線：71392 |
| 医学教育学講座<br>地域医療学分野 | 伊藤　智範 | 月・金 | 12:00～13:00 | 医学教育学講座<br>循環器内科医局 | 内線：5102<br>内線：6415 |
| 医学教育学講座<br>教育支援システム開発分野 | 前沢　千早 | 月・水 | 10:00～12:00、13:00～16:00 | 教育支援システム開発分野（358） | 内線：5661 |
| | 安平　進士 | 火・木 | 17:00～18:00 | 教育支援システム開発分野（462） | |
| | 柴﨑　晶彦 | 月・火 | 16:00～17:00 | | |
| 解剖学講座<br>人体発生学分野 | 木村　英二 | 火 | 12:00～13:00 | 人体発生学分野　スタッフルーム | 内線：5831 |
| | 中野　真人 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 足立　礼孝 | 月～金 | 16:00～18:00 | | |
| | 勝本　恵一 | 月～金 | 16:00～18:00 | | |
| 解剖学講座<br>細胞生物学分野 | 齋野　朝幸 | 火～金 | 12:00～13:00、16:00～19:00 | 解剖学講座研究室（405） | 内線：5871 |
| | 成田　啓之 | 月～金 | 12:00～13:00、16:00～17:00 | | |
| | ｱﾌﾞﾀﾞﾘ ｻｲﾄﾞ ｼｬﾘﾌ | 月～金 | 12:00～13:00、16:00～19:00 | | |
| | 阿久津　仁美 | 月～金 | 12:00～13:00、16:00～17:00 | | |
| | 平川　正人 | 月～金 | 12:00～13:00、16:00～17:00 | | |
| 生理学講座<br>統合生理学分野 | 中嶋　克己 | 月～金 | 16:30～19:00 | 統合生理学分野<br>スタッフルーム | 内線：5733 |
| | 木村　眞吾 | 月～金 | 16:30～19:00 | | |
| | 鈴木　喜郎 | 月～金 | 16:30～18:45 | | |
| | 望月　圭 | 月～金 | 18:00～20:30 | | |
| | 駒切　洋 | 月・水・金 | 16:30～19:00 | | |
| | 鈴木　享 | 月～金 | 16:30～19:00 | | |
| 生化学講座<br>分子医化学分野 | 金子　桐子 | 月・火・水・木 | 16:00～18:00 | 分子医化学分野<br>スタッフルーム | 内線：5751 |
| | 鈴木　亘 | 月・火・木 | 16:00～18:00 | | |
| | 髙橋　隼一郎 | 月・火・水・木 | 16:00～18:00 | | |
| 微生物学講座<br>感染症学・免疫学分野 | 村木　靖 | 月・火・水・木・金 | 12:00～13:00 | 微生物学講座　教授室（308） | 内線：5792 |
| | 海部　知則 | 月・火・水・木・金 | 12:00～13:00 | 微生物学講座　スタッフルーム（307） | |
| | 小田切　崇 | 月・火・水・木・金 | 12:00～13:00 | 微生物学講座　スタッフルーム（306） | |
| | 石川　静麻 | 月・火・水・木・金 | 12:00～13:00 | | |
| 薬理学講座<br>情報伝達医学分野 | 平　英一 | 火・水 | 16:30～17:30 | 薬理学講座　スタッフルーム（365） | 内線：5821 |
| | ﾊｻﾝ ｱﾘﾌ ｳﾙ | 月・火・水・木・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 小原　真美 | 月・水・金 | 16:00～17:00 | | |
| 病理学講座<br>機能病態学分野 | 片岡　竜貴 | 火・水 | 12:00～13:00 | 病理学講座　教授室（455） | 内線：5920 |
| | 中村　啓哉 | 木・金 | 12:00～13:00 | 研究室 | |
| | 伊藤　謙 | 水・木 | 12:00～13:00 | | |
| | 松﨑　駿 | 月・水 | 12:00～13:00 | | |
| 法科学講座<br>法医学分野 | 髙宮　正隆 | 火 | 12:00～12:20 | 医局 | 内線：5682 |
| | 森川　剛 | 火 | 12:00～12:20 | | |
| 衛生学公衆衛生学講座 | 丹野　高三 | 月～金 | 16:15～18:00 | 講座 研究室 | 内線：5775 |
| | 赤坂　憲 | 月～金 | 16:15～18:00 | | |
| | 田鎖　愛理 | 月～金 | 16:15～18:00 | | |
| | 事崎　由佳 | 月～金 | 16:15～18:00 | | |
| | 下田　陽樹 | 月～金 | 16:15～18:00 | | |
| | 高梨　信之 | 月・火・水・金 | 16:15～18:00 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 内科学講座<br>消化器内科分野 | 松本　主之 | 水 | 17:00～18:00 | 医局 | 内線：6222、6223 |
| | 黒田　英克 | 水 | 17:30～18:30 | | |
| | 宮坂　昭生 | 水 | 17:30～18:30 | | |
| | 梁井　俊一 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 柿坂　啓介 | 火・木 | 16:00～18:00 | | |
| | 鳥谷　洋右 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 永塚　真 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 佐々木　裕 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 遠藤　啓 | 水 | 16:30～17:00 | | |
| | 吉田　雄一 | 水 | 16:00～16:30 | | |
| | 阿部　珠美 | 水 | 18:00～18:30 | | |
| | 鈴木　彰子 | 水 | 12:30～13:30 | | |
| | 星　綾乃 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 大友　康司 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 佐々木　登希夫 | 水 | 16:30～17:00 | | |
| | 今成　慧祐 | 水 | 16:30～17:30 | | |
| | 本多　俊介 | 水 | 16:30～17:30 | | |
| | 藤原　裕大 | 水 | 16:30～17:00 | | |
| 内科学講座<br>糖尿病・代謝・内分泌内科分野 | 石垣　泰 | 火 | 15:00～16:00 | 医局 | 内線：6271 |
| | 高橋　義彦 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 瀬川　利恵 | 木 | 12:00～13:00 | | |
| | 武部　典子 | 月 | 16:00～17:00 | | |
| | 長谷川　豊 | 金 | 9:30～10:30 | | |
| | 小田　知靖 | 火 | 12:00～13:00 | | |
| | 冨樫　弘文 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 千田　愛 | 水 | 12:00～13:00 | | |
| | 千葉　拓 | 月 | 9:00～10:00 | | |
| | 川島　智美 | 水 | 12:00～13:00 | | |
| | 吉田　絵里子 | 水 | 15:00～16:00 | | |
| 内科学講座<br>腎・高血圧内科分野 | 旭　浩一 | 火 | 12:15～13:15 | 教授室 | 内線：6416 |
| | 吉川　和寛 | 火 | 12:15～13:15 | 医局 | |
| | 河嶋　英里 | 火 | 12:15～13:15 | | |
| | 野田　晴也 | 火 | 12:15～13:15 | | |
| | 岡本　好生 | 火 | 12:15～13:15 | | |
| 内科学講座<br>循環器内科分野 | 森野　禎浩 | 月～金 | 12:00～13:30 | 循環器内科医局 | 内線：6413 |
| | 石田　大 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 大和田　真玄 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 房崎　哲也 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 肥田　頼彦 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 二宮　亮 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 芳沢　礼佑 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 芳沢　美知子 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 佐々木　航 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 二宮　開 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 澤　陽平 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 浅野　峻見 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 登坂　憲吾 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| | 佐々木　健太 | 月～金 | 12:00～13:30 | | |
| 内科学講座<br>呼吸器内科分野 | 川田　一郎 | 火・木・金 | 14:30～17:00 | 医局 | 内線：6251 |
| | 長島　広相 | 月・水・金 | 16:30～17:00 | | |
| | 秋山　真親 | 火 | 16:30～17:00 | | |
| | 内海　裕 | 月・水・金 | 16:30～17:00 | | |
| | 堀井　洋祐 | 火・水・木 | 16:30～17:00 | | |
| | 片桐　紘 | 月・木・金 | 16:30～17:00 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野 | 藤本　穣 | 木（第4除く） | 9:00～12:00 | 医局 | 内線：6471 |
| | 村田　興則 | 木 | 9:00～17:00 | | |
| | 鈴木　悠地 | 木 | 9:00～17:00 | | |
| | 駒ヶ嶺　正嗣 | 金 | 9:00～12:30 | | |
| | 大河原　知治 | 水 | 9:00～12:00 | | |
| | 舟嶋　英志 | 金 | 9:00～17:00 | | |
| | 昆　康弘 | 水（第1.3） | 14:00～17:00 | | |
| 内科学講座<br>血液腫瘍内科分野 | 伊藤　薫樹 | 火 | 16:30～17:00 | 教授室 | 内線：6401 |
| | 小宅　達郎 | 火・木 | 17:00～18:00 | 医局・西6階血液病棟 | |
| | 古和田　周吾 | 月・火・木 | 17:00～18:00 | | |
| | 岡野　良昭 | 火・水 | 17:00～18:00 | | |
| | 佐藤　剛 | 火・水 | 17:00～18:00 | | |
| | 西谷　真来 | 月・火・水 | 12:00～15:00 | | |
| | 前田　峻大 | 火・水 | 17:00～18:00 | | |
| 内科学講座<br>脳神経内科・老年科分野 | 前田　哲也 | 木 | 16:00～17:00 | 脳神経内科・老年科　医局 | 内線：6431,6432 |
| | 板橋　亮 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 工藤　雅子 | 月・火 | 16:00～17:00 | | |
| | 石塚　直樹 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 赤坂　博 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 鈴木　真紗子 | 木 | 16:00～17:00 | | |
| | 岩岡　和博 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 髙橋　真 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 髙橋　健太 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 津田　圭介 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 大井　清貴 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 田口　啓太 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 寺内　貴廣 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| 外科学講座 | 佐々木　章 | 火 | 15:00～17:00 | 外科学講座 教授室 | 内線：6220 |
| | 新田　浩幸 | 火 | 14:00～17:00 | 外科学講座 教授室 | |
| | 鈴木　信 | 火 | 14:00～17:00 | 外科学講座　医局 | |
| | 梅邑　晃 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 井原　欣幸 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 藤野　順子 | 火 | 10:00～11:00 | | |
| | 馬場　誠朗 | 水 | 14:00～17:00 | | |
| | 石田　和茂 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 八重樫　瑞典 | 木 | 9:00～11:00 | | |
| | 武田　大樹 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 二階　春香 | 水 | 14:00～17:00 | | |
| | 安藤　太郎 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 佐々木　教之 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 天野　総 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 瀬川　武紀 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 天野　怜 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 川島　到真 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 熊谷　秀基 | 水 | 14:00～17:00 | | |
| | 棚橋　洋太 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| | 菊地　晃司 | 火 | 14:00～17:00 | | |
| 脳神経外科学講座 | 赤松　洋祐 | 月～金 | 17:00～18:00 | 脳神経外科学講座　医局 | 会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。<br>（9：00～16：00）<br>内線：6422,6421 |
| | 別府　高明 | 火 | 17:00～18:00 | | |
| | 石垣　大哉 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 佐藤　雄一 | 月・水・木 | 17:00～18:00 | | |
| | 佐浦　宏明 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 吉田　純 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 大志田　創太郎 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 筒井　章太 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 柳原　普 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 心臓血管外科学講座 | 金　一 | 水・金 | 17:00～18:00 | 西5階心臓血管外科　医局 | 内線：6411 |
| | 小泉　淳一 | 水・木 | 17:00～18:00 | | |
| | 枝木　大治 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 齋藤　大樹 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 塩屋　雅人 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 田林　東 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| | 正木　直樹 | 月～金 | 17:00～18:00 | | |
| 呼吸器外科学講座 | 齊藤　元 | 月～金 | 8:30～17:00 | 呼吸器外科学講座　医局 | 内線：6505 |
| | 出口　博之 | 月～金 | 8:30～17:00 | | |
| | 友安　信 | 月～金 | 8:30～17:00 | | |
| | 重枝　弥 | 月～金 | 8:30～17:00 | | |
| | 兼古　由香 | 月～金 | 8:30～17:00 | | |
| | 岩井　英頌 | 月～金 | 8:30～17:00 | | |
| 整形外科学講座 | 田島　吾郎 | 水 | 9:00～12:00 | 整形外科学講座　医局 | 内線：6562 |
| | 佐藤　光太朗 | 木 | 10:00～11:00 | | |
| | 丸山　盛貴 | 木 | 17:00～18:00 | | |
| | 大竹　伸平 | 木 | 16:00～17:00 | | |
| | 三又　義訓 | 月 | 14:00～17:00 | | |
| | 及川　伸也 | 金 | 9:00～10:00 | | |
| | 及川　龍之介 | 火 | 16:00～17:00 | | |
| | 鈴木　忠 | 金 | 9:00～10:00 | | |
| | 村上　賢也 | 火 | 15:00～17:00 | | |
| | 山部　大輔 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 楊　寛隆 | 金 | 17:00～18:00 | | |
| | 千葉　佑介 | 金 | 9:00～10:00 | | |
| | 和田　俊太郎 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 松浦　真典 | 水 | 8:30～9:30 | | |
| | 髙橋　裕孝 | 水 | 8:30～9:30 | | |
| | 月村　悦子 | 水 | 8:30～9:30 | | |
| 形成外科学講座 | 櫻庭　実 | 水・金 | 17:00～18:00 | 医局 | 内線：6571 |
| | 本多　孝之 | 水・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 小野寺　文 | 水・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 三橋　伸行 | 木・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 阿部　桃子 | 月～金 | 15:00～16:30 | | |
| | 山﨑　友和 | 月・水 | 16:00～17:00 | | |
| 産婦人科学講座 | 馬場　長 | 火 | 16:00～17:00 | 産婦人科学講座　医局 | 内線：3750 |
| | 小山　理恵 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 庄子　忠宏 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 利部　正裕 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 岩動　ちず子 | 金 | 16:00～16:30 | | |
| | 永沢　崇幸 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 尾上　洋樹 | 火 | 16:00～17:00 | | |
| | 羽場　厳 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 川村　花恵 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 佐々木　佳夏子 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 佐藤　翔 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 髙取　恵里子 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 佐藤　千絵 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 海道　善隆 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 村上　一行 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 鈴木　南奈子 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 黒川　絵里加 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 武蔵　実久 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 岡田　有加 | 講義終了後に受け付ける | | | |
| | 髙木　駿 | 講義終了後に受け付ける | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 小児科学講座 | 赤坂　真奈美 | 月・木 | 17:00～18:00 | 医局 | 内線：3701 |
| | 石川　健 | 火 | 12:00～13:00 | | |
| | 齋木　宏文 | 木 | 12:00～17:00 | | |
| | 外舘　玄一朗 | 火・木 | 13:00～17:00 | | |
| | 鳥谷　由貴子 | 火・水・木・金 | 15:00～17:00 | | |
| | 中野　智 | 火 | 12:00～13:00 | | |
| | 松本　敦 | 月・水 | 17:00～18:00 | | |
| | 三浦　翔子 | 水・金 | 14:00～16:00 | | |
| | 水間　加奈子 | 月・火・金 | 12:00～13:00 | | |
| | 草野　修司 | 月・火・金 | 12:00～13:00 | | |
| | 朝倉　賀子 | 月・火・木・金 | 14:00～18:00 | | |
| | 八鍬　瑛子 | 火・木 | 11:00～12:00 | | |
| | 谷藤　幸子 | 月・火 | 12:00～14:00 | | |
| | 浅見　麻耶 | 月・火 | 9:00～17:00 | | |
| | 佐藤　啓 | 水・木 | 12:00～14:00 | | |
| | 小野寺　千夏 | 金 | 12:00～14:00 | | |
| | 田金　星都 | 月～木 | 16:00～17:00 | | |
| | 滝沢　友里恵 | 木・金 | 12:00～14:00 | | |
| | 千田　悠太郎 | 火・水 | 16:00～17:00 | | |
| | 吉田　太郎 | 月・木・金 | 14:00～16:00 | | |
| | 阿部　志津香 | 月～金 | 11:00～17:00 | | |
| | 齋藤　寛治 | 月・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 鈴木　幸之介 | 月・水・木 | 9:00～17:00 | | |
| | 高橋　学 | 火・木 | 14:00～16:00 | | |
| | 千葉　智子 | 月・火・木・金 | 9:00～11:00 | | |
| | 豊島　浩志 | 月・水・木 | 14:00～17:00 | | |
| 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 | 中西 啓 | 月 | 17:00～19:00 | 医局 | 内線：6302 |
| | 片桐　克則 | 木・金 | 17:00～19:00 | | |
| | 及川　伸一 | 火 | 10：00～17：00 | | |
| | 亀井　昌代 | 火・木 | 17:00～ | | |
| | 阿部　俊彦 | 火・木・金 | 17:00～ | | |
| | 桂　彩 | 火・水 | 17:00～ | | |
| | 土田　宏大 | 月 | 18:00～18：30 | | |
| 眼科学講座 | 黒坂　大次郎 | 月 | 17:00～18:00 | 眼科学講座　医局 | 内線：6582 |
| | 橋爪　公平 | 月 | 16:00～17:00 | | |
| | 新田　順福 | 月 | 17:30～18:30 | | |
| | 及川　誠 | 月 | 17:30～18:30 | | |
| | 清野　太郎 | 月 | 17:30～18:30 | | |
| | 橋浦　哲哉 | 月 | 14:00～16:00 | | |
| | 伊藤　愉一胤 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| | 今泉　利康 | 月 | 17:00～18:30 | | |
| | 大島　広之 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| | 福田　一央 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| 皮膚科学講座 | 天野　博雄 | 水 | 17:00～18:00 | 皮膚科学講座　医局 | 内線：6543 |
| | 角田　加奈子 | 月 | 10:00～12:00 | | |
| | 渡部　大輔 | 木 | 17:00～18:00 | | |
| | 三浦　慎平 | 火 | 17:00～18:00 | | |
| | 渡辺　彩乃 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 井上　剛 | 水 | 17:00～18:00 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 泌尿器科学講座 | 小原　航 | 水 | 9:00～10:00 | 泌尿器科学講座　医局 | 内線：6551 |
| | 阿部　貴弥 | 月 | 9:00～10:00 | | |
| | 杉村　淳 | 水 | 18:00～19:00 | 内丸MC控室 | |
| | 兼平　貢 | 火 | 18:00～19:00 | 泌尿器科学講座　医局 | |
| | 加藤　廉平 | 月 | 18:00～19:00 | | |
| | 前川　滋克 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| | 五十嵐　大樹 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| | 塩見　叡 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| | 井藤　綾人 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| | 阿部　正和 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| | 田村　大地 | 海外留学中 | 海外留学中 | | |
| | 久野　瑞貴 | 火 | 18:00～19:00 | | |
| 神経精神科学講座 | 大塚　耕太郎 | 火 | 16:30～18:00 | 矢巾附属病院10階<br>神経精神科学講座　医局 | 内線：2011 |
| | 八木　淳子 | 金 | 12:00～13:00 | | |
| | 三條　克巳 | 水 | 17:00～18:00 | | |
| | 福本　健太郎 | 火 | 16:00～17:00 | | |
| | 山家　健仁 | 火 | 16:00～17:00 | | |
| | 内出　希 | 金 | 10:00～12:00 | | |
| | 三田　俊成 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 吉岡　靖史 | 月 | 16:00～17:00 | | |
| | 本多　笑奈 | 木 | 9:00～10:00 | | |
| 放射線医学講座 | 田中　良一 | 月・金 | 16:00～16:30 | 放射線科　医局 | 内線：6322 |
| | 加藤　健一 | 月・水・木・金 | 16:00～16:30 | | |
| | 鈴木　智大 | 火・木 | 16:00～17:00 | 放射線科　読影室 | 内線：2121 |
| | 田村　明生 | 火～金 | 16:00～17:00 | 放射線科　医局 | 内線：6322 |
| | 鈴木　美知子 | 月・木・金 | 9:00～10:00 | 放射線科　読影室 | 内線：2121 |
| | 折居　誠 | 月・金 | 16:00～17:00 | | |
| | 小原　牧子 | 水 | 12:00～13:00 | | |
| | 川島　和哉 | 月・金 | 15:00～17:00 | | |
| | 曽根　美都 | 月・金 | 15:00～17:00 | | |
| | 向井田　瑛佑 | 水・木 | 16:00～17:00 | | |
| | 藤原　純平 | 月・金 | 15:00～17:00 | | |
| 麻酔学講座 | 熊谷　基 | 月～金 | 16:30～ | 麻酔科管理室 | 内線：2465 |
| | 大畑　光彦 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 脇本　将寛 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 水間　謙三 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 久慈　昭慶 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 中野　雄介 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 田村　雄一郎 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 畠山　知規 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 宮田　美智子 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 小川　祥平 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 髙橋　裕也 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 栗原　寛人 | 月～金 | 16:30～ | | |
| | 新居　正季子 | 月～金 | 16:30～ | | |
| 臨床検査医学・感染症学講座 | 仲村　究 | 火 | 14:00～17:00 | 臨床検査医学・感染症学講座　教授室 | 内線：6331 |
| | 藤原　亨 | 木 | 12:00～13:00 | 臨床検査医学・感染症学講座　医局 | |
| | 小野寺　直人 | 木 | 9:00～10:00 | | |
| | 熊谷　亜希子 | 月 | 12:30～13:30 | | |
| | 七崎　之利 | 月 | 13:00～14:00 | | |
| | 髙橋　敬太 | 木 | 11:00～12:00 | | |
| | 日比谷　健司 | 火 | 9:00～12:00 | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 救急・災害医学講座 | 眞瀬　智彦 | 火・木 | 14:00～17:00 | 災害センター　研究室 | 内線：5565 |
| | 髙橋　学 | 月～金 | 12:00～13:00 | 救急センター　医局 | 内線：2682、2683 |
| | 藤田　友嗣 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 菅　重典 | 月～木 | 12:00～13:00 | | |
| | 佐藤　寿穂 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 吉直　大佑 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 森野　豪太 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 野々口　マリア | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 横藤　壽 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 富永　綾 | 火・水 | 14:00～17:00 | 災害センター　研究室 | 内線：5565 |
| | 藤原　弘之 | 火・木 | 14:00～17:00 | | |
| | 金子　拓 | 火・木 | 14:00～17:00 | 災害センター　研究室 | 内線：5565 |
| | 寺山　茉莉 | 月～金 | 12:00～13:00 | 救急センター　医局 | 内線：2682、2683 |
| | 星　眞太郎 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| 総合診療医学講座 | 下沖　収 | 月 | 17:00～18:00 | 医局 | 内線：#6304 |
| | 大間々　真一 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| | 髙橋　智弘 | 木 | 17:00～18:00 | | |
| | 米田　真也 | 月・火・水 | 16:00～17:00 | | |
| | 山田　哲也 | 月・火 | 17:00～18:00 | | |
| 岩手県高度救命救急センター | 藤野　靖久 | 月～金 | 12:00～13:00 | 救急センター　医局 | 内線：2683 |
| | 小鹿　雅博 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 千田　光平 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 三﨑　俊斉 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 丹田　実 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 石井　修平 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 佐々木　秀策 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 八鍬　一貴 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 藤本　健太郎 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 石田　馨 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 藤澤　良介 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| | 佐藤　貴紀 | 月～金 | 12:00～13:00 | | |
| 病理診断学講座 | 柳川　直樹 | 月～金 | 17:00～ | 医局 | 内線：2393 |
| | 刑部　光正 | 月～金 | 17:00～ | | |
| | 杉本　亮 | 月～金 | 17:00～ | | |
| | 伊藤　一洋 | 月～金 | 17：00～ | | |
| 臨床腫瘍学講座 | 板持　広明 | 月 | 15:00～17:00 | 医局 | 内線：2083 |
| | 岩谷　岳 | 水・木 | 17:00～19:00 | | |
| | 遠藤　史隆 | 金 | 15:00～17:00 | | |
| 医療安全学講座 | 肥田　圭介 | 木 | 12:00～14:00 | 医療安全管理部 | 内線：6112 |
| 睡眠医療学科 | 西島　嗣生 | 火・水 | 17:00～19:00 | 睡眠医療学科　医局 | 内線：#3358<br>emailでの連絡可 |
| | 細川　敬輔 | 月・火・木 | 17:00～19:00 | | |
| | 細川　里絵 | 水 | 9:00～12:00 | | |
| 臨床遺伝学科 | 鈴森　伸宏 | 金 | 16:00～17:00 | 臨床遺伝学科　医局 | 内線：#3258 |
| | 山本　佳世乃 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 吉田　明子 | 水 | 16:00～17:00 | | |
| | 小林　有美子 | 金 | 16:00～17:00 | | |
| | 勝部　暢介 | 月 | 16:00～17:00 | | |
| 緩和医療学科 | 木村　祐輔 | 月～水 | 17:00～18:00 | 緩和医療学科　医局 | 内線：3364 |
| | 鴻巣　正史 | 月・火・金 | 17:00～18:00 | | |
| | 中村　聖華 | 月・火 | 17:00～18:00 | | |
| 放射線腫瘍学科 | 有賀　久哲 | 火 | 17:00～18:30 | 医局 | 内線：6322 |
| | 菊池　光洋 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| | 及川　博文 | 火 | 17:00～18:00 | | |
| | 家子　義朗 | 月 | 17:00～18:00 | | |
| | 瀬川　昂史 | 月 | 12:00～13:00 | | |
| リハビリテーション医学講座 | 西村　行秀 | 月・火 | 月：14:00～17:00<br>火：10:00～12:00 | 教授室 | 内線：3733 |
| | 西山　一成 | 火・金 | 火：　9:00～12:00<br>金：10:00～12:00 | リハビリテーション科医室 | 内線：3731 |
| 災害・地域精神医学講座 | 赤平　美津子 | 火 | 17:00～18:00 | 神経精神科学講座　医局 | 内線：2371 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門 | 永井　雅人 | 随時 | 随時 | 医局 | 内線：5464 |
| いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門 | 須藤　洋一 | 月～金 | 12:30～13:30 | 医局 | 内線：5472 |
| | 山﨑　弥生 | 月～金 | 10:00～12:00 | | |
| | 楠　詩織 | 月～金 | 10:00～12:00 | | |
| 非常勤（客員）講師 | 授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。 | | | | |

# 医歯薬総合研究所　オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

| 所属 | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 場所 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学長 | 小笠原　邦昭 | 水 | 10:00～12:00 | 学長室 | 事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること |
| 副学長 | 仲　哲治 | 月～金 | 9:00～17:00 | 創薬・医療機器開発教授室 | 内線：5635 |
| 医歯薬総合研究所長 | 仲　哲治 | 月～金 | 9:00～17:00 | 創薬・医療機器開発教授室 | 内線：5635 |
| 医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門 | 西塚　哲 | 火・木 | 火：16:00～17:00木：12:00～13:00 | 教授室 | 内線：5685 |
| | 世良田　聡 | 月・木 | 13:00～17:00 | 107室 | 内線：5635 |
| | 鈴木　悠地 | 木 | 9:00～17:00 | 医局 | 内線：6471 |
| | 阿保　亜紀子 | 水・木・金 | 10:00～17:00 | スタッフルーム（102室） | 内線：5686 |
| | 真柳　平 | 月～金 | 16:00～17:00 | 神経科学研究部門 | 内線：5711 |
| | 開　勇人 | 火・木・金 | 10:00～17:00 | スタッフルーム（102室） | 内線：5687 |
| 医歯薬総合研究所基盤的研究部門 | 寺崎　一典 | 随時 | 随時 | 医局 | 内線：3331 |
| | 山下　典生 | 月・水 | 15:00～17:00 | 超高磁場先端MRI研究センター | 内線：5370 |
| | 上野　育子 | 月・火・水 | 15:00～17:00 | 超高磁場先端MRI研究センター | 内線：5370 |
| | 佐々木　敏秋 | 随時 | 随時 | 医局 | 内線：3331 |
| | 若井　淳 | 水 | 12:00～13:00 | 動物研究センター | 内線：5390 |
| | 松田　豪 | 火・木・金 | 15:00～17:00 | 超高磁場先端MRI研究センター | 内線：5370 |
| | 森　太志 | 水・木・金 | 15:00～17:00 | 超高磁場先端MRI研究センター | 内線：5370 |
| 非常勤（客員）講師 | 授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。 | | | | |

# オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。
有効に利用してください。
希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

| 所属 | | 氏名 | 曜日 | 時間帯 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 薬科学講座 | 創薬有機化学分野 | 河野　富一 | 月・水・金 | 12:00~13:00 | 場所：創薬有機化学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 辻原　哲也 | 火・木・金 | 17:00~18:00 | 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 稲垣　祥 | 火・水・木 | 17:00~18:00 | 場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | 天然物化学分野 | 田浦　太志 | 月～金 | 12:00~13:00<br>16:00~18:00 | 場所：天然物化学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 浅野　孝 | 月～金 | 16:00~18:00 | 場所：天然物化学分野スタッフルーム |
| | 構造生物薬学分野 | 野中　孝昌 | 金 | 16:20~17:00 | 場所：Moodleの構造生物薬学分野コース<br>Zoomによるオンライン面談。予約不要。 |
| | | 阪本　泰光 | 月～金 | 16:30~17:30 | 場所：構造生物薬学分野スタッフルーム<br>質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可。 |
| | 分析化学分野 | 藤本　康之 | 月～金 | 12:00~13:00<br>17:00~19:00 | 場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454)<br>左記以外でも在室時は対応可。 |
| 生物薬学講座 | 機能生化学分野 | 關谷　瑞樹 | 月～金 | 12:00~13:00<br>16:30~19:00 | 場所：機能生化学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | 生体防御学分野 | 大橋　綾子 | 月～金 | 12:05~12:55 | 場　所：生体防御学分野にて（東研究棟3階 352-353）<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。<br>質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。 |
| | | 錦織　健児 | 月～金 | 16:10~18:00 | |
| 病態薬理学講座 | 分子細胞薬理学分野 | 奈良場　博昭 | 月～金 | 12:00~13:00<br>17:00~19:00 | 場所：分子細胞薬理学分野教授室<br>左記以外でも在室時は可 |
| | | 藤原　俊朗 | 月・火・木 | 16:10～18:00 | 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム（西研究棟356）等<br>左記以外でも在室時は可 |
| | | | 水・金 | 18:00～19:00 | |
| | | 髙橋　巌 | 月～金 | 12:00~13:00<br>16:10~17:00 | 場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム<br>左記以外でも在室時は可 |
| | 臨床医化学分野 | 野口　拓也 | 月～金 | 16:00~19:00 | 場所：臨床医化学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| 医療薬科学講座 | 創剤学分野 | 杉山　育美 | 月～金 | 16:10~17:30 | 場所：創剤学分野スタッフルーム<br>左記以外でも在室時は可 |
| | 薬物代謝動態学分野 | 幅野　渉 | 月～金 | 16:00~18:00 | 場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461）<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可。 |
| | | 寺島　潤 | 月～金 | 9:00~17:00 | 場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461）<br>在室時は随時対応 |
| | 衛生化学分野 | 杉山　晶規 | 月～金 | 17:00~19:00 | 場所：衛生化学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 米澤　穂波 | 月～金 | 17:00~19:00 | 場所：衛生化学分野スタッフルーム<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| 臨床薬学講座 | 臨床薬剤学分野 | 工藤　賢三 | 月～金 | 17:00~19:00 | 場所：臨床薬剤学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 朝賀　純一 | 月～金 | 17:00~19:00 | 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | | 高橋　宏彰 | 月～金 | 16:30~18:00 | 場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 |
| | 情報薬科学分野 | 西谷　直之 | 月～金 | 16:30~18:00 | 場所：情報薬科学分野教授室<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可 |
| | | 佐京　智子 | 月～金 | 16:30~18:00 | 場所：情報薬科学分野スタッフルーム<br>左記の時間帯以外でも在室時は相談可 |
| | | 氏家　悠貴 | 火～金 | 13:00~17:00 | |
| | 地域医療薬学分野 | 松浦　誠 | 月～金 | 16:10~18:00 | 場所：地域医療薬学分野スタッフルーム<br>左記以外でも在室時は可 |
| | 薬学教育学分野 | 白石　博久 | 月～金 | 12:10~12:50 | 場所：薬学教育学分野スタッフルーム<br>左記以外でも在室時は可 |

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

## 看護学部　オフィスアワー　一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

**看護学部**

| 所属 | | 担当教員 | 曜日 | 時間帯 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 共通基盤看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階） | 基礎 | 野里　同 | 火･水･木 | 16：30～17：30 | 研究室19　内線5403<br>nozato@iwate-med.ac.jp |
| | | 柏木　ゆきえ | 水 | 16：00～17：00 | 研究室8　内線5401　事前アポイントがあれば随時可<br>kasiwagi@iwate-med.ac.jp |
| | | 小林　由美子 | 火･水･木 | 16：00～17：00 | 研究室15　内線5402　事前アポイントがあれば随時可<br>yumikoba@iwate-med.ac.jp |
| | | 松田　悠史 | 火･水･木 | 16：00～17：00 | 研究室9　内線5406　メールでの事前連絡があれば随時可<br>matsuy@iwate-med.ac.jp |
| | 成人 | 佐藤　奈美枝 | 月 | 16：00～17：00 | 研究室6　内線5419　事前連絡があれば随時可<br>namies@iwate-med.ac.jp |
| | | 伊藤　奈央 | 火・木 | 16：00～17：00 | 研究室20　内線5358　事前アポイントがあれば随時可<br>naoito@iwate-med.ac.jp |
| | | 小坂　未来 | 火・金 | 15：30～16：30 | 研究室13　内線5404　事前連絡があれば調整可<br>mkosaka@iwate-med.ac.jp |
| | | 三上　邦子 | 月・金 | 16：30～17：30 | 研究室13　内線5303<br>mikamik@iwate-med.ac.jp |
| | | 畑中　るり子 | 木 | 16：00～17：00 | 研究室9　内線5425<br>hatanrur@iwate-med.ac.jp |
| 地域包括ケア講座（マルチメディア教育研究棟４階） | 地域 | 岩渕　光子 | 木 | 12：00～13：00 | 研究室5　内線5416　事前連絡があれば随時可<br>iwabuchi@iwate-med.ac.jp |
| | | 藤澤　純子 | 月・金 | 12：00～13：00 | 研究室9　内線5359　事前連絡があれば随時可<br>fujisawa@iwate-med.ac.jp |
| | | 赤井　純子 | 火・木 | 12：00～13：00 | 研究室9　内線5426　メールでの事前連絡があれば随時可<br>jakai@iwate-med.ac.jp |
| | | 五日市　瑠美子 | 水・木 | 12：00～13：00 | 研究室9　内線5202　事前連絡があれば随時可<br>rumikoi@iwate-med.ac.jp |
| | 老年 | 舘向　真紀 | 火･水･木 | 16：00～17：00 | 研究室15　内線5407　事前アポイントがあれば随時可<br>makiy@iwate-med.ac.jp |
| | | 菊池　佑弥 | 火･水･木 | 16：00～17：00 | 研究室9　内線5405　事前アポイントがあれば随時可<br>yuyakkc@iwate-med.ac.jp |
| | 精神 | 遠藤　太 | 木 | 16：30～18：00 | 研究室3　内線5417　事前アポイントがあれば随時可<br>futoshie@iwate-med.ac.jp |
| | | 熊地　美枝 | 水・木 | 16：00～17：00 | 研究室4　内線5201　事前連絡があれば随時可<br>kumachi@iwate-med.ac.jp |
| | | 髙崎　邦子 | 火・木 | 16：30～17：30 | 研究室16　内線5418　事前連絡があれば調整可<br>takasaki@iwate-med.ac.jp |
| 成育看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階） | 小児 | 髙橋　亮 | 水 | 16：30～17：00 | 研究室17　内線5203　事前連絡があれば調整可<br>tryo@iwate-med.ac.jp |
| | | 伊東　佐由美 | 月～金 | 16：00～17：00 | 研究室14　内線5409　事前連絡があれば随時可<br>sayumii@iwate-med.ac.jp |
| | 母性 | 蛎﨑　奈津子 | 月 | 15：00～17：00 | 研究室7　内線5353　事前連絡があれば随時可<br>kakizaki@iwate-med.ac.jp |
| | | 遊田　由希子 | 水・木 | 12：00～14：00 | 研究室11　内線5355　事前連絡があれば随時可<br>yuuda@iwate-med.ac.jp |
| | | 西里　真澄 | 月・水 | 15：00～17：00 | 研究室10　内線5354　事前連絡があれば随時可<br>nishima@iwate-med.ac.jp |
| | | 髙橋　淳美 | 火･木･金 | 16：00～17：00 | 研究室14　内線5427　事前連絡があれば随時可<br>atsumi@iwate-med.ac.jp |
| 看護専門基礎講座（東研究棟２階） | | 遠藤　龍人 | 水・木 | 14：00～16：00 | 研究室2　内線5420　メールでの事前アポイントメントが望ましい<br>ryuendo@iwate-med.ac.jp |
| | | 塚本　恭正 | 月～金 | 15：00～17：00 | 研究室3　内線5421<br>tsukamot@iwate-med.ac.jp |
| | | 一ノ渡　学 | 水・木 | 15：00～17：00 | 研究室4　内線5422　事前アポイントがあれば随時可<br>gakuichi@iwate-med.ac.jp |
| 看護学部 | | 非常勤教員 | 授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。<br>後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。 | | |